

2026年度 通信教育部(通信学習) 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（<https://syllabus.hosei.ac.jp/>）で確認してください。

【一般教育・語学・保健体育科目】	文学〔園 明美〕1～4年次 / 4単位	1
【一般教育・語学・保健体育科目】	西洋史〔長谷川 岳男〕1～4年次 / 4単位	2
【一般教育・語学・保健体育科目】	日本史〔柏木 一郎〕1～4年次 / 4単位	3
【一般教育・語学・保健体育科目】	哲学〔大西 正人、菅沢 龍文〕1～4年次 / 4単位	4
【一般教育・語学・保健体育科目】	東洋史〔仲山 茂〕1～4年次 / 4単位	5
【一般教育・語学・保健体育科目】	論理学〔大貫 義久、計良 隆世〕1～4年次 / 4単位	6
【一般教育・語学・保健体育科目】	法学（日本国憲法）〔葉 晶珠〕1～4年次 / 2単位	7
【一般教育・語学・保健体育科目】	法学〔葉 晶珠〕1～4年次 / 2単位	8
【一般教育・語学・保健体育科目】	経済学〔川戸 秀昭〕1～4年次 / 4単位	8
【一般教育・語学・保健体育科目】	人文地理学〔前畑 明美〕1～4年次 / 4単位	9
【一般教育・語学・保健体育科目】	自然地理学〔吉野 徳康〕1～4年次 / 4単位	10
【一般教育・語学・保健体育科目】	政治学概論〔及川 智洋〕1～4年次 / 4単位	10
【一般教育・語学・保健体育科目】	社会学〔栗林 大〕1～4年次 / 4単位	11
【一般教育・語学・保健体育科目】	文化人類学〔ベル 裕紀〕1～4年次 / 4単位	11
【一般教育・語学・保健体育科目】	心理学〔生田目 光〕1～4年次 / 4単位	12
【一般教育・語学・保健体育科目】	数学1〔安東 祐希〕1～4年次 / 2単位	13
【一般教育・語学・保健体育科目】	数学2〔倉田 俊彦〕1～4年次 / 2単位	13
【一般教育・語学・保健体育科目】	生物学1〔島野 智之〕1～4年次 / 2単位	14
【一般教育・語学・保健体育科目】	化学1〔渡邊 永治〕1～4年次 / 2単位	15
【一般教育・語学・保健体育科目】	化学2〔渡邊 永治〕1～4年次 / 2単位	15
【一般教育・語学・保健体育科目】	物理学1〔石川 壮一〕1～4年次 / 2単位	16
【一般教育・語学・保健体育科目】	物理学2〔石川 壮一〕1～4年次 / 2単位	16
【一般教育・語学・保健体育科目】	英語2〔関口 奈津恵〕1～4年次 / 2単位	17
【一般教育・語学・保健体育科目】	英語3〔中和 彩子、根本 怜奈、鹿子嶋 由佳〕1～4年次 / 2単位	18
【一般教育・語学・保健体育科目】	独語1〔宮城 学〕1～4年次 / 2単位	19
【一般教育・語学・保健体育科目】	仏語1〔柴崎 秀穂〕1～4年次 / 2単位	20
【一般教育・語学・保健体育科目】	健康・スポーツ科学概論〔伊藤 マモル〕1～4年次 / 2単位	20
【法学部 法律学科 専門教育科目】	民法総則〔大久保 慎太郎、伊藤 栄寿〕1～4年次 / 4単位	22
【法学部 法律学科 専門教育科目】	憲法〔土屋 仁美〕2～4年次 / 4単位	22
【法学部 法律学科 専門教育科目】	物権法〔伊藤 栄寿、宮島 薫〕2～4年次 / 4単位	23
【法学部 法律学科 専門教育科目】	刑法総論〔佐藤 輝幸〕2～4年次 / 4単位	24
【法学部 法律学科 専門教育科目】	債権総論〔滝沢 昌彦、足利 沙緒理〕3～4年次 / 4単位	25
【法学部 法律学科 専門教育科目】	債権各論〔足利 沙緒理、川村 洋子〕3～4年次 / 4単位	26
【法学部 法律学科 専門教育科目】	商法総則・商行為法〔松谷 秀祐〕3～4年次 / 4単位	27
【法学部 法律学科 専門教育科目】	会社法〔笹久保 徹、石井 宏司〕3～4年次 / 4単位	28
【法学部 法律学科 専門教育科目】	刑法各論〔佐藤 輝幸〕3～4年次 / 4単位	29
【法学部 法律学科 専門教育科目】	国際法総論〔田中 佐代子、岡田 淳〕3～4年次 / 4単位	30
【法学部 法律学科 専門教育科目】	行政法〔西田 幸介、久岡 将大〕3～4年次 / 4単位	31
【法学部 法律学科 専門教育科目】	行政救済法〔西田 幸介、久岡 将大〕3～4年次 / 4単位	32
【法学部 法律学科 専門教育科目】	労働法〔藤木 貴史、山本 圭子〕3～4年次 / 4単位	33
【法学部 法律学科 専門教育科目】	民事訴訟法〔杉本 和士〕4年次 / 4単位	34
【法学部 法律学科 専門教育科目】	刑事訴訟法〔朝村 太一〕4年次 / 4単位	35
【法学部 法律学科 専門教育科目】	国際法各論〔田中 佐代子、井上 菜摘〕4年次 / 4単位	35
【法学部 法律学科 専門教育科目】	刑事政策〔田内 清香〕2～4年次 / 4単位	36
【法学部 法律学科 専門教育科目】	教育法〔村元 宏行〕3～4年次 / 4単位	37
【法学部 法律学科 専門教育科目】	親族法・相続法〔足利 沙緒理、和田 幹彦〕3～4年次 / 4単位	37
【法学部 法律学科 専門教育科目】	手形法・小切手法〔金尾 悠香、清水 真人〕3～4年次 / 4単位	38
【法学部 法律学科 専門教育科目】	保険法・海商法〔遠山 聡〕3～4年次 / 4単位	39
【法学部 法律学科 専門教育科目】	日本法制史〔宇野 文重〕3～4年次 / 4単位	40
【法学部 法律学科 専門教育科目】	西洋法制史〔梁田 史郎〕3～4年次 / 4単位	40
【法学部 法律学科 専門教育科目】	労使関係論〔大原 利夫〕3～4年次 / 4単位	41
【法学部 法律学科 専門教育科目】	民事執行法〔廣尾 勝彰〕4年次 / 4単位	41
【法学部 法律学科 専門教育科目】	社会経済学A〔相沢 裕紀〕4年次 / 2単位	42

【法学部 法律学科 専門教育科目】 社会経済学B [相沢 裕紀] 4年次 / 2単位	43
【法学部 法律学科 専門教育科目】 経済政策論A [小黑 一正、持元 江津子] 4年次 / 2単位	43
【法学部 法律学科 専門教育科目】 経済政策論B [小黑 一正、持元 江津子] 4年次 / 2単位	44
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸学概論 [川鍋 義一] 1～4年次 / 4単位	44
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本言語学概論 [古牧 久典] 1～4年次 / 4単位	45
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 文学概論 [細沼 祐介] 2～4年次 / 4単位	46
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸史Ⅰ [加藤 昌嘉、栗山 元子] 2～4年次 / 4単位	47
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸史Ⅱ [山田 稔] 2～4年次 / 4単位	48
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・上代 [萩野 了子] 1～4年次 / 4単位	49
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・中古 [庄司 敏子] 1～4年次 / 4単位	50
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・中世 [中司 由起子] 1～4年次 / 4単位	51
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・近世 [山口 恭子] 1～4年次 / 4単位	52
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・近代 [関口 雄士] 1～4年次 / 4単位	53
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・漢文 [大西 陽子] 1～4年次 / 4単位	54
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・現代 [鈴木 華織] 2～4年次 / 4単位	55
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・言語 [間宮 厚司] 2～4年次 / 4単位	56
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 中国文芸史 [大西 陽子] 2～4年次 / 4単位	56
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本言語史 [松永 明] 2～4年次 / 4単位	57
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本文法論 [村島 祥子] 2～4年次 / 4単位	58
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本芸能史 [本塚 亘] 2～4年次 / 4単位	59
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 日本美術史 [染谷 美穂] 2～4年次 / 4単位	60
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 西洋美術史 [濱西 雅子] 3～4年次 / 4単位	61
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 社会思想史 [伊藤 直樹] 3～4年次 / 4単位	62
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 比較文学 [吉井 涼子] 3～4年次 / 4単位	63
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 書道史 [山口 恭子] 3～4年次 / 2単位	64
【文学部 日本文学科 専門教育科目】 書道実技 [井澤 秀彦] 3～4年次 / 2単位	64
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史概説 [川上 真理] 1～4年次 / 4単位	65
【文学部 史学科 専門教育科目】 史学概論 [秋山 千恵] 2～4年次 / 4単位	66
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史概説 [赤松 道子] 2～4年次 / 4単位	66
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史概説 [宇都宮 美生] 2～4年次 / 4単位	67
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本美術史 [染谷 美穂] 3～4年次 / 4単位	68
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本近代史 [柏木 一郎、中川 洋] 3～4年次 / 4単位	69
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本近世史 [安田 寛子] 3～4年次 / 4単位	70
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本古代史 [菊地 照夫] 3～4年次 / 4単位	71
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本中世史 [仁平 義孝] 3～4年次 / 4単位	72
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本法制史 [宇野 文重] 3～4年次 / 4単位	72
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史特講（社会史）[室井 康成] 3～4年次 / 4単位	73
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史特講（地域社会史）[中山 学] 3～4年次 / 4単位	74
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史特講（日本思想史）[岡野 浩二] 3～4年次 / 4単位	75
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史特講（日本仏教史）[岡野 浩二] 3～4年次 / 4単位	76
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本古文書学 [大塚 紀弘] 3～4年次 / 4単位	76
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋美術史 [徳留 大輔] 3～4年次 / 4単位	77
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史特講（中国経済史）[江川 式部] 3～4年次 / 4単位	78
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本文芸研究特講・漢文 [大西 陽子] 3～4年次 / 4単位	79
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史特講（中国思想史）[小寺 敦] 3～4年次 / 4単位	80
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史特講（中国近世史）[芦沢 知絵] 3～4年次 / 4単位	80
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史特講（東南アジア史）[澁谷 由紀] 3～4年次 / 4単位	81
【文学部 史学科 専門教育科目】 東洋史特講（中国現代史）[竹茂 敦] 3～4年次 / 4単位	82
【文学部 史学科 専門教育科目】 経済史A [杉浦 未樹] 3～4年次 / 2単位	83
【文学部 史学科 専門教育科目】 経済史B [杉浦 未樹、渡邊 伸弘] 3～4年次 / 2単位	84
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史特講（西洋哲学史）[白根 裕里枝] 3～4年次 / 4単位	84
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋美術史 [濱西 雅子] 3～4年次 / 4単位	85
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史特講（キリスト教史）[山野 貴彦] 3～4年次 / 4単位	86
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史特講（ロシア史Ⅰ）[濱本 真実] 3～4年次 / 2単位	87
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史特講（ロシア史Ⅱ）[濱本 真実] 3～4年次 / 2単位	88
【文学部 史学科 専門教育科目】 西洋史特講（アメリカ史）[岩崎 佳孝] 3～4年次 / 4単位	88
【文学部 史学科 専門教育科目】 日本考古学 [板倉 歆之、小倉 淳一] 2～4年次 / 4単位	89

【文学部 史学科 専門教育科目】 日本史特講（対外関係史）[宇都宮 美生] 3～4年次 / 4単位	90
【文学部 史学科 専門教育科目】 文化地理学 [朝倉 楨人] 3～4年次 / 4単位	91
【文学部 史学科 専門教育科目】 経済地理学 [南 春英] 3～4年次 / 4単位	92
【文学部 地理学科 専門教育科目】 人文地理学概論(1) [村田 陽平] 1～4年次 / 2単位	92
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学概論(1) [小寺 浩二、森本 洋一] 1～4年次 / 2単位	93
【文学部 地理学科 専門教育科目】 地理調査法（人文編）[佐々木 達、前畑 明美] 1～4年次 / 4単位	94
【文学部 地理学科 専門教育科目】 地理調査法（自然編）[狩野 真規] 1～4年次 / 4単位	94
【文学部 地理学科 専門教育科目】 人文地理学概論(2) [甲斐 智大] 1～4年次 / 2単位	95
【文学部 地理学科 専門教育科目】 経済地理学 [南 春英] 3～4年次 / 4単位	95
【文学部 地理学科 専門教育科目】 人文地理学（都市）[伊藤 達也] 3～4年次 / 4単位	96
【文学部 地理学科 専門教育科目】 人文地理学（農業）[佐々木 達] 3～4年次 / 4単位	97
【文学部 地理学科 専門教育科目】 人文地理学特講（地域・産業・生活）[佐々木 達、佐藤 秀夫] 3～4年次 / 4単位	98
【文学部 地理学科 専門教育科目】 文化地理学 [朝倉 楨人] 3～4年次 / 4単位	98
【文学部 地理学科 専門教育科目】 歴史地理学 [米家 志乃布] 3～4年次 / 4単位	99
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学概論(2) [小寺 浩二、小室 隆] 1～4年次 / 2単位	99
【文学部 地理学科 専門教育科目】 地学概論 [越後 智雄] 2～4年次 / 4単位	100
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学（地形）[前杢 英明] 3～4年次 / 4単位	100
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学（生物・土壌）[三浦 英樹] 3～4年次 / 4単位	101
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学（気候・気象）[山口 隆子] 3～4年次 / 4単位	101
【文学部 地理学科 専門教育科目】 自然地理学（海洋・陸水）[小寺 浩二、大八木 英夫] 3～4年次 / 4単位	102
【文学部 地理学科 専門教育科目】 地誌学概論 [川元 豊和] 2～4年次 / 4単位	102
【文学部 地理学科 専門教育科目】 日本地誌(1)（自然編）[山口 隆子、内藤 次郎、前杢 英明、中山 秀晃] 2～4年次 / 4単位	103
【文学部 地理学科 専門教育科目】 日本地誌(2)（人文編）[前畑 明美] 2～4年次 / 4単位	104
【文学部 地理学科 専門教育科目】 世界地誌(1)（アジア）[小寺 浩二、齋藤 圭] 3～4年次 / 4単位	104
【文学部 地理学科 専門教育科目】 世界地誌(2)（アメリカ・大洋州）[伊藤 達也] 3～4年次 / 4単位	105
【文学部 地理学科 専門教育科目】 世界地誌(3)（欧・アフリカ）[齋藤 圭] 3～4年次 / 4単位	106
【文学部 地理学科 専門教育科目】 地図学 [福與 直人] 3～4年次 / 4単位	107
【文学部 地理学科 専門教育科目】 史学概論 [秋山 千恵] 3～4年次 / 4単位	107
【文学部 地理学科 専門教育科目】 日本史概説 [川上 真理] 3～4年次 / 4単位	108
【文学部 地理学科 専門教育科目】 東洋史概説 [宇都宮 美生] 3～4年次 / 4単位	108
【文学部 地理学科 専門教育科目】 西洋史概説 [赤松 道子] 3～4年次 / 4単位	109
【文学部 地理学科 専門教育科目】 社会経済学A [相沢 裕紀] 3～4年次 / 2単位	110
【文学部 地理学科 専門教育科目】 社会経済学B [相沢 裕紀] 3～4年次 / 2単位	111
【文学部 地理学科 専門教育科目】 日本史特講（日本仏教史）[岡野 浩二] 3～4年次 / 4単位	111
【文学部 地理学科 専門教育科目】 日本史特講（日本思想史）[岡野 浩二] 3～4年次 / 4単位	112
【文学部 地理学科 専門教育科目】 東洋史特講（中国現代史）[竹茂 敦] 3～4年次 / 4単位	113
【文学部 地理学科 専門教育科目】 西洋史特講（西洋哲学史）[白根 裕里枝] 3～4年次 / 4単位	114
【文学部 地理学科 専門教育科目】 西洋史特講（キリスト教史）[山野 貴彦] 3～4年次 / 4単位	115
【文学部 地理学科 専門教育科目】 西洋史特講（ロシア史Ⅱ）[濱本 真実] 3～4年次 / 2単位	116
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 社会経済学A [相沢 裕紀] 1～4年次 / 2単位	116
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 社会経済学B [相沢 裕紀] 1～4年次 / 2単位	117
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 統計学A [菅 幹雄] 1～4年次 / 2単位	117
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 統計学B [菅 幹雄] 1～4年次 / 2単位	118
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経済史A [杉浦 未樹] 1～4年次 / 2単位	118
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経済史B [杉浦 未樹、渡邊 伸弘] 1～4年次 / 2単位	119
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 簿記Ⅰ [筒井 知彦] 1～4年次 / 2単位	120
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 簿記Ⅱ [筒井 知彦] 1～4年次 / 2単位	120
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 財政学A [島澤 諭、廣川 みどり] 2～4年次 / 2単位	121
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 財政学B [島澤 諭、廣川 みどり] 2～4年次 / 2単位	122
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 金融論A [宮澤 信二郎] 2～4年次 / 2単位	123
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 金融論B [宮澤 信二郎] 2～4年次 / 2単位	123
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経済政策論A [小黒 一正、持元 江津子] 3～4年次 / 2単位	124
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経済政策論B [小黒 一正、持元 江津子] 3～4年次 / 2単位	124
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経営学総論Ⅰ [佐野 哲] 1～4年次 / 2単位	125
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経営学総論Ⅱ [佐野 哲] 1～4年次 / 2単位	125
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 簿記Ⅲ [竹口 圭輔] 2～4年次 / 2単位	126

【経済学部 経済学科 専門教育科目】 簿記Ⅳ [市川 佳功、岸 牧人] 2～4年次 / 2単位	127
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 日本経済論A [青野 幸平] 3～4年次 / 2単位	127
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 日本経済論B [青野 幸平] 3～4年次 / 2単位	128
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 財務会計論Ⅰ [川島 健司] 3～4年次 / 2単位	128
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 財務会計論Ⅱ [川島 健司] 3～4年次 / 2単位	130
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 原価計算論Ⅰ [福田 淳児] 3～4年次 / 2単位	131
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 原価計算論Ⅱ [福田 淳児] 3～4年次 / 2単位	133
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 管理会計論Ⅰ [北田 皓嗣] 3～4年次 / 2単位	134
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 管理会計論Ⅱ [北田 皓嗣] 3～4年次 / 2単位	135
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 国際金融論Ⅰ [羅 鵬飛] 3～4年次 / 2単位	135
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 国際金融論Ⅱ [羅 鵬飛] 3～4年次 / 2単位	136
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 憲法 [土屋 仁美] 3～4年次 / 4単位	137
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 民法一部（総則・物権法）[大久保 慎太郎、川村 洋子] 3～4年次 / 4単位	138
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 民法二部（債権法）[金井 悠一郎、川村 洋子] 3～4年次 / 4単位	139
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 商法総則・商行為法 [松谷 秀祐] 3～4年次 / 4単位	140
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 会社法 [笹久保 徹、石井 宏司] 3～4年次 / 4単位	141
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 手形法・小切手法 [金尾 悠香、清水 真人] 3～4年次 / 4単位	143
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 労働法 [藤木 貴史、山本 圭子] 3～4年次 / 4単位	143
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 社会経済思想史 [伊藤 直樹、後藤 浩子] 3～4年次 / 4単位	144
【経済学部 経済学科 専門教育科目】 経済地理 [南 春英] 3～4年次 / 4単位	145
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 簿記Ⅰ [筒井 知彦] 1～4年次 / 2単位	146
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 簿記Ⅱ [筒井 知彦] 1～4年次 / 2単位	146
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営学総論Ⅰ [佐野 哲] 1～4年次 / 2単位	147
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営学総論Ⅱ [佐野 哲] 1～4年次 / 2単位	147
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営管理論Ⅰ [中西 善信] 2～4年次 / 2単位	148
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営管理論Ⅱ [中西 善信] 2～4年次 / 2単位	149
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 金融論Ⅰ [宮澤 信二郎] 2～4年次 / 2単位	149
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 金融論Ⅱ [宮澤 信二郎] 2～4年次 / 2単位	150
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 簿記Ⅲ [竹口 圭輔] 2～4年次 / 2単位	150
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 簿記Ⅳ [市川 佳功、岸 牧人] 2～4年次 / 2単位	151
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 人の資源管理論Ⅰ [佐野 嘉秀] 3～4年次 / 2単位	152
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 人の資源管理論Ⅱ [佐野 嘉秀] 3～4年次 / 2単位	153
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 財務会計論Ⅰ [川島 健司] 3～4年次 / 2単位	154
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 財務会計論Ⅱ [川島 健司] 3～4年次 / 2単位	155
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 原価計算論Ⅰ [福田 淳児] 3～4年次 / 2単位	157
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 原価計算論Ⅱ [福田 淳児] 3～4年次 / 2単位	158
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 管理会計論Ⅰ [北田 皓嗣] 3～4年次 / 2単位	160
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 管理会計論Ⅱ [北田 皓嗣] 3～4年次 / 2単位	160
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 監査論Ⅰ [坂上 学] 3～4年次 / 2単位	161
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 監査論Ⅱ [坂上 学] 3～4年次 / 2単位	162
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 税務会計Ⅰ [藤井 誠] 3～4年次 / 2単位	163
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 税務会計Ⅱ [藤井 誠] 3～4年次 / 2単位	163
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営分析論Ⅰ [福多 裕志] 3～4年次 / 2単位	164
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経営分析論Ⅱ [福多 裕志] 3～4年次 / 2単位	165
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 国際金融論Ⅰ [羅 鵬飛] 3～4年次 / 2単位	166
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 国際金融論Ⅱ [羅 鵬飛] 3～4年次 / 2単位	167
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 社会経済学Ⅰ [相沢 裕紀] 3～4年次 / 2単位	168
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 社会経済学Ⅱ [相沢 裕紀] 3～4年次 / 2単位	168
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経済史Ⅰ [杉浦 未樹] 3～4年次 / 2単位	169
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経済史Ⅱ [杉浦 未樹、渡邊 伸弘] 3～4年次 / 2単位	170
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 統計学Ⅰ [菅 幹雄] 3～4年次 / 2単位	170
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 統計学Ⅱ [菅 幹雄] 3～4年次 / 2単位	171
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 財政学Ⅰ [島澤 諭、廣川 みどり] 3～4年次 / 2単位	171
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 財政学Ⅱ [島澤 諭、廣川 みどり] 3～4年次 / 2単位	172
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経済政策論Ⅰ [小黒 一正、持元 江津子] 3～4年次 / 2単位	173
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 経済政策論Ⅱ [小黒 一正、持元 江津子] 3～4年次 / 2単位	174
【経済学部 商業学科 専門教育科目】 日本経済論Ⅰ [青野 幸平] 3～4年次 / 2単位	174

【経済学部 商業学科 専門教育科目】	日本経済論Ⅱ [青野 幸平] 3～4年次 / 2単位	175
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	憲法 [土屋 仁美] 3～4年次 / 4単位	175
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	民法一部（総則・物権法）[大久保 慎太郎、川村 洋子] 3～4年次 / 4単位	176
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	民法二部（債権法）[金井 悠一郎、川村 洋子] 3～4年次 / 4単位	177
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	商法総則・商行為法 [松谷 秀祐] 3～4年次 / 4単位	178
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	会社法 [笹久保 徹、石井 宏司] 3～4年次 / 4単位	179
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	手形法・小切手法 [金尾 悠香、清水 真人] 3～4年次 / 4単位	181
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	労働法 [藤木 貴史、山本 圭子] 3～4年次 / 4単位	181
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	社会思想史 [伊藤 直樹] 3～4年次 / 4単位	182
【経済学部 商業学科 専門教育科目】	経済地理 [南 春英] 3～4年次 / 4単位	183
【教職に関する科目】	教職入門 [遠藤 野ゆり] / 2単位	184
【教職に関する科目】	教育原理 [遠藤 野ゆり] / 2単位	185
【教職に関する科目】	教育の制度・経営 [澤里 翼] / 2単位	186
【教職に関する科目】	教育心理学 [田澤 実] / 2単位	187
【教職に関する科目】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [遠藤 野ゆり] / 2単位	188
【教職に関する科目】	教育課程論 [飯窪 真也] / 2単位	189
【教職に関する科目】	国語科教育法Ⅰ [都築 則幸] / 4単位	190
【教職に関する科目】	国語科教育法Ⅱ [都築 則幸] / 4単位	191
【教職に関する科目】	社会・地歴科教育法 [扶川 聡] / 4単位	192
【教職に関する科目】	社会・公民科教育法 [梶谷 陽子] / 4単位	193
【教職に関する科目】	商業科教育法 [木村 良成] / 4単位	194
【教職に関する科目】	道德教育指導論 [田口 賢太郎] / 2単位	195
【教職に関する科目】	総合的な学習の時間の指導法 [窪 和広] / 2単位	196
【教職に関する科目】	教育相談 [池田 華子] / 2単位	197
【教職に関する科目】	生徒・進路指導論 [岩本 俊一] / 2単位	198
【教職に関する科目】	特別活動論 [吉田 昌弘] / 2単位	199
【教職に関する科目】	倫理学 [相原 博] / 4単位	200
【教職に関する科目】	職業指導 [森本 紀子] / 4単位	201

LIT100TA（文学 / Literature 100）
文学
教科担当責任者：阿部 真弓
担当者：園 明美 単位数：4単位 ※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 当科目では、古典和歌の基礎的な知識について学習します。テキストを熟読し、適宜、参考文献を読むことを通じ、以下の2点に到達することを目標とします。

- （1）古典和歌を的確に鑑賞できる読解力を養う。
- （2）和歌の諸相について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 古典和歌を初めて学習する人、興味はあるけれどもどのように勉強すればよいかわからない人に配慮されたテキストを用い、和歌の表現・レトリックの特質、和歌の種類、文化と和歌の関わりといった和歌の基本を学習します。

和歌は、日本の文学史において、その根幹に存在し続けてきました。和歌を学習することによって、日本の古典文学、そして文化の基礎を理解することができるようになります。テキストをよく読み、古典和歌に関する知識を習得するとともに、種々の優れた作品を鑑賞し、和歌の美しさ、楽しさをぜひ味わってください。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験ともに、学習の到達目標の2点について、どの程度達しているかによって評価します。リポートについては、「設題総覧」に書かれた注意事項等が守られているか、リポートとして適切な表現・書式で書かれているかという点も、評価の基準となります。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『和歌とは何か』渡部泰明、岩波書店、2009年、¥960+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックします。

「学習の到達目標」の（1）については「1 和歌のレトリック」、（2）については「2 行為としての和歌」をしっかり読み、主要な歌人の活動、歴史的な問題にも注意しながら、学習を進めるようにしてください。

なお、リポート執筆の際には、「設題総覧」に書かれていることを注意深く読んでください。まず、与えられた設題をしっかり「理解」すること。リポートとしてどのような内容が求められているのか、テキストを熟読した上でよく考えてください。そして、リポートの体裁や提出に関する特記事項・注意等をよく確認し、それらに従って提出するようにしてください。それが守られていないリポートは採点しませんので、注意してください。また、剽窃行為は処分の対象となります。他の文献を引用する場合は、自分の書いた文章と引用部分を明確に区別して示すとともに、その出典を記載するようにしてください。

Outline and objectives This course deals with basic knowledge about Waka(和歌, classical Japanese poetry).

The goals of this course are to

- (1) Acquire skills of properly comprehending Waka.
- (2) Understand various aspects of Waka.

Grading will be decided based on the report and the credit acquisition test and it will be evaluated according to the degree to which the two goals of learning have been achieved. Regarding the report, whether the precautions are followed, and whether it is written in appropriate expressions and format will also be the criteria for evaluation.

HIS100TA（史学 / History 100）
西洋史
教科担当責任者：大澤 広晃
担当者：長谷川 岳男 単位数：4単位

1 学習の到達目標 1. 西洋史の重要な問題を、多くの文献を参照しながら自ら掘り下げて取り組むことにより、歴史的事象を多面的に分析できるようになる。
2. テキストを自学して、社会人として必要な一般教養としての西洋史の基礎知識を習得することにより、現代の日本社会に多大な影響を与えている西洋文明を深く理解できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 日本は幕末から明治維新の時期に西洋文明を大幅に取り入れて近代化を進めた結果、現在の日本社会は西洋文明に多大な影響を受けていることは自明のことであろう。そして我が国で西洋文明と接触したのは、16世紀にいくぶんあるものの、本格的には19世紀半ば以降のことであり、それゆえ近代のそれを、特に実益を中心に表面的に受け入れたこともまた否定できないと言える。しかし西洋文明はあくまで西洋古代からの長い歴史的な経験の産物であるのであるから、我が国の受容のプロセスは、外面的には西洋的な装いをしながらも本質的な性質を理解できない問題を生じさせていると思われる。そこで西洋の歴史を学ぶ必要があるわけで、この科目ではそのような問題意識から、広く西洋の歴史的経緯をテキストの講読で学び、重要と思われるテーマに関していくつかの文献も参考にしながらレポートを作成することで西洋世界の特性の理解を目的としている。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

レポートでは与えられた課題に対して、テキストで得た基礎知識をもとに、さらに様々な見解を挙げられた参考文献から学ぶことで、自分なりに消化して説明できているかで成績評価し、テストに関してはテキスト内容を正しく理解しているかで成績評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『教養のための西洋史入門』中井義明他、ミネルヴァ書房、2007年、¥2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポートに関しては、まずテキストの設題に関する時代地域を熟読することで、基礎的な理解を行う必要がある。なぜなら、その理解をしないことには参考文献で述べられる様々な見解を理解することは不可能であると思われるからである。そして参考文献として挙げられている文献を少なくとも1冊は講読することで、テキストで述べられる内容をより深く知り、さらに一つの歴史事象にもさまざまな見方があることを理解して欲しい。その上で与えられた課題に対して、学んだことを自分なりに消化して自分の言葉で説明するようにすること。テキストの抜き書きや課題と無関係の説明は評価の対象とならないことを肝に銘じて欲しい。加えて挙げられた参考文献以外のものを参考にする際には、高校の教科書や参考書、あるいは塩野氏などの俗書の類いは叙述内容がただ歴史事象の羅列だけであったり、見解自体に根拠がなく怪しいものが多い

ために課題の求めることに応えることは困難であろう。

テストに関しては歴史的な基本事項を理解しているかを問うので、指定範囲の部分を正確に理解して臨むことが必要となろう。

Outline and objectives [Course outline]

In this course, students study western history by reading the textbook and relevant books which the instructor recommends.

[Learning objectives]

1. Students are able to acquire critical views on key themes in western history.
2. Students are able to acquire basic knowledges about western history and assess the impact of western culture on contemporary Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read relevant books and learn by themselves. They also have to work hard on essays.

[Grading policy]

Final examination (100%).

HIS100TA（史学/History 100）

日本史

教科担当責任者：小口 雅史

担当者：柏木 一郎

単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本の歴史の大きな流れを把握し、日本の伝統と文化の特色について認識を深め、過去を知り未来を考える力を養うことを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 日本の歴史時代区分を原始古代・中世・近世・近現代とし、原始古代を日本列島への人類の渡来から摂関政治まで、中世を院政から豊臣秀吉の天下統一まで、近世を江戸幕府の開創から終焉まで、近現代を明治政府の成立から今日に至るまでとする。

日本の歴史を学ぶためには、現在という視点が必要なため近現代史を重視する。時代から時代への移行期に焦点をあて日本の歴史を政治、経済、社会、文化など様々な分野から多角的に考察する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。
< レポートについて >

参考文献を丸写ししていないか、インターネットの情報を切り貼りしていないか、指定したテキスト以外の参考文献の内容をまとめていないか、指定したテキストの内容を十分理解し論述しているか、史実の羅列をしていないか、歴史を考察する視点を有しているかを評価の基準とする。

レポートは2,000字前後にまとめ提出すること。

< 単位修得試験について >

テキストの内容をよく理解し論述しているか。

誤字脱字、史実や人名、年号に誤りがないか。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 木村茂光ほか編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016年、¥1,900+税
大学で学ぶ上で不可欠なテーマを選び最新の研究成果をふまえ、わかりやすく叙述した通史のテキスト。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。高等学校「日本史」の教科書の内容を理解した上で指定したテキストを熟読すること。テキストをよく読み要点をノートにまとめ内容を理解する。ノートはレポート作成や単位修得試験の際に役立つので必ず作成すること。参考文献はテキストP254「より深くまなぶための文献案内」を参照のこと。

Outline and objectives Our goal is to grasp the big flow of Japanese history, to understand the characteristics of Japanese transition and culture and to develop the ability of knowing the past and thinking about the future. We define the period division of Japan as ancient times, middle ages, early modern times, pre modern times, and post modern times. In order to learn Japanese history, we need to understand the present, so we emphasize post modern times. Focusing on the transition of times, we consider Japanese history from various perspectives

such as politics, economy and culture. I will determine your grades by the final exam.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）
哲学
教科担当責任者：菅沢 龍文
担当者：大西 正人、菅沢 龍文 単位数：4単位

1 学習の到達目標 哲学にもさまざまな分野があるが、ここではラッセルの『哲学入門』を読んで考えることによって、日頃なにげなく知っていると知っていることについて哲学的な反省を加える。自分が知っていると知っている事柄を吟味して、知識について考え、真の知識を拡張していくことにより、自我の殻を破っていくことが目指される。これは、他人と共通の知識の地盤に立ってコミュニケーションを成功させるための前提である。したがって、知識について深い見識を得ることが到達目標となる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 自分が持っていると感じる知識について、次の順序で哲学的反省を加えていく。1. なぜテーブルが存在すると考えるのか。2. なぜ外界が存在すると考えるのか。3. なぜ科学が扱う空間は私的ではないのか。4. なぜ私秘的でない観念があるのか。5. なぜ記述によって私的経験を超越できるのか。6. なぜ帰納的な知識に限界があるのか。7. なぜ経験によらない知識があるのか。8. なぜ、矛盾律はただの思考の法則ではない、といえるのか。9. なぜ普遍はたんなる心的なものではないのか。10. なぜ直観的知識が必要なのか。11. なぜ真の知識は事実と対応しなければならないのか。12. なぜ哲学と科学は区別されるのか。13. なぜ自我ならざるものの拡大は満足感をもたらすのか。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 バートランド・ラッセル著『哲学入門』高村夏輝訳 筑摩書房（ちくま学芸文庫）2005年、¥1,000+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポートについては、テキストあるいは参考文献等の他人の文章をそのまま引き写しにしたものは、レポートとして認めません。設題の趣旨に沿うように自分の思考力でよくこなして、自分の文章で組み立て、理路を整えて書くように心がけてください。テキスト以外の文献を利用したときは、レポートの末尾にその文献の著者名、書名、必要に応じて訳者名、そして出版社名および出版年を記載すること。引用が必要なときは、引用文の前後を引用符（カギ括弧）で括って本文（自分の文章）と区別し、その出典および参照ページが分かるようにすること。

レポートの設題は、テキストをよく読んで基本的な事柄を理解し、それを自らの問題として考察するためのものなので、参考文献は必須としません。ただし、哲学の問題を考えるためには哲学史の知識も役立つので、哲学や哲学史の入門書および哲学事典なども参考にしてください。

Outline and objectives [Learning Objectives] Here we read Bertrand Russell's "The Problems of Philosophy"

and we reflect philosophically on the knowledges which appear to be true. We examine our knowledges about the things of which we believe the reality. Through our examinations we enlarge our true knowledges and make ourselves bigger than ever. This is an important condition for the communication with others on the basis of our common knowledges. That's why we must get deep insight on our knowledges through our inquiry into them.

[Course Outline] We will add philosophical reflections on the knowledge we believe we have. They are in the following order: 1. why do I believe that tables exist; 2. why do I believe that the external world exists; 3. why is the space that science deals with not private; 4. why are there ideas that are not private; 5. why can description take us beyond private experience; 6. why are there limits to inductive knowledge; 7. why is there non-experiential knowledge; 8. why is the law of contradiction not just a law of thought; 9. why universals are not merely mental; 10. why intuitive knowledge is necessary; 11. why true knowledge must correspond to facts; 12. why philosophy and science are distinct; 13. why the expansion of what is not the ego brings satisfaction?

[Grading Criteria /Policy] The final grade will be based on the credit examinations, but the content of the previously submitted reports will be taken into consideration in the evaluation.

HIS100TA（史学 / History 100）

東洋史

教科担当責任者：齋藤 勝

担当者：仲山 茂

単位数：4単位

1 学習の到達目標 他国史として中国史に関する十分な知識と認識を得ることを通じて、歴史を学ぶことの意義、他者を知ることで自らを相対化することの重要性を学ぶことができる。また概説書を正確に読み、内容を適切にまとめる能力を培うことができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 指定市販教科書により、古代から現代に至るまでの中国の歴史を学んでいく。レポート・筆記試験の課題をこなしながら、各時代の特徴、時代間の連続性への理解を深めていきたい。

特に留意したいポイントは以下の通りである。

- ①中国という世界とその歴史・文化が如何に多様な要素から構成されているか。
- ②中国の人々が、時代に応じて何を築き上げ、何を感じて生きてきたか。
- ③世界史の中で中国がどういう位置を占めてきたか。
- ④中国の歴史は現代とどのように繋がっているのか。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

レポート・筆記試験ともに、与えられた課題を正確に理解していること、教科書に基づいて適切且つ過不足の無い説明を行っていることを評価の基準とする。

【重要】最近、レポートにおいて剽窃が多く見受けられます。ほとんどがインターネット上の記事からのコピーや無断抜粋です。指定市販教科書以外の文献を参照する場合は、インターネット上の情報は参照せず、きちんとした文献（概説書や研究書）を参照するようにし、参照した文献については全てレポートに明示するようにしてください。

【重要、必ず読んで下さい】インターネットを見ないようにたびたびお願いしてきましたが、一向にやむことが無いので、本科目については、2026年度からインターネットを参照してレポートを書くことは明確に「禁止」とします。インターネット上の記事を参照したことが記されていた場合には、成績をDとします。また、インターネット上の記事によることが明らかでありながら、参照したことが明示されていない場合は、すべて剽窃として不正行為扱いになります。「シラバスを読んでいない」は理由になりませんので、シラバス全体をきちんと読んで誠実に取り組んで下さい。

またAIを利用していると思われるものも見られますが、ほぼすべて間違った内容になっています。AIの精度はその程度のものなので、決して利用しないようにして下さい。さらにAIを利用した場合、参照した文献の明示ができなかったり、明示をしているように見えて間違った情報を提示していたりといったことが多くなります。こういった場合もやはり剽窃扱いになりますので、注意して下さい。

5 テキスト名および詳細 指定市販『中国史』（世界各国史

3）新版、山川出版社、尾形勇・岸本美緒編、1998年、¥3,500+税
【重要】最近、設題の内容や意図が理解されていないレポートがよく見受けられます。どの設題も決して難しいものではありません。理解できていないのは、多くの場合、そもそも高校の世界史のレベルの理解ができていないことに原因があると思われます。指定市販本を読んでもポイントが分からない場合は、まず高校の世界史の教科書、参考書、用語集を見て、ポイントをまとめてみましょう。それで大まかな流れは書けるはずです。あとは、指定教科書や概説書を見て、肉付けをしていきましょう。また、ネット上にある個別の研究論文を参照する方も見受けられますが、基本的に歴史を概観するようなレポートになるので、個別の研究論文を見ることは「百害あって一利無し」です。また、先にも記しましたが、インターネット上の情報を見て、そのままレポートにしてしまう人が多く見受けられます。剽窃になる可能性が極めて高いので、絶対に見ないようにして下さい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート・筆記試験については、指定市販教科書に基づくことが大前提となるが、他の文献によって補うことがあっても構わない。ただしその場合には、参照した文献を明示することが条件となる。また、あくまでも評価基準が指定教科書にあることは忘れないでもらいたい。

知識を得るとともに、読解力、要点整理力、文章力を培っていくことも目的の一つである。よって大切なのは、教科書としっかり向き合い、自分の力で成果を残すことである。他人やインターネットに頼ることがあってはならない。また、きちんとした文章で書くことを求めるので、箇条書きによる整理などではできるだけ避けてもらいたい。

Outline and objectives Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Outline: Surveying the history of China

Grading: Final test(100%)

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）
論理学
教科担当責任者：計良 隆世
担当者：大貫 義久、計良 隆世
単位数：4単位

1 学習の到達目標 論理学の基礎を学び、正しい論理的思考または正しい推論を行うのに必要とされる基礎的な知識と技術を得ることが、本科目の到達目標です。この学習を通して、自分が行う思考や推論のみならず、他者が述べる意見や論証が論理的に正しく行われているかどうか、批判する能力を身につけることも可能となります。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を得ることができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 論理学は、思考の内容、即ち、何を考えるべきかを問題とする学問ではなく、正しく考えるためにはどのように考えるべきかという思考の形式および法則を研究する学問です。

本科目では、西洋論理学を学び、それ以外の論理学（例えば、古代インドの論理学等）は学びません。西洋論理学は、古代ギリシャのアリストテレス以来受け継がれてきた伝統的論理学と、19世紀後半から20世紀にかけて、それが修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学（記号論理学）とに分かれます。本科目では、伝統的論理学の学習からスタートし、現代論理学の領域に少し入って、その最も基本的な事柄の学習までを行います。

伝統的論理学の学習では、テキストの構成に従い、概念論、判断（命題）論、推理論と順々に学んでいきます。

現代論理学については、否定・連言・選言・条件・等値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、主に、命題論理学の基礎を学びます。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮します。

レポートと試験の採点基準は、テキストで説明されている規則や解答法に従い、またそこで採用されている記号等を用いてレポートや試験答案を作成し、論理的に正しい答えを導くことができているかどうかによります。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、¥ 2,000+税

上記テキストが入手できない場合は、Amazon POD（プリント・オン・デマンド）からの購入となります。販売価格等の詳細はAmazon webサイトにて確認してください。

（Amazon Webサイト）

<https://www.amazon.co.jp/>

本書は、「論理学」という学問を初めて学ぶ大学初年級の学生のために書かれた論理学の教科書です。

もともとは、「授業で使う教科書」として著されたものですが、例題や練習問題も比較的充実しており、独習者の手引き書ともなるように配慮されています。

本書の構成は以下のとおり：

第1部 伝統的形式論理学の基礎

第1章 思考の根本原理

第2章 概念

第3章 命題

第4章 推理(1) 演繹推理（直接推理）

第5章 推理(2) 演繹推理（間接推理）

第6章 伝統的論理学にベン図を適用する方法

第2部 近代以降の論理学

第1章 帰納法の論理学

第2章 命題論理学

第3章 述語論理学

6 学習指導、注意点等 まず何よりも、テキストを熟読して下さい。「論理学」で使われることば（専門用語）は、堅苦しい漢字熟語が多いですが、それほど理解困難なものではありません。テキストの説明を読み、例題を理解し、練習問題を解いてみる、という流れで学習を進めて下さい。練習問題の大半は、説明・例題を見れば、解けるはずです。

提出された通信学習のレポートに対しては、添削・講評する形でフィードバックします。

<学習のポイント>

1. 伝統的論理学

①概念論： 概念の内包と外延とは何か。また内包と外延はどのような関係にあるのか。

②命題論：

a.四種の定言命題において、どの主語概念（S）とどの述語概念（P）が周延され、どのS・Pが不周延であるのか。

b.四種の定言命題それぞれについて、主語概念（S）と述語概念（P）との外延的包摂関係をオイラー図で表すとどのようなになるか。オイラー図を書けるようにする。

c.定言命題への標準形式化の方法とはどのようなものか。標準形式化を実際に自分で行えるようにする。

③直接推理：

a.四種の対当関係それぞれにおいて、命題間の真偽関係はどのようなになっているか。真偽の判定をできるようにする。

b.換質法・换位法・換質换位法によっては、それぞれ、どの種類の定言命題をどの種類の定言命題に変形することができるのか。実際に自分で変形をできるようにする。

④間接推理： 定言三段論法・仮言三段論法・選言三段論法のそれぞれについて、どのような形式をもつ推理が妥当であり、どのような推理が妥当でないのか。それを理解した上で、実際に、三段論法による推理の妥当・非妥当を判定できるようにする。

2. 現代論理学（命題論理学）

①命題論理学は、否定と接続詞の論理学と言われるが、否定・接続詞（連言・選言・条件・等値）という論理的結合子の働きはどのように定義されているのか。5種の論理的結合子の真理値表を書けるようにする。

②条件命題の逆・裏・対偶とは何か、ある条件命題とそれと逆・裏・対偶の関係にある命題との真偽の関係はどのようなになっているかを理解し、逆・裏・対偶の関係にある命題を作れるようにする。これらについては、参考文献（野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』pp. 28-35）を参照すると理解が深まるでしょう。

③命題論理学における総合命題・恒偽命題・トートロジーとは何か。推理が妥当であるのは、どのような場合であるのか。真理値表を作成することにより、推理の妥当・非妥当を判定できるようにする。

<参考文献>

近藤洋逸・好並英司共著『論理学入門』岩波全書

野矢茂樹著『論理学』東京大学出版会

野矢茂樹著『まったくゼロからの論理学』岩波書店

坂本百大・坂井秀寿共著『新版 現代論理学』東海大学出版会

Outline and objectives This is mainly a course to learn

Western traditional logic. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid immediate and mediate (syllogistic) inferences.

This course also gives students a simple introduction to modern propositional logic through learning the meaning of logical connectives, truth-value analysis, the forms of tautologies and so forth.

Final grade will be decided based on an exam for credit. Previously submitted reports will be considered in determining the final grade.

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

教科担当責任者：内藤 淳

担当者：葉 晶珠

単位数：2単位

1 学習の到達目標 日本国憲法を中心に、法学の基本概念と重要原則への理解を深めるとともに、代表的な判例を通じて自ら論理的に説明できる力を身につけることを学習目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 法が社会の中で果たす役割、そしてどのような概念や原則に基づいて成立しているかを考察する。本科目では、日本国憲法の理解を通じてこれらの問いに取り組むとともに、条文や判例を素材に、基本的な法的思考方法の習得を目指す。取り上げるテーマは、指定テキスト『判例法学』の以下の章から適宜選択する。

第1章「基本的人権と法」

第6章「国家と法」

4 成績評価基準 単位修得試験による。採点にあたっては、①テキスト・判例・条文の理解度、②法律専門用語・基本概念の把握、③構成の明確さ、④論述の論理性・的確性、⑤形式面の適切さなどを評価対象とする。

5 テキスト名および詳細 下記の市販書を指定のテキストとする。

指定市販本：西村健一郎・西井正弘・初宿正典『判例法学』（第5版）有斐閣、2012年、¥ 2,800+税

6 学習指導、注意点等 本科目では、提出されたりポートに対して添削・講評の形でフィードバックを行う。指定テキストは法分野ごとに構成されているため、学習を進める際には各章に掲載されている条文、判例やその解説を十分に読み込むことが重要である。

学習対象の中心は、基本的に指定テキストの第1、6章となる。ただし、内容理解の補助として、第2、3、4、5、7章の判例・解説も参照する必要がある場合がある。

Outline and objectives This course examines the role that law plays in society and the concepts and principles on which it is founded. Through a study of the Constitution of Japan, students will explore these questions and aim to acquire the basic legal reasoning skills by working with statutory texts and judicial precedents.

The topics covered in this course will be selected as appropriate from the following chapters of the designated textbook Hanrei Hōgaku (Case Law Studies).

Chapter 1: Fundamental Human Rights and Law

Chapter 6: The State and Law

LAW100TA（法学 / law 100）
法学
教科担当責任者：内藤 淳
担当者：葉 晶珠 単位数：2単位

1 学習の到達目標 現代日本法を中心に、法学の基本原則と主要な概念への理解を深めるとともに、代表的な判例を通じて自ら論理的に説明できる力を身につけることを学習目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 法は社会の中でどのような役割を果たしているのか、また、どのような概念や原則に基づいて成り立っているのか。本科目では、判例の学習を通じてこれらの問いに取り組むと同時に、基礎的な法的思考力の習得を目指す。

取り上げるテーマは、指定テキスト『判例法学』の以下の章から適宜選択する。

第2章「家族関係と法」

第3章「財産関係と法」

第4章「労働関係と法」

第5章「犯罪と法」

第7章「国際関係と法」

4 成績評価基準 単位修得試験による。採点にあたっては、①テキスト・判例・条文の理解度、②法律専門用語・基本概念の把握、③構成の明確さ、④論述の論理性・的確性、⑤形式面の適切さなどを評価対象とする。

5 テキスト名および詳細 下記の市販書を指定のテキストとする。

指定市販本：西村健一郎・西井正弘・初宿正典『判例法学』（第5版）有斐閣、2012年、¥ 2,800+税

6 学習指導、注意点等 本科目では、提出されたレポートに対して添削・講評の形でフィードバックを行う。

指定テキストは法分野ごとに構成されているため、学習を進める際には各章に掲載されている条文、判例やその解説を十分に読み込むことが重要である。

学習対象の中心は、基本的に指定テキストの第2、3、4、5、7章となる。ただし、内容理解の補助として、第1、6章の判例・解説も参照する必要がある場合がある。

Outline and objectives This course examines the role that law plays in society and the concepts and principles on which it is founded. Through the study of major judicial precedents, students will explore these questions and aim to acquire the basic legal reasoning skills.

Topics covered in the course will be selected as appropriate from the following chapters of the designated textbook Hanrei Hōgaku (Case Law Studies).

Chapter2. Family Relations and Law

Chapter3. Property Relations and Law

Chapter4. Labor Relations and Law

Chapter5. Crime and Law

Chapter7. International Relations and Law

ECN100TA（経済学 / Economics 100）
経済学
教科担当責任者：小峯 敦
担当者：川戸 秀昭 単位数：4単位

1 学習の到達目標 経済学は身の回りの生活に密接に関わる学問分野であり、資本主義経済の中で生きていくためにその知識を習得しておくことは大変有意義である。この科目においては現代のさまざまな経済現象について経済学の観点から理解することができるように、その基本的な原理を学ぶことを目標としている。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 目標にもあるように基本的な経済原理を学び、その知識を経済現象の理解に応用できるようにする。そのためには経済主体である企業、政府、家計の3つが市場においてどのような役割を担い、経済活動を行っていくのかについて明らかにするとともに、その経済活動を通じていかに経済成長をしていくかについての具体例を示す。その際には経済成長を示す各種指標の意味を理解し、それらを用いて経済の現状を見る目を養う。その上で現在が好況期にあるのか不況期なのかの判断や、インフレーション、デフレーション、スタグフレーションのどの状況にあるのかについて明示していく。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。ただし、先に提出されたレポートでSまたはA+の評価を得ている場合は、単位修得試験の点数をつける際に若干の加点を行う。

レポートおよび単位修得試験は教科書の内容を要約するのではなく、内容を理解したことを採点者にアピールする必要がある。そのためには該当箇所について、現実社会における経済現象に当てはめて説明できるかどうかを要求する。テキストを読んで理解が足りない部分については、適宜、他の文献やネットなどを通じて理解を深めることが求められる。それらを解消した上でレポートの作成を行うことで、高い評価を受けることが可能となる。また、何が問われているのかを理解した上で作成をすること。設問に対する答えとして相応しくないものは大きな減点対象となる。

提出物については内容的な部分が評価の中心となるが、誤字脱字、日本語としての文法的ミスがあった場合は減点の対象となる。それらを防ぐためには、必ず清書する前に下書きを読み返し、提出する前に適宜修正を行うように。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『マンキュー入門経済学』（第4版）

N・グレゴリー・マンキュー著、片桐満他訳 センゲージラーニング株式会社、東京化学同人、2025年、¥ 3,600（電子書籍版のテキストも使用可）

※第3版も使用可

6 学習指導、注意点等 レポートや試験の提出に際しては剽窃行為の内容に注意すること。Webサイト等からの安易なコピー・ペーストはすぐに判明する。また、AIを用いたレポートの作成についても事前にAIツールにレポート課題を作成させ、それらと比較・確認をしながら採点をするため、そうしたツ

ルは使用しないこと。返却されたりレポートは添削・講評を行っているため、次回レポート作成に活かして改善するように。

Outline and objectives Our goal is to understand how the economy as a whole works. Economic theory has two basic frameworks, which are microeconomics and macroeconomics. We study elementary microeconomics and macroeconomics from the beginning. We analyze economic activities of three kinds of agents (households, firms, government) and how those agents interact with each other through trades in various markets. Then, we analyze the fluctuations in GDP (Gross Domestic Product) such as recession and boom. We also analyze inflation and deflation.

HUG100TA（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学

教科担当責任者：米家 志乃布

担当者：前畑 明美

単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目では、人文地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができることを目標とします。教養科目としての人文地理学を学ぶことから、テキストにもとづいた様々な人文地理学的視点を通して、現代世界や地域の理解を深めることを学習します。高校の時に「地理」を履修した経験のない方でも、教養レベルのわかりやすい内容です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 社会科学・人文科学としての人文地理学的な考え方を学ぶことが中心となりますが、地理学全般の基礎としての自然も必要です。テキストでは、地理学の基礎を学ぶことから始まり、都市の問題を取り上げ、次に現代のグローバリゼーションの進展から見られる様々なテーマに触れます。そして最後に産業や地域開発について学びます。地理学は単なる暗記科目ではなく、世界や地域に対して深く考える力を養うものです。

4 成績評価基準 最終的には試験により評価します。ただし、レポート学習もきちんと行ってください。

レポートについては、まずは作成のルールをきちんと守っているかどうか重要です。その上で、設題に対する理解ができているかどうか、論旨の展開（論文構成）がしっかりできているかどうか、文章表現が適切かどうかなどといった点から評価します。単位修得試験は、テキストの内容を理解しているかどうか、で判断いたします。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ジオグラフィー入門』改訂新版、古今書院、高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫・杉谷隆編、2008年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポートの作成はあくまで自分自身の文章で書くのが基本です。文献を参考・引用する際は、かならずルールを守ってください。また、どこかのHPのサイトから文章をコピーして貼り付けるのはすぐにわかります。剽窃になる行為は控えるようにしてください。テキストの最後に用語解説もついていますが、わからない用語や概念が出てきた場合は、地理用語集や事典などで必ず調べるようにしてください。

Outline and objectives Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100TA（地理学 / Geography 100）
自然地理学
教科担当責任者：米家 志乃布
担当者：吉野 徳康 単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目は、自然地理学の基礎を習得し、身近な風景の観察を通して地域の特徴を見出し、風景のもつ意味、特に自然災害に対する安全性の有無を理解することを目標としている。また、地球温暖化が与える影響について、地球の歴史をふまえ自然地理学の立場から理解を深める。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 風景のベースとなる地形を中心に、これに関連する気候、植生、水環境の基礎、および自然環境と人間社会との関係について学習する。また、地球の歴史（第四紀）で繰り返されてきた気候変動（氷河期、間氷期）に伴う自然環境の変化について学習する。

4 成績評価基準 リポート8割、単位修得試験2割で評価する。リポート合格後に単位修得試験を受けること（リポート合格が単位修得条件）。不正防止のためリポート本文は手書きとする。試験は、指定テキストから図や基本用語の理解、そして水害や風景の理解度について確認する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『はじめての自然地理学 第二版』吉田英嗣著（古今書院）、2019年、¥2,400＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストをよく学習し基礎の理解に努めること。学習の基本はテキスト（専門書）です。インターネットからの情報の編集、文献の要約は学習ではありません。

実施に見える風景（東西南北）が、どのような特性をもつ地形の上に成り立ち、どのような自然環境、土地利用、住居および構造物等が見られるのかをよく観察すること。また、人工構造物が一切ないと仮定した場合どのような風景が広がっているのかを考えること。その上で、見出された風景特徴について、その地域の生い立ち（地形形成を含む自然環境の地史や人間社会の歴史）をふまえ考察すること。

なお、地球温暖化については、目先の諸問題に着目するのではなく、時間軸を変え、地球の歴史（第四紀）の延長に今日の地球温暖化が加味されていると捉え、学習を深めること。

年々リポートの書き方（基本）ができていない人が増えていきます。関連図書でリポートの書き方をよく確認すること。

Outline and objectives The aim of this course is to find natural geographic features of the area through observation of the landscape. It also deals with the impact of global warming from the standpoint of natural geography.

This course will be in Japanese.

POL100TA（政治学 / Politics 100）
政治学概論
教科担当責任者：木村 正俊
担当者：及川 智洋 単位数：4単位

1 学習の到達目標 政治学の基本的な知識の習得と、政治的な概念について思考する力を深めてゆくことを目指す。

テキストにもとづく学習の中で、現代社会において顕在化する政治的な問題について理解を深める。さらに、リポート作成作業を通して、課題に沿った論述を作成をする力を養うことも目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 本教科は、政治学についての幅広い知識を習得し、さらには政治的な概念について理解を深めてゆくものである。テキストや参考文献を通じて、政治的な概念、政治体制、政治制度、政治過程などについて幅広く学ぶ。さらに、こうした学習を積み重ねるなかで、現代社会において政治はどのような問題を抱えているのか読み取ってゆく。政治的領域における自らの思考を深め、考察する力を養う。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、先に提出されたリポートの内容も考慮する。

- ・設問に沿った答案の作成。
- ・テキストおよび参考文献についての理解。
- ・基本的な用語に対する理解と適切な使用。
- ・論理的な文章の作成と表現能力。
- ・政治学に対する基本的な理解と概念整理の習得。

以上の要素を考慮し、総合的に成績を評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『政治学』第2版、東京大学出版会、川出良枝・谷口将紀、2022年、¥2,200＋税

政治学について、幅広く学ぶことができ、知識と理解を深めることができるテキストである。政治理論や制度のほか、地方自治や国際関係、市民参加など様々な政治的領域を網羅している。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

まずは、テキストをしっかりと読み進めてください。

このとき必ず自分なりに内容を整理し、ノートなどにまとめる作業をおこなってください。

リポートについては、テキストや参考文献の内容について十分に理解したうえで、課題に沿って作成してください。

また、社会における政治的事象について関心をもち、考察する機会を設けることは政治学を学ぶうえで重要です。ぜひ、日常生活の中で心がけ、取り組んでみてください。

Outline and objectives The aim of this course is to acquire foundational knowledge in political science while developing a multifaceted perspective and logical thinking skills.

Students must cultivate the ability to construct sentences, express oneself in one's own words, and communicate logically to others.

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）

社会学

教科担当責任者：山本 卓

担当者：栗林 大
単位数：4単位

1 学習の到達目標 1) 社会学の基本的見方を習得する。
2) 社会学分野の基礎理論、基礎概念を学習する。
3) 上記の見方等を日常の身近な事柄や現代的な社会現象にあてはめて考察できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 「現代日本を社会学で診る」ことを通して現代社会学の基礎を学習することを狙いとする『Do! ソシオロジー』をテキストとする。社会学の成り立ち（さらにその背景にあった「社会」の生成）を理解することから始まり、社会理論、教育社会学、若者文化論、地域社会学、階層研究、ジェンダー論、福祉社会学、国際社会学、の視点を、理論と具体例の考察の双方を通して学ぶ。また、そうして学習する社会学の基本的な視点を実践・応用する力を養うため、レポートでは学生自身の関心にもとづいた調査、考察をおこなう機会も設ける。

4 成績評価基準 単位修得試験と提出レポートにより評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 友枝敏雄・山田真茂留編『Do! ソシオロジー：現代日本を社会学で診る』改訂版、有斐閣アルマ、2013年、¥ 1,800+税

6 学習指導、注意点等 ・通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

・レポート、試験では指定テキストに準拠して、その説明を十分参照したうえで論述すること

■学習を進める際に参考になる文献

レポート作成法、文章作成法に関して自身で学習を進める際に参考になる著書として、下記が挙げられる。

◎法政大学教育開発・学習支援センター『法政大学 学習支援ハンドブック』

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

○小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社新書）

○中村明『悪文 - 裏返し文章読本』（筑摩書房）

これら以外にも優れた書籍が存在するので、自分に合うものを探し、この科目に限定されない基礎的なスキルに磨きをかけるよう心がけてほしい。

※生成AIの使用については、課題等において担当教員から指示がない限り使用できません。担当教員の許可なく生成AIを使用して提出物を提出した場合、不正行為に該当する可能性が生じるため注意してください。

Outline and objectives This course introduces elementary sociology. The aim of this course is to help students acquire basic views, theories, and concepts of sociology through studying sociological explanations of modern Japanese society. Grading will be decided based on reports and examinations.

CUA100TA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

教科担当責任者：石森 大知

担当者：ベル 裕紀
単位数：4単位

1 学習の到達目標 1、贈与、親族、政治／権力、身体／世界観、エスニシティや国民国家に関する文化人類学な議論を学習する。

2、1を通じて、「文化」とは何か？「文化」を記述することに内在する問題に関する理解を深める。

3、文化人類学的な視点を身に付け、それによって社会を理解、分析することができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 グローバル化が進行する現代社会における文化人類学的な議論の理解を目的とする。1960年代まで優勢であった文化相対主義的な「文化」概念——境界を有し、一枚岩的な「文化」観——を問い直し、（ポスト）植民地主義や世界システムの中の「文化」の理解を目指す。

4 成績評価基準 単位修得試験と提出レポートによって評価する。

言うまでもないことだが、剽窃は厳禁とする。引用する際は、【学習指導、注意点】に記載したことに十分留意して行うこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店、中島成久編著、2003年、2500円+税。

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評することでフィードバックする。レポートは、教科書の内容を要約するものでも、一方的に持論を展開するものもない。教科書を熟読し、基本的な理解を得た上で関連する文献や学術論文を参照し、学習を積み重ねた上で書くものである。学習の過程で読んだ文献を引用し、それらと対話しながらきちんと議論を組み立てていくことを目指してほしい。「自立学習の手引き」および「法政大学学習支援ハンドブック」をよく読み、文献の探し方から引用の仕方、議論の組み立て方までを学び、実践することで受講者自身が自主的に学習する力、論述する力を伸ばしていくことを目指す。

なお、引用・参照する際には、筆者や出版元を確認し、剽窃された文章や間違った情報を根拠とした文章を引用しないように注意するとともに、引用元の主張の根拠は十分か、論理展開に無理がないかなど、できる限り検証を行うよう努めること。

そうした観点からも、受講者には、法政大学図書館を積極的に利用してほしい。電子ジャーナルや文献複写など遠方の受講者でも知識にアクセスする方法は準備されているので、ぜひ利用してほしい。

Outline and objectives This course provides an introduction to anthropology in globalization era.

Students who take this course will:

1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, body/cosmology, ethnicity and nation-states.

2, gain better understanding about culture and difficulties inherent in writing culture.

3, gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.

PSY100TA（心理学 / Psychology 100）

心理学

教科担当責任者：浅川 希洋志

担当者：生田目 光

単位数：4単位

1 学習の到達目標 心理学の対象である「こころ」は、私たちにとって身近です。誰もが専門的知識なしに、心について語ったり、分析したりすることができるからです。しかし反面、心についての熟知感（分かったつもり）は、思い込み、偏見、といった独断も生み出すことにもなります。そこで学習の姿勢として、私たちがもっている心についての常識を相対化する心理学の方法－ものの見方・考え方－について注目することが必要であり、それらを通して、日常生活における自らの経験を、考え・捉えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 心理学の基礎について、学習心理学や社会心理学、発達心理学、臨床心理学など、様々な研究領域の知見を満遍なく学べるような構成になっています。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します（ただし、レポート学習もしっかり行うこと）。設題にそくしたテキストの理解、資料・文献の利用、それらを手掛かりにした文章の構成力を総合的に判断して、評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ゼロからはじめる心理学・入門 - 人の心を知る科学』改訂版、有斐閣ストゥディア、金沢創・市川寛子・作田由衣子(著)、2025年、¥1,900+税 ※初版（2015年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

心理学は初学である人が多いと思いますので、テキスト、資料、文献を引き写すことから学習が始まります。ただし、レポートや答案を作成する際には、指定本を写すだけにならないよう、他の文献も参照して、理解を深めるよう努めてください。その際、引用は明記してください。

Outline and objectives This is an introductory course in psychology, where students will learn the basic theories, research methods, and important findings from various sub-fields of psychology, and will build an overall understanding of how people think, feel, and act. One of the most important objectives of this course is that students will have a better understanding of how the knowledge and concepts they have learned through this course are applicable in their daily lives.

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学 1

教科担当責任者：安東 祐希

担当者：安東 祐希

単位数：2単位

1 学習の到達目標 数学の演習問題を実際に解いてみることで、数学で用いられる基本的な考え方のいくつかについて理解することが目標である。

ここでは演習問題の例（教科書37頁）をひとつあげてみよう。
問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、教科書第1章で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 扱う項目は、①整数の理論、②代数系、③線形代数。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で学習を進めていくことができるよう、教科書には演習問題を多く取り入れてある。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。なお、レポート・試験ともに、結果の数値等を表すだけでなく、それに至る過程について十分に説明することが求められる。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『数学』第1版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年（第1～3章）

6 学習指導、注意点等 通信教育のレポートに添削・講評でフィードバックする。演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

Outline and objectives**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to comprehend by working out exercises what some mathematical notions mean.

【Course Outline】

This course deals with fundamental mathematics, especially elementary algebra.

【Grading Criteria】

Grading will be decided based on the examination.

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学 2

教科担当責任者：倉田 俊彦

担当者：倉田 俊彦

単位数：2単位

1 学習の到達目標 数学の演習問題を実際に解いてみることで、数学で用いられる基本的な考え方のいくつかについて理解することが目標である。

ここでは演習問題の例（教科書210頁）をひとつあげてみよう。
問題（友人の友人は…）市谷くん、四谷さん、麴町くん、神田さん、秋葉くんの計5人について、「市谷くんと四谷さん」「四谷さんと麴町くん」「麴町くんと神田さん」「市谷くんと神田さん」「市谷くんと秋葉くん」「四谷さんと秋葉くん」「神田さんと秋葉くん」が友人の関係にあることが分かっている。市谷くんが「私の友人の友人はある人の友人の友人であり、私とその人とのそのような関係は18通りある」といったとき、市谷くんという「ある人」とは誰のことか？

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。しかし、教科書第4章で扱う「グラフ理論」の手法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 扱う項目は、①グラフ理論、②組み合わせ数学、③微分法と近似計算。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で学習を進めていくことができるよう、教科書には演習問題を多く取り入れてある。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。なお、レポート・試験ともに、結果の数値等を表すだけでなく、それに至る過程について十分に説明することが求められる。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『数学』第1版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年（第4～6章）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

Outline and objectives**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to comprehend by working out exercises what some mathematical notions mean.

【Course Outline】

This course deals with fundamental mathematics, especially graph theory and combinatorics.

【Grading Criteria】

Grading will be decided based on the examination.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）
生物学 1
教科担当責任者：島野 智之
担当者：島野 智之 単位数：2単位

1 学習の到達目標 生物学の目的は、生命現象とは何かを明らかにするものですが、その範疇は多岐にわたり、遺伝学、分子生物学のように医学に近いものも生物学の範疇に含まれるようになってきており、マスコミなどでも注目されることが多くなってきています。同時に、情報量が増えることにより、健康に関する関心も増してきています。その中には、科学的なもののから似非（えせ）科学といわれるようなものまで含まれています。自分の身体のことを考え、生物とはなにかを考えることが重要になってきます。あふれる程の情報の中で、正しく科学的な眼を持って、理解できるようになることが望まれます。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 生物の持っている最も基本的な特性、つまり生命現象の一つである、代謝について理解するように努めていただきたい。代謝とは食物を摂取、分解しエネルギーを作り出し、生命活動を営むことです。最も生物らしい現象です。最近健康志向の高まりもあり、さまざまな健康食品やサプリメントなどの広告や記事を眼にします。これらの食品などがどのような仕組みで身体に有効なものとなるのかを正しく理解する必要がある。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。もちろんレポート学習もしっかりと行わなければなりません。レポート設題に関しては、百科事典や生物学辞典などの他に「インターネット」などを利用してもよいのですが、とくに「インターネット」ではいくつかの記述を調べた方がよいです。必ずしもすべてが正しいとは限りません。いずれの場合も、書き写すのではなく、理解したことを自分の言葉で記述する必要があります。いわゆる「コピペ」は決してするべきではありません。使用した文に関しては、文末に出典を明記する必要があります。出典を明記せずに、他者の文章をそのまま書き写した場合は、剽窃（盗作）となることもあるので、くれぐれも注意すること。レポートについては、参考文献・引用文献を明記すること。

単位修得試験については、1) 過去の試験問題などを利用して、出題の傾向をつかむことが解答の一助となることがある。2) おなじ通信教育で学ぶ仲間たちの情報も役に立つことがある。3) 答案に少なくともキーワードが書かれているか否かが、評価の重要な目安となる。

5 テキスト名および詳細 (1) 指定市販本『グラフィックライフサイエンス』、相川書房版（復刻版）、堀上英紀・月井雄二・矢崎和盛・小山 力著、2021年、¥1,919+税

※法政大学生協書籍部のみ取扱い

※増補版、相川書房、2010年（内容は同じ）も使用可

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

(2) 指定市販本『新種発見物語 足元から深海まで11人の研究者が行く!』岩波ジュニア新書 岩波書店 2023年 島野智之・

脇司 編著 ¥1,120+税

※教科書は2冊

生物学のテキスト「グラフィックライフサイエンス」は理解を容易にするため、図版が主体の教科書であり、字数の制約のため説明がかなり簡略化されている。そのためこのテキストだけですべての項目を理解することは困難かも知れない。

また、とくに「進化学、生物多様性・保全生物学、分類学」に関しては教科書(2)を読んでください。

「代謝」に関しては下記の参考文献『代謝ガイドブック』、を読まれることを勧めます。

【参考文献】

『岩波 生物学辞典 第5版』 岩波書店; 第5版 ¥ 14,040

『代謝ガイドブック』 技術評論社 霜田幸雄著 ¥2,480+税 2014年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。通信教育は、一人で勉強する部分が多いため、勉強がはかどらないことが多いと思われる。その様な場合、スクーリングや支部活動などを通じて知り合った、先輩、同輩、後輩などの仲間たちから学ぶことも大切である。

レポートに関して、注意しておきたいことは、剽窃（盗作）などの行為は決してしないように。また、生物学のような自然科学の分野のレポートは文学的な表現は必用ありません。自分の考えを正しく相手（読者）に伝えることが一番重要です。

Outline and objectives Basic Biology course, the categories of basic biology are diverse and expanded, and genetics, molecular biology, and medicine are also included in the category of biology. This objective of this course is understanding such basic Biology.

The final grade will be determined by a credit examination. Of course, you should also carefully study the report. For the report questions, you can use encyclopedias, biological dictionaries, and other resources, as well as the Internet, but be especially cautious when using the Internet. Not all information found online is necessarily accurate. In all cases, it is important to describe your understanding in your own words, rather than copying and pasting text. If you do use text from another source, it is essential to clearly indicate the source at the end of the sentence. Plagiarism, which is the act of copying someone else's text without proper attribution, should be avoided at all costs. For reports, it is necessary to include clear references and works cited.

To prepare for the credit examination, 1) it may be helpful to review past exams, 2) seek information from fellow correspondence course students, 3) and make sure that key words are included in your answers. This is an important factor in the evaluation process.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）
化学 1
教科担当責任者：中田 和秀
担当者：渡邊 永治 単位数：2単位

1 学習の到達目標 身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出会う化学物質の性質を題材とする。化学物質の物性、構造、反応などを理論的に考察できるように、さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 第1章 周期表

第2章 錬金術師の夢

第3章 化学結合

第4章 ニュース性のある分子

第5章 化学反応性

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、その際先に提出されたリポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グレイ 化学－物質と人間－』、東京化学同人、H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler 著、1997年、¥ 2,200+税

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

テキストの目次、索引などに載っているキーワードについて、まとめておくこと。また、テキストの本文中で、使用頻度の高い専門用語についても、説明できるようにしておくことと良い。

Outline and objectives The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can become to discuss properties and reactions of chemical species theoretically as well as to understand chemical background of cutting-edge topics in modern society. The final grade will be based on the term-end examinations, but the content of the previously submitted reports will be taken into consideration in the evaluation.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）
化学 2
教科担当責任者：中田 和秀
担当者：渡邊 永治 単位数：2単位

1 学習の到達目標 身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出会う化学物質の性質を題材とする。合成材料、あるいは生命に関する化学について、物性や反応のメカニズムを理解できるようにする。また、地球温暖化、オゾンホール、環境ホルモンなどの環境問題についても、分子レベルで理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 第6章 化学と工業

第7章 合成材料

第8章 生化学

第9章 光化学

第10章 大気化学

第11章 化学とがん

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、その際先に提出されたリポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グレイ 化学－物質と人間－』、東京化学同人、H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler 著、1997年、¥ 2,200+税

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

テキストの目次、索引などに載っているキーワードについて、まとめておくこと。また、テキストの本文中で、使用頻度の高い専門用語についても、説明できるようにしておくことと良い。

Outline and objectives The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can understand properties and reaction mechanisms of synthetic materials as well as those of chemical species related to life sciences. In addition, environmental issues such as global warming, destruction of the ozone layer, and endocrine disruptor will be discussed to understand them in the viewpoint of chemistry. The final grade will be based on the term-end examinations, but the content of the previously submitted reports will be taken into consideration in the evaluation.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）
物理学 1
教科担当責任者：石川 壮一
担当者：石川 壮一 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ニュートン力学のあらましを理解し、身の回りの運動に関する現象がどのような理屈で起こっているかを考察することができる能力を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 近代社会の柱となる自然科学は17世紀にはじまり、その土台となったニュートン力学は、ガリレイによって研究された地上の物体の運動や、ケプラーによって研究された惑星の運動に関する法則を基礎として構築された。本科目では、身の回りで起こっている様々な運動を記述する方法を学び、それらの運動がニュートンの運動法則に従っていることを理解する。

4 成績評価基準 単位修得試験で評価する。
設題の内容を正しく理解して、論理的な記述ができているかを判断する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グラフィック講義 力学の基礎』（ライブラリ物理学グラフィック講義2）和田純夫著、サイエンス社、2011年、¥1,700＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。物理学で取り扱う現象は時間、距離など数値で表されるものがほとんどで、それらの間の関連性を数式で表現することが、その現象の本質を知るためによく行われる。結果として、数学の知識、計算が学習内容にたくさん含まれている。数式を見ただけで、やる気をなくす人もいられるかもしれないが、物理学での数式は、物事の状況を効率よく説明するための、「言語」だと思って取り組んでほしい。

タイトルに「グラフィック講義」とあるように、教科書には図がたくさん出てくるが、それらをただ眺めるだけではなく、フリーハンドでよいので実際に自分で描くことによって理解を深めてほしい。

また、具体的な問題を考えることによって理解を深めるために、教科書には課題がたくさん出てくるが、解説と共に答えも書いてあるので、自分で納得しながら学習を進めること。

Outline and objectives This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves are explained from the fundamental laws.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）
物理学 2
教科担当責任者：石川 壮一
担当者：石川 壮一 単位数：2単位 ※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 エネルギーの概念を正しく理解するとともに、現代社会におけるエネルギー消費の実態を学習し、今後の展望を考察することができる能力を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 まず、エネルギーとは何なのか、人類がどのようにエネルギーを使ってきたか、エネルギーには色々な種類があり互いに変換し保存されていることなど、エネルギーの基礎知識を、身近な例を参考にしながら学ぶ。そして、現代の我々の生活に欠かすことのできないエネルギー源について、特に化石燃料（化石資源）、電気エネルギー、次世代のエネルギーについて詳しく学ぶ。

4 成績評価基準 単位修得試験で評価する。
設題の内容を正しく理解して、論理的な記述ができているかを判断する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『新版エネルギーの科学（第3版）』、三共出版、安井伸郎著、2025年、¥2,420（税込）※第2版（2018年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。「エネルギー」は、日常生活の中でも普通に使われている言葉であるが、その意味を正しく理解してもらおうという試みは、残念ながらあまり行われてない。テキストでは、本文以外にも脚注、コラム欄等で、より幅広い、またより深い知識を学ぶことができるようになっているので、それらも合わせてきちんと読んでいただきたい。また、テキスト巻末にあるリスト（図書、ウェブサイト）も可能な限り参考にしてほしい。

Outline and objectives This course introduces the basic concept of the energy.

At the end of the course, students are expected to understand the present situation of energy consumption, from which students are able to consider energy saving in various scenes in modern society.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語 2

教科担当責任者：須藤 祐二

担当者：関口 奈津恵

単位数：2単位

- 1 学習の到達目標** 1. 使える語彙を増やす。
 2. 基礎的な文法と学んだ語彙を文章の読解に応用できる。
 3. ストーリーの展開を理解できる。
 4. 読んだ内容について英語の質問に答えることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 Arthur Conan Doyle (1859-1930) の短編 2 作品のリライト版を読む。基礎的な文法の知識と新たに学ぶ語彙を使って小説を読み、読んだ内容を日本語および英語で確認する力をつける。

各ユニットのメイン・セクションである“Let’s go on to today’s story!” は 1～3 の小セクションに分かれ、内容確認問題を解きながら本文を読み進める。その後“Preparation for the next story!” でそのユニットの内容を要約してから、次のユニットに進む。

4 成績評価基準 文法 40%（基本文型、品詞、動詞の活用、代名詞の指す内容、関係詞と先行詞、並べ替え、穴埋め、など）
 内容理解 60%（タイトル確認*、日本語訳、内容の要約、語彙、英語または日本語での質問、小説の内容についての論述、など）
 *作品の抜粋からタイトルがわかるようにしておくこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『Mystery Tour with Sherlock Holmes「シャーロック・ホームズと巡るミステリーの旅」』、Atsuko Uemura, Miwako Yamashina、セングージラーニング、2011年、¥1,850+税

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

※指定テキストの音声は、セングージラーニングのウェブサイトで聴くことができます。

以下のページにアクセスしてリスニング問題を解いてください。

<https://ngljapan.com/mtwsh-audio/>

また、ネット環境が整わない方は、「スタディガイド」に空欄に入る語が載っていますので、ご確認ください。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

“Let’s go on to today’s story!” は 1～3 の小セクションに分かれている。1 と 2 では文章を読み、内容確認問題を解く。まずは本文をしっかりと読むこと。その後すぐに内容確認問題を解くことで、ご自分の読みが正しいかどうかを確認することができる。3 では聞き取った内容から質問に答える。まずはスクリプトを見ずに聞き取れるまで何度も音声を確認してほしい。その後、スクリプトを読んで内容を確認するとよい。

“Preparation for the next story!” では、次のユニットに進む前にその回の内容を要約する。本文やリスニングのスクリプトを見直しながらしっかりと完成させることで、話の続きを理解しやすくなる。

文章を読む際は、日本語に訳してみれば、理解できているかどうかをご自分で確認することができる。スタディガイドにある読解のヒントを参考に、必要に応じて辞書や文法の参考書など

を使い、じっくり読んでほしい。また、この教科書には音声がついているので、正しい発音をまねて、音読の練習をするとよい。（教科書の音声はセングージラーニング社のウェブサイトアクセスして聞くことができる。）

Outline and objectives In this course, students will read two adapted short stories of Arthur Conan Doyle, using basic English grammar knowledge and the newly learned vocabulary.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 3
教科担当責任者：中和 彩子
担当者：中和 彩子、根本 怜奈、鹿子嶋 由佳 単位数：2単位

1 学習の到達目標 1. 文法 (grammar) の基礎を身につける。

2. 使える語彙 (vocabulary) を増やす。
3. 学んだ文法や語彙を応用する力をつける。
4. 学んだ文法をもとに、文章を正確に読む力をつける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 基礎的な英文法を復習し、英文法の知識を定着させ、読解力の向上を目指します。使用するテキストは15のチャプターで構成され、日常生活や現代社会についての様々なテーマが扱われています。各チャプターにはポイントとなる文法事項が一つずつ配されています。チャプターのはじめにある英文には、そのチャプターで学習する文法事項が含まれていますので、読解しながら文法の知識の確認をしていきます。文法の理解を深めながら、語彙を増やし、読解力をつけていきます。

4 成績評価基準 リポートは、テキストをきちんと学習すれば、すべての問題に正しく解答することができます。（学習方法については、下記「学習指導、注意点等」を参照のこと。）正答に対して点を与え、合計点に応じて、成績評価を行います。得点と評価の関係は、単位修得試験の評価基準に準じます。

単位修得試験は、(1) 文法 (Focus Grammar, III Warming Up, IV～VI Grammar Practice 1～3 で学習した内容) の理解度をはかる問題、(2) テキストの文章 (Reading Passage, I Comprehension Questions, II Guided Summary, VII Dialogue) の理解度をはかる問題から成ります。出題形式の例としては、文型分析／指示に従って英文を書き換える／語句の並べ替えにより英文を完成させる／空欄を埋めて英語の文・文章を完成させる／代名詞の指す内容を説明する／日本語訳、など。文法理解の問題については、テキストにはない短文を用いることがあります。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『Good Reading, Better Grammar リーディングで深める英文法』Joan McConnell・山内圭 著、成美堂、2018年、¥2,000+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートノートに添削・講評でフィードバックします。

(1) テキストの各チャプターの流れ

はじめに本文をよく読み、読解問題に答えてください。「II Guided Summary」は本文の要約ですので、内容と語彙の確認のために解答しましょう。次に、「Focus Grammar」で文法事項を確認します。テキストやスタディガイドを読んでもよく分からない、あるいはもっと詳しく知りたい場合は、文法の参考書を使って調べてください。文法を先に確認したい場合は、「Focus Grammar」で学習した後に、本文を読み、読解問題に答えることもできます。

各文法事項を身につけるため、選択問題や並べ替え英作文、該当の文法事項を含めたリスニング等、さまざまな練習問題があ

ります。丁寧に解答しながら、知識を定着させていきます。分からない単語や語句は必ず辞書で調べてください。解答後には音声聞いて音読してみましょう。

スタディガイド巻末には練習問題の解答を掲載していますが、まずは自分の力で答えを出してみましょう。間違えた箇所は、なぜ違うのかを教科書や辞書、文法書でしっかり調べてください。
(2) テキスト全体の流れ

より基本的な文法事項から段階的に学べるよう構成されているので、チャプターの順に勉強していきましょう。ただし、本文にはそのチャプターで扱う文法事項の他、様々な文法事項が扱われていますので、学習済みのチャプターを復習しながら進めてください。

(3) リポートに取り組む際の注意

十分にテキストで学習してから、リポート作成を始めてください。進め方として、テキストの学習を全て終わらせてからリポートに取り組む方法と、一つ一つのチャプターを学習し終えたら、その都度リポートの該当箇所に取り組む方法があります。どちらの方法でも、自分に合ったペースで進めてください。文法問題は、テキストやスタディガイドにはない初見の英文も含まれます。分からない箇所や不確かな箇所は、テキスト、スタディガイド、辞書、参考書などを使って調べ、納得のいくリポートを仕上げてください。

Outline and objectives The aim of this course is to help students review English grammar and acquire skills for reading accurately and fluently in English. There are 15 chapters in the textbook, and it deals with several daily and modern social topics. In addition, each chapter focuses on a grammatical category and contains some questions. Thus, students will be able to check English grammar by reading passages and answering the questions. This course also enhances students' vocabulary knowledge needed to understand the English passages in the textbook. By the end of this course, students should be able to acquire basic knowledge of English grammar to read accurately and fluently, and to expand their vocabulary. It is hoped that, as a result, they will be able to answer questions perfectly in the "report-note" assignment. As for the "report-note" assignment, students will be marked according to the grading criteria of the credits-examination. Final grades will be decided based on the credits-examination.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語 1

教科担当責任者：小川 敦

担当者：宮城 学

単位数：2単位

1 学習の到達目標 ドイツ語を初めて学ぶ学生が対象です。文字・発音についての最も基本的な学習から始め、語・文章へと順に学んでいき、基本表現が理解できるようになることが目標です。

具体的には、主に次の事項について理解し修得できるように学習を進めます。

1. ドイツ語の基本的な単語の発音ができる。
2. 動詞の現在人称変化を理解し、適切な形で活用できる。
3. 名詞の文法上の性と格を理解し、適切な形で運用できる。
4. 不規則変化動詞を理解し、重要な動詞に関しては迷わず活用できる。
5. 様々な冠詞類について理解し、適切な形で運用できる。
6. 前置詞の格支配について理解し、適切に表現できる。
7. 主文と副文の構造、定動詞の位置について理解し、英語と異なる語順に慣れる。
8. 助動詞構文における不定形とその位置、完了形における過去分詞の形とその位置を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 どんな言語でも、上達するには「習うより慣れろ」と言われます。では、慣れるには？一番は「声に出して自分の耳に聞かせてやる」ことです。幸いドイツ語の発音はローマ字読みが原則ですから、英語やフランス語に比べれば、比較的シンプルです。大きな声で少し気取って発音してみてください。

単語も単独の語として覚えるのではなく、やさしくシンプルな句や文にして、それを暗誦してみてください…テキストにはそんな句や文がたくさん載っています。リズムよく発音できれば気持ちもよくなって、気持ちよく発音したものは、しっかりと記憶に留まるものなのです。これが上達への王道です。

文法は、覚えることがたくさんあって大変だと思いますが、ポイントをしばれば学ぶのがずいぶん楽になります。例えば格変化などは、定冠詞と不定冠詞の変化を確実に覚えておけば、あとはその応用で済みます。

覚えた文法は、作文をして確認してみるのがよいでしょう。テキストにある文の名詞を変えてみたり、冠詞類を変えてみたりして練習してください。

テキストにある長文を、暗記するくらい何度も声に出して読んでみましょう。そうすれば自然に意味が理解できるようになります。それが初級後期から中級へのステップにつながるでしょう。

4 成績評価基準 試験には学習範囲についての総合的な理解が問われる問題が出されます。一つ一つの文法事項を学びながらも、何かを伝えようとする言葉としてドイツ語に接し、常に文章の意味を理解しようと心がけてください。最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 高田 博行『素朴なぞもんからわかるドイツ文法』郁文堂、2010年、¥1,800+税

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。動詞の人称変化は、文法項目としてはさほど問題はないのですが、作文では、例えば *Er hast einen Wagen.* のようなミスが散見されます。これは、和訳や作文の際に〈主語ー動詞〉がしっかりと意識されていないことが原因の一つと思われます。「何が〔誰が〕どうした」ということを常に意識するようにしてください。

初級者にとっての最大の難関は、やはり格変化のようです。定冠詞と不定冠詞の格変化は、絶対に確実に覚えてください。ここが不確実のままだと、その後の学習のすべてが砂上の楼閣になってしまいます。

格変化については、2格の用法に問題を抱える人が多いようですが、克服の仕方は簡単です。基本的で単純な用例を確実に記憶しておくこと、これに尽きます…（他の場合も同様ですが）…例えば *Das ist das Buch des Vaters.* の形と意味がしっかり記憶されていれば、*Das ist das Buch meines Vaters.* とか *Das ist das Buch dieses Mannes.* の斜字体部分の形も容易に理解されるでしょう。やさしく単純なものから難しく複雑なものへ、という手順を踏んでいけばよいのです。

作文する時の悩みは語順でしょう。作文で厳守しなければならないのは定動詞の位置です。定動詞は常に文章の二番目の位置に置かねばなりません…（副文は例外）…。でも、それ以外の文の構成要素の位置は驚くほど日本語に似ています。テキストの少し長めの文で確認してみてください。みなさんは英語の語順が頭にあるようですが、独作文では英語の語順は忘れましょう。

Übung macht den Meister.（練習次第で名人に）という諺があります。みなさんも効果的な練習でドイツ語マイスターへの道を歩みましょう。

Outline and objectives In learning any foreign language, “Practice makes perfect.” is often said to be the best way.

What is “practice” in this class?

It is to pronounce German with a loud voice in order to get familiarized with it.

Fortunately, German pronunciation is almost all based on that of Roman alphabet.

So it is easier and simpler than those of English and French.

When you learn words, it is important to learn by heart simple and easy phrases and sentences instead of learning word by word.

Our text book is full of such kind of phrases and sentences. Rhythmical and lively pronunciation will make you feel good, and feeling good will make your remembrance better. This is the royal road.

As to the German grammar, there are so many things to understand and remember that you may feel it very troublesome and difficult.

However, focusing on the most important points, you will find it easier.

Let's pronounce the sample sentences in our text book over and over again until you learn them by heart.

Then you will be able to get the meaning of each sentence, too.

And this will lead you from the elementary class to the intermediate one.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語 1
教科担当責任者：近江屋 志穂
担当者：柴崎 秀穂 単位数：2単位

1 学習の到達目標 フランス語を初めて学ぶ人を対象とする講座です。フランス語に親しむと同時に、基礎的な語彙と文法を習得し、実生活で用いられる簡単なフランス語を読んだり、書いたり、話したりできるようになることを目指します。フランス語技能検定試験の4級程度に対応するレベルです。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 通信教育の語学ですから、すべて自習による学習となります。教科書の内容を整理・補足したものが、担当講師作成の「スタディガイド(学習指導書)」です。教科書をもとに、各文法項目に対応する問題を集めたものがレポートです。まず教科書と「スタディガイド」を熟読し、練習問題を解き、レポートを作成してください。

4 成績評価基準 レポートも単位修得試験も、100点満点で問題が構成されています。取得した点数に基づいて成績を評価します。教室で対面して授業を行うことはありませんから、一般的な授業態度を考慮することはできません。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『ゼロから始めるフランス語』猪狩廣志著（2000年、三修社）、¥1,600+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 語学は、単語の暗記にも文法事項の習得にも音読が有効です。教科書付属のCDを十分に活用し、音読の練習に努めて下さい。
またレポートで合格しても、単位修得試験でつまづくケースが多くみられます。レポート作成段階で、文法項目が十分に理解されていないことが原因だと思われます。単位修得試験の問題構成は、レポートで出題されている問題構成とほぼ一致します（同じ問題が出題されるという意味ではありません）。このことを考えて、試験の対策と準備をしてください。

Outline and objectives This course is for students who start studying French.

The aim of the course is to learn basic vocabulary and grammar and become able to read, write, and speak simple French that you can use in daily life.

After starting this course, you'll have to study all by yourself. First, you should carefully read the textbook and Study Guide, and do the exercises in the textbook. You'll have to write a report after that.

Both in the report and in the credit test, we will assess your grade according to the score you get.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）
健康・スポーツ科学概論
教科担当責任者：伊藤 マモル
担当者：伊藤 マモル 単位数：2単位

1 学習の到達目標 健康は「失って初めてその大切さがわかる」と良く言われる。これは健康に問題を感じていない人々が、健康を害している人あるいは害した経験がある人に比べて、健康への関心が総じて薄いからだと思う。

多くの人にとって、健康は人生を支える基盤だという見方ができる。仕事、趣味、日常生活において、自分の目標を成し遂げようとするとき、心身がより健康な状態である時のほうが、その達成度は高いと言える。自分が持つ最高のパフォーマンスを発揮しようと思うなら、少なからず健康である方が良いということだ。他方、日本では不健康であることが経済的にも社会的にも不利になる時代が到来していると思われる。

そこで本科目では自宅で実施可能な体力測定を通じて、より豊かな人生を築くための健康と体力の保持増進の今後の在り方を考えてもらう。その過程で達成してほしい目標を以下に示す。

【到達目標】

- 1) 身体の構造や働きを説明できる
- 2) 体力測定を実施できる
- 3) 体力測定の結果を図を用いて可視化できる
- 4) 体力測定の結果をもとに自らの健康の保持増進に資する改善点を指摘できる

※4)の補足：今後の健康の保持増進に資するトレーニング種目の列挙、栄養・食事の必要性、心理学的な視点など

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

3 科目の概要 この科目の学習は課題解決型のアクティブラーニングである。

すなわち、履修者自身の健康を管理（コンディショニング）するために、自ら実施した体力測定結果が教材となり、生活の質を高める態度を見直し、将来の健康の保持増進に寄与することが本科目の目的である。

なお、レポート作成によって取り組んだ自己学習の成果は、レポート及び筆記試験によって評価される。

4 成績評価基準 【レポート評価基準】

以下に示した三つのステージの順で評価（配点は50点）を行う。
※評価基準に満たないステージがあれば、その時点で再提出とする。

第一ステージ＞設題総覧にある課題1の1)～5)に関するレポートが適切であること。

第二ステージ＞レポートの書式や構成（頁を付ける、見出しを付けるなど）が読み手の立場に立って適切に整えられていること。具体的には次の1～8)に不備がないこと。

- 1) 頁が付けられ、適切な段落分けがされている
- 2) 適切な小見出しがあり、記述の流れに違和感がない
- 3) 漢字や言葉の使い方が誤っていない
- 4) 解答のための文字数に過不足がない
- 5) 健康の保持増進に取り組んだ前後の測定結果を図で可視化できている

6) 数値化が困難である測定方法を用いた場合は表のみでも可とする

7) 参考文献の引用や記載方法が正しい

8) 再提出の場合は、前回レポート講評を元に赤文字等で加筆修正されている

第三ステージ＞設題総覧にある課題2の各測定結果の客観的な分析および考察の内容（感想や随筆的ではない）などが設題からずれていないかを以下の1)～4)に沿って確認する。

1) 設問の趣旨に沿った論点整理や解答・解説ができていない（論旨や展開が明確である）

2) 本科目で学習した専門用語を適切に使用している（テキスト・参考文献の理解や利用）

3) 根拠や理由を踏まえた客観性のある明確な説明ができていない（テキスト・参考文献の読解力・引用）

4) 建設的な意見や問題意識をもった独自の意見、反対論、創造的な発想が述べられている（柔軟性のある批判や考察）

※ 1)～4)に当てはまらない内容が5割以上の場合は再提出とする

【試験の評価基準】

試験は4つの設問で構成され、合計50点として採点する。

【単位認定】

この科目は多くの他科目とは異なり、レポートの評価（50点満点）及び試験の評価（50点満点）の合計点から成績を判定する。そのため、下記の点について注意すること。

1) レポート合格後に単位修得試験を受験すること。レポートの評価によっては、単位修得試験を何度受験しても、その採点結果にかかわらず不合格となる場合があるため注意すること。

2) 合格した科目のレポートを再提出することはできない（合格したレポートの評価が変更されることはない）。したがって、レポートで高評価を得ておくことが単位認定のハードルを下げることに繋がる。

この点を念頭に入れて、レポート作成に真摯に取り組むこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本

・伊藤マモル監修『最新版 基礎から学ぶ スポーツトレーニング理論』、2023年、日本文芸社、2,400円+税

上記のテキストが入手できない場合は、以下の電子書籍版テキストを利用すること。

・伊藤マモル監修『最新版 基礎から学ぶ スポーツトレーニング理論』（電子書籍版）、日本文芸社

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等

レポートの作成前にスタディガイドの「レポート作成の手順」を良く読んでください。特に注意してほしいスタディガイドのページは次の通りです。

1) 1ページ目の本文6～9行は必ず確認してください。

2) 体力測定の実施日、方法を明記してください。

3) 3ページ目の1～3行の体力測定結果の図（棒グラフまたは折れ線グラフ等）を作成してください。

4) 5ページからの「手順⑤ 体力測定項目の決定」を良く読んでください。

5) 測定結果に関する考察が客観性に欠ける随筆（エッセイ）や感想、または主観のみであった場合、再提出とするため注意してください。

例1：BMIと心拍数に関しては標準であるため自分で評価している。

例2：私の現在の筋力は、握力で55kg、腹筋で35回であった。スコアで言うと8点と10点であり、筋力においては問題ないと評価できる。

例1と例2のいずれにおいても、具体的な測定方法の明示がなく、その評価の妥当性が判断できません。また、「標準」や「ス

コア」の根拠（厚生労働省や中央労働災害防止協会等の体力・医学的な基準）が必要です。

6) その他

設題総覧に示された通し番号「課題2の1)～4)」とスタディガイド・p.11～p.19に示された通し番号「課題2の1)～5)」は異なるため、改めて注意してください。

設題総覧の「課題2-2)」は筋力の評価と考察を求めています。スタディガイドのp.11の中段にある「課題2-2)」では、BMIによる考察を求めています。

※ レポートでは、BMIおよび理想体重（＝標準体重）の計算結果のみを「課題2-1)」として求めており、スタディガイドに書かれているBMIの考察は不要です。ただし、BMIおよび理想体重（＝標準体重）から健康状態を考察することを妨げるものではありません。

Outline and objectives The purpose of this subject is to learn to manage health by adjusting attitudes that improve the quality of life.

For that purpose, students have to measure physical strength measurements yourselves. And students prepare a report on the tasks presented as the main teaching materials based on the physical fitness measurement results.

Also, the learning outcome you gained during the process of reporting is evaluated by written exam.

LAW100TB（法学 / law 100）
民法総則
教科担当責任者：伊藤 栄寿
担当者：大久保 慎太郎、伊藤 栄寿 単位数：4単位

1 学習の到達目標 この科目では、通則、人、法律行為、時効制度など、民法総則の基本知識・考え方を理解するとともに、現代社会における法的問題について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 民法は、私人相互の関係を規律する私法の中心的な法律である。民法総則は、民法の中に共通するルール、すなわち、人に関するルール、契約を中心とする法律行為に関するルール、時効制度など、民法全体を把握する上で不可欠であるルールが定めている。この科目ではこれらの民法の基本ルールについて、判例の状況や学説の動向を理解し、民法の基本的な考え方を身につけることを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『民法の基礎1・総則』第5版、有斐閣、佐久間毅、2020年、¥ 3,100+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。もっとも、民法総則は抽象的な概念が多いので、条文をただただ見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことも少なくない。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、参考書や『民法判例百選』等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。そのためには判例の原文（最高裁判所HPや本学図書館HPに掲載されている法律情報データベースで閲覧可能である）にもあたること。

Outline and objectives We learn Civil law, especially this general rule. Grading will be decided based on the examination, 100%. But the report will be taken into consideration to decide this grading.

LAW200TB（法学 / law 200）
憲法
教科担当責任者：國分 典子
担当者：土屋 仁美 単位数：4単位

1 学習の到達目標 近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特徴を理解する。
日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する。
日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約190カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法とともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。評価の際には、先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『憲法 第8版』、岩波書店、芦部信喜著（高橋和之補訂）、2023年、3,740円
※『現代日本の憲法 [第2版]』、法律文化社、元山 健・建石真公子編、2016年、¥ 2,800+税（初版（2009年））も使用可
【参考文献】

『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第7版』有斐閣、2019年
『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第7版』有斐閣、2019年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解することが基本である。まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution. Understand the definition of human

rights protected by the Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection. Also, understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution.

This course aims to provide an understanding of the basic 'principles' underpinning constitutional law, such as national sovereignty, democracy and the division of power, as well as the concept of human rights and their guarantees, which are influenced by history, the state of society and its relationship with the international community.

The final grade is based on an examination. The quality of the report is taken into account when grading.

LAW200TB（法学 / law 200）

物権法

教科担当責任者：伊藤 栄寿

担当者：伊藤 栄寿、宮島 薫

単位数：4単位

※ 2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 この科目では、物権変動、所有権、用益物権、担保物権といった、物権法の基本知識・考え方を理解するとともに、物権法の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 民法は、私人相互の関係を規律する私法の中の中心的な法律である。物権法は、民法が権利の対象とする財産の中でも重要な「物」に関するルール、すなわち、物権変動、所有権、用益物権、担保物権といったルールを定めている。この科目ではこれらの物権法の基本ルールについて、判例の状況や学説の動向を理解し、基本的な考え方を身につけることを目標とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『講義 物権・担保物権法（第4版）』有斐閣、安永正昭、2021年、¥3,900＋税
指定テキストの新版（第5版）が2026年3月刊行予定。これから学習を始める場合は、最新版での学習を推奨します。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、参考書や『民法判例百選』等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。そのためには判例の原文（最高裁判所HPや本学図書館HPに掲載されている法律情報データベースで閲覧可能である）にもあたること。

Outline and objectives We learn Civil law, especially Property Law. Grading will be decided based on the examination, 100%. But the report will be taken into consideration to decide this grading.

LAW200TB（法学 / law 200）
刑法総論
教科担当責任者：佐藤 輝幸
担当者：佐藤 輝幸 単位数：4単位 ※2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 刑法総論は、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。本科目では、刑法総論の内容のうち、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容について、学習する。

4 成績評価基準 原則として、単位修得試験によって評価する。ただし、レポートの内容も考慮する場合がある。

単位修得試験は、持ち込み不可であり、文献を引用する必要はないが、レポートにおいては、どのような文献を参照・引用しているかも評価に加味する。その際、レポートにおいて、適切に引用が行われていない場合には、剽窃として不正行為に該当しうる（『学習のしおり』参照）ので、注意すること。特に法学部法律学科の学生に向けて、「レポートにおける文献の引用・出典の表示について（注意喚起）」が『通信学習設題総覧』に掲載されているので、よく読んで理解しておくこと。

なお、時折とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、分量ではなく、設問の内容に対応して、理解が示しているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：松原芳博『刑法概説〔第3版〕』（成文堂、2024、¥2,600+税）を使用する（旧教材である通教テキスト・今井猛嘉『刑法総論』（2019）については、移行期間として対応可能なように出題・採点を行うが、重要な法改正や新しい判例に対応できていない部分があるため、新しいテキスト、文献等で自ら補充することを強く勧める）。

なお、学修の際に問題となる条文については、必ず六法または電子政府のウェブサイト等で現行の条文を確認すること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

刑法総則（刑法典第1編）では、犯罪が成立しない場合（違法性阻却事由、責任阻却事由）や特殊な成立形式（未遂犯、共犯）の規定があるが、一般論として、犯罪が成立するのに必要な要件について正面から規定されていない。そのため、一定の原則から演繹的に必要な要件を導いたり、個別の犯罪（刑法典第2編など）から一般的な要件を抽出したり、上記の例外的な場合の規定から原則的な要件を推測したりする必要がある。このことが、刑法総論が複雑な理論による空中戦になり、学修が難しくなりやすい原因となっている。これを解決する近道はなく、刑法の一般原則を丁寧に理解したうえで、なぜそのような要件が必要となるのか、どのような立場の違いからその理解に差異が生じるのかという関係を整理して、分析するしかない。他方で、

例外的な場合として条文がある分野については、どの条文の文言が問題になっているのかを理解したうえで、一般原則や例外的な取扱いの趣旨との関係を考慮しながら解釈論を展開することが求められる。

事例問題の解答にあたっては、議論がある論点だけでなく、必要な成立要件については、漏れなく検討しなければ、「〇〇罪が成立する」とはいえないことに留意して欲しい。その際には、当該事案で成立が明らかな要件については「本件では、〇〇があるから××の要件を充たす」など簡単に記述し、議論がありうる論点については、反対説やそれに対する反論、自説の理由付けなども含めて、詳しく記述するといったように、メリハリをつけることが求められる。他方で、阻却事由については、議論がありうる論点について検討すれば足りる（例えば、明らかに攻撃を受けていない事案でも、毎回「正当防衛にはあたらない」などと記述しなければならない訳ではない）。ただし、阻却事由の検討が必要だと考える場合には、その成立要件については、漏れなく検討しなければならないので、混同しないようにすること。

なお、刑法に限らず法学の学習においては、要件等の定義や基準などを一定程度「覚える」ことも必要であるし、論点に関して、これまでの判例・学説でどのように展開されてきたのかを「理解する」必要もある。他方で、見解の対立する論点については、最終的にはどの考えが説得的かを自ら「考えて」、どのように他人（実務では裁判官や裁判員など）に納得してもらえるよう「伝える」という、1つの正解があるとは限らず、独自性が求められる側面もある。これらのバランスを失うと、ただの知識の羅列や実践や独りよがりな意見になってしまう。この適切なバランスを見極めることが難しいところであるが、レポート、答案作成において、自問自答しながら学習して欲しい。

Outline and objectives This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses. The overall grade will be based on the credit acquisition examination. However, the reports may be considered in some cases.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権総論

教科担当責任者：滝沢 昌彦

担当者：滝沢 昌彦、足利 沙緒理

単位数：4単位

1 学習の到達目標 民法第3編債権第1章総則の基本的な制度を理解し、その運用上の問題点について判例・学説を参考にして解釈する能力を養う。さらに以上の知識を前提にして、具体的な問題について解決を提案できる能力を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 民法で扱われる権利は、大きくは物権（民法第2編）と債権（第3編）とに分かれる。

債権は、契約、事務管理、不当利得および不法行為という4つの債権発生原因によって発生するが（それぞれ第3編の第2章、第3章、第4章および第5章で扱われている）、第3編の第1章総則は、それらの債権に共通するルールを定めている。具体的には、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権及び債務、債権の譲渡・債務の引受け、債権の消滅、および、有価証券がテーマとなっている。

契約に密接に関連する規定もあるし、債権の回収・担保が主な目的となっている制度もある。

なお、民法（債権関係）の改正法が2020年4月1日から施行されている。学習に際しては、旧法からの変更点も意識することが望ましい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『新・マルシェ債権総論』（第2版）嵯峨野書院、宮本健蔵編著、2023年、¥ 3,850+税 ※初版（2019年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 基本的な制度を理解する際には、抽象的な理論ではなく、条文を基にして議論するくせを付けてほしい。また、条文だけでは解決できない問題点については、判例が参考になる。このような土台に基づいて議論をするのでないと水掛け論になってしまうのである。

また、民法は全体で一つの体系をなしているので、他の領域（民法総則や物権法）との関連にも注意し、なるべく広い観点からの検討が要求される。場合によっては、民事訴訟法や民事執行法などの知識も有益となろう。

なお、通信学習のレポートに添削・講評することによりフィードバックする。

Outline and objectives [Course Outline]

This course introduces students to the basic concepts of law of obligations in general, and law of debtor and creditor, the principles of which are provided in Chapter 3, Part 1 of the Japanese Civil Code. The course will address the claims arising out of performance and breach of contract, the issues in debt collection processes, joint and several debt, guaranty, and assignment of contractual rights and liabilities, among others.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers

(courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in complex legal problems and develop the ability to identify major issues concerning debtor-creditor relations.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TB（法学 / law 300）
債権各論
教科担当責任者：川村 洋子
担当者：足利 沙緒理、川村 洋子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 ① 契約の概念及び双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅に関わるルールを説明することができること

② 民法に規定された契約類型についてその権利義務の発生・関係・終了に関わるルールを説明することができること

③ 基本型不法行為の類型並びに要件・効果、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果、及びその他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができること

④ ①から③の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 「債権各論」は、民法第三編「債権」の第二章から第五章までの各種の債権発生原因を扱う。条文としては521条から724条の2にわたる、相当に広範な領域を対象とする。

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）の二つに大別される。契約的債権に関する法は、さらに、契約総則（契約の成立、基本的効力、解除）と、13の契約類型（売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等）別に規定が置かれている契約各則に分かれる。法定債権を発生させる原因には、先に挙げた不法行為の他、不当利得と事務管理が含まれる。

いずれも、今日的な課題に直面している。契約法理を、契約当事者が私的自治としてつくりだす新しい契約現象を国による保障の結びつく契約関係として法的構成していく道具と捉えたとき（契約関係の構成システム）、どのような構成システムが有効であり得るか、を主体的に問わなければならない。

また、産業革命以降の社会が生み出した現代的な過失（間接加害型）不法行為は、単純な過失行為から、危殆責任、医療過誤、広域被害までの広い振幅をもつ。明治期につくられた民法の不法行為の条文との違いに対して判例がどのように対応し、また学説がどのような理論をもってその違いを埋めようと試みているか、を学習することが不可欠な分野である。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『新ハイブリッド民法4 債権各論』新版、法律文化社、滝沢昌彦他、2018年、¥3,000+税

6 学習指導、注意点等 学習に際しては以下の点に留意していただきたい。なお、通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

① 債権各論に限らず、およそ民法を学ぶに際しては、条文を必ず参照する習慣をつけること。条文を使いこなす能力を身につけていることが法学部生の強みである。

② 契約制度及び不法行為制度に関わる基本的な概念を正確に理解すること（不法行為における「過失」とは、或いは「不法原因給付」とは何か）。そのためには、まず各概念について説明

している箇所を丁寧に読み、整理することが必要である。

③ さらに、契約法も不法行為法も古くから存在する法制度であり、時代の変遷とともにその役割を変容させつつ時代的適応を図ってきた。したがって、基本概念や制度の歴史的生い立ち、社会的背景、それを問題処理基準とする紛争類型についての理解に努めるとともに、判例の展開とその意義や射程についての学習に力を注いでいただきたい。とりわけ、時代を画した判例（特に破棄判例）については、判決内容はもとより、その事実関係、原判決、上告理由まで押さえていくと、理解が深まる。

④ 上記基本概念は、訴訟において原告・被告が具体的な法的主張を行う根拠として機能する。例えば、「過失」は被告の不法行為を理由とする損害賠償請求権を行使する局面で、また「責任能力」は不法行為責任を免れるための反論において、それぞれの攻撃・防御の主張を支える「道具」の一つとなる。このような実践的な展開を意識しながら、要件・効果を学習していくことが望まれる。

⑤ 民法は、各部分が他の部分と関連し合い、全体として有機的の一体をなしている。債権各論を学習するに際しても、民法総則、物権・担保物権、債権総論、親族法に関わる記述が出てくるときは、できるだけ該当分野のテキスト・参考書を参照していただきたい。とりわけ契約法は、民法総則（人、意思表示など）や債権総論（債権の目的、受領遅滞、債務不履行、弁済など）と密接に関わることが多く、不法行為（債権侵害など）や不当利得（給付利得類型）においても契約法理との交渉が問題になる。

⑥ 法定債権を除く債権法分野については民法改正法が2017年5月に成立、2020年4月1日から施行されている。改正法の内容は、確立された判例法理の明文化を中心とするが、多数説をとりいれた領域などもあり、改正法を深く理解するためにも現行の成果を十分に学習するとともに、改正法に対応した参考書等を活用していただきたい。

Outline and objectives [Course Outline]

This course introduces students to the basic concepts of contract law and tort law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts and torts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, and those of tort law in Chapter 5. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapters 3 and 4, Part 3 of the Civil Code.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract and tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法

教科担当責任者：榎川 泰史

担当者：松谷 秀祐

単位数：4単位

1 学習の到達目標 企業組織・企業取引に関してわが国ではどのような法制度・ルールが用意されているのかについて基本的な知識を修得しており、それら法制度・ルールの概要を説明することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目は、商法（明治32年法律48号）のうち、第1編総則（第1条から第31条）、第2編商行為（第501条から第617条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成17年法律第86号）第1編総則（第1条から第24条）のうち、商法第1編と同様の規定が置かれている項目についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記3編に規定されている各条文および関連する重要判例に関する出題を行います。

4 成績評価基準 リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019年、¥1900+税

6 学習指導、注意点等 個々の点については、通信学習のリポートに添削・講評の中でフィードバックしますが、本科目の学習に際して以下の4点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

第一に、専門用語を理解・使用することが重要です。たとえば、「知らない」ではなく「善意」、「知っている」ではなく「悪意」というようにです。リポート設題および単位修得試験では、これら専門用語そのものに点数が割り振られている場合もあるでしょう。意味が分からない用語はそのままわからないままにせず、『法律学用語辞典』などで意味を調べるようにしてください。

第二に、専門用語と専門用語との関係を理解することが重要です。あくまでも一例ですが、「善意の第三者（には）」という用語は（多くの場合）「対抗できない」という言葉と結びつくというようにです。この専門用語と専門用語との関係は、多くの場合、条文という形で規定されています。そのため、特に実定法の学習の際には、常に六法を傍らに置き、条文の文言および条文番号を意識・確認するよう心掛けてください。リポート設題および単位修得試験においてただ条文をコピー＆ペーストすれば合格水準に達するということはありませんが、法律学（特に実定法）の学習は「条文に始まり、条文に終わる」というフレーズもあるように、条文の文言および条文番号の重要性を忘れないようにしてください。

第三に、体系・学説（理論）・立法理由を理解することが重要です。まず、体系といった場合、様々な意味がありますが、代表的なものは、「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係でしょう。ここではその詳細を論じることはできませんが、たとえば、商法のリポート設題および単位修得試験で、詐欺罪について詳しく述べている、民法の規定についてのみしか触れていないようなリポート・答案は、この「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係を理解できていないリポート・答案ということになって

しまいます。

また、学説（理論）について、学部学習段階で日本あるいは世界に存在している学説（理論）をすべて理解する必要はないと考えますが、必ずしも条文上で明確に定義されていない事項が学説（理論）に表れている場合もありますので、前述のとおり条文だけ覚えればよい、条文にだけ言及すればよいというわけではないことに留意してください（たとえば、類推解釈・類推適用が必要な場合など）。

さらに立法理由について、ある規定の立法理由そのものがリポート設題および単位修得試験で正面から直接問われることは多くないかもしれませんが、解釈の手がかり、解決の手がかりとなる場合もあります。

第四に、学習時間を確保する・学習方法を考えることが重要です。はじめて学習する科目で学習時間0分でリポート提出・単位修得試験を受験して満点・単位修得基準に達することは（ほとんど）ありません。まずは、どの科目を何時間、どの方法でいつまでに学習するかという学習計画をしっかりと立てるよう心掛けてください。

また、学習方法には「教科書タイプ」と「演習タイプ」の2種類があると考えています。前者は教科書を一通り読んでから実際にリポート設題等を解くタイプ、後者は、実際にリポート設題等を解きながら必要なこと・不明な点等あれば教科書等を調べるタイプのことです。目指すゴールは同じであり、どちらのタイプが優れているということはないはずですので、「教科書タイプ」と「演習タイプ」のどちらがよりご自身に向いているのか判断された上で学習を進めてください。

Outline and objectives Students in this class will learn about the rules governing the organization of a business and business transactions.

LAW300TB（法学 / law 300）
会社法
教科担当責任者：笹久保 徹
担当者：笹久保 徹、石井 宏司 単位数：4単位

1 学習の到達目標 会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。

- ① 株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。
- ② 上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005年（平成17年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899年（明治32年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法〇〇条ではなく、商法〇〇条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行なわなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るものの金銭を「配当」という。わが国には、約250万社の株式会社が存在し、その中の約4000社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律といえることができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

4 成績評価基準 リポート及び単位修得試験において評価する項目は、記載内容の正確さ、論理的な整合性、リポート・答案の構成、リポートにおける判例・資料・文献の引用である。

最終評価は単位修得試験で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年） ¥5,600+税

※第2版（2015年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

※【スタディガイド（学習指導書）】あり（第1版・第2版に対応）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日経文庫）（日本経済新聞出版社、2021年）を見てほしい。

① 会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶ際には、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。

② 会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。

③ 会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で979条もあり、そのうえ、各条文が長いこと、六法のページ数を比較すれば、民法典の約2.5倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。

④ 会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することによりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））以外にも以下の図書が参考となる。

1. 柴田和史『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日経文庫）（日本経済新聞出版社、2021年）、¥1,000（税抜）
2. 柴田和史『類型別 中小企業のための会社法〔第2版〕』（三省堂、2015年）、¥2,800（税抜）
3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第4版〕』（有斐閣、2015年）、¥2,900（税抜）
4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第2版〕』（有斐閣、2015年）、¥3,800（税抜）
5. 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（別冊ジュリスト254号）（有斐閣、2021年）、¥2,500（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TB（法学 / law 300）

刑法各論

教科担当責任者：佐藤 輝幸

担当者：佐藤 輝幸

単位数：4単位

※ 2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 犯罪構成要件の解釈は、条文から厳格な理論によって解釈論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身につけることを目的とする。

刑法典における典型的な犯罪について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。

以上のような解釈論の結論を、所与の事実に適用し、犯罪の成否を議論することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 刑法典第2編は、個別の犯罪について、それぞれの成立要件及び法定刑を規定している。本科目では、刑法典における主要な犯罪について、保護法益を探究し、解釈により構成要件を中心とする成立要件について学ぶことを目的とする。

具体的には、生命・身体に対する罪、名誉に対する罪、財産犯総説、窃盗罪、文書偽造罪、不正電磁的記録に関する罪、賄賂罪を取り扱う。

4 成績評価基準 原則として、単位修得試験によって評価する。ただし、レポートの内容も考慮する場合がある。

単位修得試験は、持ち込み不可であり、文献を引用する必要があるが、レポートにおいては、どのような文献を参照・引用しているかも評価に加味する。その際、レポートにおいて、適切に引用が行われていない場合には、剽窃として不正行為に該当しうる（『学習のしおり』参照）ので、注意すること。特に法学部法律学科の学生に向けて、「レポートにおける文献の引用・出典の表示について（注意喚起）」が『通信学習設題総覧』に掲載されているので、よく読んで理解しておくこと。

なお、時折とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、分量ではなく、設問の内容に対応して、理解が示せているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：松原芳博『刑法概説〔第3版〕』（成文堂、2024、¥2,600+税）を使用する（旧教材である通教テキスト・今井猛嘉『刑法各論』（第3版、2021）については、移行期間として対応可能なように出題・採点を行うが、法改正や新しい判例に対応できていない部分があるため、新しいテキスト、文献等で自ら補充することが望ましい）。

なお、学修の際に問題となる条文については、必ず六法または電子政府のウェブサイト等で現行の条文を確認すること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

刑法では、罪刑法定主義（憲法31条、39条参照）の要請から、何を犯罪とするかは法律で定められている。したがって、刑法各論の学習においても、まずは関係する条文を確認し、当該犯罪がどのような行為を処罰の対象としているのかを把握すること

から出発すべきである。次に、条文を前提に、教科書等を読み、刑法は当該犯罪を処罰することにより、どのような利益を保護しようとしているのか（保護法益）を理解することが必要である。そのうえで、教科書等で論じられている要件や論点が、なぜ問題になっているのか（条文の文言の理解の問題なのか、条文の目的や保護法益との関係で問題とされているのか、他の犯罪との区別のために必要とされているのかなど）や具体的な事案でどのような影響を与えるのかを理解することが必要である。

また、事例問題の解答にあたっては、議論がある論点だけでなく、必要な成立要件については、漏れなく検討しなければ、「○罪が成立する」とはいえないことに留意して欲しい。その際には、当該事案で成立が明らかな要件については「本件では、○があるから××の要件を充たす」など簡単に記述し、議論がありうる論点については、反対説やそれに対する反論、自説の理由付けなども含めて、詳しく記述するといったように、メリハリをつけることが求められる。

なお、刑法に限らず法学の学習においては、要件等の定義や基準などを一定程度「覚える」ことも必要であるし、論点に関して、これまでの判例・学説でどのように展開されてきたのかを「理解する」必要もある。他方で、見解の対立する論点については、最終的にはどの考えが説得的かを自ら「考えて」、どのように他人（実務では裁判官や裁判員など）に納得してもらえよう「伝える」という、1つの正解があるとは限らず、独自性が求められる側面もある。これらのバランスを失うと、ただの知識の羅列や実践や独りよがりな意見になってしまう。この適切なバランスを見極めることが難しいところであるが、レポート、答案作成において、自問自答しながら学習して欲しい。

Outline and objectives This is the lecture for the typical crimes such as murder, defamation, road traffic offenses and so on.

In this course, the related judicial precedents and the academic opinions will be considered.

The overall grade will be based on the credit acquisition examination. However, the reports may be considered in some cases.

LAW300TB（法学 / law 300）

国際法総論

教科担当責任者：田中 佐代子

担当者：田中 佐代子、岡田 淳
単位数：4単位

1 学習の到達目標 現代国際法の総論分野について基本的な法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。

これに加えて、各法制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会のあり方をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 国際法は国際社会の法であり、主として主権国家相互の関係を規律する。このうち、国際法総論では、現代国際法の特徴、法源、条約法、国際法と国内法の関係、国際法主体、外交関係法、国家管轄権、国家責任法、国家領域などを扱う。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義』（第4版）信山社、2023年、¥3,900

上記テキストのうち第1章～第12章が本科目の主たる対象である。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習の際には、テキストに出てきた条文を必ず条約集で確認しなければならない。複数の種類の条約集が出版されており、いずれを使用してもよいが、『国際条約集』（有斐閣）または『ペーシック条約集』（東信堂）を推奨する。

判例については『国際法判例百選（第3版）』（有斐閣、2021年）をはじめとする判例集で事実の概要と判旨を確認し、当該事件の位置づけを理解する必要がある。

Outline and objectives This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: historical development of contemporary international legal system, sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, diplomatic and consular relations, jurisdiction and immunity, international responsibility of States, and international organizations.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法

教科担当責任者：西田 幸介

担当者：西田 幸介、久岡 将大

単位数：4単位

1 学習の到達目標 (1)行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
 (2)行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
 (3)行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
 (4)行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
 (5)行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
 (6)行政法の基本原則、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 行政法とは、行政に関する、それに特有の法をいう。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律が存在していないこと、言い換えれば、一般法典を欠くところにある。この科目では、このような行政法について、その基礎的な事項を学ぶ。そこで取り上げられるのが、個別の行政領域に見られる各種の法律問題ではなく、行政の全領域にわたって通用する一般的な法理であることに注意が必要である。

行政法は、行政法総論、行政組織法、行政作用法および行政救済法に分けて、検討されるのが一般的である。この科目では、行政と行政法の意義、行政法の基本原則、行政組織法の基本概念、各種の行政の行為とその法的規制について学ぶ。これらは、上の行政法の諸領域のうち、行政法総論、行政組織法および行政作用法に属する。行政救済法については、別に同名の科目が開設されている。

行政作用とは、行政主体の活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

行政の行為とは、行政主体ないし行政機関が行政作用として行う行為のことをいう。従来から行政法学が考察の対象としてきた行政の各種の行為として、行政による規範制定（法規命令と行政規則）、行政計画、行政行為、行政契約、実力行使（即時強制と強制執行行為）および行政指導がある。これら行政の行為が恣意的に行われてはならないことはいままでもない。そこで、行政の行為に対しては、実体・手続の両面から各種の法的規制が行われている。これら行政の行為のうち、行政行為は、これまで行政法学において最も重要なものと考えられてきた。このため、行政行為の法理について、より詳細に検討する必要がある。その具体的内容は、①行政行為の効力、②行政行為の瑕疵、③行政行為の手続、④行政行為の職権取消しと撤回、⑤行政裁量である。伝統的に行政法学では、行政作用ないし行政

の行為の議論のほとんどは行政行為論に当てられてきた。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。評価に際しては、提出されたレポートの内容も考慮する。単位修得試験は、論述式により、出題される各論点に関する正確な知識とともに、適確に行政法総論、行政組織法および行政作用法を理解することができているか否かを問うものとする。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『行政法』第2版、西田幸介著、2023年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

一般的な注意点として、学習に当たっては、まず指定されたテキストおよび参考書を通読することが必要である。また、教科書の各項目を学ぶに当たっては、関連する法律の条文や判例（の原文）を必ず通読すること。

行政法を学ぶに当たっては、やや抽象的な法概念を理解する必要がある。抽象的なものを抽象的に考えていても、普通は理解できないので、具体的な問題と関連づけながら学ぶのがいいだろう。行政法で登場する概念の多くは、食品衛生法、都市計画法、建築基準法などの個別行政分野の諸法律を解釈するための道具である。このため、これらの法律を参考にすることなく、行政法を理解することはほぼ困難である。行政法の学習には、判例を読むことといった実定法のどの法分野でも必要なことに加えて、行政法学が作り出した道具概念を具体例としての個別法を参照しつつ理解することが不可欠といえる。

Outline and objectives In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.

Term-end report: 100%.

LAW300TB（法学 / law 300）
行政救済法
教科担当責任者：西田 幸介
担当者：西田 幸介、久岡 将大 単位数：4単位

- 1 学習の到達目標** (1)行政救済に関する主要法律（行政事件訴訟法、行政不服審査法、国家賠償法）について、その概要を正確に説明することができる。
- (2)行政活動をめぐる紛争について、その具体的事案に応じて、紛争解決にとって適切と考えられる法的手段を選択し、その適否を論じることができる。
- (3)行政事件訴訟について、抗告訴訟と当事者訴訟の区別を理解し、抗告訴訟のうち取消訴訟について、その訴訟要件や判決について、正確に説明することができる。
- (4)行政上の不服申立てについて、その類型、申立要件、裁断行為（裁決・決定）、抗告訴訟との違いについて、正確に説明することができる。
- (5)国家賠償について、国家賠償責任の類型、類型ごとの成立要件、民法が定める不法行為責任との違いについて、正確に説明することができる。
- (6)損失補償について、その要否と内容、国家賠償との違いについて、正確に説明することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 「行政救済法」では、別に開講されている「行政法」の内容を前提に、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政作用をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

行政事件訴訟は、行政作用について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。行政上の不服申立ては、行政をめぐる紛争につき私人が行政機関に不服を申し立てて、行政機関の裁断により紛争を解決するものである。

国家賠償とは、国家賠償法に基づいて、国家が私人に対し違法に損害を与えた場合にそれを填補することをいう。不法行為に基づく損害賠償の一種である。国家賠償責任には公権力行使責任と営造物管理責任が含まれる。損失補償とは、国家が私人に対してした適法な行為により加えられた財産上の損失を填補することをいう。これは、個人の財産の収用が行われたときに、それを原則として金銭で填補するものである。その典型例として、土地収用の場合の補償を挙げることができる。

行政救済の主要な手段は行政事件訴訟であるといえるが、行政上の不服申立てや国家賠償・損失補償が果たす役割は必ずしも小さいものではない。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。評価に際しては、提出されたレポートの内容も考慮する。単位修得試験は、論述式により、出題される各論点に関する正確な知識とともに、適確に行政救済法を理解することができてい

るか否かを問うものとする。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『判例から考える行政救済法』榎原秀訓・岡田正則・本多滝夫（編著）日本評論社、2019年、第2版、2,500円+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

一般的な注意点として、学習に当たっては、まず指定されたテキストおよび参考書を通読することが必要である。また、教科書の各項目を学ぶに当たっては、関連する法律の条文や判例（の原文）を必ず通読すること。

行政救済法の学習に当たっては、判例を欠かすことができない。というのも、法律学の学習において判例法理を知ることが大切であると同時に、行政救済法は、行政活動をめぐる紛争を解決し、被害者を救済するためのものであって、その学習において、現実には被害者がどのように救済されたのか（あるいは救済されなかったのか）を具体的に考えながら学ぶことが大切であるからである。

Outline and objectives In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to :

- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.
- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.
- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.
- Explain type of the responsibilities in State Redress Act, these requirements for establishment, and differences from the responsibilities of damages of torts prescribed by the Civil Code.
- Explain the just compensations for losses and understand its difference with compensations based on responsibilities in State Redress Act.

Term-end report: 100%.

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法

教科担当責任者：藤木 貴史

担当者：藤木 貴史、山本 圭子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 （労働法総論・労働契約法）労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。

（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。

（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。

なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることがぞましい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年、¥2,300＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

労働法は憲法25条の生存権保障理念の実現を労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法27条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法28条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。

労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。

そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働

市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、『特定の労働者に向けたルール』として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、レポートを作成してほしい。

Outline and objectives "General Labor Law and Labor Contracts Law"

The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.

"Labor Standards Law"

The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.

"Labor Union Act"

The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

LAW400TB（法学 / law 400）
民事訴訟法
教科担当責任者：杉本 和士
担当者：杉本 和士 単位数：4単位

- 1 学習の到達目標** (1)民事訴訟手続の全体の流れを理解する。
- (2)民事訴訟手続を支える基本理念を理解する。
- (3)民事訴訟手続における個別の問題について、これまでに展開されてきた学説の議論および判例の考え方を理解する。
- (4)民事訴訟手続に関する具体的な事例に、適切な条文を適用し、上記の到達目標に掲げた内容を踏まえて、基本的な解釈論を自ら展開する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 広い意味で用いられる民事訴訟法には、六法に載っている民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法などが含まれ、この意味での民事訴訟法は民事手続法と呼ばれることもある。この科目が学習の対象とするのは、このなかに含まれる狭い意味での民事訴訟法であり、基本的に民事訴訟法と民事訴訟規則を扱う。民事訴訟法は、私人の間で民事上の紛争が生じた場合に、裁判所の判決による解決を図ることを目的とした民事訴訟手続（判決手続ということもある）について定めている。

例えば、あなたが友人にお金を貸していたところ、約束の弁済期日にお金を返してくれないという場合を考えてみよう。あなたはその友人を相手にお金を返せ！と訴えようと思うかもしれない。このような場合に、どこの裁判所に訴えるのか、どういう請求をするのか、証拠とは何を意味するのか、裁判官はどのように審理するのか、判決はどのような効力をもつのか、判決に不服の場合さらにどのような手続をとればよいのかなど民事訴訟手続を進める上で必要なことが山ほどあるのである。

この科目では、各論として、まず最初に民事訴訟手続の開始から終了までの基本的な手続を学ぶ（第一審手続）。次に、応用編として、複雑な訴訟形態、不服申立手続及び簡略な手続について学ぶ。

さらに総論として、民事紛争の解決制度、司法制度の中での民事訴訟及び民事訴訟制度の現代的課題について学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、前提としてレポート学習にもしっかり取り組むこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『民事訴訟法〔第8版〕（有斐閣Sシリーズ）』、有斐閣、上原敏夫・池田辰夫・山本和彦、2025年、¥ 1900+税

※なお、同書〔第7版〕（2017年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。民事訴訟法に限らず、法律学の学習は、教科書や体系書を1回通読して全体を十分に理解することは難しい。このことを覚悟の上で、辛抱して、繰り返し教科書等を読み返してほしい。まずは、細かい点、わからない点にこだわらずに、全体を読んで、民事訴訟手続の全体的な流れを大まかにつかもう。その際には、テキストの第1章は後回しにして、第2章以降から読んでもよい。第1章で扱われる総論は、民事訴訟手続の全体を学習した後で学ぶ方が理解しやすいからである。

なお、テキストを通読する前に、福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟』（有斐閣、補訂版、2016年）や山本和彦『よくわかる民事裁判—平凡吉訴訟日記』（有斐閣、第4版、2023年）を一読しておくことを強くお勧めする。いずれも民事訴訟手続の具体的な流れを小説風に解説する本であり、いずれか一冊を読めば、民事訴訟の第1審手続の概要を具体的に把握することができるであろう。

次に、手続の段階ごとに、発展的な学習に挑戦してもらいたい。この段階では、指定するテキストだけではなく、必要に応じて、より詳しい教科書や参考文献を読むことが望ましい。教科書は、実際に図書館や書店などで手にとって選ぶことをおすすめする。参考文献として、判例については、高田裕成＝畑瑞穂＝垣内秀介編『民事訴訟法判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2023年）、個別の論点については、伊藤眞＝山本和彦編『民事訴訟法の争点』（有斐閣、2009年）を挙げておく。

学習に際して、丁寧に条文を参照し、条文を起点として理解する習慣を身につけることが必須であることは、民事訴訟法の学習に限られない。

Outline and objectives [Outline]

This course focuses on Civil procedure law. We will study the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes under civil procedures.

[Learning objectives]

1. Understand the procedures, principles, and rules in civil procedure.
2. Read cases and academic arguments about each issues in civil procedure critically.
3. Develop the ability to analyze procedural issues presented by new factual scenarios, and apply appropriate statutes of civil procedure law with basic interpretation skills.

[Grading]

Grading will be decided based on the examination 100%.

LAW400TB（法学 / law 400）
刑事訴訟法
教科担当責任者：朝村 太一
担当者：朝村 太一 単位数：4単位
※2025年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 刑事手続の概要を把握するとともに、刑事訴訟法の基本問題に関する判例・学説の考え方を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 犯罪捜査段階を含む刑事手続の流れを具体的な条文と結びつけて把握するとともに、その過程で生じる諸問題について、それぞれの問題の所在をつかんだうえで、これらに対する判例・学説の考え方を理解する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：寺崎嘉博ほか『刑事訴訟法〔第7版〕』（有斐閣，2024）¥2,500

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

刑事訴訟法分野は、判例が特に重要な役割を担ってきた法分野であるから、その理解のためには、基本判例の判示内容及びこれをめぐる議論の概況を把握することが極めて重要である。その際には、適宜以下の参考文献を参照するのが非常に有益である。

【参考文献】

- ・「刑事訴訟法判例百選〔第11版〕」（有斐閣，2024）
- ・酒巻匡『刑事訴訟法〔第3版〕』（有斐閣，2024）

Outline and objectives Lecture of Law of Criminal Procedure. The objective is to get basic understandeng of law of criminal procedure.

LAW400TB（法学 / law 400）
国際法各論
教科担当責任者：田中 佐代子
担当者：田中 佐代子、井上 菜摘 単位数：4単位

1 学習の到達目標 現代国際法の各論分野について基本的な法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。

これに加えて、各法制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会のあり方をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 国際法は国際社会の法であり、主として主権国家相互の関係を規律する。このうち、国際法各論では、海洋・空域・宇宙といった国家領域以外の空間、個人の地位、人権、国際紛争の平和的解決、武力行使・武力紛争の規律などを扱う。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義』（第4版）信山社、2023年、¥3,900

上記テキストのうち第13章～第24章が本科目の主たる対象である。ただし、その前提として、「国際法総論」の対象範囲（第1章～第12章）も理解していることが必須である。なお、第19章（国際経済法）および第20章（国際環境法）は、独立した科目として扱われることもある分野であり、興味関心に応じて、適宜目を通せばよい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習の際には、テキストに出てきた条文を必ず条約集で確認しなければならない。複数の種類の条約集が出版されており、いずれを使用してもよいが、『国際条約集』（有斐閣）または『ベリック条約集』（東信堂）を推奨する。

判例については『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣，2021年）をはじめとする判例集で事実の概要と判旨を確認し、当該事件の位置づけを理解する必要がある。

本科目の学習には、国際法総論で扱われる内容についての理解が前提となる。テキスト第1章～第12章を参照しながら学習を進めることが重要である。

Outline and objectives This course provides students with an advanced understanding of public international law with reference to particular topics such as: law of the sea, air and space law, status of individuals and human rights, international dispute settlement, and the regulation of use of force and armed conflict.

LAW200TB（法学 / law 200）
刑事政策
教科担当責任者：今井 猛嘉
担当者：田内 清香 単位数：4単位

1 学習の到達目標 犯罪を防止するための刑事司法制度上の施策の在り方について理解すること。

刑事政策に関連する問題について、俯瞰的な視点から具体的な方策を示す能力を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 この科目では、犯罪を防止するための刑事司法制度上の施策の在り方について学習する。

学習の中心は、刑事司法制度における犯罪対策を基礎付ける刑罰論（刑罰の本質、死刑、自由刑、財産刑）及び犯罪の抑止と犯罪者の社会復帰を目的とする犯罪者処遇（司法的処遇、施設内処遇、社会内処遇）となる。

これらに加え、犯罪予防論、犯罪被害者の保護と支援、少年非行及び各種犯罪とその対策についても理解を深める。これらを体系的に理解することにより、多面的に犯罪現象を捕捉する能力を身に付けることを目標とする。

犯罪対策を検討する前提として、犯罪の数値化により犯罪の増減を把握する犯罪統計、科学的見地から犯罪原因を解明する等の犯罪原因論についても学ぶことが要請される。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『刑事政策』第3版、川出敏裕・金光旭著、成文堂、2023年、¥3500＋税
※第2版（2018年）も使用可とするが、大幅に法改正されているので注意。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習の際には、指定されたテキストを熟読し、関連する条文を確認することが必要である。その他にも『犯罪白書』等を参照し、犯罪及び犯罪者処遇の動向を把握することに努めてもらいたい。

また、近時、刑事司法制度では、法改正（刑法の一部改正による拘禁刑の創設、刑の執行猶予制度の拡充及び少年法の一部改正による特定少年の特例等）がなされている。さらに、拘禁刑下の矯正処遇（作業、改善指導、教科指導、受刑者に対する社会復帰支援及び被害者等の心情等の考慮等）、保護司制度の課題及び女性犯罪者の再犯防止等についても議論されている。このような法改正及び議論等について、図書館やインターネットを利用して、テキスト以外からも情報収集を行い、学習することが望まれる。

Outline and objectives In this course, you will learn Criminal Policy.

The objective of this course is to understand crime prevention in the criminal justice system.

The contents of this course are the followings:

- Theory of punishment,
- Treatment of criminals,
- Protecting and supporting crime victims,
- Juvenile delinquency,

- View on specific crimes and

- Crime statistics.

Grading will be decided based on the examination.

LAW300TB（法学 / law 300）
教育法
教科担当責任者：沼田 雅之
担当者：村元 宏行 単位数：4単位

1 学習の到達目標 2006年に教育基本法が全部改正され、2007年には学校教育法、教員職員免許法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（いわゆる教育三法）の大幅な改正があり、日本の教育法制は大きく転換されてきている。その結果、教育法の意義や対象も従来のままでよいのか、抜本的に検討されなければならない。教育法学者の間でも再検討が必要とされている。他方、今日の学校では、いじめ問題をはじめとしたさまざまな現実の問題も生じてきており、教育法理論の重要性がいまほど必要とされることはない。こうした転換期の教育法について時代状況を把握したうえで学び取ることが教育法の目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 教育法は、憲法26条で規定された「教育基本権」「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域である。

教育法は、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった視点からの研究が深められてきたが、近年では、このような伝統的な教育法学説に加え、学校現場での、いじめ、体罰やその他の学校事故などの多発化のなかで、これらの事件の原因と対策の究明などが広く求められてきている。

こうした状況を踏まえて、教育法では、教育法の理念と構造（教育法の定義）、近年における教育法の動向などを踏まえ、まず、教育法制度のしくみと内容を学ぶことが必要である。その上で、いじめ、体罰などの具体的事例を用いて学ぶことが肝要となる。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。問題の的確なとらえ方とその法的処理が確実にできているかどうか問われる。

なお、単位修得試験は、指定テキストが出題範囲となるので、レポート作成に最低限必要な範囲でテキストを読んでいるだけでは合格できない。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ガイドブック教育法〔新訂版〕』、三省堂、姉崎洋一ほか編、2015年、¥ 2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストは、Q & A形式で書かれている部分が多いが、教育基本権、教育人権の視点から体系的に教育法を考えることを試みるが必要となる。

また、今日的な具体的教育事件について、その事実関係の正確な把握をしたうえで、それが教育法的にどのような問題があるのか、各具体的事案ごとに考察しなければならない。テキストは、こうした問題にかなり広範囲にわたって検討する手法をとっているため、よくテキストを読むことから始めて欲しい。（※出版後の法改正が複数あるが、特に教員免許の更新制は廃止されているので注意）

Outline and objectives It is the goal of the Education Law to learn about the Educational Law at the turning point grasping the era situation.

LAW300TB（法学 / law 300）
親族法・相続法
教科担当責任者：和田 幹彦
担当者：足利 沙緒理、和田 幹彦 単位数：4単位

1 学習の到達目標 「授業の目的」
（親族法）民法典の「第4編 親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につける学びを提供します。

（相続法）民法典の「第5編 相続」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を論じられる能力を身につける学びを提供します。

「授業の到達目標」

（親族法）学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の独自の思考も展開して」、親族法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。さらに法改正論を論じられる能力を身につける。

（相続法）学説や判例を覚えるだけでなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の独自の思考も展開して」、相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。さらに、法改正論を論じられる能力を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 民法典の「第四編 親族」「第五編 相続」の法解釈（と、一部は望ましい法改正案）を取り上げる。

履修内容：1.導入：親族法・相続法の民法典における位置付け
2.親族法

- ・親族：親族の意義と範囲
- ・婚姻：婚姻の成立 婚姻の効力（夫婦同氏／夫婦別氏） 夫婦財産制 法律婚と事実婚
- ・離婚：協議離婚 裁判離婚（破綻主義離婚） 離婚給付 離婚と子
- ・親子：実子（嫡出子・非嫡出子と認知・準正・人工生殖）
- ・養子：普通養子 特別養子
- ・親権と後見（任意後見・成年後見を含む）
- ・扶養：扶養と社会保障 扶養義務の二類型 扶養当事者 扶養の順位

・氏と戸籍

3.相続法

- ・相続の意義と根拠
- ・法定相続人・相続分
- ・相続の効果
- ・相続の過程：相続の開始 遺言の有無 相続の承認・放棄 遺産分割
- ・遺言と遺留分

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『家族法』〔第6版〕（新法学ライブラリ9）二宮周平著、新世社、2024年、¥ 3,500+税 *第5版（2019年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

(1) 民法典「第四編 親族」と「第五編 相続」は「家族法」と

呼ばれ、親族法・相続法とも言われます。家族法は、結婚・相続などよく聞く身近な話題についての規定です。結婚する人もしない人も、知れば役に立つ。相続は誰もが体験します。「限定承認・放棄」を知ると、親の借金を子が負担しなくても良い方法もわかります。家族法は身近な法律なのです。だからおもしろい。そして、役に立ちます。

(2) 2015年12月16日に、現在の民法の「(強制的)夫婦同氏」「(選択的夫婦別氏)が無いこと」は合憲であり、「女性の待婚禁止期間(6か月)」は「100日を超える部分は違憲である」という趣旨を、最高裁大法廷が判決を出しました。その後、国会は、速やかに民法を改正しました。女性の再婚禁止期間を離婚後6か月間とする規定を100日に短縮し、離婚時に妊娠していないことなどを証明できれば禁止期間内でも再婚を認めるとする改正民法が2016年6月1日に国会を通過しています。指定の二宮周平著の教科書にも〔第5版、第6版とも〕既に記載・解説されています。こうした新たな重要な判例も、しっかり学んでおくようにして下さい。

さらに、2021年6月23日に、最高裁は大法廷決定で、現在の民法の「(強制的)夫婦同氏」は合憲として再度の判断を下しました。教科書の指定市販本『家族法』第6版(2024年刊)には記載されていますが、第5版(2019年刊)には未記載のこの最高裁の判断も、既に法学部学生にも参照しやすいいくつかの文献で解説がなされています。そうした解説資料などでしっかり把握し、学ぶ努力をして下さい。

(3) 2022年12月に国会で、親族法の嫡出子の制度が大幅に見直された民法改正が行われました。同時に、733条の(女性のみ)の再婚禁止期間の条文は削除されました。教科書の指定市販本『家族法』第6版(2024年刊)には記載されていますが、第5版(2019年刊)には、まだ記載されていないので、第5版しか手元に無い方は以下の公式サイトを参照して、勉強して下さい：
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2023pdf/20230414061.pdf
 【上記URLをコピペした際に、「annai/chousa/」の後に例：「%20」などの文字が入ることがある⇒その部分は削除して検索すること。】

Outline and objectives For both Family Law and Laws of Inheritance:
 Learn that there is no "one and the only correct answer" for interpretation of the Civil Code

LAW300TB (法学 / law 300)

手形法・小切手法

教科担当責任者：椋川 泰史

担当者：金尾 悠香、清水 真人

単位数：4単位

1 学習の到達目標 手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきている道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。

手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験により評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第5版（有斐閣Sシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林鳩・福瀧博之著、2018年、¥ 2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives Students in this class will learn the rules for the creation, distribution, and settlement of checks, bills of exchange, and promissory notes.

LAW300TB（法学 / law 300）

保険法・海商法

教科担当責任者：潘 阿憲

担当者：遠山 聡

単位数：4単位

1 学習の到達目標 商法第3編海商の規定および平成22年に施行された保険法、国際海上物品運送法などの規定のみならず、各種約款や標準契約書式などを含めた実務的な内容を含めた契約ルールを正確に理解したうえで、従来の判例や学説における議論の状況を踏まえて、保険・海商分野における紛争解決を目的とした法の解釈適用を適切に行えるようになることを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 保険法では、①損害保険契約、②生命保険契約、③傷害保険や疾病保険などの生命保険以外の人に関する保険契約（損害保険としての性格を有するものも、生命保険のような定額保険としての性格を有するものもあります）について、(a) 保険契約成立の際の告知義務などが問題となる段階から、(b) 保険契約が締結された後の契約の変動（通知義務や広く危険の変動など）、(c) 保険事故が発生したときの保険金の支払い、そして、(d) 保険契約の終了、といった各段階に適用される各種のルール（準則・規制）について、そのようなルールが用意されている目的、そのようなルールの問題点や限界といったものを理解していただきたいと考えています。最近の最高裁判所の判決の中に占める保険関係の判例の重要度も高まっています。

また、海商法は、大別して、海上企業の組織（船舶などの物的組織、船主や船長といった人的組織）に関するルール、取引や活動（海上運送取引と船荷証券、海上売買取引など）に関するルール、海上危険（共同海損、海難救助、船舶衝突など）との関係者の利害調整（海上保険）ルールなどがあり、とくに、この科目では、海上運送に関係する様々なルールを理解していただきたいと考えていますので、国際海上物品運送法など、統一条約に基づいた国際ルールの内容も重要です。

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験により評価します。ただし、レポート学習もしっかり行うこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『商取引法』第9版、弘文堂、江頭憲治郎著、2022年、¥ 4,800+税（第8版（2018年）も使用可）。

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。上記テキストは内容が実務的で難解な箇所が少なくないため、スタディガイドを参考にしつつ、他の参考書等も利用しながら、一つ一つ丁寧に理解を深めてください。

Outline and objectives The target of this course is to give students a knowledge of the insurance law and the maritime law, and an ability for dispute solution with the interpretation and the application of the law. The insurance law includes the interpretation and regulation of insurance contracts; (1)property, health, life, and other forms of first-party insurance, (2)liability insurance and the other third-party insurances. And the maritime law includes the interpretation and regulation of marine

contracts; the carriage of goods by sea, shipping contracts, charter party agreements, marine environment, marine insurance, and etc.

LAW300TB（法学 / law 300）
日本法制史
教科担当責任者：高 友希子
担当者：宇野 文重 単位数：4単位

1 学習の到達目標 現代の日本において施行されている様々な法、およびそれらを対象とする法学は、一朝一夕に出来上がったものではなく、近代化の過程で漸進的に整備され、発展してきたものである。この科目では、その歩みを振り返ることを通じて、日本法がなぜ現在においてこのような姿をとっているのかを理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 現代日本法は、明治期に作られた諸法典を中心として形成されている。民法・商法・刑法といった基幹的法典は明治時代に作られ、改正を経て今に続いている。憲法についても、日本国憲法の制定が大日本帝国憲法の全面改正という手続によって成立した以上、明治時代との連続性を考えないわけにはいかない。

これらの法は、一体どのようにして、どのような考え方に基づいて作られたのであろうか。江戸時代を終わらせ、西洋式の諸法典をたった数十年で作りに上げた過程には、日本法の現状を規定する諸要因が含まれているに違いない。この科目では、そのような観点から、日本近代法の歴史に焦点を当てていきたい。

4 成績評価基準 論述式筆記試験によって単位を認定する（ただし、レポート学習もしっかり行うこと）。その際、テキストで触れられた重要法令の特徴を正確に理解しているか否かを重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 川口由彦『日本近代法制史』第2版、2014年、新世社（¥3,600+税）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書、参考書（「設題総覧」に記載）を熟読して学習すること。

Outline and objectives The aim of this course is to analyze the structure of modern Japanese law using method of the legal history study.

LAW300TB（法学 / law 300）
西洋法制史
教科担当責任者：高 友希子
担当者：梁田 史郎 単位数：4単位

1 学習の到達目標 ・日本が、明治以来受け入れてきた西洋の法制度や法システムを、歴史的視点から理解する。
・西洋中世・近代法を中心に考察することにより、西洋近現代法の形成・発展過程を理解する。
・法理や法システム形成・発展の背景となった社会や文化についても、併せて理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 西洋法制史は、西洋における法の歴史を法理や法制度、法システムだけでなく、それらが形成・発展する背景となった社会や文化を踏まえて理解していく科目である。日本が明治以来、西洋の法制度や法システムを導入してきたことを踏まえると、西洋における法の歴史を知ることは、日本近現代法を理解していくうえで大きな助けとなるはずである。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかり行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『概説西洋法制史』、ミネルヴァ書房、勝田有恒・森征一・山内進編著、2004年、¥3,200+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたっては、指定されたテキストを通読することが必要である。更に理解を深めたい場合、各章の末尾にある「もっと学びたい人のために」に記載されている各種文献を参照するとより学習効果があがるであろう。ただし、指定されたテキストは世界史の知識があることが前提となっているので、世界史に自信のない場合には、予め西洋史のテキストを通読しておくことを薦める。西洋史のテキストについては、気に入ったものでよいと思われるが、参考までに『教養のための西洋史入門』、『大学で学ぶ西洋史』を挙げておきたい。

Outline and objectives In this course, the students will learn about the history of legal development in Europe, from the fall of the Roman Empire to the modern times. Your study time will be more than four hours for a class. Students will be graded on term-end examination (100%) and short reports.

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）

労使関係論

教科担当責任者：沼田 雅之

担当者：大原 利夫

単位数：4単位

1 学習の到達目標 かつてわが国の労使関係は、終身雇用制で年功加俸式賃金制度をとることが一般的で、なおかつ企業別労働組合を特徴としていた。それが日本の戦後経済復興を実現してきた支えでもあった。しかし、こうした日本の雇用慣行は、高度経済成長の終焉とともに徐々に崩れ始めてきたといわれてから久しい。今日では、労働人口の3分の1強を非正規労働者が占めるに至り、労使関係のありようが様変わりしてきた。労使関係論では、こうした労使関係の構造的変化を直視して、その現実と問題点、将来的展望を学ぶことを到達目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 近年、日本の雇用慣行が緩やかに崩壊し、労使関係のあり方も様変わりしつつある。経済のグローバル化や産業構造の変容等により、労働者の働き方や処遇のあり方も大きく変化している。本講義では、こうした状況を踏まえて雇用関係や労使関係に関する主要テーマを取り上げながら、労使関係において急速に進んでいる変化を追っていくことにしたい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。テキストをよく読み、正確に労使関係の課題を把握し、考えてほしい。

5 テキスト名および詳細 指定市販本

①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』（第4版）金子 征史・藤本 茂・大場 敏彦・高野 敏春著、エイデル研究所、2018年、¥2,381+税

②『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良 編著 エイデル研究所、2020年、¥2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。 労使関係のありようは、今日はきわめてダイナミックな動きのなかにある。したがって、我々は現実の動向に眼を奪われがちになるが、それでもこの問題も基本的には歴史的展開を顧みるなかで考えなくてはならない。そうすることによって、将来を展望することもできるようになるからである。その意味では、やはりテキストに忠実に取り組む勉強をする必要がある。

ただ、労使関係論は社会の様々な問題と深くかかわっているため、テーマごとに経済、経営、国の政策、国際関係、法的構造など多面的に勉強しなければならないものでもある。したがって、日常的に新聞などを通じた社会全体の動きを綿密にチェックするよう心掛けてほしい。

Outline and objectives At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LAW400TB（法学 / law 400）

民事執行法

教科担当責任者：廣尾 勝彰

担当者：廣尾 勝彰

単位数：4単位

1 学習の到達目標 ①民事執行手続及び民事保全手続の概要を説明できる。
②民事執行手続及び民事保全手続に関する基本概念及び規律について理解する。
③民事執行手続及び民事保全手続に関する個別の問題について展開されてきた従来の学説および判例をふまえた上で、具体的事案を解決するための基本的な解釈論を自ら展開できる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 本授業で学ぶのは民事執行法と民事保全法である。民事執行法は、判決手続等により確定された権利を具体的に実現する強制執行手続と抵当権等の担保権を実行するための手続について定めている。また、民事保全法は、将来の強制執行に備えて強制執行の対象となる物を確保したり、直ちに対処しなければ権利が侵害されるおそれがある場合のように緊急性がある場合に権利者を救済する手続を定めている。本授業では、民事執行法の定める民事執行の手続について、執行手続の主体（執行当事者と執行機関、執行機関の処分に対する不服申立て）、強制執行手続の開始と進行（強制執行の要件、債務名義、執行文、執行の対象、執行関係訴訟、執行手続の進行）、金銭執行、非金銭執行、担保権実行手続を扱い、民事保全法が定める民事保全の手続について、保全命令の発令手続、不服申立手続、保全執行を扱う。

4 成績評価基準 単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：上原敏夫、長谷部由紀子、山本和彦『民事執行・保全法〔第7版〕』有斐閣、2024年、¥ 2,200+税

※第6版（2020年）も使用可。ただし、大幅に法改正されているので注意。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。法律学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。まずは、六法を引いてこまめに条文を確認しながら、テキストを通読し、つぎに、分からない部分を繰り返し何度も読むことにより、少しずつでも理解を深めてほしい。なお、テキストに載っている判例については、上原敏夫＝長谷部由紀子＝山本和彦編『民事執行・保全判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2020年）、テキストの理解を深めるためには、和田吉弘『基礎からわかる民事執行法・民事保全法〔第3版〕』（弘文堂、2021年）、山本和彦＝吉村真幸＝塚原聡編『新基本法コンメンタール民事執行法〔第2版〕』（日本評論社、2023年）も読んでみるとよい。

Outline and objectives 【Course outline】

In this class, students will learn about civil enforcement law and civil preservation law.

【Learning Objectives】

- ① Explain the outline of civil enforcement procedures and civil preservation procedures.
- ② Understand the basic concepts and rules of civil enforcement procedures and civil preservation procedures.

③ Based on conventional theories and precedents that have been developed on individual issues related to civil enforcement procedures and civil preservation procedures, the student is able to develop basic interpretive theories for resolving specific cases.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the credit acquisition examination (100%).

ECN400TB（経済学 / Economics 400）

社会経済学A

教科担当責任者：平瀬 友樹

担当者：相沢 裕紀

単位数：2単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの社会的性格を理解すること。

2. 現代資本主義経済について、身近な問題からはじめて、理論的に把握するための基礎概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 社会経済学が対象とするのは、現代経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）とは異なり、歴史的に発展する具体的な資本主義社会の経済システムです。すなわち、経済システムについて理解するためには、社会的視点や歴史的視点が重要になってきます。このような社会経済学的な視点を身につけることによって、抽象化を重視する現代経済学とは異なった角度から、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することができます。社会経済学Aでは、音楽産業を例にとりながら、現代の文化と経済システムの関係について学びましょう。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：高増明（2023）『ポピュラー音楽の社会経済学』第二版 ナカニシヤ出版（第一版ではなく、必ず第二版をもちいること）¥3,400

6 学習指導、注意点等 リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。特に、テキストの題材である音楽はあくまでわかりやすい例としてとりあげられているにすぎず、この講義の目的は文化と経済活動の関わりについて学ぶことにあります。したがって、設問要求を無視して、自分の好きな音楽やアイドルなど個人的経験しか述べていないようなリポートでは単位を取得できないのでご注意ください。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits.(100%)

ECN400TB（経済学 / Economics 400）

社会経済学B

教科担当責任者：平瀬 友樹

担当者：相沢 裕紀

単位数：2単位

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。

2. 現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 本科目は、現代経済学との対比を念頭におきながら、社会経済学の形成過程について学ぶことを目的とするものです。経済理論は、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって生み出されてきました。そのため、これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義といえるでしょう。なお、現在の社会経済学は、主に理論モデル分析など高度に抽象的な議論をする科目となっており、かつてのように必ずしも現実の問題を扱うものではないことに注意してください。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験で100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『経済学史』日本評論社、野原慎司・沖公祐・高見典和、2019年、¥ 3,000

6 学習指導、注意点等 学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。レポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits. (100%)

ECN400TB（経済学 / Economics 400）

経済政策論A

教科担当責任者：小黒 一正

担当者：小黒 一正、持元 江津子

単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアン理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論A」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『マクロ経済学入門』（第2版）、ミネルヴァ書房、麻生良文著、2021年、¥ 3,500+税 ※初版（2009年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

マンキュー 『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社（入門用）

マンキュー 『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社（中級）

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ

スティグリッツ 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.

The final grade is mainly based on an examination (100%).

The quality of the report is taken into account when grading.

ECN400TB（経済学 / Economics 400）
経済政策論B
教科担当責任者：小黒 一正
担当者：小黒 一正、持元 江津子 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論B」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林 正義・小川 光・別所俊一郎、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）

スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）

麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）

井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）

井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of public economics.

The final grade is mainly based on an examination (100%). The quality of the report is taken into account when grading.

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸学概論
教科担当責任者：藤村 耕治
担当者：川鍋 義一 単位数：4単位

1 学習の到達目標 1. 文学鑑賞とはどういうことか、また、その鑑賞の方法について理解する。
2. 文学研究とはどういうことか理解する。
3. 文学のさまざまな研究方法について学ぶ。
4. 以上のことをふまえ、実際に文学研究を実践し、論文を書く。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本講座では、まず「文学とは何か」について考え、「文学を学ぶとはどういうことか」ということ、つまり文学鑑賞と文学研究についての認識を深めていく。その過程で、多くの古典といわれる名作や現代の作品も読んでほしいと思う。また、研究の方法について、特にきわめて基本となる在り方や作品分析の方法について、具体的な作品に即して学んでいく。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により以下の点から評価する（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。

1. 指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義—文学作品が書かれるまで』などを使って、文学鑑賞や文学研究について理解している。
2. 課題の作品について、きちんとした作品研究を行っている。
3. 作品について、論理と実証を心がけて論文としてまとめられている。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義—文学作品が書かれるまで』青柿堂、2016年、¥2,000+税 ※絶版のため生協でのみ取扱い可能

【参考文献】『別冊国文学№51 近代文学現代文学 論文・レポート作成必携』学燈社、1998年、『新研究資料 現代日本文学』①～⑦明治書院、2000年、日本近代文学会編『日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016年、¥2600+税

※ その他、学会誌『日本文学』日本文学協会、『日本近代文学』日本近代文学会、『昭和文学研究』昭和文学会、『社会文学』日本社会文学会をはじめ、雑誌『文学』岩波書店、『国文学 解釈と教材の研究』学燈社、『国文学 解釈と鑑賞』至文堂等のバックナンバーなどに、各作家・作品の研究論文が多数あります。また、それぞれの作家・作品の研究書・論文集も多数出版されています。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

1. 指定市販本 小田切秀雄『文芸学講義—文学作品が書かれるまで』などを使って、文学鑑賞や文学研究について、まず学習する。
2. 課題作品を丁寧に読み込む。その際の疑問点や問題点と思う点についてメモしておく。
3. 作品について研究する。その際、先行の研究論文を一つ以上読み、比較検討する。また、論文の書き方の参考にもする。
4. 論理と実証を旨に、論文として研究をまとめる。字数制限を守って縦書きでまとめ、よく推敲して提出する。
5. 参考文献・引用の出典を明示する。

※ まず、予備知識無しに作品を読み込み、自身の論のテーマを設定し、その後、先行の研究を読み、それを手本にしつつ、具体的な作品自体に当たって分析考察することが大切です。

Outline and objectives This course introduces the basic knowledge of literature and its appreciation by reading many specific literary works to students taking this course. The goals of this course are to understand literary appreciation, literary study, research methods of literature, and be able to write a paper.

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論

教科担当責任者：尾谷 昌則

担当者：古牧 久典

単位数：4単位

1 学習の到達目標 言語学の基本的な概念と考え方を理解し、音声音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学などの言語学分野の基礎事項を学ぶ。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 日本語ということばから言語に対する考え方を学ぶ。言語学は言語の本質とは何かを考えるための科目（学問分野）である。言語の性質や特徴を知るためには、様々な切り口が考えられる。

本科目は、テキスト（『言語学入門 これから始める人のための入門書』）に沿って進める。テキストでは大きく分けて七つのテーマから言語に迫っている。七つのそれぞれのテーマに下位項目が設けられ、全体で26講（1講平均5ページ程度）から成る。七つのテーマには、[1] 言語の特性や諸側面をまとめた言語学の概説（第1-4講）、[2] ことばの音の側面に注目した音声学・音韻論（第5-9講）、[3] 単語の構造を対象とした形態論（第10-13講）、[4] 文という単位の構造に焦点を当てた統語論（第14-17講）、[5] ことばの意味を考える意味論（第18-21講）、[6] ことばのコミュニケーションの側面を理解する語用論（第22-23講）、[7] 言語の変種・変化・種類に着眼する社会言語学や歴史言語学など（第24-26講）がある。

こうしたテーマを学ぶことで、日本語に限らず、様々な言語の特性に迫るための考察技法を学習する。

4 成績評価基準 各講ごとに設定されているキーワードを正確に理解している。

当該テーマに対して、適切な例を挙げて説明できている。

言語学に基づく視点から、日本語などの言語を独力で鳥瞰することが出来ている。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『言語学入門 これから始める人のための入門書』

佐久間純一・加藤重広・町田健著、2004年、研究社、1,800円＋税

本書は、はじめて言語学に触れる人へ向けた入門書であり、七つの言語学分野（言語学の概説／音声学・音韻論／形態論／統語論／意味論／語用論／社会言語学・歴史言語学）が紹介されている。各講の最後には練習問題が用意されており、解答例が巻末に用意されている。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキスト各講冒頭のキーワードに対して意識することを心がけ、自分で一講ごと概括しながら、読み進めて下さい。また、それぞれの講が終わったら練習問題にも挑戦し、自身でテキスト付属の解答を確認して下さい。練習問題の解答例も付録程度と考えずに、併せて読むことで理解を深めましょう。

Outline and objectives This course is a general introduction to linguistics, the study of language, concentrating not only on Japanese but also on other languages. It aims at acquainting the students with the nature of human

language and its characteristics. The course examines the language sounds and their patterns (phonetics and phonology), the structures of words and sentences (morphology and syntax), and context-independent/dependent meanings (semantics and pragmatics). It also explores how linguistic knowledge is applied in social situations (sociolinguistics) and how languages change over time (historical linguistics). At the end of the course, students are expected to understand and explain any language including Japanese by using the methodology of linguistics.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

文学概論

教科担当責任者：渋谷 百合絵

担当者：細沼 祐介

単位数：4単位

※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 文学を研究するにあたって不可欠な、文学理論について学びます。

文学を読むために試みられた様々な視点を理解するだけでなく、実際の作品読解を通じて具体的な理論の運用も学びます。

最終的には広大な文学理論の概観について理解したうえで、自分なりの文学を学ぶスタンスを身に着けることを目的とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 文学理論とは、これまで様々な研究者や批評家によって構築されてきた「読むための理論」であり、これら学ぶことは立論の切り口として大いに益があります。本教科は歴史的に提唱されてきた様々な文学理論の概要について学び、またそれらを駆使して実際の作品を論じていくことで、体感的にその理論を身に着けることを目的とします。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は提出されたレポートの内容も考慮します。レポートに限らず、文章は他者に読まれ、理解されて初めて、書き手の考え方が読み手に伝わるものです。

したがって、レポートの分量はもちろんのこと、その内容、たとえば、設問の内容を正しく理解し、矛盾のない論理によってレポートを作成しているか否かが評価の主な基準となります。その前提として、レポートの形式、たとえば、段落の区切り方や句読点の付け方、誤字脱字がないように心がけることも要求されます。レポートを作成する上での基本事項を守ることが大切です。

5 テキスト名および詳細 テキストは指定市販本『批評理論入門「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書）（廣野由美子、中央公論新社、2005年、820円+税）を使用します。この著作は各種の文学理論を実際の作品読解を通じて解説し、かつ作品において試みられた様々な技巧についても論じているものであり、文学研究の初歩として大いに学ぶべきところがあります。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポートの内容は先行論文・批評をきちんと踏まえ、他者の意見と自分の意見を明確に区分し、そのことが分かるように作成して下さい。

単なる思い込みや感想ではなく、また参考文献からの引用の羅列ではないレポートを作成して下さい。そのためには設問の内容を正しく理解し、なにか、どのように描かれた作品なのか、そのことに留意することが重要です。

また、レポートの最後に「参考文献一覧」（著者名、書名、出版社名、刊行年月）を記載して下さい。【例：磯崎純一『龍彦親王航海記 澁澤龍彦伝』白水社、二〇一九年】

レポートの内容や表現に不備や不足があれば、それらを的確に把握・理解し、その後のレポートを作成するために活用して下さい。

例年これらの注意事項を守らないで提出される方がおられますが、その場合は形式の不備ということで当然評価に響きます。よくご注意ください。

Outline and objectives The aim of this course is learning literary theory, which is essential for studying literature.

Not only will you understand the various perspectives that have been attempted to read literature, but you will also learn the operation of concrete theories through actual reading comprehension of works.

Ultimately, the goal is to gain an overview of the vast literary theory and then develop a stance of learning your own literature.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ

教科担当責任者：加藤 昌嘉

担当者：加藤 昌嘉、栗山 元子

単位数：4単位

※2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 ◆「日本文芸史Ⅰ」における学習の到達目標は、以下の4点である。

- 1, 日本文学の歴史を知ること
- 2, 主要な作品の概要や意義を知ること
- 3, 時代・文化・ジャンル・専門用語などを知ること
- 4, 上記1・2・3を理解したうえで、それらを自分の言葉で説明できること

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 ◆以下の時代・内容を扱う。

- 1, 日本文学史のうち、上代（奈良時代）～中古（平安時代）～中世（鎌倉・南北朝・室町時代）～近世（江戸時代）までを学習対象とする。
- 2, 上記の時代に成った、歴史書、勅撰和歌集や私家集、歌物語や作り物語や歴史物語や軍記物語や説話集、仮名日記、随筆、連歌・俳諧、古典芸能などを学ぶ。
- 3, 個々の作品・作家のみならず、それらを包括するジャンルや時代や文化についても学ぶ。

4 成績評価基準 ◆レポートでは、以下の4点を重視し、評価する。

- 1, 主要な作品・作家の基本事項を理解しているか否か
 - 2, 日本文学史の基本概念を理解しているか否か
 - 3, 主要な作品の原文・注釈・解説などを調べ、参照できているか否か
 - 4, レポートにふさわしい文章・形式で論述しているか否か
- ◆単位修得試験では、以下の2点を重視し、評価する。
- 1, この授業を通して得た知識・理解が、定着しているか否か
 - 2, それを、的確な日本語で説明できているか否か

5 テキスト名および詳細 指定市販本：◆足立直子・二宮美那子・本廣陽子・森田貴之監修『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』数研出版、2024年、¥900＋税

【注】2024年以降に販売されている“改訂版”を用いること

6 学習指導、注意点等 ◆通信学習のレポートに、添削・講評を以てフィードバックする。

◆上記テキストの中の「古文編」を熟読し、理解すること。

◆必要に応じて、上記テキストの中の「現代文編」「漢文編」「表現編」「資料編」も参照すること。

◆KADOKAWAの《角川ソフィア文庫》、講談社の《講談社学術文庫》、岩波文庫の《黄帯》、小学館の《新編日本古典文学全集》、新潮社の《新潮日本古典集成》、岩波書店の《新日本古典文学大系》などには、主要な古典文学の原文・現代語訳・解説が収められている。レポートを執筆するためには、それらを図書館や書店で入手して（部分的でもよいので）読むことが、必須となる。

Outline and objectives 【Course outline】

◆The following periods and content are covered.

1. The scope of study encompasses Japanese literary

history from Nara period through Heian period to Kamakura, Nanboku-chō, Muromachi periods and Edo period.

2. We study historical texts, imperial anthologies of waka poetry, private poetry collections, anthologies of fine poems, waka narratives, fictional tales, historical narratives, military chronicles, collections of folktales, kana diaries, essays, renga poetry, and haikai poetry created during the above periods.

3. We study not only individual works and authors, but also the genres, eras, and cultures that encompass them.

【Grading Criteria /Policy】

◆ Reports will be evaluated based on the following four points:

1. To understand the fundamental details of major works and authors
2. To understand the basic concepts of Japanese literary history
3. To research and reference the original texts, annotations, and commentaries of major works
4. To write in an appropriate style and format for an academic paper

◆ The credit acquisition exam will be evaluated based on the following two points:

1. Whether the knowledge and understanding gained through this course has been retained
2. Whether it can be explained accurately in Japanese

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ

教科担当責任者：藤村 耕治

担当者：山田 稔

単位数：4単位

1 学習の到達目標 戦後以降の日本文芸史への認識を深め、その多様な特質について学ぶ。その上で、問題とされた作品によって、人・思想・時代・表現方法への理解を及ぼし、究極において、自らの一定の見解を打ち建てることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 近現代の日本文芸史の出発期から全体を俯瞰しつつ、その中で画期的意味を持った第二次世界大戦後の文学を代表する文学者と、その文学精神の継承者について、個々の文学的営為とその精神、表現の独自性を探り出す。戦後文学とは、政治と文学の関係についての鋭い問題意識、実存主義的傾向、在来の日本的リアリズムと私小説の揚棄、文学的視野の拡大などの傾向を有する文学を指す。これを出発点として、無頼派、戦後派、第三の新人、それ以降の文学、という文芸史的流れを、それらを代表する、石川淳、埴谷雄高、武田泰淳、庄野潤三、大江健三郎、小田切秀雄など、テキストで論じられている作家・評論家たちを中心に、また、同派のその他の作家（太宰治、坂口安吾、大岡昇平、安部公房、島尾敏雄、安岡章太郎、遠藤周作など）についても参照し、その作品世界を通して個々の作家を理解し、文学史の流れについて考察する。

4 成績評価基準 設問の要求をきちんと満たしていること。この科目の通教テキストとそこで扱われている作品を読了し、それをふまえて論じられていること。問題となる作家や作品については、具体的に作品に即して論じられていること。最低一つは先行研究を読み、その上で自身の見解がそれとわかるように述べられていること。さらに、必要な参考文献には目をとおしていることがわかるように記述することが望ましい。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本文芸史Ⅱ』第1版、立石 伯、2009年

※【申告制】テキスト

（※前・通教テキスト『日本文学特講2』）

【必読文献】

テキストで語られている作家の作品とそれぞれの派の代表的作品。特に石川淳（無頼派）、埴谷雄高・武田泰淳（戦後派）、庄野潤三（第三の新人）、大江健三郎（第三の新人以後）の諸作品、それ以外では、太宰治、坂口安吾、大岡昇平、安部公房、島尾敏雄、安岡章太郎、遠藤周作の諸作品

【参考文献】

『埴谷雄高文学論集』講談社文芸文庫他

江藤 淳『成熟と喪失』講談社文芸文庫他

大江健三郎『同時代としての戦後』講談社文芸文庫他

磯田光一『戦後史の空間』新潮文庫・新潮選書他

加藤典洋『敗戦後論』ちくま学芸文庫他

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

・戦後派、無頼派、第三の新人の文学的立場について理解すること。

・二作品以上について、十分に具体的な論述がなされていること。

・縦書きとし、関連する作品論、作家論（解説なども含む）に目

を通し、それらをレポートの末尾に必ず参考文献として明記すること。

- ・引用と自説とは、はっきり区別すること。
- ・必読文献は読了しておくこと。参考文献は関係するところを中心に読み、文芸史的認識を深めておくこと。
- ・手書きでなく、印字原稿の場合は総字数を明記すること。
- ・分量不足とならないこと。

Outline and objectives In this course, while taking a bird's-eye view of the entire history of modern Japanese literature, we will discuss the literary figures who represent the post-WWII literature with epoch-making meaning and the successors of the literary spirit. Explore the literary activity, its spirit, and the uniqueness of expression.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・上代

教科担当責任者：森 陽香

担当者：萩野 了子

単位数：4単位

※ 2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 上代文学作品の成立の背景や表現方法などといった基本的知識を学び、当時の社会状況、人々の考え方などに対する理解を深めることを目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 『古事記』では、神話で語られる国土の成り立ち、大国主神の活躍、『日本書紀』では神功皇后の事績について学び、古代の人々の世界観・歴史観について理解を深める。また『記紀歌謡』では、神々が歌う歌謡の表現について学び、その特質を理解する。『風土記』では、地方に伝わる民間伝承の表現について学びつつ、『古事記』神話との違いを理解する。『万葉集』においては、口誦から書誦の歌へ、共同体から個別の歌へと変遷していく和歌の歴史を概観しながら、各時代（第一期から第四期）の表現の特徴を掴んでいく。

4 成績評価基準 リポート試験を元に、最終的には単位修得試験によって判断する。

リポート試験・単位修得試験共に、指定のテキストを熟読することを前提とし、与えられた課題が的確に論じられているかどうかを評価基準とする。その際、参考となる文献を積極的に探し、よく調べるようにすること。参考文献の書名、引用の出典などはそれを明記し、自説と混同させないよう注意すること。

5 テキスト名および詳細 【テキスト】指定市販本『年表資料 上代文学史 新装版』（金井清一・小野寛編、笠間書院、2007年、¥1,500+税）

【参考文献】『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』などの上代文献の調査及び引用等は、新編日本古典文学全集（小学館）、新日本古典文学大系（岩波書店）、新潮日本古典文学集成（新潮社）などのテキストを適宜用いること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

リポート作成においては、設題に即し、作品本文及び現代語訳を必ず読むこと（その際、どのテキストを用いたか必ず明示する）。関連の雑誌や論文を検索し、考察を深めること（国文学研究資料館やCiNiiなどの論文データベースを使用する）。参考文献を引用する際には、その旨を必ず明示し、読み手が引用元を確認出来るようにすること。

単位修得試験に向けて、指定テキストの資料編に載る、古事記、日本書紀、記紀歌謡、風土記、万葉集（第一期・第二期・第三期・第四期）を、各文献の注釈書や全集などを参照しながら熟読し、内容を理解しておくこと。

Outline and objectives This course aims to provide students with fundamental knowledge regarding the background and expressive methods of classical Japanese literary works, thereby deepening their understanding of the social conditions and ways of thinking prevalent at the time.

The goals of this class are to

- (1)acquire the basic knowledge about Early Japanese Literature
(2)understand the social situation and people's way of thinking at that time.

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸研究特講・中古
教科担当責任者：加藤 昌嘉
担当者：庄司 敏子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 ◆平安時代（中古）に作られた、さまざまな歌集・日記・物語の、成立・作者・構成・表現などを学ぶ。
◆平安時代（中古）に作られた、さまざまな歌集・日記・物語が、どのように研究され、どこまで明らかにされてきたのか知る。
◆平安文学（中古文学）全体を、歴史的な流れとして見渡せる目を養う。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 ◆平安時代（中古）には、平仮名・片仮名が発明され、『古今和歌集』などの勅撰和歌集、『蜻蛉日記』などの仮名日記、『伊勢物語』などの歌物語、『源氏物語』などの作り物語、『今昔物語集』などの説話集が生まれた。本科目では、主要な作品の成立・作者・構成・表現などを学びつつ、さらに、それらが日本文学史の中でどのような位置を占めるのか、ジャンルごとに習得してゆく。

4 成績評価基準 ◆最終成績は、単位修得試験により評価するが、評価の際は、先に提出されたレポートの内容を考慮する。
◆平安文学（中古文学）の概要を把握できているか（50%）、日本文学史の流れを把握できているか（50%）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』（数研出版）、2024年、¥900＋税

【注】2024年以降に販売されている“改訂版”を使用すること。ただし、既に旧版を持っている場合は、旧版でもかまわない。

6 学習指導、注意点等 ◆通信学習のレポートに、添削・講評でフィードバックする。

◆上記テキスト『プレミアムカラー国語便覧』の「古文編」のコーナーを読み、作品の概要、歴史の流れ、文化や用語を、よく理解すること。

◆KADOKAWAの《角川ソフィア文庫》、講談社の《講談社学術文庫》、岩波文庫の《黄帯》、小学館の《新編日本古典文学全集》、新潮社の《新潮日本古典集成》、岩波書店の《新日本古典文学大系》などに、『古今和歌集』『竹取物語』『伊勢物語』『蜻蛉日記』『枕草子』『源氏物語』『更級日記』『大鏡』などの原文・現代語訳が収められている。図書館や書店で、各作品を手にとって（部分的でもよいので）読んでみるのが、必須である。

Outline and objectives ▼【 Course outline 】

This course examines poetry collections, diaries, and stories established during the Heian period (8th-13th centuries). We will study their formation, expression, etc., and then consider their position in the history of Japanese literature.

▼【 Learning Objectives 】

The following three objectives will be pursued.

- To study the formation, authorship, and expression of poetry anthologies, diaries, and stories established during the Heian period (8th-13th centuries).
- To learn about the history of research on poetry collections, diaries, and stories established in the Heian period (8th-13th century).

- To look at the literature of the Heian period (8th-13th century) as a historical flow.
- ▼【Grading Criteria /Policy】
- The final grade will be based on the credit examination.
- The content of the report will be considered in the evaluation.
- To grasp the main points of Heian literature.(50%)
- To understand the flow of literary history.(50%)

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸研究特講・中世
教科担当責任者：伊海 孝充
担当者：中司 由起子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 中世に成立した文学作品の作者・成立時期・特徴などの基本的な知識を獲得するとともに、個々の作品の時代背景や影響関係を通して、中世の文学の特質を考えることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 中世に成立した著名な文学作品を取りあげ、作品の作者・成立時期・内容等の基本的事項を整理し、作品の解釈をおこなう。作品本文をていねいに読むことを大切にしたい。テキストの脚注だけでなく、辞書・注釈書を参照し、正確な解釈をする。そのうえで先行研究もふまえて自分なりの論を展開する。

4 成績評価基準 ・レポート評価

課題が的確に論じられているかという点を評価したい。作品の梗概や参考文献の論をそのまま記すのではなく、作品を精読したかどうか注目する。基本的な作文技術、形式（引用や注の仕方等）についても評価に入れる。

・筆記試験

中世の著名な文学の基礎的事項や特徴と中世文学の特質を問う。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『編年中世の文学』、新典社、浅見和彦・天野文雄・小島孝之・田村柳壹著、1990年、¥ 2,000+税

本テキストは、作品を和歌、説話、軍記物語といったジャンルごとにまとめて扱うのではなく、編年体によって中世文学史を体系的にとらえることを目的としている。時代、歴史の流れに沿って、各ジャンルの変遷の実態を的確におさえてほしい。

本書の構成は、50年ごとに年代を区切り、その各期で作品の年表と解説がまとめられ、続いて各期を代表する作品本文を掲載するというかたちをとっている。また掲載作品に関連する文学歴史作品も載っている場合があり、巻末に「中世文学小事典」を付す。

本書の各期で示された解説は簡略であるので、必ず以下の方法で学習にとりくんでほしい。

① 解説にとり上げられている作品名を、巻末の「中世文学小事典」や文学辞典などで調べ、その内容、作者、成立等の作品の基本的事項を整理し把握する。

② 本文を解釈するには、本文の脚注、辞書類のほか、新日本古典文学大系（岩波書店）・新編日本古典文学全集（小学館）・新潮日本古典集成（新潮社）等の注釈書を参照する。

③ 下記にあげた参考文献の概説書を参照して、作品の特質を考察する。

概説書で指摘されている文学作品の特質を、本文から読みとり、中世文学史への理解を深めていくことを期待する。

なお単位修得試験では、作品本文の口語訳を出題することはない。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

レポート作成にあたっては、作文の基本的な事項（誤字脱字・文法・段落等）に加え、論の構成や注の付け方、引用の仕方、参考文献のあげ方などにも注意する。作品のあらすじは長々と記

すのではなく、論の展開上必要な場合において簡潔にまとめる。課題は感想文やエッセイではないので、客観的、論理的な視点で取り組むことが必要である。

作品本文をじっくりと読み、諸注釈書や辞書類を活用しながら解釈をし、理解したうえで課題にのぞんでほしい。本文を読まずに、はじめから注釈書や先行研究論文等の論に従って課題にとりくむのではなく、まずは作品本文を精読すること。

Outline and objectives This course deals with the medieval Japanese literature. We organize basic matters such as author, creation time, contents of the text of the work, and interpret the work.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近世

教科担当責任者：小林 ふみ子

担当者：山口 恭子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 この科目では、近世文学（つまりおもに江戸時代の文学）を構成する諸ジャンルを知り、その主要な作品に触れることによって、近世文学の素材や内容、表現の多様性を知ることを目指します。大衆性ばかりが強調されがちな近世文学ですが、そうした面はもちろんのこと、高尚で雅な表現もあり、高度に機知的な技法を活かした笑いもあり、挿絵から見えてくる読みを求める作品もあり、流麗な文体の本格的な読み物もあり。そうした多様性の中から、等身大の江戸の人々の姿を捉えてみましょう。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 20の巻から成るテキストに「問題」がありますので、それを解き、「現代語訳」や「解説」を読んで、その要点や論点、疑問点をまとめるところから学習を進めてください。

テキストは比較的薄いものですので、むしろそれを第一の手がかりとして、興味を持った項目についてそれぞれの巻の「もっと読みたい人への読書案内」などを参考にして、学習を深めていただきます。

4 成績評価基準 単位修得試験では、テキストの内容を把握しているかどうかを評価基準とします。テキストに取り上げられているジャンル、作品、その作家や内容、史的意義等についての理解を重視します。

レポートでは、近世文学について学習を深めることができるかどうかを評価基準とします。各自の考察のありようを重視しますので、テキストに書かれていることを単になぞるのではなく、「もっと読みたい人への読書案内」に示された参考文献などをも用いた、検討・研究を行うようにしてください。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『江戸の詩歌と小説を知る本』初版、笠間書院、鈴木健一編、2006年、¥ 1,700+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。

テキストは非常に基礎的なもので、取り上げている部分も各作品やそのジャンル全体のごく一部に限られます。むしろこれはさらに広く深い近世文学への入り口として捉え、基本的な内容を調べ直し、理解したうえで、興味を持った作品やジャンルについて、疑問や考えたい、考えるべきテーマを見つけて掘り下げていこうという姿勢で臨んでください。

Outline and objectives This course deals with the early modern Japanese literature(mainly Edo-period literature). The aim of this course is to understand the contents and expressions of early modern Japanese literature.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代

教科担当責任者：田中 和生

担当者：関口 雄士

単位数：4単位

※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 「日本近現代文学」の主軸を為す作家、作品について理解を深めるとともに、「近代」・「日本」・「文学」それぞれが抱えた（あるいは抱えている）諸問題の意味について、具体的に論じられる学力を醸成する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 「近代」とは、ひとことで言えば、人々に「自由」な「個人」になり得る、という夢を与えた時間のはじまりのことだが、同時にその「自由な個人」なるものの内実とそれを成り立たしめる困難とに彼らを絶えず向かいあわせた。本授業では、四迷、鷗外、漱石の明治作家から、志賀直哉、中島敦、小林秀雄、川端康成、梶井基次郎ら大正・昭和の作家、批評家、そして戦後の梅崎春生、小島信夫、安岡章太郎など多数の作家たちの作品を読み解くことを通じて、各時代にそれぞれの主人公たちが深く潜り抜けようとした問題の核心を考察する。

4 成績評価基準 ・レポート評価

参考文献（文学史・先行論文など）を「調べる」ことによって得られた「知識」はむしろ大切だが、それ以上に自分が「作品」自体と「向き合った」、「読んだ」かが読み手にしっかりと伝わるような内容を心がけること。「文学研究」もまた、「文学」であることが目指されなければならない。すなわちレポート作成にあたっては、「先行研究」をしっかりと包み込みながら、オリジナリティ溢れる場所へと出る「論文」の手続きと文体とを徐々に獲得していくことが望ましい。

・単位修得試験

テキスト精読とレポート作成によって培われた「近現代文学」への知識量、理解力とをあらためて総合的に問い直すのが目的である。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本文芸研究特講・近代』第2版、勝又 浩、2009年

（※ 前・通教テキスト『日本文芸作品作家研究（近代）』）

【参考文献】『言葉が見る夢』永岡壮人、同時代社、2020年、¥3,300＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

レポート及び論文作成の基礎的事項については確認しておくこと。また学習者自身が、テキストで論じられている作家、作品はもとより、つねに良質の「文学」「文学研究」「文芸評論」に触れていることが大切である。

Outline and objectives The purpose of this course is to understand the core writers and works of contemporary Japanese literature and to concretely discuss the meanings of the problems that each of "modern", "Japan", and "literature" has. It is to be able to do.

This course introduces the Modern Japanese literature, for example, Natsume Soseki "Kokoro", "Sorekara", "Sanshiro", Mori Ogai "Maihime", Kawabata Yasunari "Izu no Odoriko", "Yukiguni", Kojima Nobuo "Hoyokazoku", Yasuoka Shotaro "Kaihen no Kokei", Nakajima Atsushi "Sangetsuki", "Richou", Kajii Motojiro "Lemon", Shiga Naoya "Annyakouro", Ibuse Masuji, Kobayashi Hideo, etc.

Izu no Odoriko", "Yukiguni", Kojima Nobuo "Hoyokazoku", Yasuoka Shotaro "Kaihen no Kokei", Nakajima Atsushi "Sangetsuki", "Richou", Kajii Motojiro "Lemon", Shiga Naoya "Annyakouro", Ibuse Masuji, Kobayashi Hideo, etc.

At the end of the course, participants are expected to be able to read literary works and criticize. Grade evaluation is done by report and test.

LIT300TC（文学 / Literature 300）
日本文芸研究特講・漢文
教科担当責任者：遠藤 星希
担当者：大西 陽子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 漢文（本科目では清朝以前の中国古典作品および日本漢文を指す）についての基礎知識および論評する能力の習得を目標とします。本科目における学習の到達目標は以下の通りです。

- ①漢文を読むための基礎的な読解能力を習得する。
- ②漢文における基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景など）について理解し説明できる。
- ③作品分析を通して、中国古典文学の特徴や独自性などについての確な解釈や論理的分析をすることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目では漢文全般にわたる基本的な知識、および具体的作品を読解する基礎的能力を習得することを主眼とします。学習するにあたって中国古典文学の流れを時系列的に把握するだけではなく、中国特有の文学ジャンルや表現方法がどのような時代背景の下でどのような経過によって発展・盛行したのかという点にも着目しながら幅広い視野の下で多くの作品に接してもらいたいと考えています。そのためにも、各時代を代表する文学ジャンルや作者についての理解を深め、実際に作品を数多く読む必要があります。中国文学史関連の書籍を最低でも1冊は通読して文学史の流れを把握し、その上で原文（原文が掲載してある翻訳でも可）で具体的に作品にふれ、中国文学の奥深さ面白さを自分なりに発見していただきたいと考えています。レポート執筆にあたっては指定テキストだけでは不十分ですので、設題に附記する参考文献などを参照してテーマに沿った考察をしてください。

4 成績評価基準 [レポートの主な評価基準]

- ・レポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自の観点により考察・論評がなされているか。
- ・レポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
- ・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章で論述されているか。

[単位修得試験の主な評価基準]

- ・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・明確で論理的な文章で論述されているか。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 前野直彬『精講

漢文』ちくま学芸文庫、2018年、¥1,800+税

本テキストは中国文学研究の碩学である前野直彬氏が受験生向けにわかりやすく解説した参考書を復刊した漢文入門のテキストです。漢文で書かれた作品を読解し、中国の古典文学（日本漢文学も網羅）や思想・歴史を理解するうえで重要な人物、作品、ジャンルの特徴などが簡潔にまとめられているうえに、全体を通読することによって中国古典作品の流れを通史的に理解できるような構成になっています。また各項目それぞれに代表的な作品の一部を抜粋して通釈と詳細な語釈のついた例文を載せているため、文法も含めて具体的に理解し学習しやすい工夫がなされています。是非熟読して大いに活用してください。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポート課題および単位修得試験の設題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視野で考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不十分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にレポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについて各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。

またレポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。

- ① レポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のレポート独自の題をつけて提出してください。
- ② レポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
- ③ 参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
- ④ 生成AIなどによる作成およびWebサイトや他人の著作などからの引き写しは不正行為と見なします。
- ⑤ 作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかわかるように、必要に応じて訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
- ⑥ 孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and basic knowledge about Chinese classic literature.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・現代

教科担当責任者：田中 和生

担当者：鈴木 華織

単位数：4単位

※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 下記2点を学習の到達目標とします。

- 1：日本現代文学を時代の流れとともに学び、作品読解を通じて理解を深める。
- 2：日本現代文学を研究するにあたり、広く議論されてきた諸問題や主要な言説をふまえ、具体的に論じる力をつける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 この科目では、教科書『日本文芸研究特講・現代』（田中和生、沼田真里編）をもとに日本現代文学を学び、作家・作品への理解を深めます。

そのうえで、二度のレポート執筆によって論文作成の基礎的な力を身につけます。

レポートにおいては、作品の鑑賞ではなく、論述（テーマを設定し結論を導き出すこと）を求めます。

試験では、日本現代文学についての知識と共に、テキストに出てくる作家・作品についての理解を問います。

4 成績評価基準 成績評価基準は下記のとおりです。

・レポート評価

レポートは、教科書および取りあげる作品を熟読していることを前提として、以下の四点を評価の基準とします。

- 1：取りあげた作家・作品の文学史上の位置づけについて、自分なりの学習の成果を示すことができているか。
- 2：取りあげた作品の主題や手法について、作品の記述に即しつつ具体的に述べるができているか。
- 3：1・2を達成するにあたって、先行研究を適切に引用することができるか。
- 4：学術的文章として基本的な構造・形式を備えた文章を書くことができているか。

・単位修得試験

教科書の熟読とレポート執筆を通して得た現代文学の知識が、教科書や参考書の丸暗記にとどまらない作家・作品や文学研究に対する総合的な理解にまで至っているかを評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト：田中和生・沼田真里（編）『日本文芸研究特講・現代（第2版）』法政大学通信教育部、2020年**6 学習指導、注意点等** 学習指導の方法は、通信学習のレポートへの添削と講評でのフィードバックです。

レポートを執筆する際のアドバイスを以下にあげます。

- 1：教科書の概論で日本現代文学の概略をつかみましょう。
 - 2：各章の作家紹介や作品分析を熟読し、日本現代文学研究の基礎的知識や論じ方、研究手法を確かめましょう。
 - 3：各章で取り上げられている作品を読むときは、自分なりの観点や疑問点を考えながら読みましょう。そのあとで、先行研究にあたってください。
 - 4：最終的に自分なりのテーマを定めて、文章の形式・構成を見直しつつ、レポートとしてまとめましょう。
- 慣れないうちは、レポートが作品の感想文やあらすじ、先行

研究の紹介となってしまうことがあります。あらすじや先行研究をおさえていることはレポート執筆の前提であって、レポートそのものではありません。

作品を繰り返し読むなかで、感想文にとどまらない自分なりの解釈・観点を意識しつつ、それを論証するための手順を検討した設計図（下書き）を作ってください。そこまで準備出来た段階でレポートの執筆に着手しましょう。

先行研究を引用する際は、引用元の考えと自分の考えとを明確に分け、書誌情報を明記することを厳守してください。

レポート執筆の際には、「設題総覧」の注意事項をよく読んでから臨みましょう。

【参考文献】

山崎義光ほか（編）『日本近現代文学史への招待』ひつじ書房、2024年、¥2,400＋税

石川巧ほか（編）『文学研究の扉をひらく——基礎と発展』ひつじ書房、2023年、¥2,200＋税

荒井裕樹ほか（編著）『ここから始める文学研究——作品を読み解くために』みずき書林、2022年、¥2,000＋税

Outline and objectives This course deals with the basic knowledge of Japanese contemporary literature research, with work analysis and writing reports. It also enhances the development of students'skill in understanding and analyzing Japanese writers and works of contemporary literature from various perspectives; literary thought in contemporary Japanese literature, a mainstream discussion in literature research and historical context. Grading will be decided based on two reports and an examination to take credit.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）
日本文芸研究特講・言語
教科担当責任者：間宮 厚司
担当者：間宮 厚司 単位数：4単位

1 学習の到達目標 1000年以上前に書かれた『万葉集』の短歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学習します。まずは、テキストを入手して、「まえがき」と「I『万葉集』の基礎知識」を読みましょう。次に「II万葉異説一訓読の再検討と類歌の表現比較」を第1話から順々に読み進めて下さい。そこから、具体的な研究方法（問題点の発見・論証の仕方・論の展開・結論の出し方）を学びます。学習の到達目標は、テキストに書かれている内容を十分に理解し、人に説明出来るようになることです。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目では、万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を通して、上代日本語の表記・文法・表現などについての理解を深めます。

4 成績評価基準 テキスト中の「第1話～第10話、第12話～第13話、第16話～第19話」の中から、指定された2話を各1200字程度で要約するレポート（20%）、そして、テキスト「第1話～第10話、第12話～第13話、第16話～第19話」に書かれている内容を十分に理解しているか否かを確認する単位修得試験（80%）の出来をみて、総合的に評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『万葉異説- 歌ことばへの誘い』（増補版）、森話社、間宮厚司著、2021年、¥ 2,000+税 ※初版（2011年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの内容を十分に理解できるまで、熟読しましょう。また『万葉集』に関する注釈書の中で比較的入手しやすいものをテキストの初版の144頁、増補版の158頁に一覧しましたので、図書館などを活用し、自ら積極的に勉強して下さい。

Outline and objectives This course deals with the Japanese notation, grammar, expression in ancient times through the "Manyoshu".

LIT200TC（文学 / Literature 200）
中国文芸史
教科担当責任者：遠藤 星希
担当者：大西 陽子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目は中国の文芸（主に詩文・戯曲・小説などの中国古典文学全般を指します）についての基礎的知識を習得し、かつ正確に理解し自ら探求する能力を向上させることを到達目標とします。本科目の到達目標を以下に列举します。
①中国の古典作品（詩文）を原文（書き下し文や翻訳本などを参考にして理解することも可）で読むための基礎的な読解能力を習得する。
②中国独自の文芸の成立と展開について、その歴史的背景を踏まえて理解し、基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景）などについての確に説明できる。
③作品分析を通して、中国の文芸の特徴や独自性などについての確な解釈や論理的な分析をすることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目で扱う中国文芸とは、主に詩文・戯曲・小説などの古典文学を指しますが、文学と深く関連する書・絵画・音楽などの芸術全般についても視野を広げて考察の対象とします。時代的には清朝末までの作品が対象となりますが、テキストの時代設定が宋代までであるため、本科目においても宋代以前の作品を対象とします。ただしレポート執筆にあたって比較対象とする場合はその限りではありません。
中国の古典文学および芸術は、各時代の社会思潮や文化と深く関連しながら形成・発展を遂げてきました。本科目では中国文芸の通史的理解や基本的知識を習得した上で、中国独自の文芸の特徴や中国人の思考様式を、作品分析を通して考察していくことを主眼とします。まずは中国文芸の歴史の流れを知るためにも、中国文化史（文学史）関連の書籍を最低でも1冊は通読してください。その上で、具体的に作品を分析考察して中国古典文学作品への理解を深め、中国文芸の奥深さや面白さを自分なりに発見していただきたいと思います。レポート執筆にあたってはテキストだけでは不十分ですので、設題に附記する参考文献を参照してテーマに沿った考察をしてください。

4 成績評価基準 【レポートの主な評価基準】

- ・レポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自の観点により考察・論評がなされているか。
- ・レポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
- ・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章が書けているか。

【単位修得試験の主な評価基準】

- ・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・明確で論理的な文章で論述されているか。

5 テキスト名および詳細 指定市販本テキスト：『中国文学の歴史 古代から唐宋まで』安藤信廣、東方書店、2021年、¥2,400+税

テキストの内容は、先秦時代から宋代までの中国文学の歴史の流れと特徴について、時代を5つの章立てに分けて構成され、それぞれ各時代の文学ジャンルに即して概観されています。そ

のジャンル毎の内容についても異なる課題、あるいは視点から小題をつけて具体的に用例を加えてわかりやすく解説されていて学びやすい構成となっています。通読することで中国文学ならではの独自性や時代との相互関連性を明確に位置づけながら理解でき、かつ中国文学の本質を考える一助となりうるテキストですので、熟読して大いに活用してください。

またテキストは宋代までを対象としているため、元代以降の古典文学についてはテキストの続編とも言える『中国文学の歴史―元明清の白話文学』（小松謙、東方選書、2024、¥2400＋税）などを参照してください。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポート課題および単位修得試験の設題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視点から考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不十分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にレポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについては各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。

またレポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。

- ① レポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のレポート独自の題をつけて提出してください。
- ② レポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
- ③ 参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
- ④ 生成AIなどによる作成およびWebサイトや他人の著作などからの引き写しは不正行為と見なします。
- ⑤ 作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかがわかるように、訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
- ⑥ 孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives The purpose of this course is to help students master the basic comprehension ability to read a Chinese classical work.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史

教科担当責任者：間宮 厚司

担当者：松永 明

単位数：4単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

- 1 学習の到達目標** ①未だ定説が存在しない日本語の系統と、日本語の歴史（日本言語史）の時代区分法を把握する。
②上代から近・現代までの各時代における音韻・文法・語彙それぞれの特徴を把握する。
③日本語に大きな変化をもたらした日本語の歴史上重要な言語現象を把握する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 現在我々が日常使用している日本語は、いつ、どのように始まったと考えられているのか、またどのような歴史の変遷を経て、現在のような状況に至ったのか、日本語の音韻・文法・語彙は各時代を通じてどのように変化してきたのか、などを学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）レポートは下記の項目ごとにそれぞれ基準を設定し評価する。

- ①設題・テキスト・参考文献・学術用語の理解度（設題やテキスト、参考文献の対応箇所、学術用語などを正確に理解できているかどうか）
- ②構成力と論述展開の妥当性（論の構成と論旨の展開が無理なく、また緊密であるかどうか）
- ③設題に応じた内容の充実度（内容が設題にきちんと正対し、充実しているかどうか）
- ④文章表現力（正確で理解しやすい文章として表現されているかどうか。誤字・脱字などの表記を含む）
- ⑤レポート執筆上の規則遵守（レポートの長さ、参考文献一覧の有無、引用と意見の明確なきき分けなどの規則が遵守されているかどうか）

5 テキスト名および詳細 指定市販本：『はじめて読む日本語の歴史』沖森卓也著（ベレ出版発行）、2010年、¥2,000(税別)〈上記テキストが入手できない場合の代替テキスト〉
指定市販本：『日本語ライブラリー 日本語史概説』沖森卓也編著、陳力衛・肥爪周二・山本真吾朝倉書店、2010年、¥2,600

【日本語史に関する代表的な辞書類】

『日本語百科大事典』金田一春彦他編（大修館）1988年、16,800円
『日本語学研究辞典』飛田良文他著（明治書院）2007年、16,800円
『日本語大辞典』日本語学会編（東京堂出版）2018年、41,125円
『明解日本語学辞典』森山卓郎・渋谷勝己編（三省堂）2020年、2,200円

【日本語史に関する代表的な参考文献】

『日本語史要説』渡辺実著（岩波書店）1997年、2,310円
『日本語の歴史』山口仲美著（岩波新書）2006年、¥820
『平凡社ライブラリー 日本語の歴史1』～『同7巻』、『同別巻』亀井孝・大藤時彦・山田俊雄編（平凡社）2006～2008年、1,430円～1,760円
『ガイドブック日本語文法史』高山善行・木村博史編（ひつじ書房）2010年、¥2,090

『国語史を学ぶ人のために』 木田章義編（世界思想社）2013年、
¥2,900
『図説 日本語の歴史』 今野真二著（河出書房新社）2015年、
¥2,000
『図解で学ぶ めくるめく日本語史の世界』 今野真二著（淡交社）
2025年、¥1,800

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

①テキストの『はじめて読む日本語の歴史』（または代替テキストの『日本語ライブラリー 日本語史概説』）に基づいてすべての課題は設定される。従ってテキストを徹底的に熟読することが必須である。

②日本言語史に関する上記の辞書類や参考文献、論文を活用することが高評価には重要である。

Outline and objectives ① Understand the lineage of the Japanese language, for which no established theory exists, and the periodization method for the history of the Japanese language (history of Japanese language).

② Understand the characteristics of phonology, grammar, and vocabulary in each era from ancient times to modern times.

③ Understand important linguistic phenomena in the history of the Japanese language that brought about major changes in the Japanese language.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文法論

教科担当責任者：尾谷 昌則

担当者：村島 祥子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本語文法の入門書を読むことを通じて、日本語学及び日本語文法の基礎的知識を身につけることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 現代の日本文法における様々なテーマについて、その基本的な定義や分類をおさえ、実際の用例を観察しながら日本語についての理解を深めていきます。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します（ただしリポート学習もしっかりと行うこと）。試験は教科書から出題しますので、必ず指定教科書を読んでから試験に臨んでください。リポートもまず教科書をよく読み、その後参考文献と比較し、用例を挙げながら自分の考えを述べてください。

5 テキスト名および詳細 【指定市販本】

『ここから始まる日本語文法』 ひつじ書房 森山卓郎 2002年
¥1,800+税

【参考文献】

『改訂版 日本語要説』 工藤浩ほか ひつじ書房 2009年

『現代日本語文法 1～7』 日本語記述文法研究会 くろしお出版 2010年

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。日本文法について、大学にふさわしいレベルの回答を要求します。高校生向けの教科書や辞書、大学受験用の参考書の内容をそのまま書き写すことはしないでください。英文法との安易な比較や、自らの日常会話の感覚を独断的に回答するようなことも好ましくありません。まずは指定教科書を熟読し、基本的な辞書や入門書等を読み比べ、その他色々な考えと比較しながら自分なりの結論をまとめていきましょう。結論を導くための用例をなるべく多く挙げること。法政大学の学則にあるとおり、生成系AIを全面的に使用して作成した文章は処分の対象となりますので、使用しないこと。

Outline and objectives We aim at acquiring basic knowledge of Japanese linguistics and grammar. We will also deal with various grammatical themes, checking their basic definitions and classifications and verifying(or examining) practical examples. As written in the academic regulations of Hosei University, do not use generative AI. Any text created using the generative AI may be punished.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史

教科担当責任者：伊海 孝充

担当者：本塚 亘

単位数：4単位

※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 多様な展開を見せた日本芸能の歴史の概略を理解することが目標である。日本の芸能は、宗教的儀礼・宮中行事・各地の民俗・各時代の「観客」の要請など、その背景にある要素が多様であり、そのすべてを一度に理解することは困難である。本科目では、どの時代にどのような芸能が生まれ、各芸能がどのような影響関係にあるのかを中心に、日本芸能史の展開を理解していく。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 指定テキストに従って、歌舞伎、能、伎楽、舞楽、猿楽、人形浄瑠璃などのテーマ別に学習する。まずは、各芸能の成り立ちと展開をよく理解し、その上で他芸能との影響関係をしっかり理解できるようにしたい。そのため、レポート・単位修得試験ともに、この2点に焦点を当てて出題をする。また、テキストはあくまでも日本芸能史の概説である。今後の研究のためには、テキスト以上の知識を必要とする場合が多い。テキストに挙がっている参考文献、教員が指示した書籍などを積極的に活用し、そうした学習の成果をレポートに発揮してほしい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。

【レポート】

内容面は、まずテキストに書かれている芸能の基本的知識を理解することが必要である。その上で、自分自身で考究した結果をレポートに盛り込んでほしい。また、技術面では、大学生としてふさわしい文章力が身につけていることが必要である。そのため、内容だけでなく、文意が他者に伝わる文章になっているか否かも重要な採点基準とする。さらに、『日本文学科のしおり』などをよく読み、レポート・論文を書く上での正しい書式もしっかり理解しておくこと。特に、引用・参考文献に関する記述の方法については、十分確認しておくこと。

【単位修得試験】

試験は、テキストに書かれている内容から出題する。すなわち、基本的な知識問題が中心となる。設題になっている芸能がどのような芸能なのか、また、それに関わる重要人物は誰かなどをしっかりと説明できるよう学習し、試験に臨むこと。

5 テキスト名および詳細 2025年度からテキストが変更されているため、これから学習を開始する場合は【A. 指定市販本】を入手すること。2年間の経過措置として、既に【B. 旧指定本】を入手して学習中の履修者は、2026年度までの履修に限り、新たに指定市販本を購入する必要はない。

【A. 指定市販本】

・『日本古典芸能史』今岡謙太郎、武蔵野美術大学出版局、2008年、¥2,200+税

【B. 旧指定本】

・『日本の伝統芸能講座 舞踊・演劇』、淡交社、服部幸雄監修、2009年、絶版

6 学習指導、注意点等 ・通信学習のレポートに添削・講評

でフィードバックする。

・この科目は、日本芸能の概論である。ここで出会った芸能を自分の興味にそって、さらに深く学ぶことが重要である。この授業で学んだことが、他の履修科目、自宅学習、卒業論文と有機的に繋がることを期待したい。

・この科目は、芸能文化コースで卒業論文を執筆する学生には、必修科目となる。将来、芸能で論文を書く予定の者は、必ず履修すること。また、現段階で他コースに進む予定の者も履修しておくことを勧める。

・この科目での学習を契機として、実際に現在行われている伝統芸能に触れる機会をもってほしい。座学では実感できないようなことも、具体的な体験によって理解を深めることができる。また、実見によって得た着想を、レポートや単位修得試験、卒業論文のテーマ決定等に役立ててほしい。

Outline and objectives The goal of this course is to understand the history of the Japanese performing arts, which have developed in various ways. The background of Japanese performing arts is diverse, including religious rituals, court ceremonies, local customs, and the needs of the people in each period. This course aims to understand the development of the history of the Japanese performing arts, focusing on when and how the performing arts were born and how they influenced each other.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）
日本美術史
教科担当責任者：小林 ふみ子
担当者：染谷 美穂 単位数：4単位

- 1 学習の到達目標** ①飛鳥時代から明治時代までの日本美術史の大きな流れを理解する。
②各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品に認められる様式的・技法的な特色を理解する。
③日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来美術を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。そうして作られた美術作品は、継承され模倣されながら新たな創造を生み出す源にもなったのである。本科目では、飛鳥時代から明治時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。
なお、レポート、単位修得試験は、以下の5点を基準として採点をおこなう。

- ①飛鳥時代から明治時代までの日本美術史の大きな流れを理解していること（ただしレポート課題1については、対象とする時代を限定すること）。
②各時代の代表的な作品について、それぞれの様式的・技法的な特色を的確に理解していること。
③それぞれの作品が生み出された時代背景を理解していること。
④レポートの構成・論述・引用の仕方が適正であること。引用が長くなり過ぎないよう、なるべく自身の言葉で言い換えること。引用の後に必ず（註）を付け、頁箇所とともに文末に記すこと。
⑤誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章が書けていること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本美術の歴史』補訂版、東京大学出版会、辻惟雄著、2021年、2,800円＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

まずテキストを熟読し、日本美術史の大きな流れを把握すること。各時代の代表的な作品については、テキストとともに美術全集等の図版解説や事典類を参照し、基礎データ（名称、作者、制作年代、材質、寸法、所蔵者）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色、そこに認められる外来美術や既存の作品の受容と、新たな創造が見られる点などを明確に整理し、理解すること。また、それぞれの作品については、必ず美術全集等の大型図版を参照し、具体的なかたちのイメージ（主題、表現、造形的・技法的特徴など）の把握につとめるとともに、自らの視点により作品の比較・分析を試みることを。

なお、美術史を学ぶ上で、実際に作品を鑑賞することが何よりも重要である。受講者は、美術作品を所蔵する博物館等や社寺に積極的に足を運び、作品を鑑賞する機会を得るよう心がけて欲しい。

Outline and objectives In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Meiji era.

Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

西洋美術史

教科担当責任者：小林 ふみ子

担当者：濱西 雅子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 西洋美術の名作について、図像（主題、内容）、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深めることを目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。本科目では、西欧古典古代から、中世ロマネスク・ゴシック、近世ルネサンス、近代19世紀の時代にかけて、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる美術作品を考察の対象とする。課題のなかから各自作例を選択し、具体的に美術史的なアプローチを行うことにより、様々な側面からの理解を深めることを目指す。また文化交流という視点も併せて考えたい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 高階秀爾監修、『カラー版 西洋美術史』[増補新装版]、美術出版社、2002年、¥1,900+税

本書は古代から20世紀末までの西洋美術の歴史を、340点の豊富なカラー図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸各分野にわたりわかりやすく概観するものである。2002年刊行の増補新装版には、1990年刊行の旧版に、最終章と簡単な用語解説等が加えられている。本文のコラムとともに、こうした巻末の用語解説、新たな美術史年表も学習の手引きとされたい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

まずテキストを通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。

その上で各自レポート課題に沿った専門文献にあたり理解を深めることが望まれる。すなわち、入門書・通史概説書以外にも、個別の課題に沿った美術史の専門文献を広く参照する必要がある。

そして選択した作品の基本データ（制作年代・規模等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、造形的表現の特質、美術史上の意義等について考察して欲しい。西洋美術史の専門文献で得た知識を基に、与えられたテーマについて自ら論ずる力をみる。

なお美術史の専門文献を三点以上参照し、実際に用いた文献データ（参照ページも忘れずに）をレポート末に明記すること。

<参考文献表の注意点>

書籍の場合は、著者名（ないし編者名）、二重鍵括弧（『 』）の中に書名、出版社、発行年、参照ページの順で記載する。専門誌掲載論文の場合は、著者名、論文のタイトル（一重鍵括弧「 」で囲む）、掲載誌名（二重鍵括弧『 』で囲む）、号数、発行年、参照ページの順で記載する。例：

法政信子編『ラファエロ画集』講談社 2016年 pp. 114-120
法大通教著「ミケランジェロ《ピエタ》を巡る一考察」『市ヶ谷大学 文学部紀要』第21号 2012年 pp. 7-18

なお、参考文献表と註は、別個に表記する。また、註に挙げた文献は、参考文献表にすべて含める。

<インターネット検索時の注意点>

●検索対象：

図書館の利用が厳しい状況にある場合は、その代替措置としてインターネットによる専門家の情報の検索が求められる。ただしインターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物（Wikipedia、個人のBlogやHP等）を参照することは厳禁とする（部分的にも利用した場合は、評価の対象外）。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式HPの専門家による解説等を参照すること（他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること）。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史（ないし建築史）の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

●検索先：

1. IRDB（学術機関リポジトリデータベース）IRDB検索画面：<https://irdb.nii.ac.jp/>（「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し、電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なおIRDB検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。）

2. CiNii（サイニー、サイニィ、サイニイ）国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面：<https://ci.nii.ac.jp/ja> など

●検索キーワード：

1. 「画家名」 2. 「作品名」 3. 「論文」 4. その他「美術」といった分野名等各自様々に工夫をこらし検索をかける。

Outline and objectives Art history is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In this course, from Western European classical ancient, medieval Romanesque / Gothic, early modern Renaissance, modern 19th century era, art works taking a variety of expression forms such as architecture, sculpture, painting, crafts etc. are considered. By choosing each example from among the subjects and conducting a specific artistic approach in concrete terms, we aim to deepen understanding from various aspects. Also think about the perspective of cultural exchange.

PHL300TC（哲学 / Philosophy 300）
社会思想史
教科担当責任者：伊海 孝充
担当者：伊藤 直樹 単位数：4単位

1 学習の到達目標 古代から20世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 社会思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかにある。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17世紀において、また19世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会思想「史」であるとは、社会についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

4 成績評価基準 ・レポート評価

ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。

次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。

また、学ぶ内容は、過去思想である。したがって、けっして自分の思い込みでレポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。

全体の記述量は、一課題につき2000字以上が必須である。

・筆記試験

レポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうか、評価の基準となる。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『社会思想史』第3版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、伊藤直樹、2022年

まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評

でフィードバックする。

レポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。

上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったレポートを書くべきかが、見えてくるはずである。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、レポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたレポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわない、ただ難しいだけのものになってしまう。これでは、学びとは言えない。

また、分量について、最低でも2000字以上ないと課題をまとめることはできないだろうと思われる。

なお、生成AIツールの使用については、次のようにします。

生成AIツールの使用は一切禁止します。

不正使用すると、本講義の学びのすべての価値が失われます。

不正使用の防止は、受講者の良心にかかっています。

よろしくお願いいたします。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

LIT300TC（文学 / Literature 300）

比較文学

教科担当責任者：遠藤 星希

担当者：吉井 涼子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 『古事記』を主として日本神話を、『史記』などから中国の神話的部分を学ぶ。

- ・日本の神話・伝説と、古代日本に大きく影響を与えた中国の神話・伝説を知ることにより、古代の日本・中国に関する知識を身に付け、教養を培う。
- ・自分の出身地の旧国名などを知らない人も多いが、日本神話中の故地や地名由来譚をとおして、旧国名や地理、土地の伝承を学ぶ。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 部分的に知っている人も多い日本の神話と、日本では一般的ではない中国の神話とを、どちらも読むことで、共通点や相反する点を知り、理解を深めて学問的視野を広げる。日本の神話の代表的な書物は『古事記』『日本書紀』『風土記』などがすぐ挙げられるが、一方で中国では「神話」として体系的に纏められた一次資料がない。日本の場合も記紀は「歴史書」として編纂されたものであるが、中国の方は正史のはじめである『史記』の本紀の最初の部分に「歴史の一部」として記録されているものや、百科事典的性格の強い『淮南子』或いはその他の書物（諸子百家の記した書籍）などに、「神話的部分」が散見されているような状態である。そのような成立過程の違いも、内容とともに理解する。

4 成績評価基準 提出のレポートと、単位修得試験によって評価する。どちらもきちんと取り組むこと。

【レポート】

- ・どんなに優れた内容でも、課されたテーマと異なるものは評価できないので気をつけること。
- ・名前やキャラクター性が似ている人物の取り違え、混同には注意すること。
- ・テーマや体裁および字数のバランスなどをよく確認して書くこと。
- ・書く際には、そのテーマに沿った上で、自分の述べたいことを伝えるにはどのような構成が良いかなど、わかりやすい文章を心がけること。
- ・引用がある場合は、必要な部分のみにすること（必要以上の長い引用は減点とする）
- ・引用がある場合は、どの部分が引用なのかをわかるようにした上で、必ず引用元を正しく明記すること。
- ・誤字脱字に注意すること。
- ・その他、基本的な文章の書き方に準拠すること。

【単位修得試験】

- ・論述式である。
- ・誤字脱字に注意すること。
- ・自身が学んできたことを、よく復習しておくこと。

【共通】

- ・感想文にならないよう注意し、学術的なレポート・論述にふさわしい内容にすること。
- ・テキストは勿論、参考文献などから得た知識以外も、大いに活用すること。
- ・テキスト及び参考文献記載以外の内容を述べる場合は、出典を明記すること。

※『史記』の神話的部分とは、この講義では、五帝本紀・夏本紀の全篇及び、股本紀・周本紀・秦本紀それぞれの冒頭（祖先のことについて述べている箇所）と定義する。

5 テキスト名および詳細 【指定市販本テキスト】

- ・角川書店編『古事記』（角川ソフィア文庫ビギナーズクラシック）角川書店、2002年、¥720
- ・小竹文夫ら翻訳『史記〈1〉本紀』（ちくま学芸文庫）ちくま書房、1995年、¥1,500

【参考図書】

- ・吉田賢抗 新釈漢文大系『史記』一 本紀上 明治書院 1973年
- ・伊藤清司『日本神話と中国神話』学生社 1979年
- ・倉野憲司 岩波文庫『古事記』岩波書店 1963年
- ・大野晋ら校注 岩波文庫『日本書紀』岩波書店 1994年
- ・大林太良 講談社学術文庫『神話の話』講談社 1979年

この他、テキスト中の参考文献など。

テキストは一次資料の訳本・訳注などである。これのみで比較をするのは難しいことと思うので、参考図書などを適宜参照すること。

参考図書としている書籍は高額、あるいは入手困難なもののため、テキストには指定しないが、可能であれば図書館などを活用して一読すること。また、特に研究書は、筆者によって述べていることが異なる場合やかなり独特の学説の場合があるが、神話研究は特に諸説ある分野であるので、一つの説に拘らずに、様々な説に触れること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

神話・伝説は、往々にして辻褄が合わなかったり、矛盾したり、登場人物の言動が不可解であったりするものである。特にそのような部分は、なぜそうなったのかなどについて想像を膨らませながら、テキストの解説や註釈および参考図書をはじめとする先行研究を読み、理解を深めること。

※『史記』の神話的部分とは、この講義では、五帝本紀・夏本紀の全篇及び、股本紀・周本紀・秦本紀それぞれの冒頭（祖先のことについて述べている箇所）と定義する。

Outline and objectives Learn Japanese mythology mainly from "Kojiki" and Chinese mythology from "History".

- ・ By learning about Japanese myths and legends and Chinese myths and legends that have had a great influence on ancient Japan, you will acquire knowledge about ancient Japan and China and cultivate your culture.
- ・ Although many people do not know the old country name of their hometown, they learn the old country name, geography, and folklore through the hometown and place name origin in Japanese mythology.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）
書道史
教科担当責任者：小秋元 段
担当者：山口 恭子 単位数：2単位
※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項の習得を目標とします。とくに、主要な書道史の事項（様々な書体や、「三筆」「三蹟」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解することが重要です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 中国、および日本における書の史的展開について学びます。上記のように、主な書道史の事項、書家や作品、そしてその史的意義といった、基本的なことがらの理解を目指していますが、そうした学習を通して、広い視野で書芸術の多様な世界を眺め味わうということも試みてゆきましょう。そのためにも、図書館等で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、博物館に足を運ぶなどとして、色々な作品に触れて下さい。

4 成績評価基準 単位修得試験では、書道史の基礎的ことがらを把握しているかどうかを評価基準とします。とくに、テキストに取り上げられている事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義についての理解を重視します。レポートでは、書道史について学習を深めることができているかどうかを評価基準とします。各自の考察のありようを重視しますので、テキストや参考文献に書かれていることを単になぞるのではなく、設問に応じた検討を行うようにしてください。

5 テキスト名および詳細 ・指定市販本『書道テキスト＜第2巻＞中国書道史』、二玄社、大東文化大学書道研究所編、2011年、¥2,100+税
・指定市販本『30回の授業でわかる 入門日本書道史』杉浦妙子、芸術新聞社、2019年、¥3,000+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。
テキストの学習にあたっては、まず、時代の様相やおおまかな史的展開を把握し、そのうえで細やかな事項の理解に努めてください。
なお、テキストに書かれていることがらは、非常に多岐にわたります。他の書道史に関する文献も必ず参考にし、「何が書道史のポイントであるのか」をきちんとつかみながら学習を進めることが重要です。

Outline and objectives This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIT300TC（文学 / Literature 300）
書道実技
教科担当責任者：小秋元 段
担当者：井澤 秀彦 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①中学校国語科書写の指導者として、楷書および行書の特徴や用筆・運筆を正しく理解し（知識）、基本点画の習得と表現力を身につける（技能）。
②用具・用材【筆墨硯紙】の特徴を理解し（知識）、正しい扱い方ができるようになる（技能）。
③書写の授業者として教壇に立つ際に、生徒に対する全体指導と個別指導が行えるようになる（態度）。
④生徒が学習した内容を、実生活に役立てる書写指導ができるようになる（態度）。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 中学校国語科書写の指導では、目的や必要に応じて、文字を正しく整えて速く調和よく書く能力を身に付けさせるとともに、生活に役立てる態度を育てることを目標としている。

中学校段階で学習する楷書および行書と、それぞれに調和する仮名の理解と技能の習得、また、正しい姿勢や執筆法、用具・用材の基本的な扱い方など、指導者としての基礎的な知識・技能・態度の育成を目標とする。

4 成績評価基準 ○楷書 楷書の基本点画と正しい用筆・運筆、文字の組み立て方の理解。半紙に対する適切な文字の大きさの理解。氏名の位置と大きさ。
○行書 行書の基本点画と正しい用筆・運筆、文字の組み立て方の理解。行書の特徴（変化・連続・省略など）と筆脈。半紙に対する適切な文字の大きさの理解。氏名の位置と大きさ。
○漢字と仮名の調和 漢字と仮名の大きさの違いと全体の調和。書式（行書き・散らし書き）の理解。

5 テキスト名および詳細 ・通教テキスト『書道教本』（第1版）、井澤秀彦、2010年 ※【申告制】テキスト
・指定市販本『国語科書写の理論と実践』全国大学書写書道教育学会、萱原書房、2020年、¥1,000+税
指定市販本の指定テキストが2026年春頃改訂予定。これから学習を始める場合は、最新版での学習を推奨します。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。最初に『国語科書写の理論と実践』をよく読み、書写とは何かということと、基本的な用語や姿勢・執筆法、用具・用材の扱い方、楷書および行書の基本点画と用筆・運筆、文字の組み立て方などを正しく理解をすること。
筆…使用する筆は中鋒・兼毫が望ましい。氏名および細字には小筆を使用すること。
墨…固形墨を磨墨する。極端な濃淡に注意し、適切な濃度・美しい墨色を出せるよう努力すること。墨汁（墨液）は使用不可。
硯…石製の硯を使用すること。プラスチック製やセラミック製の硯は使用不可。
紙…提出用の半紙は指定半紙が望ましい。指定半紙以外では、色のついた半紙や表面のツルツルしている加工紙等は使わず、多少滲むくらいのものを使用すること。
※上記の用具・用材は一般的に安価なものは扱いにくいものが多い。ある程度しっかりした良いものを使用すること。

【レポート作成上の諸注意】

教本をよく観察し、基本点画や用筆・運筆、文字の組み立て方をしっかり学ぶこと。我流にならずに、まずは細部まで教本と同じように書けることが必要である（教本の敷き写しは厳禁）。

- Outline and objectives**
- ① As a junior high school Japanese transcription instructor, correctly understand the characteristics of Kaisho and Gyosho, and how to use and move the brush (knowledge), acquire basic dot painting and acquire expressive power (skill).
 - ② Understand the characteristics of tools and materials [brush ink suzuri paper] (knowledge) and be able to handle them correctly (skills).
 - ③ When standing on the podium as a teacher of transcription, it becomes possible to give general guidance and individual guidance to students (attitude).
 - ④ Students will be able to teach how to use what they have learned in their actual life (attitude).

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説

教科担当責任者：松本 剣志郎

担当者：川上 真理

単位数：4単位

1 学習の到達目標 ・日本史の個々の史実を通史的・概説的に理解する。

・史実を列島社会に固有の文化的伝統との関連のなかで解釈する方法を身につける。
 ・日本人のアイデンティティの確立にとって、日本史上の個々の史実は如何なる意味を持っていたのかについての見通しを得る。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 原始、古代、中世、近世、近代の通説的な時代区分にそって、政治の展開と社会経済の動きを、日本文化の発展との関係において理解する。

4 成績評価基準 ・最終成績は単位修得試験により評価するが、レポート学習もしっかりと行うこと。
 ・レポート作成では、まず個々の事象についての通説を正確に理解し、それぞれの事項がどのような事実であるか、それらが各時代でどのような意義を持つものであるかに留意すること。また、同時代の他の事象との相互連関や、前後の時代との関連にまで視野を広げて考察すること。
 ・構成・引用・参考文献などレポートの体裁が整っていることは必須である。また、教養本・ハウツー本や大学受験参考書ではなく、専門性のある文献を参照すること。
 ・試験は、歴史用語を正しく理解していること、歴史的事象を時系列で整理し、事実に基づく解釈を行っていることを重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田寛・外園豊基・渡辺隆喜編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年、¥1,900+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。歴史的な用語については『国史大辞典』を、具体的な史実に関してはテキスト以外の専門的な書物を、それぞれ参照して理解を深めること。

参考文献として、若干紹介しておく。

○朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000年、¥2,800+税

○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000年、¥700+税

○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史00）講談社、2000年、¥2,200+税

○大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史』全22巻、岩波書店、2013年～2016年、¥3,200+税

Outline and objectives ・To understand the individual historical fact of Japanese history as a general history and overview.

・Learn how to interpret historical facts in connection with cultural traditions inherent in archipelago society.

・To obtain a view on what the individual historical fact in the history of Japan had in establishing the identity of the Japanese.

HIS200TD（史学 / History 200）
史学概論
教科担当責任者：内田 康太
担当者：秋山 千恵 単位数：4単位

1 学習の到達目標 歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定市販テキストにもとづいて、歴史学とは何か、史料とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。また、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、現在、歴史学はいかなる問題に直面しているのかを把握していきます。

4 成績評価基準 指定のテキストをよく読み込んで、内容を理解し、自分なりにまとめているかどうかを評価します。構成、引用、参考文献などレポートの体裁を整えているかどうかにも重視します。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する場合があります。単位修得試験はテキストである指定市販本の内容にもとづいて出題しますので、試験を受ける前に、各章ごとに要点をまとめて全体を見通しておくといでしょう。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『岩波テキストブックスα 歴史学入門 新版』岩波書店、福井憲彦、2019年、¥2000+税
歴史学とは何かという問題を、現在直面している諸状況のもとで、研究事例を挙げながら丁寧かつわかりやすく論じています。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。テキストの各章で何が論じられているのかを考えながら読んでください。また、テキストとあわせて、以下の文献なども参考にしてください。
リュシアン・フェーブル著長谷川輝夫訳『歴史のための戦い』平凡社ライブラリー 1995年
マルク・ブロック著松村剛訳『新版 歴史のための弁明—歴史家の仕事』岩波書店 2004年
二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波現代文庫 2016年

Outline and objectives This course introduces the foundation of science of history to students taking this course.

HIS200TD（史学 / History 200）
西洋史概説
教科担当責任者：内田 康太
担当者：赤松 道子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 西洋の歴史について、時代の特徴、歴史用語、歴史の流れ、諸事象の意味について理解し、説明できるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定テキスト（指定市販本）を自主学習し、レポートを作成することによって西洋史について理解する。

指定テキストの学習によって、歴史用語、重要な事象の意味、時代や地域の特徴を理解することが重要です。学習の理解度を示す試験を実施します。特定のテーマについてのレポートを作成します。レポート作成に際しては、指定教材だけではなく、独自に文献を調べて、よく読み、設題に関連する時代の特徴、制度、歴史用語などについての理解を深め、文章に表現します。適確な表現を模索する姿勢が大切です。

4 成績評価基準 単位修得試験は指定市販本から出題します。重要な歴史事象について、原因と結果を論理的に説明し、展開できるように、内容把握に努めましょう。レポートについては、歴史用語や時代、事象について理解しているかどうかを評価します。

まず、指定市販本以外に積極的に参考文献を探し、調べることを。一つの歴史事象について複数の文献にあたりに、調べた内容を掘り下げ、時系列的に具体的に説明します。多様な見解があることを理解しましょう。レポート作成の原則に従い、レポートをまとめます。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『西洋の歴史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房、山本茂他、1988年、¥2400+税。
指定市販本『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、大下尚一他、1998年、¥2400+税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、「設題解答にあたっての解説・注意等」をよく読むこと。各時代の特徴を時系列的に具体的に考えてみます。制度、文化、対外関係などに注目しながら、全体の流れを整理してみましょう。レポートを書いたら、必ず読み直してください。意味がわかりにくいところは必ず訂正し、自分の文章を練り上げていきましょう。

Outline and objectives The aim of this course is deepening your understanding of the History of the Western countries through learning the required texts independently and writing the papers.

It's important to know and realize the meaning of the historical words, the historical phenomena and the characters of the Times and the areas.

We ask you the tests for estimating the level of your understanding.

You write the papers of the specified theme.

For writing the papers you investigate the literature related to the theme besides the required texts, read them in detail, grasp deeply the character of the system and the

Times and represent them into the paper using the proper expressions.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説

教科担当責任者：塩沢 裕仁

担当者：宇都宮 美生

単位数：4単位

1 学習の到達目標 東洋史の中軸をなす中国史について、時代の特徴、時代の流れ、史実について学習し、史料、学説に基づいて説明できるようにする。

政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識を身につける。

また、レポートや試験を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 通教テキストに基づき、各王朝の特徴と史実を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してレポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、十分に準備して試験に臨む。

4 成績評価基準 レポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などレポートの体裁を整える（2000字程度:40字×50行前後、もしくは20字×100行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：富谷至・森田憲司編『概説中国史（上）』昭和堂、2016年、¥2,300+税
指定市販本：富谷至・森田憲司編『概説中国史（下）』昭和堂、2016年、¥2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

・学習にあたり、各時代の特徴として、政治、法制、軍制、財政（税・貨幣）、農業、文化、対外政策に分けて考察するとわかりやすい。まず、経緯、社会情勢、発生の条件、内容、結果、影響などに着目して史実をみていく。さらに、前王朝の特徴が次王朝へどのように継承されているか、どのような影響を与えているか、あるいは何が否定されているか、理解しながら中国史をみていくと全体の流れが把握できる。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。レポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

・レポートはインプット（学ぶ）した知識をうまくアウトプット（書く）できるように練習し、専門の先生の添削によりいい文章がかけられるようにするための最良の機会であるため、これを利用して自己向上させてほしい。最終的にはこの積み重ねを経て、いい卒論が書けるように心がけてほしい。したがって、生成AIや概説書からの丸写しをしないよう充分注意すること。

【参考文献】（リポートに記載する参考文献の書き方は以下を参照すること）

平勢隆郎他『中国の歴史』全12巻、講談社、1974年～1975年、2004年～2005年

愛宕元・富谷至・森田憲司編『中国の歴史』上下、昭和堂、2005年
譚其驤主編『中国歴史地図集』全8巻、中国地図出版社、1982年
【論文検索】

CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>)

Outline and objectives This course introduces an understanding of Chinese history in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Grading will be decided based on reports (100%).

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

日本美術史

教科担当責任者：小林 ふみ子

担当者：染谷 美穂

単位数：4単位

1 学習の到達目標 ①飛鳥時代から明治時代までの日本美術史の大きな流れを理解する。

②各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品に認められる様式的・技法的な特色を理解する。

③日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来美術を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。そうして作られた美術作品は、継承され模倣されながら新たな創造を生み出す源にもなったのである。本科目では、飛鳥時代から明治時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたリポートの内容も考慮する。なお、リポート、単位修得試験は、以下の5点を基準として採点をおこなう。

①飛鳥時代から明治時代までの日本美術史の大きな流れを理解していること（ただしリポート課題1については、対象とする時代を限定すること）。

②各時代の代表的な作品について、それぞれの様式的・技法的な特色を的確に理解していること。

③それぞれの作品が生み出された時代背景を理解していること。

④リポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であること。引用が長くなり過ぎないように、なるべく自身の言葉で言い換えること。引用の後に必ず（註）を付け、頁箇所とともに文末に記すこと。

⑤誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章が書けていること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本美術の歴史』補訂版、東京大学出版会、辻惟雄著、2021年、2,800円＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

まずテキストを熟読し、日本美術史の大きな流れを把握すること。各時代の代表的な作品については、テキストとともに美術全集等の図版解説や事典類を参照し、基礎データ（名称、作者、制作年代、材質、寸法、所蔵者）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色、そこに認められる外来美術や既存の作品の受容と、新たな創造が見られる点などを明確に整理し、理解すること。また、それぞれの作品については、必ず美術全集等の大型図版を参照し、具体的なかたちのイメージ（主題、表現、造形的・技法の特徴など）の把握につとめるとともに、自らの視点により作品の比較・分析を試みること。

なお、美術史を学ぶ上で、実際に作品を鑑賞することが何よりも重要である。受講者は、美術作品を所蔵する博物館等や社寺に積極的に足を運び、作品を鑑賞する機会を得るよう心がけて欲しい。

Outline and objectives In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Meiji era.

Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近代史

教科担当責任者：内藤 一成

担当者：柏木 一郎、中川 洋

単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目の目標は、ペリー来航から今日に至る歴史について、封建制の幕藩体制から主権在君の立憲君主制国家へ、そして敗戦を経て主権在民の立憲君主制国家へと変化したことを鳥瞰しつつ、中央集権的国民国家の形成・展開に関わる諸事象および欧米列強を中心とする国際社会の情勢に関わる諸事象を理解し、自分のことばで説明できるようになること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキストに基づいて、ペリー来航から明治時代の終わりまでを、政治・経済・文化など多様な視点から学び、理解する科目である。日本近代史を、幕藩体制の崩壊、中央集権国家の形成・展開、欧米列強や近隣諸国との関係、対外戦争、経済・産業の発展、文化・生活の変化・向上という視点から捉え、それらを理解するのに必要な諸事象を学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績評価は単位修得試験によって下す。

○レポート

上記「科目の概要」に記された諸事象および事象相互の関係が正しく理解され、習得されているかが問われる。テキストや参考文献によって得られた理解をもとに、自分のことばで正確に記述し、また矛盾や一面的な見方・解釈を含まない論理展開となっているかどうかを評価基準とする。参考文献の引き写しであってはならない。必要と考えれば出典註記を行うこと。

○単位修得試験

レポートにおける学習到達度をふまえ、個々の事象の理解・習得をふまえた一定の歴史叙述（すなわち、より幅広い、そしてより深い歴史事象の説明）が課題となり、受講生の歴史認識の正確性や論理的整合性、さらに幅広い視点を有しているかどうか、自分のことばで叙述されているかどうかを評価基準とする。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本近代史』第4版、安岡昭男、2020年

ペリー来航から明治時代の終わりまでの時期を、正確な史実理解をねらいとして、政治・外交・軍事・経済・産業・文化・生活など多様な視点から構成したものである。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。学習開始時に、テキストのはしがきを読み、日本近代史全体の捉え方や学習の目安について理解すること。次に、目次を読み、日本近代史を通観するのに必要な諸事象を、たとえば大項目・中項目・小項目というように構造的に整理し、理解すること。さらに、本文を読み、諸事象の因果関係や時間の経過に伴う変化、あとの時代への影響を理解すること。最後に、一定の事象を想定し、それを説明するのに必要と思われる個々の事象を想起し、当該事象の理解が定着したかどうかを確認すること。

Outline and objectives This subject has four main points. The first point is that the period covers from the Perry's arrival in 1853 to today of the 21st century. In that

period Japan experienced two significant changes. The first change is to make herself a modern state as a constitutional monarchy from a feudal state. The second one is to make herself again a democratic state of the sovereignty of the people. The second point is that students study basic facts as to the changes above focusing on the Japanese domestic affairs. The third one is that students study the affairs on the international relations which promoted those Japan's changes above. And the fourth is that each of the students gets his/her own viewpoint and narrative as to the Japan's modernization.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近世史

教科担当責任者：松本 剣志郎

担当者：安田 寛子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 史学科の学生は卒業までに必ず卒論を書かなければならず、そのことは常に念頭に置いて学習していかなければならない。日々の学習は、そのための知識や技術を習得するためのものだともいえる。しかし、これは直接的な到達目標ではあるが、決して学ぶことの最終目標ではない。真に求められるのは、学びを通して物事の本質を見抜く眼を養い、考え、判断する力を身につけていくことである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 日本近世史が対象とする時代の始まりと終わりについては議論を要するところであるが、中心となるのは徳川幕府が政権を担っていた時期、すなわち江戸時代である。江戸時代は幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代である。このような長期政権をどのようにして持続することができたのか、その中で人々はどのように生活していたのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのか。これらについて考えていくことが、この時代の特徴を明らかにしていくことになる。

4 成績評価基準 通信課程の場合、スクーリング受講とともにレポートを提出して単位修得試験を受けることが学習の重要な柱となる。特にレポートは試験を受けるための単なる手段ではなく、学び、考え、表現する貴重な場であり、何より卒論を書くための実践的な訓練の場である。そのためには、単に持論を展開するのではなく、設題に関する史料や論文を探索し、研究史を整理し、よく考え、理解し、自分の言葉で書くということが重要である。それらが十分になされているかどうかの評価の基準となる。

5 テキスト名および詳細 ①指定市販本『大学の日本史3 近世』（杉森哲也編、山川出版社、2016年、¥1,800+税）。②史料『新版 史料による日本の歩み（近世編）』（児玉幸多・佐々木潤之介編、吉川弘文館、1996年、¥3,800+税）。①の指定テキストでは、近世の国家と社会におけるさまざまな要素について、新たな視点でそれぞれが詳しく論じられている。その内容や背景に関する史料を②から探しながら読み進めることで、さらに理解を深めることができる。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストはあくまでも入り口であり、その他にどれだけ関連する史料や学術論文、研究書などの参考文献を探し出せるかが重要である。そのためには、実際に図書館や文書館に足を運ぶのはもちろんであるが、あらかじめ当該機関のサイトにアクセスして必要な史・資料を探索しておくのも有効である。

ただし、インターネットの利用には十分な注意が必要である。出所不明な情報を安易に信用したり、無批判に引用したりすることのないようにしなければならない。まして、参考文献やインターネットの記述をそのまま転載するなどの行為は厳禁である。

Outline and objectives The aim of this course is to help

students acquire the ability to cultivate, think and judge the eyes that see the essence of things.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本古代史

教科担当責任者：小口 雅史

担当者：菊地 照夫

単位数：4単位

1 学習の到達目標 3世紀から12世紀までの日本古代史の通史的展開を理解し、日本列島における古代国家の形成と展開や社会の様相を説明することができること、また日本古代史研究における主要な論点や課題についてその研究状況を把握することを到達目標とする。学習を通して日本古代史に関心をもち、自ら進んで史跡や博物館を訪れ、主体的に歴史を学んでいく姿勢が身につくことを期待したい。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキストにもとづいて日本列島における古代国家の成立と展開にかかわる諸問題を学習する。この時代の歴史像は、近年の古代史研究の進展により大きく変容している。その背景には考古学の発掘成果の増大、木簡等出土文字史料の増加、日本という一国史の枠組みを超えたグローバルな視点の導入、国文学・仏教史・美術史・建築史などとの学問の枠組みを超えた連携などの要因があるが、ここではそうした新しい研究動向を踏まえた日本古代史研究の最新の成果を学んでいく。

4 成績評価基準 リポートの評価は設題が求めているテーマについての確に答えられていることが最も重要な基準となる。テキストをしっかりと読み込んでおり、基本的な論点や用語が理解できているか、現在の研究状況が掌握できているかという点も重視する。単位修得試験では、テキストに提示されている主要な論点についての理解、認識を問う問題を出題する。出題されたテーマについての理解、認識の度合いをチェックするとともに、通史の中にそれが正しく位置づけられているかという点も重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐藤信監修、新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史〈政治・外交編〉』吉川弘文館、2020年、¥1,900＋税

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評してフィードバックする。まずはテキストとスタディガイドをノートを取りながら熟読し、その上で最近刊行されている日本古代史の概説書（岩波新書『シリーズ日本古代史』シリーズ全6巻、吉川弘文館の『日本古代の歴史』全6巻など）を読み、日本古代史の全般的な流れを理解していただきたい。またテキストの姉妹編『テーマで学ぶ日本古代史〈社会・史料編〉』『人物で学ぶ日本古代史』『歩いて学ぶ日本古代史』（いずれも吉川弘文館）にも目を通し、テキストがカバーしきれていないテーマを学んでほしい。それとともに博物館や史跡を積極的に見学し、その成果がリポートや単位修得試験に反映されることを期待する。

Outline and objectives We will learn the latest results of Japanese ancient history research on the problems related to the formation and development of ancient nations in the Japanese archipelago.

HIS300TD（史学 / History 300）
日本中世史
教科担当責任者：大塚 紀弘
担当者：仁平 義孝 単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本中世史に関する基礎的な知識を習得し、具体的な事象に対する解説、評価を自分の言葉で示すことができるようになることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキストをもとにして、院政時代から室町・戦国時代までの政治史、社会経済史、文化史を学習し、日本中世史の基礎的な知識を習得する。その上でレポートの設題に取り組む。レポート作成にあたっては、自分自身で設題に関連する史料や論文などを検討し、その成果を十分に反映するように心がけてほしい。単位修得試験は、テキストに書かれている内容について問う。

4 成績評価基準 リポートは、①設題の意図をよく理解し、テキスト以外に関連する史料や論文、専門書等に広くあたって作成する、②テキスト等から引き写すのではなく、設題に関して勉強したことをまとめて自分の言葉で表現する、この2点が評価の基準となる。誤字・脱字のないように注意し、設題総覧にある書式を厳守すること。

単位修得試験では、テキストに書かれている歴史事象、歴史的語句などについて出題するので、テキストをよく読んでおくこと。ある事象の具体的な内容を正しく理解しているか、その事象の歴史的位置付けができていないかなどを基準として評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 五味文彦編『大学の日本史2 中世』（山川出版社、2016年、¥1,800+税）
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

日本中世の政治、社会経済、文化について全20章で概観する。放送大学のテキストをもとにしたもので、4名の研究者が分担執筆している。一つひとつの歴史事象について詳細に論じるのではなく、その時代の論点となる事柄を中心に叙述されている。

6 学習指導、注意点等 テキストをしっかりと読み込んだ上で、設題総覧に挙げる概説書や、『岩波講座日本歴史』などに収められた諸論文を読んで勉強してほしい。また、多くの専門書、学術論文が発表されているので、それらにもじっくり取り組んでもらいたい。通信学習のリポートに添削・講評してフィードバックする。

Outline and objectives The purpose of this course is to study Japanese medieval history.

HIS300TD（史学 / History 300）
日本法制史
教科担当責任者：高 友希子
担当者：宇野 文重 単位数：4単位

1 学習の到達目標 現代の日本において施行されている様々な法、およびそれらを対象とする法学は、一朝一夕に出来上がったものではなく、近代化の過程で漸進的に整備され、発展してきたものである。この科目では、その歩みを振り返ることを通じて、日本法がなぜ現在においてこのような姿をとっているのかを理解することを目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

3 科目の概要 現代日本法は、明治期に作られた諸法典を中心として形成されている。民法・商法・刑法といった基幹的法典は明治時代に作られ、改正を経て今に続いている。憲法についても、日本国憲法の制定が大日本帝国憲法の全面改正という手続によって成立した以上、明治時代との連続性を考えないわけにはいかない。

これらの法は、一体どのようにして、どのような考え方に基づいて作られたのであろうか。江戸時代を終わらせ、西洋式の諸法典をたった数十年で作り上げた過程には、日本法の現状を規定する諸要因が含まれているに違いない。この科目では、そのような観点から、日本近代法の歴史に焦点を当てていきたい。

4 成績評価基準 論述式筆記試験によって単位を認定する（ただし、リポート学習もしっかり行うこと）。その際、テキストで触れられた重要法令の特徴を正確に理解しているか否かを重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 川口由彦『日本近代法制史』第2版、2014年、新世社（¥3,600+税）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書、参考書（「設題総覧」に記載）を熟読して学習すること。

Outline and objectives The aim of this course is to analyze the structure of modern Japanese law using method of the legal history study.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本史特講（社会史）

教科担当責任者：松本 剣志郎

担当者：室井 康成

単位数：4単位

era”.

- 1 学習の到達目標** 1.戦後史（1945年以降）に関する社会史的アプローチの方法を身につける。
2.戦後日本の高度経済成長に作用した外部的力関係を理解する。
3.「豊かな時代」として記憶される戦後史を相対化する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 日本史は通常、日本がアジア・太平洋戦争に敗れた1945年（昭和20）を境として、その前を「近代史」、後を「現代史」に分けて把握されることが多い。つまり「現代史」とは、そのまま「戦後史」と言い換えることもできる。だが、戦後もそろそろ80年が経過し、その間に日本社会はハード・ソフトの両面で大きな変化を遂げた。そこで本科目では、戦後80年間で日本社会がどのように変貌し、その変化が国民の生活や価値観にどのような影響を与えたのかを、経済成長・科学技術の発展・国際関係など、あらゆる視点から考えてみたい。

4 成績評価基準 最終的な評価は、単位修得試験によって行なう。その際、テキスト内容の正確な理解に加え、論理的な批判や疑義の提示、テキストの理解を補うための参考文献の学習状況等を考慮し、総合的に判断する。

・レポート評価

教科書は戦後史の流れについて概括的にまとめているが、各章は、おおむね戦後史を10年ごとに区切り、その時代特有の諸現象について述べられている。まずは、それぞれの年代に起きた歴史的出来事を正確に把握する必要がある。その上で、そこから自分なりの論点を抽出し、これを整理・展開する能力が求められる。またレポート作成に当たっては、構成や参考文献の選択・引用方法等、論文としての体裁が整っているか否かを重視する。
・試験は、教科書の各章の内容を理解しているか否かを問う論述形式となる。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『戦後史』中村政則、岩波書店（岩波新書）、2005年、¥1,040+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。戦後史は、私たちにとって直近の歴史でもあるため、史料とすべき素材は多い。文献のみならず、アーカイブ化された映像等の視聴覚資料や、同時代を生きた人物の証言も分析対象である。指定テキストの理解を深めるためにも、そうした史料に日ごろから慣れ親しんでおくことが重要である。また、文献・口述を問わず、史料内容を鵜呑みにせず、それらが示す事例の蓋然性を批判的に検証する姿勢を身につけて欲しい。なお、本科目が対象とする時代に限らず、広く「歴史」を扱った文献には、学術的な評価には到底耐えられない通俗的な内容のものも数多く流布している。参考文献には、そのような通俗本を排し、学術的な観点から記述された論著を選択する必要がある。そうした選択眼も、本科目の学習を通じて養って欲しい。

Outline and objectives 1.Learn how to take a social history approach to postwar history (after 1945).
2.Understand the external power relationships that affected Japan's high economic growth after the war.
3.Relativize the postwar history remembered as a "rich

HIS300TD（史学 / History 300）
日本史特講（地域社会史）
教科担当責任者：松本 剣志郎
担当者：中山 学 単位数：4単位

1 学習の到達目標 ①江戸時代の村と百姓との関係がどのようなであったのかを、その時代固有の社会的観念に基づいて説明することができる。
②江戸時代を通じての村運営の段階的な変化を一般論として説明することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 江戸時代の地域社会は、現代日本の地域社会の歴史的出発点であり、そこからどのような過程を経て現在があるのかということを考えるうえで重要な起点的位置にあると考えられています。また、江戸時代の地域社会の成り立ちを理解することにより、私たちは現代社会のあり方を批判的に見つめ直すことも考えられています。こうしたことから、この科目では、特に江戸時代の村に注目し、地域社会を成り立たせていた仕組みや観念、あるいは常識がどのようなものであったのか、理解を深めます。

4 成績評価基準 提出を受けたレポートを丁寧に読み、指定テキストから得た知識に基づき適切に説明することができているかどうか判断します。

なお、単位修得試験は、論述形式とします。設題の意図を正確に理解し、当該の設題に回答する上で必要となる知識を適切に示しているかどうか確認します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：渡辺尚志『近世百姓の底力 村からみた江戸時代』敬文舎、2013年、¥2,400+税

6 学習指導、注意点等 レポートの内容が適切であると判断されるまで繰り返し修正指導を行います。

なお、レポートを作成する際には次の2つのことを必ず実行してください。

①設題をよく読み、何について説明するよう求められているかということを正確に把握する。

②レポートは、作成したら直ぐに提出することはしない。文章作成後は、いったん2～3日間を置いてから読み直し、修正・訂正の作業を行う。そして再び2～3日間を置いて同様の作業を行う。修正または訂正すべき箇所がなくなるまでこの作業を繰り返す。

なお、特に次のことについて確認を怠らないこと。

・主語-述語の関係がくずれて意味不明の文章となっている箇所がないかどうか。

・誤字や脱字はないか。

・結論が設題に対応しないものとなっていないか。

Outline and objectives 【Course outline】The local community of the Edo period is considered to be the historical starting point of modern Japanese local society, and it is considered to be an important starting point when considering the process from there to the present. It is also expected that by learning about the formation of local communities in the Edo period, we will be able to critically reconsider the state of the modern society to which we belong. For this reason, in this course, we will focus on the

villages that formed the foundation of local communities in the Edo period, and deepen our understanding of the mechanisms, ideas, and common sense that made up the communities in question.

【Learning Objectives】

1.To be able to explain how the relationship between villages and farmers in the Edo period was. 2.To be able to explain the process of gradual transformation of village society through the Edo period.

【Learning activities outside of classroom】

This course does not require study other than the specified textbook.

【Grading Criteria /Policy】

Report:Check whether you can accurately grasp the intention of the topic and discuss based on the content of the designated text.

Credit acquisition test:Check whether the knowledge required to answer the questions is properly indicated. By the way, the final grade will be evaluated by this credit test.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本史特講（日本思想史）

教科担当責任者：内藤 一成

担当者：岡野 浩二

単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本の古代から近現代に至るまでの思想について、時代・カテゴリーを意識しながら学習し、「日本」がどのように自覚されてきたのか、その歴史をアジア・世界の中の「日本」という国際性を意識しながら説明できるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定市販教科書と巻末の年表を活用して、古代・中世・近世・近現代の思想の大きな流れと時代ごとの特色を理解する。レポートの第1回の設題では、日本の古代国家形成に強い影響を与えた外来思想（仏教・儒教・道教など）を理解し、その受容と日本における変容、特に「日本」国号や「天皇」号、記紀神話の成立などについて考察する。第2回の設題では、神道・仏教・儒教の関係に留意して中世以降の日本思想の展開を理解し、神道思想の形成など、「日本」がどう自覚されてきたかを考察する。さらに、近代における神仏分離から国家神道の形成、西洋思想の受容などについてもまとめて、それぞれの時代に外来思想がどのように受容され、「日本」についての思想がどのように展開したかを整理して、単位修得試験に臨む。

4 成績評価基準 ・レポート評価

テキストだけでなく、参考書などをひろく読み、それぞれの課題に対する問題点を整理し、しっかりとした論点を持ってレポートを作成する。決して辞書的な項目ごとのまとめにしない。重要な文献は書名だけでなく内容を把握する。その上で内容・構成を考え、註や参考文献を明記した学術レポートとしての体裁を整えること。ワープロ使用の場合は字数を明記すること。

・単位修得試験

上記レポートと指定市販教科書のすべてを試験範囲として出題する。日本思想史の流れを理解し、古代・中世・近世・近現代という時代ごとの相違が論じられること。日本思想の形成に影響を与えた外来思想と、神道思想など「日本」を自覚したものを整理するだけでなく、両者の関係を歴史的に考察する。関連する書目・思想家が正しく認識されているか、日本思想の特色がまとめられているかも重要な評価の対象である。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『概説日本思想史』（増補版）ミネルヴァ書房、佐藤弘夫編、2020年、¥3,500+税
※初版（2005年）も使用可

知的文化財産としての日本思想に関する基礎知識を、歴史学・文学・仏教学・民俗学などの周辺領域にも細かに目配りしながら、正確にわかりやすく記述している。日本思想史の全体像をイメージしやすく設計され、I「古代の思想」、II「中世の思想」、III「近世の思想」、IV「近現代の思想」それぞれの冒頭に付けられている概説では、思想史の大きな流れが把握でき、各章では、より専門的な視点から各時代の思想を詳しく考察できる。所々に挿入されているコラムでも、簡潔ながら重要な指摘がなされている。巻末の年表と索引は総復習に、参考文献は更に深く勉強するために役立つ。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。 レポート作成には、テキストの「古代の思想」「中世の思想」「近世の思想」全体を良く読み、その中

から重要なポイントに絞って歴史の変遷を考察すること。単位修得試験には、レポートに対するコメントを参照しながら復習し、さらに「近現代の思想」についても同様の勉強をして臨むこと。巻末（293～297頁）の参考文献や『日本思想史講座』全5巻（ペリカン社）も参照すること。

試験は論述式である。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を1文字あけること。（1）段落が構成されていない、（2）改行の代わりに1行を空白にしている、（3）段落冒頭を1文字あけていない、そのような答案是減点の対象となる。

Outline and objectives I overview the history of thought in Japan from ancient times to modern times. In particular, emphasize the following items. (1) The formation of ancient nations and the influence of outpatient thought. (2) Relationship between Shintoism, Buddhism and Confucianism in the Middle Ages and Early Modern Age.

HIS300TD（史学 / History 300）
日本史特講（日本仏教史）
教科担当責任者：大塚 紀弘
担当者：岡野 浩二 単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本仏教史を、古代から現代まで概観する。それをもとに、各時代の政権の仏教政策、僧尼・教団の活動、信者の仏教受容の諸相を理解し、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキスト『日本仏教史』を読んで、仏教伝来から現代までの仏教を概観し、日本史のなかで仏教が果たした役割や、仏教の位置づけを理解していただきます。特に①政権の仏教政策、②僧尼・教団の活動、③信者の仏教受容の諸相を、各時代に即して把握することが求められます。

4 成績評価基準 リポートは、テキストやその他の参考文献を読んで、設問に対する解答を、自身の文章で書いてください。それに対して添削・講評を加えます。問いに対する適切な内容か、5 W1H（いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように）の観点を踏まえた具体的な記述になっているか、などで評価します。最終成績は、単位修得試験によって評価します。論述式の試験で、テキストの内容を理解しているかを問います。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本仏教史』（岡野浩二、2023年）
※【申告制】テキスト

6 学習指導、注意点等 リポートには、添削・講評を加えます。テキストだけでなく、参考文献も利用して、自身の文章でその内容をまとめてください。単位修得試験は、テキストの内容を理解したうえで受けてください。リポート・試験ともに、段落を構成し、5 W 1 Hの必要事項を盛り込んだ自分の文章であることが求められます。

試験は論述式です。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を1文字あげてください。（1）段落が構成されていない、（2）改行の代わりに1行を空白にしている、（3）段落冒頭を1文字あげていない、そのような答えは減点の対象となります。

Outline and objectives An overview of Buddhist history from ancient times to modern times in Japan. In particular, emphasize the following items. It is the Buddhism control policy about each era, the activity contents with the clergyman group, Buddhism reception by the believer.

HIS300TD（史学 / History 300）
日本古文書学
教科担当責任者：大塚 紀弘
担当者：大塚 紀弘 単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本古代史・中世史の基本史料である古文書について、その文体や語彙になじんで古代・中世の時代の文章を読解する力を培い、また、文書の形態や様式、機能などを知って史料として文書を活用する力を身につけることにより、日本古代史・中世史をより深く学ぶことができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 日本には古代・中世の時代の古文書が多数伝存しており、歴史学の重要な史料となっているが、これを史料として活用するためには、まず、古文書の文章を読み解き、その内容を理解する力が必要であり、また、文書それぞれの独特の様式や作られ方、使われ方についての知識が必要となる。この科目は、古代・中世古文書の代表的な様式とその機能の概要を学ぶとともに、古文書の多くの実例に即して実際の読み方を学び、内容を具体的に捉える訓練を積み重ねる学習を通じて、古文書の読解力が高まることを目指す。

4 成績評価基準 リポートは、古文書の主要な様式の種類と特徴、機能、および時代的な変化を十分に理解したかどうかを確かめる。リポートとしての体裁や構成、日本語としての正しい表現に注意すること。
単位修得試験は、様式の知識とともに、文書を正確に読むことができるかどうか、内容を的確に理解できるかどうかを特に重視する。
最終成績は、単位修得試験により評価する（ただし、リポートの学習もしっかり行なうこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐藤進一『新版古文書学入門』法政大学出版局、2003年、¥3,630
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
教科書を徹底的に学習することが大切である。特に教科書に載っている文書の一つ一つを丁寧に学習すること。その際、文書を大きな声で読むのがよい。古い時代の言葉や言い回しを繰り返し耳から聞いて、そのリズム感を身体で覚えるのがきわめて効果的である。
同時に、返り点の付け方を習得すること。教科書で文書に返り点が打たれているものにその打ち方を学び、読下し文を参考にして、漢字だけの原文に返り点を付ける練習をしてほしい。これを習得すれば、どのような文書も自力で読めるようになる。学習には大きな辞書を活用すること。『日本国語大辞典』（小学館）、『新大辞典』（講談社）、『新漢和大辞典』（学研）、『国史大辞典』（吉川弘文館）など。

Outline and objectives Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

ART300TD（芸術学 / Art studies 300）

東洋美術史

教科担当責任者：塩沢 裕仁

担当者：徳留 大輔

単位数：4単位

1 学習の到達目標 東アジアを中心に、周辺地域との交流を視野に入れながら、東洋美術の流れを把握することを目標にする。さらに彫刻（仏教彫刻・陵墓石造物・俑・画像石）・絵画（帛画・墳墓壁画・石窟壁画）・工芸（青銅器・漆器・陶磁器・金銀器）などの分野に関する基本的な知識を身につけることも目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 指定教科書（林良一『東洋美術史』）にもとづき、殷周時代から隋唐時代にかけての中国美術を主軸として、東アジア美術の発展に大きな影響を与えたスキタイ美術・インド及び中央アジアの仏教美術、ペルシアの金属工芸も学習の内容として取り上げる。単位修得試験を実施するから、十分な準備をして臨むことを求める。また、理解度を確認するためのレポートの作成を課題としている。課題の意図を把握するうえで、自ら資料の収集、選択、分析を行い、これまでの先行研究を批判的に検討し、最新の研究動向も視野に入れ、自分なりの視点をもって課題を考察することを期待している。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。

・レポート評価の基準

自分なりの考え方が書かれているかどうかということは、レポート評価のもっとも重要なポイントとなる。そのほか、レポートは論理的に展開されているか、論拠としたデータの信頼性は吟味されているか、引用した資料や使用した専門用語の意味について正確に理解しているか、引用した文献の著者名・書名・出版社名を明示しているか、なども評価の項目となる。

・単位修得試験

教科書の内容から出題するので、時代や民族・地域・社会などの歴史的背景を十分に理解したうえで、東アジア（中国・朝鮮半島・日本）美術の発展に大きな影響を与えた王朝・民族・地域の特徴や歴史的意義を体系的に捉えておいた上で暗記する必要がある。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋美術史』第1版、林 良一、1975 年

※【申告制】テキスト

【主な参考文献】

・『世界美術大全集 東洋編』1 - 4・10・13・15・16 巻、小学館、1997～2001 年
 ・前田耕作、前田龍彦ほか『増補新装カラー版東洋美術史』美術出版社、2012年03月、¥2,625+税
 ・竹内順一（監修）『すぐわかる東洋の美術—絵画・仏像・やきもの&アジアの暮らしと美術』改訂版、東京美術、2012年11月、¥2,000+税
 ・葉喆民（原著）、出川哲朗（監訳）、（徳留大輔／新井崇之 訳）『中国陶磁史』国書刊行会、化学種パン社東京、2019年（新石器時代から唐時代の章）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

日本には、中国・朝鮮半島・西アジアの美術品を所蔵する美

術館が多く、各地で催されている特別展で美術品を鑑賞する機会にも恵まれている。皆さんが積極的に博物館や美術館に行って、実作品を見て実物の質感や立体感を体感しておくように努めて下さい。

Outline and objectives We aim to grasp the flow of oriental art with a focus on interactions within the surrounding areas centering on East Asia. In addition, we seek to acquire basic knowledge on fields such as sculpture (Buddhist sculpture, Mausoleum stone carving, pottery figure, stone relief), Paintings (Silk painting, Tomb mural, Buddhist cave art), and Crafts (Bronze ware, Lacquerware, Ceramic, Gold and Silver Ware).

HIS300TD（史学 / History 300）
東洋史特講（中国経済史）
教科担当責任者：塩沢 裕仁
担当者：江川 式部 単位数：4単位

1 学習の到達目標 東アジア世界の基盤を築いた中国唐～宋時代について、とくに社会・経済の面から理解を深める。

①これまでの研究概要や近年の研究動向を把握・理解すること、②歴史研究の方法を習得すること、③当該時代史における具体的な研究課題を、自身の関心と先行研究から得た知識に基づき、自ら導き出せること、の3つを到達目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 唐宋時代をひとつの画期とする中国経済史に関する諸問題について学習する。基本的な研究概要と研究動向を把握し、それに基づく個別の課題についてレポートを提出、単位修得試験を受験する。

はじめにテキスト及び当該時代史の概説書を読み、唐宋時代の基本事項を押さえる。次に『中国史研究入門 上』（山川出版社）・『中国歴史研究入門』（名古屋大学出版会）・『中国経済史』（名古屋大学出版会）・『史学雑誌』の回顧と展望を通読し、先行研究のなかでこれまで何が問題とされてきたのかを把握・整理する。

レポート執筆に際しては、参考文献の内容を抜き書きするのではなく、自分の言葉で文章を組み立てること。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。もちろん、レポート学習もしっかり行うこと。

・レポート評価

先行研究ならびに近年の情報については、単に論文名を列記するのではなく、取り上げた論文・文献に目を通すこと。評価にあたっては構成・内容も重視するが、学術レポートとしての体裁や、末尾に参考文献が列記されているかなど、基本的な点にも比重をおく。

・単位修得試験

教科書の内容に基づいて筆記試験を実施するので、十分な準備をして臨むこと。特に設題に関連した問題点には注意を払っておくこと。レポートの執筆がしっかりとできていれば、それは当然試験の答案にも反映されることになる。問題の本質を理解し歴史的な意義が論述されているかに比重をおいて評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋史特講（中国経済史）』第1版、河上光一、1978年

※【申告制】テキスト

（※前・通教テキスト『中国経済史』）

【参考文献】「設題総覧」に記載するので参考のこと。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。漢字の表記、国語文法には特に注意を払うこと。主語・述語が不明確なために、文意が理解できないものもあります。レポートは他者に自分の見解を説明するものであることを心にとめて執筆するようにしてください。なおレポートに、用語・漢字の変換ミスが5か所以上あった場合は、内容の如何にかかわらず再提出とします。

Outline and objectives This course deepens your understanding from society and a financial face in particular

about the Chinese Tang-Song era where a foundation in East Asia was built.

The goals of this course are to

① Understand the former study outline and recent years' research trends.

② Understand the historical research method.

③ Be able to set your own specific research issues.

LIT300TC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講・漢文

教科担当責任者：遠藤 星希

担当者：大西 陽子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 漢文（本科目では清朝以前の中国古典作品および日本漢文を指す）についての基礎知識および論評する能力の習得を目標とします。本科目における学習の到達目標は以下の通りです。

- ①漢文を読むための基礎的な読解能力を習得する。
- ②漢文における基礎的な知識（作者・作品・文化史的背景など）について理解し説明できる。
- ③作品分析を通して、中国古典文学の特徴や独自性などについての確な解釈や論理的分析をすることができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目では漢文全般にわたる基本的な知識、および具体的作品を読解する基礎的能力を習得することを主眼とします。学習するにあたって中国古典文学の流れを時系列的に把握するだけではなく、中国特有の文学ジャンルや表現方法がどのような時代背景の下でどのような経過によって発展・盛行したのかという点にも着目しながら幅広い視野の下で多くの作品に接してもらいたいと考えています。そのためにも、各時代を代表する文学ジャンルや作者についての理解を深め、実際に作品を数多く読む必要があります。中国文学史関連の書籍を最低でも1冊は通読して文学史の流れを把握し、その上で原文（原文が掲載してある翻訳でも可）で具体的に作品にふれ、中国文学の奥深さ面白さを自分なりに発見していただきたいと考えています。レポート執筆にあたっては指定テキストだけでは不十分ですので、設題に附記する参考文献などを参照してテーマに沿った考察をしてください。

4 成績評価基準 [レポートの主な評価基準]

- ・レポート設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・該当作品の内容をきちんと読解した上で、自分の独自の観点により考察・論評がなされているか。
- ・レポートの構成・論述・引用の仕方などが適正であるか。
- ・誤字脱字や文脈の不整合などがなく、論理的な文章で論述されているか。

[単位修得試験の主な評価基準]

- ・設題の内容をきちんと理解し、正確な知識を習得できているか。
- ・明確で論理的な文章で論述されているか。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 前野直彬『精講

漢文』ちくま学芸文庫、2018年、¥1,800+税

本テキストは中国文学研究の碩学である前野直彬氏が受験生向けにわかりやすく解説した参考書を復刊した漢文入門のテキストです。漢文で書かれた作品を読解し、中国の古典文学（日本漢文学も網羅）や思想・歴史を理解するうえで重要な人物、作品、ジャンルの特徴などが簡潔にまとめられているうえに、全体を通読することによって中国古典作品の流れを通史的に理解できるような構成になっています。また各項目それぞれに代表的な作品の一部を抜粋して通釈と詳細な語釈のついた例文を載せているため、文法も含めて具体的に理解し学習しやすい工夫がなされています。是非熟読して大いに活用してください。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポート課題および単位修得試験の設題は、文学史的知識だけを問うのではなく、できるだけ広い視野で考察・論述できるようにテーマ設定をします。テーマによっては指定テキストだけでは不十分で、より専門的な参考文献が必要になる場合があるかも知れません。特にレポート執筆に際しては、設題テーマに関連する先行論文などについて各自で調べ、実際に作品を読み、作品分析を通してテーマに沿った考察を進めるようにしてください。

またレポート作成方法として、以下の基本ルールは遵守してください。

- ① レポートの課題に即したテーマ設定をし、自分のレポート独自の題をつけて提出してください。
- ② レポートに無駄に細かい章立ては不要です。必要な場合でも三章程度にしてください。章立てはしなくてもかまいません。
- ③ 参考文献を引用する場合はカギ括弧でくくってどこまでが引用であるのか明示し、注（脚注でも傍注でも形式は問いません。）に参考文献の書誌的事項を明記してください。
- ④ 生成AIなどによる作成およびWebサイトや他人の著作などからの引き写しは不正行為と見なします。
- ⑤ 作品を用例として引用する場合は、原文をどのように解釈したのかわかるように、必要に応じて訳文、書き下し文（文脈によっては原文のみでも可）のいずれかの方法で記載してください。その際、何を参考にしたのか出典を必ず明記し、原文と照合できるような形で記載してください。（翻訳書などを参考にした場合は出版社名、タイトル、当該ページを記載してください）。
- ⑥ 孫引きはしないこと。初出の出典がある場合はできる限り原典にあたって引用してください。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and basic knowledge about Chinese classic literature.

HIS300TD（史学 / History 300）
東洋史特講（中国思想史）
教科担当責任者：齋藤 勝
担当者：小寺 敦 単位数：4単位

1 学習の到達目標 地域的には今日の中国中核地域、時代的には殷代から清代に至る思想に関する基礎的事項を、教科書・参考図書を用いて、中国の社会・政治・経済・宗教などの思想的背景と関連づけながら、理解することを目標とする。本授業はレポートおよびその合格後に受験可能となる単位修得試験によって成績評価を行う。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキストや指定の参考文献を利用しながら、殷代にはじまり、清代に至る思想のおおまかな流れを、その思想の背景となる社会とも関連づけながら学んでいく。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。
レポート：課題につき、テキスト・参考文献の内容が咀嚼されているか（当然ながら、参考文献丸写しは不可）。また、論点につき、提出者独自の見解が示されていればなおよい（但し、エッセイ調・時評風のものは不可）。
単位修得試験：通信教育部規定の評点を取得すること。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋史特講（中国思想史）』第1版、小倉芳彦、1958年（※前・通教テキスト『中国思想史』）
内容：殷代から清代までの中国思想史の要点が、簡潔に記されている。社会経済史的な視点が入るように編集されているのが特徴である。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポートについて、わずか1つ2つの参考文献のみを参照し、かつその内容を丸写しすることはしてはならない。参考文献の内容をよく咀嚼し、自分の言葉でまとめなおして記述すること。また、これはエッセイや読書感想文ではないので、その種の文章にみられる感想の類を書くことは不要。単位修得試験について、テキストの内容をしっかりマスターしておけば、合格可能な問題となっている。ただし、テキストを丸暗記する必要はなく、その項目ごとにポイントとなる事項を押さえておけばよい。人物名や文献の名称については最低限覚えねばならないところがあるけれども、それ以上に、思想の歴史的・社会的背景、思想相互の影響関係、思想を構成する諸要素の連関といった、思想の構成やそれが形成されるメカニズムを把握することが重要である。テキストにおいても、そういったところに注意が向くよう書かれている。

Outline and objectives This lesson deals with the history of Chinese thought from Yin period to Qing dynasty, using the textbook and reference books, and connecting with the Chinese society, politics, economy, religion, and so on of which is the ideological background. This lesson evaluates students' grade by the test of credits (Students must diligently work on papers on the history of Chinese thought).

HIS300TD（史学 / History 300）
東洋史特講（中国近世史）
教科担当責任者：齋藤 勝
担当者：芳沢 知絵 単位数：4単位

1 学習の到達目標 文献（教科書）を正確に読めること、一つの時代を多角的に捉え時代像を把握できること、それらを自分の言葉で的確にまとめられること、以上の三点を学習の到達目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 明という時代は、異民族支配を乗り越えて久々に誕生した漢人の統一王朝であり、最後の漢人王朝でもある。そのため、そこで育まれた文化・社会構造・世界像は、中国の「伝統」において大きな部分を占めている。これらを多角的に捉え、明の以前・以後とで何が断絶し、何が継承されているのか、そしてその背後にある中国を取り巻く世界と中国社会の変化を知り、中国という世界への理解を深めていきたい。

レポート・筆記試験は以上のような認識の下で課題を設定していくので、広く且つ深く教科書を読み込み、まずは自分なりの整理をしてもらいたい。その上で課題をこなすことで、理解はより深まるものと思われる。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮する。

レポート・筆記試験ともに、与えられた課題を正確に理解していること、教科書に基づいて適切且つ過不足の無い説明を行っていることを評価の基準とする。

【重要】最近、レポートにおいて剽窃が多く見受けられます。ほとんどがインターネット上の記事からのコピーや無断抜粋です。教科書以外の文献を参照する場合は、インターネット上の情報は参照せず、きちんとした文献（概説書や研究書）を参照するようにし、参照した文献については全てレポートに明示するようにしてください。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋史特講（中国近世史）』第1版、佐久間重男、1983年（※前・通教テキスト『中国近世史』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート・単位修得試験については、指定教科書に基づくことが大前提となるが、より理解を深めるために教科書以外の諸文献（とくに明に関する概説書）を読んでも問題とはしない。ただ、参照した文献について明示することが条件となる。また、あくまでも評価基準が指定教科書にあることは忘れないでもらいたい。

知識を得るとともに、読解力、要点整理力、文章力を培っていくことも目的の一つである。よって大切なのは、教科書としてしっかり向き合い、自分の力で成果を残すことである。他人やインターネットに頼ることがあってはならない。また、きちんとした文章で書くことを求めるので、箇条書きによる整理などは出来るだけ避けてもらいたい。

Outline and objectives Outline: Surveying the history of the Ming dynasty

Objectives: Understanding how traditions of China had changed and been formed in this era

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（東南アジア史）

教科担当責任者：齋藤 勝

担当者：澁谷 由紀

単位数：4単位

1 学習の到達目標 この授業では、大陸部東南アジア地域（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー）の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、それを基盤として、当該地域に関する様々な問題を論理的に理解し、自ら探求する力を養うことを目的とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 大陸部東南アジア地域は、カンボジアの和平と復興が確実なものとなる一方、ミャンマーの情勢は刻々と変化しており、昨今、政治的・経済的分野で、この地域は国際的に注目されています。本科目は、この地域の先史時代から近世までの歴史を体系的に学ぶための通信学習の科目です。基礎的な知識を習得し、それにもとづいて関心をもった個別の問題についてレポートを提出したのち、単位修得試験を受験することになります。

まず、テキスト①をよく読み、基本的な事実を把握します。次にレポート執筆に際しては参考書②～⑥を参照してどのようなことが議論されてきたのか捉えてください。最後に近年の研究動向については、参考書⑦と、『史学雑誌』の「回顧と展望」や『東南アジア 歴史と文化』や『東南アジア研究』など学術雑誌の最新号に掲載されている論文を中心に調べてください。

なお参考書⑦は単著であり極めてコンパクトな記述が特徴ですので、テキスト①を読む際歴史の流れを理解するのに役立ちます。

4 成績評価基準 リポート作成の際、参考文献等はリポートの末尾に文献名を列挙するだけでなく、参考にしたまたは引用した箇所それぞれに註等をつけ、著作者名、刊行年、文献名（単行本のタイトル、共著の場合は章のタイトル、学術雑誌に掲載された論文の場合は論文のタイトルと論文が掲載されている雑誌名等）、参考にしたまたは引用した箇所のページが参照できるようにしてください。参考文献等の書き方がわからない場合は、法政大学図書館のウェブサイト「レポート・論文を書くには」<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>に記載されている「参考文献の書き方」や、「学習支援ハンドブック」を参考にしてください（著作者名、刊行年、文献名、該当ページといった必要な情報が記載されていれば書式は問いません）。

リポートでは、学術書（註付きの論稿、参考書②～⑥を含む）ないし学術雑誌に掲載された論文を、1冊（1本）以上使用してください。

最終成績は単位修得試験により評価します。単位修得試験はテキスト①の内容にもとづいて実施するので、十分な準備をして臨んでください。問題の本質や歴史的な意義を正確に理解し、論理的に作文できているかに比重をおいて評価します。

5 テキスト名および詳細 【テキスト】

①石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社、¥3,700+税
※指定市販本（各自購入）

【参考書】

②桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史1 原史東南アジア世界』2001年、岩波書店
③石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史2 東南アジア古代国家の成立と展開』2001年、岩波書店
④石井米雄他編『岩波講座東南アジア史3 東南アジア近世の成立』2001年、岩波書店
⑤桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史4 東南アジア近世国家群の展開』2001年、岩波書店
⑥斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史5 東南アジア世界の再編』2001年、岩波書店
⑦古田元夫著『東南アジア史10講』（岩波新書 新赤版 1883）2021年、岩波書店

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評することでフィードバックします。

参考文献等に記載された情報を参考にしたまたは引用した箇所それぞれについて、情報の出所が不明なレポートは再提出いただきますのでご注意ください（【成績評価基準】の項目を確認してください）。

Outline and objectives Outline: Surveying the history of Mainland Southeast Asia

Objectives: Learning basic knowledge and understanding problems about the history of Mainland Southeast Asia

HIS300TD（史学 / History 300）
東洋史特講（中国現代史）
教科担当責任者：塩沢 裕仁
担当者：竹茂 敦 単位数：4単位

1 学習の到達目標 (1)辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期の中国への理解を深めること、(2)中国近現代史に関する先行研究や史料を収集・読解・整理するために必要な能力を養うこと。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期を対象とする。受講者には導入としてテキストを熟読してもらった上で、「設題総覧」の課題に従ってレポートを作成し、単位修得試験を受験してもらう。レポートについては、自らテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（書籍、論文等）や史料を収集・整理し検討を加えて執筆してもらう。単位修得試験については、テキストで扱っている内容から出題する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。
〔レポート〕主に以下の点を総合的に勘案して評価する：①テーマ＝2,000～3,000字という限られた紙幅に適當で、独自性のあるテーマを設定できているか、②参考文献・史料＝自ら定めたテーマに適した先行研究（書籍、論文等）や史料を探し出すことができているか、③記述内容＝歴史展開がきちんと整理できているか▽参考文献や史料に基づいた実証的な考察（根拠を示した論証）ができているか▽テキスト・参考文献からの抜き書きではなく、自らの言葉で叙述できているか、④体裁・構成＝大学生のレポートとしての体裁や構成が整っているか▽とりわけ、「はじめに」でレポートのテーマについての説明（目的、意義など）が、「おわりに」で結論がそれぞれ提示され、「参考文献一覧」「注」が付いているか。
〔単位修得試験〕歴史的な事項・人物について、時系列的な展開、時代的な背景や歴史的な意義などを理解した上で、整理した記述ができているかを評価基準とする。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋史特講（中国現代史）』第1版、栃木利夫、1982年（※前・通教テキスト『中国現代史』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

〔レポート〕2,000字から3,000字という字数制限を考慮して、レポートのテーマは焦点をよく絞り込むこと。図書館の蔵書目録（OPAC）や各文献の「参考文献一覧」などを活用して、テーマについてできるだけ詳しく言及している書籍・論文や関連する史料を探し出し（概説書ばかりに頼らないよう注意されたい）、それらをよく読み比べること。執筆に際しては、先行研究や史料に基づいた考察に重点をおくこと（テキスト・参考文献の文章の継ぎ接ぎや、歴史的な事件・人物に対する概説的なまとめや漠然とした指摘にならないように注意されたい）。

〔単位修得試験〕テキストで扱っている内容から出題する。テキストを熟読し、「設題総覧」で挙げている参考文献なども適宜参照して、基本事項の理解を深めておくこと。

Outline and objectives This course introduces the his-

tory of modern China, a period between the outbreak of the 1911 Revolution (also called Xinhai Revolution) and the establishment of the People's Republic of China.

The main aims of this course are: (1) to help students acquire knowledge about China's modern era; (2) to help students learn methods of historical research, such as evaluating major previous studies, critical analysis of historical materials, etc.

Grading will be based on reports and examination.

ECN300TD（経済学 / Economics 300）

経済史A

教科担当責任者：杉浦 未樹

担当者：杉浦 未樹

単位数：2単位

- 1 学習の到達目標** 1) 中世から現代に至るまでの経済発展を、国際的な相互連関の中で歴史的に理解し、主要な転換点を説明できるようになる。
- 2) グローバル経済における格差構造や権力関係について、具体的な史料・事例を用いて比較分析できるようになる。
- 3) 歴史的事実に基づき、論理的かつ一貫した学術的文章（レポート）を構築できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 本講義は、中世から現代に至るまでの市場経済の歴史を、国際的連関の中で比較・分析する力を養うことを目的とする。生産・流通・金融・財政に加え、土地制度や企業経営の変化を取り上げ、国家・帝国・地域経済の構造転換を多角的に検討する。毎月の試験課題を通じて、7～9世紀の唐・イスラム・キリスト教世界、モンゴル帝国、産業革命への批判的検討、19世紀の大陸間経済、世界恐慌、ドル・オイルショックなどの歴史的転換点などを考察し、グローバル経済史の基礎的理解と論述力を育成する。

4 成績評価基準 リポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) リポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年、¥ 2,800+税金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』（第2版）名古屋大学出版会、2020年、¥ 2,700+税金※初版（2010年）も使用可

参考図書

奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives This course explores the historical development of the market economy from the late sixth century to the present day, focusing on its evolution within global networks of exchange, production and power. Through monthly written assignments, students will engage with significant milestones in global economic history, considering how regional systems across Europe, West Asia, the Indian Ocean, East Asia and the Pacific interacted, converged or diverged over time.

The course will examine long-term structural changes in land regimes, industries, trade systems and state institutions, reflecting on how these transformations have

shaped global integration and persistent inequalities. It considers the ways in which economic shifts were embedded in broader political, social and technological contexts.

By engaging with these themes, students will develop three core competencies: (1) the ability to explain the global development of economies from the medieval period onwards; (2) the capacity to analyse inequalities and power relations within the global economy using concrete historical evidence; and (3) the ability to produce empirically grounded, logically structured academic essays.

ECN300TD（経済学 / Economics 300）
経済史B
教科担当責任者：進藤 理香子
担当者：杉浦 未樹、渡邊 伸弘 単位数：2単位

- 1 学習の到達目標** 1) 日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2) またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3) 論理的な文章が書けるようになること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

4 成績評価基準 リポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012年、¥ 2,700+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives 【Course outline】

This course covers historical development of Japanese economy. It deals with topics that are relevant in understanding the historical evolution of institution, market, and society in Japan. It aims to clarify current state and problems of Japanese economy with a historical perspective.

【Learning Objectives】

- 1) To understand how the market economy has developed in Japan.
- 2) To understand how domestic and international factors have influenced this development.
- 3) To be able to write logical sentences.

【Grading Criteria /Policies】

When grading your report, you will be highly evaluated if you meet the following points.

- 1) Do not copy word for word from textbooks or reference books, etc.; be sure to state your own thoughts.
- 2) Use the footnote function to clearly state the references you used when writing the report.
- 3) Be careful not to write wrong or omitted letters.
- 4) Write in paragraphs.
- 5) Observe the word count standards.

HIS300TD（史学 / History 300）
西洋史特講（西洋哲学史）
教科担当責任者：内田 康太
担当者：白根 裕里枝 単位数：4単位

1 学習の到達目標 古代ギリシアに始まる古代哲学、その後のキリスト教哲学を中心にした中世哲学、それに続く近・現代哲学へと至る西洋哲学史の基礎知識を、通教テキストを通して把握することで、それぞれの時代にどのような問題が問われてきたのか、その思想は後の時代にどのような影響を与えたのか、そしてまた、それらは今日の我々にとってどのような意味を持つのかといった点の理解を深め、西洋哲学への歴史的視野の形成を図ることを全体として目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 哲学は古代ギリシアで誕生した。まずは、古代哲学の流れに沿って、イオニア・イタリアでの自然哲学や、アテナイにおけるソフィストとソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学、さらにはヘレニズム期・ローマ期の哲学を学ぶ。次に、中世哲学の流れに沿って教父哲学・スコラ哲学・普遍論争を学んだ上で、さらに、近世・近代哲学の流れに沿ってルネサンス哲学・大陸合理論哲学・イギリス経験論哲学・ドイツ観念論哲学を学ぶ。最後に、現代哲学の流れに沿って生命の哲学・分析哲学・現象学を、通教テキストを拠りどころにして学ぶ。以上のことに併せてその時代思潮についても考察し、その影響を理解する。哲学者たちは、それぞれの時代に、世界について、国家や人間について、いかに考えたのか。その思想は歴史の流れの中でどのようにして生まれ、引き継がれ、影響を与えあいながら、発展していったのか。哲学史の流れに沿って、それら真理追究の足跡を追ってゆく。

4 成績評価基準 ・リポート評価基準

リポートについては、まず通教テキストをしっかりと読んで理解した上で、設問に十分適切に答えているかどうかを判定基準とする。難しいと思われた箇所も、テキストをよく読んで、理解を深めるように努めること。その上で課題の箇所を丁寧に要領良くまとめること。必要な場合のみ、参考書を用いて補うように。まずはテキストをよく読んで自分の理解を深めてから記述すること。テキストや参考書の丸写しでは十分な理解に達しているとは見做されない。また、リポート書式の形式（①段落分けの適切性 ②文頭と文末の対応が取れているか ③誤字、脱字の有無 ④注は適切か ⑤引用の仕方は適切か ⑥引用した文献の提示の有無などにも注意すること。自分の言葉で適切に表現できるよう、まずは自分でその思想内容に興味を持って、深く理解するように努めることが重要となる。

・単位修得試験

単位修得試験では、通教テキストの全体的内容から出題する。そこでテキスト全体をよく読んで理解しておくことが大事である。特にリポートの課題箇所について、念入りに勉強しておくことが必要とされる。評価基準は、上記のリポート評価基準と同様の基準を適用し、哲学史についての習熟度に応じて成績を評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（西洋哲学史）』（第1版）、鶴岡 健、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評

でフィードバックする。まず何よりも通教テキストをよく読んで理解した上で、レポートの設題の意図、試験の出題の意図をよく考えて、必要かつ十分な解答をするよう努めること。答えは、しっかり構想を練った上で、筋道を立てて論述すること。作成した答えを最後によく読み返して、時間の許す限り、必ず推敲を行うこと。テキストやネットからの丸写しは当然ながら、解答とは見做されない。必要な場合のみ、参考文献を用いて補うように。他の文献を参考にした場合には、文献名及びページ数を必ず明記すること。

★AIについては、自分で書いた文章の手直しも含めて、AIを用いた答え、AIを参考にしたと思われる答えも、一切評価しない。疑わしい場合を含めて、不合格とすることがありうるので、AIを一切利用しないように注意すること。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire a basic understanding of the history of Western philosophy.

By the end of the course students should be able to grasp the outline of Western philosophy from its development among the ancient Greeks to the present.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

西洋美術史

教科担当責任者：小林 ふみ子

担当者：濱西 雅子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 西洋美術の名作について、図像（主題、内容）、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深めることを目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

3 科目の概要 美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。本科目では、西欧古典古代から、中世ロマネスク・ゴシック、近世ルネサンス、近代19世紀の時代にかけて、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる美術作品を考察の対象とする。課題のなかから各自作例を選択し、具体的に美術史的なアプローチを行うことにより、様々な側面からの理解を深めることを目指す。また文化交流という視点も併せて考えたい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 高階秀爾監修、『カラー版 西洋美術史』[増補新装版]、美術出版社、2002年、¥1,900+税

本書は古代から20世紀末までの西洋美術の歴史を、340点の豊富なカラー図版とともに、時代ごとに建築・彫刻・絵画・工芸各分野にわたりわかりやすく概観するものである。2002年刊行の増補新装版には、1990年刊行の旧版に、最終章と簡単な用語解説等が加えられている。本文のコラムとともに、こうした巻末の用語解説、新たな美術史年表も学習の手引きとされたい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

まずテキストを通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。

その上で各自レポート課題に沿った専門文献に当たり理解を深めることが望まれる。すなわち、入門書・通史概説書以外にも、個別の課題に沿った美術史の専門文献を広く参照する必要がある。

そして選択した作品の基本データ（制作年代・規模等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、造形的表現の特質、美術史上の意義等について考察して欲しい。西洋美術史の専門文献で得た知識を基に、与えられたテーマについて自ら論ずる力をみる。

なお美術史の専門文献を三点以上参照し、実際に用いた文献データ（参照ページも忘れずに）をレポート末に明記すること。
＜参考文献表の注意点＞

書籍の場合は、著者名（ないし編者名）、二重鍵括弧（『 』）の中に書名、出版社、発行年、参照ページの順で記載する。専門誌掲載論文の場合は、著者名、論文のタイトル（一重鍵括弧「 」で囲む）、掲載誌名（二重鍵括弧『 』で囲む）、号数、発行年、参照ページの順で記載する。例：

法政信子編『ラファエロ画集』講談社 2016年 pp. 114-120
法大通教著「ミケランジェロ《ピエタ》を巡る一考察」『市ヶ谷大学 文学部紀要』第21号 2012年 pp. 7-18

なお、参考文献表と註は、別個に表記する。また、註に挙げた文献は、参考文献表にすべて含める。

<インターネット検索時の注意点>

●検索対象：

図書館の利用が厳しい状況にある場合は、その代替措置としてインターネットによる専門家の情報の検索が求められる。ただしインターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物(Wikipedia、個人のBlogやHP等)を参照することは厳禁とする(部分的にも利用した場合は、評価の対象外)。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式HPの専門家による解説等を参照すること(他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること)。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史(ないし建築史)の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

●検索先：

1. IRDB (学術機関リポジトリデータベース) IRDB検索画面：<https://irdb.nii.ac.jp/> (「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し、電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なお IRDB 検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。)

2. CiNii (サイニー、サイニィ、サイニイ) 国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面：<https://ci.nii.ac.jp/ja> など

●検索キーワード：

1. 「画家名」 2. 「作品名」 3. 「論文」 4. その他「美術」といった分野名等各自様々な工夫をこらし検索をかける。

Outline and objectives Art history is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In this course, from Western European classical ancient, medieval Romanesque / Gothic, early modern Renaissance, modern 19th century era, art works taking a variety of expression forms such as architecture, sculpture, painting, crafts etc. are considered. By choosing each example from among the subjects and conducting a specific artistic approach in concrete terms, we aim to deepen understanding from various aspects. Also think about the perspective of cultural exchange.

HIS300TD (史学 / History 300)

西洋史特講 (キリスト教史)

教科担当責任者：内田 康太

担当者：山野 貴彦

単位数：4単位

※レポート(第1回・第2回)一括提出不可

1 学習の到達目標 (1)旧新約聖書の分析を通して、ユダヤ教およびキリスト教の成立史を理解する。

(2)聖書の著者および編者たちの多様な思想を各々の社会背景をふまえて理解する。

(3)聖書の主要な登場人物たちに帰される各々の思想をその社会背景をふまえて理解する。

(4)キリスト教がユダヤ教から分離・独立してゆく過程を思想面および政治面の双方から理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 旧新約聖書の分析を大きな歴史的枠組みから行うことにより、以下のような問いに対する理解を深めることが求められる：

- ・古代イスラエルの宗教からどのようにユダヤ教が形成されてゆくことになったか
 - ・イエスが生きた時代のユダヤ教にはどのような特徴があり、イエスの活動や思想はそれとどのようにかかわっていたのか
 - ・イエスの死後どのようにキリスト信仰というものが生まれたのか、また、パウロを通してそれはどのように展開されていったのか
 - ・キリスト教はなぜユダヤ教から分離することになったか
 - ・ユダヤ教およびキリスト教はなぜ「聖書」を持つに至ったか
- これらの問いは古代史の一断面として興味深い課題であると同時に、後の歴史にも大きな影響を与える二つの宗教の出発点の理解という意味でも重要である。

分析に際しては、聖書に書かれている内容そのものを知るに留まらず、それらが書かれた時代について、またそれらとの関連において著者・編者が残した記述の意図を読み取る分析的な視点が必要となる。

この課題に関して、聖書に加えて「4. テキスト名および詳細」に記した参考文献を精読し、旧約新約聖書時代の歴史の全体像をおさえるとともに、聖書の各著者・編者、主要な登場人物の思想を理解されたい。

参考文献を読むに際しては、必ずそこに言及されている聖書箇所を自ら読み、なぜそのように解釈できるのかを把握することが必須となる。

聖書にはいくつかの版があり、基本的にはどれを利用してもよいが、日本聖書協会発行の『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書 続編つき』が推奨される。レポート／試験は聖書および参考文献から出題される。

レポートについてはその他の参考文献を利用することも歓迎するが、注に必ず出典を明記すること。

レポート課題は、旧約聖書および古代ユダヤ史から2問、新約聖書および初期キリスト教史から2問の計4問が出題される(2単位の受講生は、それぞれから各1問)。試験問題も、旧約聖書(ユダヤ教)および新約聖書(キリスト教)それぞれから各1問ずつ出題される。

4 成績評価基準 成績は単位修得試験・レポートの内容に

よって評価される。

レポートについては、聖書と参考文献を照らし合わせながら精読し、理解した事柄を課題に即して、参考文献の単なる引用接続や要約にならないようにしつつ聖書テキストを根拠に示し、自分の言葉で適切に表現できているかどうかを評価する。

単位修得試験については、テキスト及び参考文献の内容を適切に理解できているかどうかを評価する。

5 テキスト名および詳細 【テキスト】指定市販本『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書統編つき』日本聖書協会 2018年：標準サイズ（小型）¥4,000+税（その他の訳、版でも構わないが、旧約と新約の両方が必要）

【参考文献】

- ・山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』（岩波現代文庫 学術98）岩波書店、2003年、¥1,100+税
- ・佐藤研『聖書時代史 新約篇』（岩波現代文庫 学術99）岩波書店、2003年、¥1,100+税
- ・M.ティリー／W.ツヴィッケル『古代イスラエル宗教史 先史時代からユダヤ教・キリスト教の成立まで』（山我哲雄訳）教文館、2020年、¥4,200+税
- ・浅野淳博『新約聖書の時代 アイデンティティを模索するキリスト共同体』、教文館 2023年、¥4,200+税

以下は絶版であるが、入手できるのであればぜひ手に取られたい（価格は刊行当時のもの）

- ・上村静『宗教の倒錯——ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店、2008年、¥2,800+税
- ・上村静『旧約聖書と新約聖書——「聖書」とはなにか』新教出版社、2011年、¥2,000+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

(1) レポート作成に当たっては、設題に関係する聖書箇所および参考文献を精読し、根拠を示しつつ論ずること。他の文献からの参照・引用もありうるが、インターネットからのコピー＆ペーストを行わないこと。著者の解釈に疑問や異論がある場合には、根拠を記して反論すること。

(2) 参考文献はメモを取りながら（ページ数を付して）読み、章ごと、節ごとにまとめておくとレポートおよび試験に対応しやすい。

(3) 引用文には、著者、書名、ページ数を付すこと。

(4) 聖書および参考文献からの引用は必要最小限にとどめること。

(5) 聖書の各文書と箇所は、略記してよい（例：マタイによる福音書20章1-16節＝マタ20:1-16、ローマの信徒への手紙7章1-20節＝ロマ7:1-20、コリントの信徒への手紙一 15章3-5節＝Iコリ15:3-5等。各文書の略記の仕方については、テキストとして指定されている聖書の目次にある略語も参照）。

Outline and objectives (1) To understand the history of the formation of Judaism and Christianity through the analysis of the Old and New Testaments.

(2) To understand the various ideas of the biblical authors and compilers in the context of their social backgrounds.

(3) To understand the ideas attributed to the major biblical characters in the context of their social backgrounds.

(4) To understand the process of separation and independence of Christianity from Judaism from both ideological and political perspectives.

HIS300TD（史学 / History 300）

西洋史特講（ロシア史Ⅰ）

教科担当責任者：皆川 卓

担当者：濱本 真実

単位数：2単位

1 学習の到達目標 17世紀初頭までのロシア史の流れを把握している。各時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 教科書およびその他の参考文献の自主学習と、レポートの作成により、古代から17世紀初頭までのロシア史について理解するための科目です。

教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。

レポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

4 成績評価基準 単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。

レポートについては、設問に対応したレポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行っているか、レポートが適切に構成され、文章が整っているかを評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ⅰ）』第1版、加藤一郎、1997年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ⅰ（ロシア古代中世史）』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

レポート作成にあたっては、『自立学習の手引き』、『通信学習シラバス・設題総覧』の「レポートの書き方」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その内容をよく整理し、考察してから書くこと。学説にも注意し、教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら必ず読み直し、誤字脱字がないか、文章が整っているかなどを確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from ancient times to the early seventeenth century. Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

HIS300TD（史学 / History 300）
西洋史特講（ロシア史Ⅱ）
教科担当責任者：皆川 卓
担当者：濱本 真実 単位数：2単位

1 学習の到達目標 17世紀初頭から1960年代のロシア・ソ連史の流れを把握している。各時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 教科書およびその他の参考文献の自主学習とレポートの作成により、17世紀初頭から1960年代までのロシア・ソ連史について理解するための科目です。

教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。

レポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

4 成績評価基準 単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。
レポートについては、設問に対応したレポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行っているか、レポートが適切に構成され、文章が整っているかを評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ⅱ）』第1版、倉持俊一、1980年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ⅱ（ロシア近代史）』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

レポート作成にあたっては、『自立学習の手引き』、『通信学習シラバス・設題総覧』の「レポートの書き方」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その内容をよく整理し、考察してから書くこと。学説にも注意し、教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら必ず読み直し、誤字脱字がないか、文章が整っているかなどを確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from the early seventeenth century to 1960's. Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

HIS300TD（史学 / History 300）
西洋史特講（アメリカ史）
教科担当責任者：皆川 卓
担当者：岩崎 佳孝 単位数：4単位 ※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 アメリカ合衆国は、政治、経済、社会、文化など多くの面において、日本との関わりが非常に長く、深い国である。

本科目では、合衆国の歴史を18世紀後半から19世紀にかけての重要な局面から学ぶことによって、合衆国という国家の性質とその意味について、歴史的に理解できるようになることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 アメリカ合衆国の歴史についての理解を深める。まずは通信教育部指定テキストによって、さらには参考文献を読み込むことによって知識と理解を深め、そこからまとめたレポートを提出し、最後に単位修得試験を受験する。

4 成績評価基準 最終成績は、レポート提出に伴う学習をしっかりと行った上で、最後に単位修得試験によって評価する。
・レポート評価

設題に対し正確な知識を得た上で、構成を検討し、まとめる必要がある。その際には、答えるべき重要な論点を適切にまとめ、それを指定テキストや参考文献の丸写しではない、自分の言葉で書き表すことが重要である。

単なるまとめに終わらず、そこに自身の「考察」がなされていれば、さらに望ましい。

参考文献から引用した場合、それを明らかにするため、使用した参考文献を必ずレポートの末尾に列記すること。

文章は、日本語の文章としておかしい点がないか、具体的には主語と述語が一致しているか、コンマや段落で適切に区切られているか、誤字、脱字がないか等について、十分に注意すること。

・単位修得試験

単位修得試験には、レポート設題の復習や、指定テキストや参考文献の熟読などによって十分に準備して臨むこと。文章の正確さは勿論のこと、問われている歴史的事象の具体的内容や時系列の理解、専門用語の理解、歴史的意義についての解釈の理解がどの程度なされているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（アメリカ史）』第1版、清水 博、1976年
（※ 前・通教テキスト『アメリカ史』）

【主要参考文献】

有賀 貞・大下 尚一・志邨 晃佑・平野 孝『アメリカ史〈1〉 17世紀～1877年』山川出版社、1994年、¥5,343

有賀 貞・大下 尚一・志邨 晃佑『アメリカ史〈2〉 1877年～1992年』山川出版社、1994年、¥5,343

紀平 栄作編『アメリカ史 (YAMAKAWA SELECTION)（上・下）』山川出版社、2019年、各¥1,320

木村 和男編『カナダ史(新版 世界各国史)』山川出版社、1999年、¥3,630

6 学習指導、注意点等 本科目の指定テキストを、指定さ

れた参考文献も参照しつつ熟読し、レポートを作成すること。レポートによっては、指定された参考文献以外からも積極的に学ぶことが望ましい。

レポートには、添削・講評を行うことによってフィードバックする。返却後、それをもとに復習を行うこと。

その他、設題総覧も参照し「特記事項」に留意すること。

Outline and objectives This course aims to promote better understandings of American history.

After developing their understandings of American history through the prescribed textbook and references, the participants are expected to submit reports and then take a unit test.

HIS200TD（史学 / History 200）

日本考古学

教科担当責任者：小倉 淳一

担当者：板倉 欽之、小倉 淳一

単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本考古学の概要と方法を学び、考古学によって検討されてきた日本列島を中心とする歴史過程について、物質資料にもとづいて理解するとともに、自らの力によって具体的な遺跡や考古学的事象、学説、研究方法などを提示・解説することができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 指定市販教科書（テキスト）によって、考古学の概要と方法、それにもとづく成果を十分に理解するための通信学習科目とする。考古学の方法と資料をもとに、それらから再構成することのできる歴史過程や社会の姿を学び、それを基礎にレポートを提出し、単位修得試験を受験することとする。レポートにおいては、日本考古学に関する特定のテーマをもとにした課題を設定する。これは単に教科書の内容を焼き直すものではなく、自ら資料を探索し、それらを提示するとともに、解釈・要約して独自の検討を加えて立論するべきものである。よって、大学生としてオリジナリティーのあるレポートを作成することを求める。また、筆記試験においてはテキストの内容をもとに出題するので、十分な準備をして臨むことを期待している。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかり行うこと。）

・レポート評価

学術レポートとしての体裁を整えるとともに、独自の内容をもつことがレポート成立の第一条件である。表題や章立てを工夫するとともに参考書等にひろくあたること。特に実際の遺跡に関しては発掘調査報告書等を参照すること。それらを利用できる公立図書館等の活用も望ましい。物質文化を扱うレポートであるから、必要に応じて図表や写真を添付し、解説の水準を高めること。また、註や参考文献を付して引用を明らかにした上で、レポートとしての体裁を整えること。評価にあたっては構成・内容も重視する。

・筆記試験

テキストの内容をもとに出題するので、内容を十分に理解しておくこと。一般的に、歴史学系の試験においては、学術分野の考え方や方法をふまえているか、専門用語等の正しい理解がなされているか、歴史事象の時系列上の整理ができているか、事実（資料）をもとにした歴史解釈が正しくなされているか等が評価基準となる。本科目においても上記の基準をもとにして、物質資料を扱う分野としてふさわしい立論がなされているか、物質文化にもとづいた検討結果をふまえた答案が書かれているかどうかを重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『はじめて学ぶ考古学』（改訂版）（有斐閣アルマ）、有斐閣、佐々木憲一・小杉康・菱田哲郎・朽木量・若狭徹、2023年、¥2,500+税
※初版（2011年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートについては添削・講評でフィードバックする。

テキストは「考古学の考え方と方法」「考古学からみた日本列

島の人類史」の二部構成になっている。初学者のためにわかりやすくまとめられているので、まずは全体を読み通し、内容を十分に理解した上で学習を進めてほしい。筆記試験はテキストの内容から出題するので、テキストを深く読み込むことが重要である。

なお、本テキストは平易な入門書の体裁をとっているため「です・ます」体によって全体の記述が統一されているが、試験・レポートでは学術文献を意識して「である」体で記述すること。

Outline and objectives The aim of this course is to learn about archaeological research methods and the history reconstructed by archaeology.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本史特講（対外関係史）

教科担当責任者：大塚 紀弘

担当者：宇都宮 美生

単位数：4単位

1 学習の到達目標 四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、諸外国からみた日本との交流について理解を深めていく。

その国際的な視野と、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識を身につける。

また、レポートや試験を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定テキストに基づき、日本の交流史を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してレポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、十分に準備して試験に臨む。

4 成績評価基準 レポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などレポートの体裁を整える（2000字程度:40字×50行前後、もしくは20字×100行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：村井章介監修/海津一朗・稲生淳編著『MINERVA歴史・文化ライブラリー：世界史とつながる日本史—紀伊半島からの視座』ミネルヴァ書房、2018年、3,800円+税

6 学習指導、注意点等 ・通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

・学習にあたり、テキストの論考を理解していく。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。レポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

・レポートはインプット（学ぶ）した知識をうまくアウトプット（書く）できるように練習し、専門の先生の添削によりいい文章がかけられるようにするための最良の機会であるため、これを利用して自己向上させてほしい。最終的にはこの積み重ねを経て、いい卒論が書けるように心がけてほしい。したがって、生成AIや概説書からの丸写しをしないよう充分注意すること。

【参考文献】（レポートに記載する参考文献の書き方は以下を参照すること）

●鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800

円+税

●村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税

●中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税

●簗原俊洋・奈良岡聡智編『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税

●田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

※このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してください。

【論文検索】

CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>)

Outline and objectives This course introduces an understanding of Japanese history in respect to international relations with other Asian countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Grading will be decided based on reports (100%).

HUG300TD（人文地理学 / Human geography 300）

文化地理学

教科担当責任者：村田 陽平

担当者：朝倉 慎人

単位数：4単位

※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 文化地理学は、幅広い内容を有するがゆえに、アメリカなどでは時に「人文地理学」とほぼ同内容の学問分野であると考えられているほどである。したがって、本科目の履修後は、「文化地理学」によって構想されたものの基本的な考え方を了解し、同時に「人文地理学」全般に通底する思想・考え方を学ぶことを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 「文化地理学」的なものの見方・考え方を身に着けることを目指す。

4 成績評価基準 ・レポート評価

設題をしっかりと読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。必然性のない部分は思い切って削ること。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をレポート全体の2割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること

5 テキスト名および詳細 指定市販本 森正人・中川正著『文化地理学ガイダンス・改訂版』、2022年、ナカニシヤ出版、¥2,400+税*

*初版（2006年）ではないので注意すること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

本テキストは、各章末にある課題に取り組みながら、自分でテキストに示された骨格に肉付けしてゆく努力が必要である。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic and contemporary Cultural Geography

HUG300TD（人文地理学 / Human geography 300）
経済地理学
教科担当責任者：甲斐 智大
担当者：南 春英 単位数：4単位

1 学習の到達目標 経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

4 成績評価基準 成績評価は設題に対するレポートと単位修得試験による。

レポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年、¥3,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

成績評価基準に書いた通り。レポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのレポートは引用によって成り立つものである。必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にしたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかりと理解した上で臨むこと。

Outline and objectives Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

HUG100TE（人文地理学 / Human geography 100）
人文地理学概論(1)
教科担当責任者：村田 陽平
担当者：村田 陽平 単位数：2単位

1 学習の到達目標 人文地理学の全体像を大づかみに把握し、それが形成されてきた時代的背景（学説史）などにも目を配りながら、同時に学習者各自の興味関心をその文脈の中に位置づけること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目のテキストでは、「人文地理学とは世界の多様さを知りその依って立つ基盤を考える学問分野である」と規定している。そして、その多様さの実相を、できるだけ身近な材料の中から学び取り、地理学的思考を日常生活の場から鍛えることを促す内容になっている。このテキストにしたがって、地理学にとって非常に重要な分布図（主題図）の読解を中心におきながら、地理学的な発想および思考を身につけることに努める。

4 成績評価基準 ・レポート評価

設題をしっかりと読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。必然性のない部分は思い切って削ること。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をレポート全体の2割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること。なお、最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際には先に提出されたレポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『人文地理学概論(1)(2)』第1版、中俣均・近藤章夫・片岡義晴・小原文明・伊藤達也・米家志乃布著、2014年刊行 の第1部「人文地理学概説」の部分

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。本テキストは、上記「科目の概要」に記されているような観点から書かれているが、しかしこれが人文地理学とは何かという問いへの唯一の解答だというわけではない。できれば人文地理学を概説した市販の教科書をいくつか参照しながら、その内容を本テキストと比較してほしい。また、自分の普段の暮らしの中で接する様々な情報（たとえば新聞記事など）の中に、分布図（主題図）がどれだけ活用されているかを注意深く意識してほしい。分布図をたくさん「読む」ことは、地理学的発想を身につけるのに非常に有効な手段だからである。

Outline and objectives This course deals with the fundamental thinking about Human Geography, especially on thematic maps.

GEO100TE（地理学 / Geography 100）

自然地理学概論(1)

教科担当責任者：小寺 浩二

担当者：小寺 浩二、森本 洋一

単位数：2単位

areas of Japan.

1 学習の到達目標 地理学的重要な一分野である自然地理学を総合的に学習する。人間活動の主要な舞台である地球表面の自然環境を総合的に理解することで、地域の特徴が理解できるようにする。また、様々な人為が自然環境に与える影響についても、日本の様々な地域での具体的な事例をもとに学習する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 自然地理学の基礎となる「気候学」、「地形学」、「水文学・陸水学」について基礎的な知識を学び、日本国内の様々な地域での「人為の影響による自然環境変化」について具体的な調査結果のデータから学ぶことで、総合的な力の育成をはかる。

レポート設題での具体的なデータをもとにした解析・考察でさらに理解を深め、単位修得試験に向けた教科書の再学習で知識の定着をはかる。

4 成績評価基準 教科書の学習を踏まえたレポート設題で、具体的な課題に取り組む能力の育成をはかり、そのステップを踏んだ上での単位修得試験の結果で成績を評価する。

インターネットで集めた情報や、参考書類などからの内容をそのまま要約して転記するような姿勢ではなく、自身が当事者になった場合を想定し、具体的な議論をできるかどうかが重要である。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『自然地理学概論(1)』第2版、小寺浩二、2020年,346pp.
(※ 前・通教テキスト『地理学概論』)

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

教科書では、日本国内の具体的な課題についての調査結果を中心に示しているが、それらの正しい理解のためには、基本的な自然地理学に関する知識が必要なので、テキストに示された参考文献などを中心に、自然地理学全般に関する知識を補う学習をする必要がある。

レポート設題も、単位修得試験も、そうした総合的な学習を前提として問題が出されているので、テキストの学習だけでは不十分であると考えて頂きたい。なお、レポート回答時に「設題解答にあたっての解説・注意」をよく吟味すること。

総合的な学習を進めた上で、しっかり時間をかけて具体的な資料・データを収集しレポート課題に取り組み、添削指導結果を踏まえて再学習した上で、単位修得試験に臨むことを期待する。

Outline and objectives The purpose of this lecture is to study natural geography comprehensively, which is an important area of geography.

By comprehensively understanding the natural environment on the surface of the earth, which is the main place of human activity, we will be able to understand the characteristics of many region. In addition, we will learn about the influence that various human behavior has on the natural environment based on specific examples in various

HUG100TE（人文地理学 / Human geography 100）
地理調査法（人文編）
教科担当責任者：佐々木 達
担当者：佐々木 達、前畑 明美 単位数：4単位

1 学習の到達目標 人文地理学の卒業論文を作成する上で必要とされる基礎的技術を身につけること、それと同時に人文地理学における論文の形式、人文地理学の論文のまとめ方を学ぶこと、それがこの科目の到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 5つの設題をこなしていくことによって、人文地理学の卒業論文作成に必要な基礎的技術を身につけていきます。論文を読み読書ノートを作成すること、論理を実証するための図・統計地図を作成すること、研究目的を達成するためのオリジナルな調査票を作成すること、論文の中でもっとも重要な論理、それを示す目次案を作成すること、それらが各設題の意図です。

各課題をこなしていくことによって、卒業論文作成の技術を身に付け、同時に人文地理学の論証方法を学んでいきます。

4 成績評価基準 リポートは設題（1）～（5）すべてを同時に提出し、それらにすべて合格することによって試験に合格したと見なし、単位が与えられます。リポートそのものが試験なのです。5設題のうち1つでも不合格の場合は、当該設題について再提出を求めます。

設題（1）は論文を正確に読み、過不足なく適切に要約できているか否か、設題（2）・（3）は資料（統計等の「原典」）に自らあたり、それをもとに独自に図・統計地図を作成し、それらに基づいて論理展開できているか否かがそれぞれ評価基準です。図の表現方法の適切さも評価基準の1つに含まれます。設題（4）は研究目的が適切に設定され、その目的達成のためにオリジナルな資料（既存の統計等では得られない資料のこと）を得ようとしたとき必要になる「調査票」が適切であるか否か、設題（5）は研究目的を実証するための論理展開、それが反映されることになる「目次」が明確であるか否か、それらが評価基準です。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『地理調査法（人文編）』第1版、山口不二雄、1992年

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。どこかの報告書の図表や調査票を転載したり、二次資料を利用することでは、この科目の目的は達成されません。資料や統計等の「原典」にあたり、それを加工、つまり図や表を作成し、それらに基づいて論理展開できるように心掛けて下さい。そのためには、まず最初に論文を正確に読むことから始めなければなりません。論文に示されている図表には、使用した資料名が明記されています（図表の下に「資料」とか「出典」等として明記されています）。それらを参考にして資料や統計の原典（具体的な資料・統計名）を確認し、それらを探すことから始めて下さい。

Outline and objectives Reading papers, drawing figures, putting results into tables, putting questionnaires, making a table of contents, etc.

GEO100TE（地理学 / Geography 100）
地理調査法（自然編）
教科担当責任者：山口 隆子
担当者：狩野 真規 単位数：4単位

1 学習の到達目標 地理学を構成している主要分野である「自然地理学」を学ぶ上で必要とされる基本的な実習作業を適正に学び・習得することに本科目の目標がある。これは卒業要件となっている「卒業論文」の作成に際しての統計処理や図作成作業を習得する基礎的な科目として位置づけている。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 上記の目標達成のために、自然地理学を構成している地形・地質、気候・気象、水文などの各分野における基礎的な実習作業の狙いとその作業手順を適正に理解・習得するため、分野に偏りなく課題を課して、その作業結果をもとに達成度を相互に認識することを、主目的に実施する。

4 成績評価基準 この科目の性格から、通常の筆記試験での評価は馴染まない。そこで自然地理を構成する各分野の課題に総合的な課題を加えて、通常よりも1設題多い、計5設題を課して、その設題への作業結果などをもとに評価する。各設題とも8割以上の適正な作業結果、および作業の正確度を一つの目安としてチェックした上で、5設題合計でこの科目の最終評価としている。よってすべての課題の解答が単位認定の基準となる。なお、設題は5設題を一括して提出すること。また、紙媒体の「設題総覧」を合わせて読むことを求める。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『地理調査法（自然編）』第1版、東郷正美・佐藤典人・井上奉生、1983年

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。前項の指定テキストを十分に読み、基本的な作業の狙いと手順を適正に理解した上で、個々の設題に取り組むことが、結果的に時間的にも無駄が少なく、単位修得への近道となる。それゆえ往々にして見られる、設題に関連していそうなページのみをつまみ食いの読んで対応しているリポートもあるが、結局、不正確な内容が多くて、時間的にはロスとなっている。

Outline and objectives This course introduces the basic knowledge of practical work required to learn the "Physical geography" to students taking this course. It is positioned as a fundamental subject to master statistical processing and graphic drawing work in preparing "Graduation thesis" which is a requirement for graduation.

HUG100TE（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学概論(2)

教科担当責任者：甲斐 智大

担当者：甲斐 智大

単位数：2単位

1 学習の到達目標 人文地理学は、いくつかの下位分野（分岐）からなる。本科目は、それら下位分野の内容（対象と方法）をそれぞれ大づかみに把握し、その分野の基本的知識を整理・獲得するとともに、自らの関心分野の方向性について自己確認することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目は、上記のような人文地理学を構成する各下位分野が、どのような対象に対しどういった方法・視点によってそれを分析・考察するものであるかを、できるだけ平易かつ具体的に学ぶものである。必ずしも各下位分野の取り扱う内容や方法の詳細に踏み込むものではない。

4 成績評価基準 ・レポート評価

設題をしっかりと読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。自分勝手な自己流の解釈ではいけない。また、長々と書かれたレポートは、えてして出来のよくないものになることが多い。必然性のない部分は思い切って削る勇気をもつこと。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をレポート全体の2割以下とし、直接引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること。

・生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『人文地理学概論(1)(2)』第1版、中俣均・近藤章夫・片岡義晴・小原文明・伊藤達也・米家志乃布著、2014年刊行 の第2部～第4部の部分。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの各章は、それぞれの分野を専門とする教員の手によって執筆されている。まずはテキスト全体を、細部にあまりこだわらずにざっと読んでその内容をつかみとり、そのうえで自分の興味をひかれた個別の章から、ノートを取りつつ詳細に読み込んでいくとよい。

Outline and objectives This course deals with knowledge about some subdivisions of Human Geography, including Economic, Social and Historical one.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

経済地理学

教科担当責任者：甲斐 智大

担当者：南 春英

単位数：4単位

1 学習の到達目標 経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

4 成績評価基準 成績評価は設題に対するレポートと単位修得試験による。

レポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年、¥3,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

成績評価基準に書いた通り。レポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのレポートは引用によって成り立つものであるため、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にしたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかりと理解した上で臨むこと。

Outline and objectives Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）
人文地理学（都市）
教科担当責任者：小原 文明
担当者：伊藤 達也 単位数：4単位

1 学習の到達目標 この科目では、地理学、とりわけ都市地理学の観点から、都市における諸現象を理解することを目標とします。具体的には、都市に関わるさまざまな理論を踏まえつつ、都市における経済、社会、政治、文化などの諸現象について、その要因や影響などを理解できるようになることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 この科目は人文地理学のうち、特に「都市」に関わる地理学を学ぶものです。都市を「点」（研究対象・単位）として、あるいは「面」（研究フィールド）として捉え、それぞれの観点に基づく事象について学んでいきます。具体的には、「点」としての観点では都市システムや都市分類などについて、「面」としての観点では都市化や都市構造、都市圏構造、都市における産業などについて学びます。また、創造都市やコンパクトシティ、多文化共生、都市災害、都市問題など現代に関わる事象についても考えていきます。

4 成績評価基準 主として単位修得試験の結果を成績評価に反映させます。ただし、2回のレポートの評価も成績評価に加味するので留意してください。

単位修得試験およびレポートの評価は、都市地理学の原理・理論が正しく把握できているのか、都市に関わる諸現象の要因・プロセス・影響などを理解できているのか、具体的なデータに基づく空間に則した分析・考察ができているのか、そしてアカデミックな文章作成のルールが守られているのか、などのポイントを総合的にみて判断します。

5 テキスト名および詳細 <指定市販本>

藤井 正・神谷浩夫編著（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、¥2,600+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。

この科目では地理学の観点から都市を理解し、分析・考察する力を修得することを目指しますが、都市におけるさまざまな事象を扱う授業の性質上、地理学のみならず、社会学や経済学、行政学、都市計画学など隣接分野の関連文献にも注意を払うことが求められます。

また、レポート作成の際には以下の点に留意してください。

- ・文献を引用・参照する場合は、必ずルールにしたがって、引用元・参照元を明示するようにし、自身の意見であるのか、あるいは既往文献の見解であるのかの区別がつくように気を付けてください。

- ・統計など具体的なデータを基に分析し、議論を展開するようにしてください。

- ・レポートには表題（タイトル）を付けてください。

<参考文献>

北川建次編（2004）『現代都市地理学』古今書院、2,600円+税
高橋伸夫・村山祐司・菅野峰明・伊藤 悟（1997）『新しい都市地理学』東洋書林、2,500円+税

林 上（2012）『現代都市地理学』原書房、3,800円+税

Outline and objectives This course introduces the urban geography to students taking this course. Especially, this course deals with the concepts and the phenomena of urbanization, urban structures, urban industries, creative cities, compact cities, multicultural symbiosis, urban disasters and urban problems.

The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to consider the causes and influences of various phenomena in urban areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学（農業）

教科担当責任者：佐々木 達

担当者：佐々木 達

単位数：4単位

※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 グローバリゼーションが進む日本の経済社会において、食料・農業・農村を取り巻く状況は一層厳しさを増している。本科目は、フードシステムとフードチェーンからみた食料問題、戦後の農業地域の変動の特徴と直面する課題今後の展望、農山村の変貌課程を把握するとともに、世界の中の日本農業のおかれた現状を把握することによって、農業地域が変動するメカニズムと今後の展望を見出すことができるようになることをめざします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目は、第1章～第5章において農村地理学の概要とグローバル化が農村空間をどのように捉えているのかを学習する。第7章～第8章では農業地域の変動とそのメカニズムについて学習する。第6章では食料問題、第9章以降では事例研究を通じて農業・農村の変貌課程とその対応を学んでいきます。

4 成績評価基準 テキストだけでなく、受講者による参考文献や資料の作成に基づいて、①読解力（テキストの正確な理解）、②整理力（テキストの要点を把握）、③構想力（テキストから自分なりに問題点を洗い出す）、④表現力（参考文献や資料から自己の主張を展開する）、⑤論理的思考（実証的かつ全体通して一貫した考察）から総合的に評価します。なお、テキストの「丸写し」は評価対象外です。

5 テキスト名および詳細 ・指定市販本

『現代農村の地理学』、古今書院、岡橋秀典著、2020年、¥ 2,600+税
・単位修得試験およびレポート作成のための参考文献

『キーワードで読む経済地理学』、原書房、経済地理学会編、2018年、¥3,800+税

『経済地理学事典』、丸善出版、経済地理学会編、2024年、¥26,400+税

『経済地理学への招待』、ミネルヴァ書房、伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編、2020年、¥3,500+税

『日本農業の地域構造』、大明堂、長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編、1978年、¥1,800+税

『フードシステムの経済学第6版』、医歯薬出版株式会社、時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博、2019年、2,500円+税

『アグリビジネスと現代社会』、筑波書房、冬木勝仁・岩佐和幸・関根佳恵、2021年、3,000円+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストや参考文献の「丸写し」は進歩につながりません。そこに記載されている「現象」を大きな「仕組み（＝構造）」、たとえば日本の社会・経済、世界の社会・経済の中に位置づけ、その現象は、それらの「何」を反映しているのか考えながらレポートを作成して下さい。

テキストに記載されていることがらも決して「鵜呑み」にせず、「疑い」の目を向けつつ読んでいって下さい。参考文献もまた、同様に「鵜呑み」は厳禁です。

レポート作成に際し、参考・引用した文献がある場合は、それを明記して下さい（著者、タイトル、発行・出版年、雑誌名、発行・出版社、ページ等）。これは地理調査法（人文編）でも学んだことです。

Outline and objectives This lecture aims to understand the characteristics and mechanisms of change, focusing on food issues, agricultural issues, and rural areas.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）
人文地理学特講（地域・産業・生活）
教科担当責任者：佐々木 達
担当者：佐々木 達、佐藤 秀夫 単位数：4単位 ※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 (a)地域で多くの雇用を生み出してきた基盤産業の成長から衰退に至る過程を辿りながら、産業構造の転換が地域経済社会に及ぼす影響について理解することをめざします。

(b)戦前と戦後の都市経営の歴史を学びながら、人口減少時代における都市の在り方について理解することをめざします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 (a)日本における地域経済社会の変容について、産業構造の観点から学習します。特定の産業に雇用が集中する地域は、基盤産業の衰退によって経済活動の縮小や人口流出に見舞われてきました。基盤産業の盛衰が地域経済社会をどのように変容させてきたのかについて、各地域の事例を踏まえて考えます。

(b)少子高齢化が進む日本では、都市部においても将来的な人口減少が避けられない事態となっています。人口減少時代に都市の生活空間や社会資本をどのように再構築していくのかについて、「縮退都市」や「コンパクトシティ」に関する事例に学んでいきます。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。レポートについては、テキストの「丸写し」ではなく、設題を指示にしたがって内容を論理的に記述することを心がけてください。レポートおよび単位修得試験ともに、テキストを読み込んでいるか、適切な文章表現で内容を整理できているかが評価の基準となります。

5 テキスト名および詳細 (a)指定市販本『地域衰退』（岩波新書）、岩波書店、宮崎雅人、2021年、¥900+税

(b)指定市販本『人口減少時代の都市』（中公新書）、中央公論新社、諸富徹、2018年、¥800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポートの作成はあくまで自分自身の文章で書くのが基本です。レポート作成の際に参考・引用した文献がある場合は、レポートの末尾に一覧にして明記してください（著者、タイトル、発行・出版年、雑誌名、出版社、頁数など）。

Outline and objectives Main subjects :

(a) Understanding the impact of changes in industrial structure on local economies and societies.

(b) Understanding the direction of cities in a period of population decline.

HUG300TD（人文地理学 / Human geography 300）
文化地理学
教科担当責任者：村田 陽平
担当者：朝倉 慎人 単位数：4単位 ※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 文化地理学は、幅広い内容を有するがゆえに、アメリカなどでは時に「人文地理学」とほぼ同内容の学問分野であると考えられているほどである。したがって、本科目の履修後は、「文化地理学」によって構想されたものの基本的な考え方を了解し、同時に「人文地理学」全般に通底する思想・考え方を学ぶことを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 「文化地理学」的なものの見方・考え方を身に着けることを目指す。

4 成績評価基準 ・レポート評価

設題をしっかりと読んで、その狙いがどこにあるかを確かめることがまず大切。必然性のない部分は思い切って削ること。テキストや参考文献からの引用に際しては、総量をレポート全体の2割以下とし、引用部分はカッコでくくってその出典を明示すること。

・単位修得試験

テキストの内容から出題されるので、人名や概念的事項などポイントを押さえた学習を心がけること

5 テキスト名および詳細 指定市販本 森正人・中川正著『文化地理学ガイダンス・改訂版』、2022年、ナカニシヤ出版、¥2,400+税*

*初版（2006年）ではないので注意すること。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

本テキストは、各章末にある課題に取り組みながら、自分でテキストに示された骨格に肉付けしてゆく努力が必要である。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic and contemporary Cultural Geography

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

歴史地理学

教科担当責任者：米家 志乃布

担当者：米家 志乃布

単位数：4単位

1 学習の到達目標 本授業では、歴史地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができることが目標です。歴史地理学は、地理学の一分野として歴史を扱う学問です。幅広い内容をカバーしているため、多くの文献や史資料を読みこなす必要があります。本授業では、歴史地理学の基本的な史料である「地図」を用いて、どのように地理学的に歴史を考えることができるのか、その考え方を学びます。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 歴史地理学は、過去の地表面に繰り広げられた先人の足跡あるいは思想を明らかにすることを研究目的とします。現在の地形図はもちろん、過去の地図（古地図）や文献史料・考古学的遺物など、様々な史資料を用いて、景観復原を行います。テキストを読み、具体的な研究方法や考え方を学び、関連の参考文献や論文などを読んで、歴史地理学的な考え方を身に付けていきましょう。

4 成績評価基準 最終的には単位修得試験で評価いたします。ただし、レポートにもきちんと取り組んでください。レポートでは、形式を守っているかどうか、そのうえでテキストを理解し、著者の歴史地理学的な考え方を理解できたかどうか、論評できているかどうか、を基準とします。また、参考文献を利用した場合は、適切に利用しているかどうか、もチェックします。単位修得試験では、テキストに記述されている内容を正しく理解できているかどうか、を基準とします。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 足利健亮『地図から読む歴史』講談社学術文庫、2012年、1,250円+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。本テキストは、著者による大学での講義録がもとであり、歴史地理学初心者にもわかりやすく学問の楽しさを伝える工夫がなされています。テキストの各回のトピックを丹念に読み、著者の主張を正しく理解する必要があります。大学の教室で授業を受けているつもりで、じっくりと読んでください。また、著者の扱ったトピックを理解するためには、それらの基礎的な知識を勉強する必要があります。基礎知識が足りない場合は、内容の理解も難しくなるので、地理や日本史の用語辞典や地名事典、概説書などで勉強してください。

Outline and objectives This course is to explain methodology of historical geography through old various maps.

GEO100TE（地理学 / Geography 100）

自然地理学概論(2)

教科担当責任者：小寺 浩二

担当者：小寺 浩二、小室 隆

単位数：2単位

1 学習の到達目標 地理学的重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について理解を深める。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、生物地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。

4 成績評価基準 テキストの学習を踏まえたレポート設題に取り組み、その添削指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で単位修得試験を受け、その結果をもとに成績評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ2）、朝倉書店、高橋日出男・小泉武栄編著、2008年、¥ 3,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストの内容は多岐にわたるが、15章全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、レポート設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

単位修得試験では、そのステップを踏まえて、総合的な問題が出るので、改めてテキストを学習しなおして受験することを期待する。

Outline and objectives Learn the fundamentals of natural geography, an important area of geography, grasp the natural environment as a stage of human activities in the area, and deepen their understanding of the interrelationship between human beings and society and the natural environment through analysis.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地学概論
教科担当責任者：前杵 英明
担当者：越後 智雄 単位数：4単位 ※レポート（第1回・第2回）一括提出不可 ※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更・スタディガイド刊行

1 学習の到達目標 地球の現在の姿、地球内部の物質と構造、地球の形成の歴史および地殻変動や火成活動をもたらすプレートテクトニクス等についての基礎的な事項を正しく理解し、知識を習得することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 地球史を踏まえて地球の現在の姿を総合的に理解する。とくに固体地球についての理解を深めるために、地球の構成とそれをつくる物質、プレートテクトニクスと地殻変動・火成活動、古生物からみた地球史について詳しく学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかり行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『地球惑星科学入門 第2版』在田一則、竹下徹、見延庄士郎、渡部重十、北海道大学出版会、2015年、¥3,300（税込）
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。

6 学習指導、注意点等 まずは指定教科書とスタディガイドを熟読すること。その上で、最新の地球科学の内容を補うため、以下の参考書を読むことを推薦する。わかりやすい映像教材として、NHKが制作した「地球大紀行」「地球大進化」はDVD製品として販売されており、本科目の導入として見ておくことを推奨する。このほか、以下の図書も参考となるので、参照しておくことよい。

日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』、古今書院、1987年、¥2,300+税

川上伸一・東條文治著『図解入門 地球史がよくわかる本』第2版、秀和システム、2009年、¥1,980+税

平 朝彦著『地質学1～3』、岩波書店、2001～2007年、1: ¥5,000+税、2: ¥6,900+税、3: ¥4,000+税

Outline and objectives Students should get fundamental knowledge of earth science.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学（地形）
教科担当責任者：前杵 英明
担当者：前杵 英明 単位数：4単位

1 学習の到達目標 地球表面の形態である地形について、地形を決定する要因（スケール、時間、作用、物質、環境）に関して理解し、基礎的な知識を身に付けることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 地球システムの中での地形の意味、地形を形成する作用（内作用、外作用）について理解した上で、日本列島の地形の成り立ちを例に、各地形形成作用（重力、河川、海岸、氷河、火山、地殻変動など）、および形成される地形の特徴、形成メカニズムなどについて学習する。また農業的土地利用や自然災害など、人々の生活に関係した事象がどのように地形と結びついているかについても考察する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年、¥4,500+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストおよびスタディガイド（学習指導書）を熟読すること。下記の参考文献は理解を深めるために大変役立ちます。図書館や地理学科事務室などで見られるものもあります。

『写真と図で見る地形学』（復刻版）、太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年（初版は1985年）、¥4,800+税

『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年、¥4,200+税

『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年、¥1,080+税

『日本の地形1～7』米倉伸之ほか編、東京大学出版会、2000～2006年、各巻で価格が違います

『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年、¥800+税

『江戸・東京地形散歩』松田磐余、之潮、2009年、¥2800+税

『江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013年、¥1800+税

『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021年、¥6300+税

Outline and objectives Students will get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学（生物・土壌）
教科担当責任者：前空 英明
担当者：三浦 英樹 単位数：4単位 ※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 私達の最も身近にあり、恩恵に浴している土壌や植生に着目し、それらの分布様式のもつ規則性を理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 土壌の定義、土壌の生成作用について述べ、土壌は自然条件によってその特性を異にすることを詳述する。その上で、世界の土壌の分布特性を考察する。特に、気候条件、植生の条件などにより、土壌特性が異なっていることを理解してほしい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『世界の土壌』、古今書院、EM・ブリッジズ著、2004年、¥3,600+税
テキストは法政大学生協で購入して下さい。
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。【学習にあたっての注意事項】テキストを十分に読んで理解して下さい。
【参考文献】藤井一至『土 地球最後のナゾ』（光文社新書）、藤井一至『土と生命の46億年史 土と進化の謎に迫る』（講談社ブルーバックス）、福嶋司『図説 日本の植生（第2版）』（朝倉書店）。その他、専門用語がわからない場合は、『地学事典』（平凡社）、『地形の辞典』（朝倉書店）などを活用して下さい。

Outline and objectives Students should get fundamental knowledge of vegetation and soil science.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学（気候・気象）
教科担当責任者：山口 隆子
担当者：山口 隆子 単位数：4単位 ※2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更・スタディガイド刊行

1 学習の到達目標 自然地理学の主要分野の一つである気候・気象学に関して学ぶことが本科目の目的である。昨今の気候環境や地球温暖化の問題が強く叫ばれている関係から、多くの関心を集めている本科目に関わる基礎的な内容を適正に理解することが到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 大気に関して地理学の視点から学ぶことが本科目の根幹的な狙いである。そのためには、大気物理である気象学の必要最低限の知識を踏まえつつ、「気候学」の基礎、すなわち大気現象のスケールに応じて、大気候、総観気候、中気候、小気候、微気候、応用気候の各分野を適正に理解することが肝要なので、履修者にはその点を要請する。

4 成績評価基準 基本的には、通信教育の基礎である設題へのレポート作成を通して、気候学の理解度をチェックし、2設題に合格した後に、単位修得試験（筆記試験）を課している。
最終的な評価は、筆記試験を基礎にして評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：仁科淳司（2025）『やさしい気候学 第5版』、古今書院、149p、2,800円+税
※【スタディガイド（学習指導書）】あり

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。
まずスタディガイド（学習指導書）〈自然地理学（気候・気象）〉を読み、スタディガイドに記載の参考文献を読みつつ、指定テキストを読み、学習を進めてほしい。

Outline and objectives This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学（海洋・陸水）
教科担当責任者：小寺 浩二
担当者：小寺 浩二、大八木 英夫 単位数：4単位
※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 自然地理学を学ぶ上で地理学における重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な「水圏」に関する基礎知識の習得を目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 基礎水文学として、水収支・水循環の視点から、水の性質が、その場所の環境とどのように反応し、その場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。

4 成績評価基準 教科書による学習を踏まえた上で、2つのレポート設題に答え、単位修得試験での3つの問題に適切に回答することが条件である。レポートと試験結果を総合して評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第1.2版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年、294pp.

6 学習指導、注意点等 水循環・水収支を基礎として、「河川」、「地下水」、「湖沼」、「雪氷」、「海洋」など、総合的な力を修得することを期待する。

また、教科書で示されている各地域での具体的な事例にとどまらず、様々な地域の水環境や水問題についても興味を持って学習を進めてほしい。特に、レポート設題では、具体的な地域を選定して、実際のデータを収集し、図表などを作成した上で、自分なりの解析を行った結果をまとめることを求めているので、そうした総合的な力の育成も平行して求めている。

それらの十分な学習を踏まえた上で、単位修得試験に取り組むことが必要なので、十分な時間をかけて学習して頂きたい。

Outline and objectives For learning the physical geography, we aim to acquire basic knowledge on systematic "hydrosphere" about "Oceanography and limnology" field in geography.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地誌学概論
教科担当責任者：米家 志乃布
担当者：川元 豊和 単位数：4単位

1 学習の到達目標 「所かわれば品かわる」といわれるように、各地域で見られる生活様式も多様な様相を呈しています。これらの生活様式の多様性を地理的現象（自然的現象や人文的現象など）の諸要素のかかわりあいから捉える視点を養うことを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 地誌とは、「土地の記述」という意味です。その記述の視点と方法を学ぶのが本科目の主要な目的の1つです。まず、どのような空間スケールで地域を設定するのか、そして、設定された地域の特色（個性）は、どのような地理的現象によって表現されるのか、その際、地域の特色を醸し出す地理的現象を構成するいくつかの「意味ある事象」を見出すことが重要です。それらの事象の関連から地域の特色について記述を加えてほしいところです。なお、現在見られる地域的諸現象は歴史的層積性の上に成立し、変化してきたことも考慮してほしいところです。特に、テキストの「1. 地誌学の視点と方法」を熟読してください。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）レポートおよび単位修得試験の評価は、地誌学的な視点が正しく把握されているのか、対象地域の空間的スケールに即した考察がなされているのか、そして設題内容を正しく理解し、記述されているのか、などです。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『地誌学概論(第2版)』（地理学基礎シリーズ3）、朝倉書店、矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著、2020年、¥ 3,400+税
※初版（2007年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成の際、テキストや参考文献からのそのままの引用（丸写し）は避けてください。レポートの文章のなかで引用部分はカッコで区切り、誰の見解なのかを明確に示してください。参考文献からの引用があるときは、必ずその出典（著者名・発行年・文献名・発行所・参考または引用頁など）を明記してください。また、具体的な統計資料が必要な場合は、出来るだけ最新のものを示してください。多くの国々の統計局が、インターネット上に統計資料を公開しています。インターネットにアクセスできない人は、矢野恒太郎記念会編『世界国勢図会』国勢社や山川出版編集部編『データブック・オブ・ザ・ワールド』山川出版などを参考にしてください。なお、地図帳で対象地域の位置を確認しながら、学習を進めてほしいと思います。

<参考文献>

長谷川典夫『地誌学研究―地誌作成法とその実例―』、大明堂、1994年

矢ヶ崎典隆・椿真知子編『世界の国々を調べる―改訂版―』（東京学芸大学地理学会シリーズ4）、古今書院、2012年

鳥居高編『マレーシアを知るための58章』、明石書店、2023年

Outline and objectives This course is to study geographical issues in the world. Hear say that "Different places have different customs", each place proves various way of life (genre de vie) under geographic interrelationships between physical and human environments. Regional Geography means "description on the land (earth)". This course introduces some viewpoints and methods on the land to students taking this course. Hope that students read about Viewpoint and Method of Regional Geography in Chapter 1 on the textbook.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

日本地誌(1)（自然編）

教科担当責任者：山口 隆子

担当者：山口 隆子、内藤 次郎、前奎 英明、中山 秀晃
単位数：4単位

1 学習の到達目標 地理学を構成している地誌の分野の一つとして本科目は位置づけられている。それゆえ「地誌」的な見方に立脚して、日本の自然地理的な現象の理解を図ることが本科目の狙いである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目では、自然地理を構成している地形、気候、水文の各分野の視点から日本の自然地理的事象を地誌的に捉え・理解することを狙いとしている。よってそれらの事象の特性を、地域単位、および日本全体で履修者には適正に理解して欲しい。

4 成績評価基準 本科目は、前項に示したように主に3分野で構成しているので、まず各分野ごとのレポート設題を指示に従って選択して作成することが要求される。それらのレポートに合格した後、単位修得試験(筆記試験)を受験することを要求している。その筆記試験の結果で最終的な評価をする。ただし、評価に臨んでは、個々の分野を担当する複数の教員の評価を総合して評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本地誌 I（自然編）』第2版、三井嘉都夫、市瀬由自、佐藤典人、1994年
※【申告制】テキスト

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。まず指定のテキストを十分に読むことから学習を始動して欲しい。その上で、各設題を念頭に、個々の設題で何が求められているのか、熟慮し、下書き作成に入ってほしい。この下書きを書いては、修正を入れ、この作業を数回した上で、清書することを要請する。またレポート全体の構成を意識することは言わずもがなである。なお、参考となる書籍を読まれることは自由であるが、出典の文献明記はお忘れなく。

Outline and objectives This course introduces the basic knowledge of the physical geographical phenomena in Japan to students taking this course.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
日本地誌(2)（人文編）
教科担当責任者：甲斐 智大
担当者：前畑 明美 単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本は、世界各国の中でも面積は決して小さくはなく、人口が大変多いという特徴を持っている。さらに日本列島は南北に長く、地域は多様である。本科目では、こうした地域の特徴や多様性を、特に人文・社会現象に着目して理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 日本各地の地域の特徴、多様性について、地域のユニークな現象としてではなく、日本、そして世界を貫徹するメカニズムの一環として理解することは大変難しい。テキストとして使用する地理教育研究会編『授業のための日本地理 [第5版]』は、そうした地域の多様性に貫徹する法則に注意を払いながら記述されたものであり、わが国の地域的多様性の理解において大変優れたテキストである。テキストの各章には、全国各地の代表的なトピックが適切に記述されている。最新情報を入手しながら、ぜひ熟読いただきたい。

4 成績評価基準 成績評価は、設題によるレポートと単位修得試験の総合評価による。レポートについては、特に引用文献を適切に提示することに注意すること。丁寧な推敲によってレポートの完成度が高められているか、こうした点も評価のポイントとしたい。単位修得試験に際しては、必ずテキストをすべて読み、重要点を理解した上で臨むこと。

生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 地理教育研究会編『授業のための日本地理 [第5版]』古今書院、2010年、¥3,000+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

成績評価基準に書いた通り。レポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くの学習レポートは引用によって成り立つものであるため、必ず、どの文献のどの部分を引用したのかがわかるように記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にして欲しい。また、一度書き上げてからの推敲も、さまざまな発見の機会となる。ぜひ大切な学びの時間として捉えていただきたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかりと理解した上で臨むこと。

Outline and objectives One of the characteristics of Japan is that its area is not small compared to other countries in the world, and its population is very large. In addition, the Japanese archipelago is long and narrow from north to south, and the regions are diverse. The objective of this course is to understand the characteristics and diversity of these regions, focusing particularly on the humanities and social phenomena.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
世界地誌(1)（アジア）
教科担当責任者：小寺 浩二
担当者：小寺 浩二、齋藤 圭 単位数：4単位

1 学習の到達目標 地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 アジア全域を対象とした地誌から、気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴とアジア各地の違いを理解する。その上で、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

特に、東アジアを中心に詳細に記述された地誌により、日本との比較を行い、日本の地誌についてもアジアにおける位置づけの中で理解を深める。

4 成績評価基準 テキストの学習を踏まえたレポート設題により、理解を深め、テキスト内容に即した単位修得試験の結果により、成績を評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『世界地誌Ⅰ（アジア）』第1版、多田文男、1972年
※【申告制】テキスト

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストは、出版年が古いため、最近の変化についてはふれられていない。テキストの学習によって得られた知識と理解をもとに、様々な文献にあたって、近年の状況についても理解を深める努力をしてほしい。

特に、レポート設題でも単位修得試験でも、現在のアジアの状況を前提とした問題となっているので、注意されたい。

【参考文献】

- 倉嶋厚著『モンスーン 季節をはこぶ風』河出書房新社、1972年、¥580+税
- 朝倉正他著『新版気象ハンドブック』朝倉書店、1995年、¥28,000+税
- 鈴木秀夫著『風土の構造』講談社、1988年、¥800+税
- 河野通博編『世界地誌ゼミナールⅠ東アジア』大明堂、1971年、¥1,800+税
- 岩田慶治編『世界地誌ゼミナールⅡ南アジア』大明堂、1972年、¥2,175+税
- 上野和彦編『世界地誌シリーズ2 中国』朝倉書店、2011年、¥3,400+税
- 菊地俊夫・小田宏信編『世界地誌シリーズ7 東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014年、¥3,400+税
- 気象庁のWebサイト（『各種データ・資料』のページなど）
- 各社地図帳

※現在入手困難な出版物も含まれますので、図書館等も利用してください。

また、複数の会社から出版されているいわゆる「地図帳」（名称は様々）は、毎年更新されており、様々な主題図や最新の情報が開催されていますので、参考にしてください。

Outline and objectives In geography, along with sys-

tematic geography, understand the fundamentals of important "regional geography", in particular, learn Asia's specific geographical region as a target area of world journals and wide-area geographies, Learn about the description method.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

世界地誌(2)（アメリカ・大洋州）

教科担当責任者：小原 文明

担当者：伊藤 達也

単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目では、アメリカ・大洋州を対象地域として、地誌学的なモノの見方・考え方を理解し、修得することを目標とします。そして、それを踏まえて、対象地域に関連するあらゆる事象の要因・プロセス・影響・相互関連性などについて分析・考察できるようになることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 地理学には地誌学（特殊地理学）と系統地理学（一般地理学）がありますが、地誌学とは、ある地域の特徴を記述することから、その地域の特徴を浮かび上がらせることを目的としています。

この科目では、世界のなかでも南北アメリカ・大洋州（オセアニア）を対象とし、それぞれの地域の特徴について、主にその地域を構成する国家を中心に、さまざまな参考文献や統計・図表を用いて理解することが求められます。また、レポートや単位修得試験においては、上記の理解の下に、自分なりの視点で設題について論述する必要があります。

4 成績評価基準 主として単位修得試験の結果を成績評価に反映させます。ただし、2回のレポートの評価も成績評価に加味するので注意してください。

単位修得試験およびレポートの評価は、アメリカおよび大洋州に関わる現象の要因・プロセス・影響などを理解できているのか、地誌学的なモノの見方・考え方（それぞれの事象を有機的に関連させて考える）が正しく把握できているのか、具体的なデータを用いて空間に則した分析・考察ができているのか、そしてアカデミックな文章作成のルールが守られているのかなどのポイントを総合的にみて判断します。

5 テキスト名および詳細 ＜指定市販本＞

矢ヶ崎典隆・椿真智子編（2012）：『世界の国々を調べる（改訂版）』古今書院、¥2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。

地誌学の性質上、対象地域に関わるさまざまな事象を扱います。それゆえ、教科書および下記の参考文献にとどまらず、多くの文献を用いて学習することが望まれます。その際、地誌学や地理学の文献だけでなく、あらゆる学問分野の文献を参照し、その内容を地誌学的なモノの見方・考え方に則して把握することが必要となります。

また、レポート作成の際には以下の点に留意して下さい。

- ・文献を引用・参照する場合は、必ずルールにしたがって、引用元・参照元を明示するようにし、自身の意見であるのか、あるいは既往文献の見解であるのか区別がつくように気を付けてください。

- ・統計など具体的なデータに基づいて分析結果などを議論するようにしてください。

- ・レポートには表題（タイトル）を付けてください。

＜参考文献＞

熊谷圭知・片山一道編（2010）『オセアニア 朝倉世界地理講座15』朝倉書店、¥19,000+税

小塩和人・岸上伸啓編（2006）『アメリカ・カナダ 朝倉世界地理講座13』朝倉書店，¥16,000+税
 小林 泉・加藤めぐみ・石川栄吉ほか監修（2010）『オセアニアを知る事典（新版）』平凡社，¥5,200+税
 坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）『ラテンアメリカ 朝倉世界地理講座14』朝倉書店，¥18,000+税
 ダベース, O.・ルオー, F.（2017）『地図で見る ラテンアメリカハンドブック』原書房，¥2,800+税
 モンテス, C.・ネデレク, P.（2018）『地図で見る アメリカハンドブック』原書房，¥2,800+税

Outline and objectives This course introduces the regional geography of the Americas and the Oceania to students taking this course.

The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

世界地誌(3)（欧・アフリカ）

教科担当責任者：小原 文明

担当者：齋藤 圭

単位数：4単位

1 学習の到達目標 本科目は世界の諸地域のなかでも、ヨーロッパ、ロシア、アフリカの国々について自ら調べ、その特徴を理解し、記述することを目標とします。これらの学習を通して、各国についての知識と深い理解を得るとともに、現代世界を自らの眼で考えるように訓練することが本科目の目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目は網羅的な学習ではなく、ヨーロッパの国々のなかでも、EUの主要国であるドイツ、歴史的に大きな影響力をもつイギリス、かつて日本と深いかかわりのあったポルトガル、広大な隣国ロシア、アフリカの優等生と呼ばれるケニアに絞って、一般常識的な知識や理解を超えて、より深く学びます。これらの国々を深く学習することにより、自分なりに日本と異なる国々の在り方を理解し、それらを通して、世界における日本を相対化し、広い視野を身につけることができると考えます。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験で評価します。ただし、試験はレポート学習を前提とした内容を予定しています。レポートでは設題の趣旨に沿って、自分なりに調べたデータで各国の特徴を理解し、記述できているかどうかを評価します。試験ではテキストの理解を第一とし、試験問題に対して的確に答えているかどうかで判断します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 矢ヶ崎典隆・椿 真智子編『世界の国々を調べる（改訂版）』古今書院，2012年，¥2,800+税
 上記書籍のロシア、ヨーロッパ、アフリカの部分をテキストとします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

（1）レポート作成について

設題の意図を理解したうえで、参考文献や統計データなどをもとに、自分の言葉で記述してください。

（2）試験について

テキストの記述を十分理解してください。ロシア、ヨーロッパ、アフリカの部分をくり返し通読し、それをもとに自分の言葉で書けるようにしてください。

Outline and objectives The goal of this course is for students to research, understand, and describe the characteristics of the countries of Europe, Russia, and Africa, among other regions of the world. Through these studies, students will acquire knowledge and a deep understanding of each country, and will be trained to think about the modern world through their own eyes.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地図学

教科担当責任者：山口 隆子

担当者：福與 直人

単位数：4単位

※2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 1. 地図の原理と特性の理解

測量・投影法などの科学的基盤と、記号化などの表現原理を学び、地図というメディアの特性を論理的に説明できる。

2. 読図能力の習得

地形図や防災・環境などの主題図から、地域の自然プロセス（地形・地質）や社会的課題を科学的に読み解くことができる。

3. デジタル地図の適正活用

WebGISやオープンデータの仕組みと利用ルール（著作権等）を理解し、現代的な空間情報を適切に扱うリテラシーを身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目は、地理情報の主要な表現・伝達媒体である「地図」について、その理論的・技術的背景を体系的に学習する。具体的には、地図投影法や測量法などの基礎理論に加え、近代測量からGNSS・リモートセンシングに至る空間データ取得技術の変遷、国土地理院の地図事業や防災利用といった社会的枠組みを解説する。これらを通じ、紙地図からデジタルデータ（WebGIS・オープンデータ）へと展開する現代の地図情報を、科学的根拠に基づいて適正に利用・評価する能力を養う。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮することがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：
『地図づくりの現在形—地球を測り、図を描く』（宇根寛著、講談社、2021年、¥1,900）
『デジタル社会の地図の読み方 作り方』（若林芳樹、筑摩書房、2022年、¥820）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。本科目を学ぶ上では、地図学と測量学に共通する幅広い分野の理解が必要である。従って地理・歴史はもちろんのこと、その他に数学・測量・情報などといった多岐にわたる関連分野に興味を持ち、知識を吸収してほしい。

Outline and objectives 1. Understand map principles: Students will learn the scientific foundations (such as surveying and projections) and design principles (such as symbolization and generalization) to explain the characteristics of maps logically.

2. Reading skills: Students will be able to scientifically interpret natural processes and social issues using topographic maps and thematic maps (e.g., for disaster prevention).

3. Use digital maps appropriately: Students will understand the mechanisms and rules (such as copyright) of WebGIS and open data to handle modern spatial information correctly.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学概論

教科担当責任者：内田 康太

担当者：秋山 千恵

単位数：4単位

1 学習の到達目標 歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定市販テキストにもとづいて、歴史学とは何か、史料とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。また、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、現在、歴史学はいかなる問題に直面しているのかを把握していきます。

4 成績評価基準 指定のテキストをよく読み込んで、内容を理解し、自分なりにまとめているかどうかを評価します。構成、引用、参考文献などレポートの体裁を整えているかどうかにも重視します。最終成績は単位修得試験により評価しますが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する場合があります。単位修得試験はテキストである指定市販本の内容にもとづいて出題しますので、試験を受ける前に、各章ごとに要点をまとめて全体を見通しておくといよいでしょう。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『岩波テキストブックスα 歴史学入門 新版』岩波書店、福井憲彦、2019年、¥2000+税
歴史学とは何かという問題を、現在直面している諸状況のもとで、研究事例を挙げながら丁寧かつわかりやすく論じています。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。テキストの各章で何が論じられているのかを考えながら読んでください。また、テキストとあわせて、以下の文献なども参考にしてください。
リュシアン・フェーブル著長谷川輝夫訳『歴史のための戦い』平凡社ライブラリー 1995年
マルク・ブロック著松村剛訳『新版 歴史のための弁明—歴史家の仕事』岩波書店 2004年
二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波現代文庫 2016年

Outline and objectives This course introduces the foundation of science of history to students taking this course.

HIS300TD（史学 / History 300）
日本史概説
教科担当責任者：松本 剣志郎
担当者：川上 真理 単位数：4単位

1 学習の到達目標 ・日本史の個々の史実を通史的・概説的に理解する。
・史実を列島社会に固有の文化的伝統との関連のなかで解釈する方法を身につける。
・日本人のアイデンティティの確立にとって、日本史上の個々の史実は如何なる意味を持っていたのかについての見通しを得る。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 原始、古代、中世、近世、近代の通説的な時代区分にそって、政治の展開と社会経済の動きを、日本文化の発展との関係において理解する。

4 成績評価基準 ・最終成績は単位修得試験により評価するが、レポート学習もしっかりと行うこと。
・レポート作成では、まず個々の事象についての通説を正確に理解し、それぞれの事項がどのような事実であるか、それらが各時代でどのような意義を持つものであるかに留意すること。また、同時代の他の事象との相互関連や、前後の時代との関連にまで視野を広げて考察すること。
・構成・引用・参考文献などレポートの体裁が整っていることは必須である。また、教養本・ハウツー本や大学受験参考書ではなく、専門性のある文献を参照すること。
・試験は、歴史用語を正しく理解していること、歴史的事象を時系列で整理し、事実に基づく解釈を行っていることを重視する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概説日本歴史』吉川弘文館、2000年、¥1,900+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。歴史的な用語については『国史大辞典』を、具体的な史実に関してはテキスト以外の専門的な書物を、それぞれ参照して理解を深めること。

参考文献として、若干紹介しておく。

○朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000年、¥2,800+税

○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000年、¥700+税

○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史00）講談社、2000年、¥2,200+税

○大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座日本歴史』全22巻、岩波書店、2013年～2016年、¥3,200+税

Outline and objectives ・To understand the individual historical fact of Japanese history as a general history and overview.

・Learn how to interpret historical facts in connection with cultural traditions inherent in archipelago society.

・To obtain a view on what the individual historical fact in the history of Japan had in establishing the identity of the Japanese.

HIS300TE（史学 / History 300）
東洋史概説
教科担当責任者：塩沢 裕仁
担当者：宇都宮 美生 単位数：4単位

1 学習の到達目標 東洋史の中軸をなす中国史について、時代の特徴、時代の流れ、史実について学習し、史料、学説に基づいて説明できるようにする。
政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識を身につける。

また、レポートや試験を通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 通教テキストに基づき、各王朝の特徴と史実を理解する。テキストにより歴史学の方法を学び、関連する論文などを自ら探して通読し、テキスト以外の参考図書などを参照してレポートを提出する。単位修得試験は指定テキストの内容に準じているため、十分に準備して試験に臨む。

4 成績評価基準 レポートについては設題の意図を理解し、テキストおよび参考図書を参照して内容を理解した上で論述し、構成・引用・参考文献などレポートの体裁を整える（2000字程度・40字×50行前後、もしくは20字×100行前後、パソコンの文字カウント不可）。百科事典的な概説は不可とし、論理の展開を重視する。筆記試験では、テキストの内容に基づき、経緯と背景、発生の条件、内容、結果や影響などについての包括的な説明を求める。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：富谷至・森田憲司編『概説中国史（上）』昭和堂、2016年、¥2,300+税

指定市販本：富谷至・森田憲司編『概説中国史（下）』昭和堂、2016年、¥2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

・学習にあたり、各時代の特徴として、政治、法制、軍制、財政（税・貨幣）、農業、文化、対外政策に分けて考察するとわかりやすい。まず、経緯、社会情勢、発生の条件、内容、結果、影響などに着目して史実をみていく。さらに、前王朝の特徴が次王朝へどのように継承されているか、どのような影響を与えているか、あるいは何が否定されているか、理解しながら中国史をみていくと全体の流れが把握できる。テキストに線を引くだけでなく、自分なりのノートを作成することを勧める。また、年表や地図を自分で作成すると、複雑な事象も比較的理解しやすくなる。レポートの提出および筆記試験は手引きの諸注意を理解したうえで臨み、「とりあえず書く」という態度では取り組まないで欲しい。学術的文章の書き方については、『法政史学』『史学雑誌』『東洋史研究』等の雑誌に掲載されている論文を参照する。

・レポートはインプット（学ぶ）した知識をうまくアウトプット（書く）できるように練習し、専門の先生の添削によりいい文章がかけられるようにするための最良の機会であるため、これを利用して自己向上させてほしい。最終的にはこの積み重ねを経て、いい卒論が書けるように心がけてほしい。したがって、生成AIや概説書からの丸写しをしないよう充分注意すること。

【参考文献】（レポートに記載する参考文献の書き方は以下を参照すること）

平勢隆郎他『中国の歴史』全12巻、講談社、1974年～1975年、2004年～2005年

愛宕元・富谷至・森田憲司編『中国の歴史』上下、昭和堂、2005年
譚其驤主編『中国歴史地図集』全8巻、中国地図出版社、1982年
【論文検索】

CiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/>)

Outline and objectives This course introduces an understanding of Chinese history in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Grading will be decided based on reports (100%).

HIS300TE（史学 / History 300）

西洋史概説

教科担当責任者：内田 康太

担当者：赤松 道子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 西洋の歴史について、時代の特徴、歴史用語、歴史の流れ、諸事象の意味について理解し、説明できるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定テキスト（指定市販本）を自主学习し、レポートを作成することによって西洋史について理解する。

指定テキストの学習によって、歴史用語、重要な事象の意味、時代や地域の特徴を理解することが重要です。学習の理解度を示す試験を実施します。特定のテーマについてのレポートを作成します。レポート作成に際しては、指定教材だけではなく、独自に文献を調べて、よく読み、設題に関連する時代の特徴、制度、歴史用語などについての理解を深め、文章に表現します。適確な表現を模索する姿勢が大切です。

4 成績評価基準 単位修得試験は指定市販本から出題します。重要な歴史事象について、原因と結果を論理的に説明し、展開できるように、内容把握に努めましょう。レポートについては、歴史用語や時代、事象について理解しているかどうかを評価します。

まず、指定市販本以外に積極的に参考文献を探し、調べる。一つの歴史事象について複数の文献にあたったり、調べた内容を掘り下げ、時系列的に具体的に説明します。多様な見解があることを理解しましょう。レポート作成の原則に従い、レポートをまとめます。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『西洋の歴史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房、山本茂他、1988年、¥2400+税。
指定市販本『西洋の歴史（近現代編）』ミネルヴァ書房、大下尚一他、1998年、¥2400+税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、「設題解答にあたっての解説・注意等」をよく読むこと。各時代の特徴を時系列的に具体的に考えてみます。制度、文化、対外関係などに注目しながら、全体の流れを整理してみましょう。レポートを書いたら、必ず読み直してください。意味がわかりにくいところは必ず訂正し、自分の文章を練り上げていきましょう。

Outline and objectives The aim of this course is deepening your understanding of the History of the Western countries through learning the required texts independently and writing the papers.

It's important to know and realize the meaning of the historical words, the historical phenomena and the characters of the Times and the areas.

We ask you the tests for estimating the level of your understanding.

You write the papers of the specified theme.

For writing the papers you investigate the literature related to the theme besides the required texts, read them in detail, grasp deeply the character of the system and the

Times and represent them into the paper using the proper expressions.

ECN300TE（経済学 / Economics 300）

社会経済学A

教科担当責任者：平瀬 友樹

担当者：相沢 裕紀

単位数：2単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの社会的性格を理解すること。

2. 現代資本主義経済について、身近な問題からはじめて、理論的に把握するための基礎概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 社会経済学が対象とするのは、現代経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）とは異なり、歴史的に発展する具体的な資本主義社会の経済システムです。すなわち、経済システムについて理解するためには、社会的視点や歴史的視点が重要になってきます。このような社会経済学的な視点を身につけることによって、抽象化を重視する現代経済学とは異なった角度から、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動的にとらえ、展開することができます。社会経済学Aでは、音楽産業を例にとりながら、現代の文化と経済システムの関係について学びましょう。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：高増明（2023）『ポピュラー音楽の社会経済学』第二版 ナカニシヤ出版（第一版ではなく、必ず第二版をもちいること）¥3,400

6 学習指導、注意点等 リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。特に、テキストの題材である音楽はあくまでわかりやすい例としてとりあげられているにすぎず、この講義の目的は文化と経済活動の関わりについて学ぶことにあります。したがって、設問要求を無視して、自分の好きな音楽やアイドルなど個人的経験しか述べていないようなリポートでは単位を取得できないのでご注意ください。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits.(100%)

ECN300TE（経済学 / Economics 300）

社会経済学B

教科担当責任者：平瀬 友樹

担当者：相沢 裕紀

単位数：2単位

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。

2. 現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

3 科目の概要 本科目は、現代経済学との対比を念頭におきながら、社会経済学の形成過程について学ぶことを目的とするものです。経済理論は、市場原理について肯定的な思想とそれと否定的な思想との対立によって生み出されてきました。そのため、これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義といえるでしょう。なお、現在の社会経済学は、主に理論モデル分析など高度に抽象的な議論をする科目となっており、かつてのように必ずしも現実の問題を扱うものではないことに注意してください。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験で100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『経済学史』日本評論社、野原慎司・沖公祐・高見典和、2019年、¥ 3,000

6 学習指導、注意点等 学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。レポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits. (100%)

HIS300TE（史学 / History 300）

日本史特講（日本仏教史）

教科担当責任者：大塚 紀弘

担当者：岡野 浩二

単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本仏教史を、古代から現代まで概観する。それをもとに、各時代の政権の仏教政策、僧尼・教団の活動、信者の仏教受容の諸相を理解し、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 テキスト『日本仏教史』を読んで、仏教伝来から現代までの仏教を概観し、日本史のなかで仏教が果たした役割や、仏教の位置づけを理解していただきます。特に①政権の仏教政策、②僧尼・教団の活動、③信者の仏教受容の諸相を、各時代に即して把握することが求められます。

4 成績評価基準 レポートは、テキストやその他の参考文献を読んで、設問に対する解答を、自身の文章で書いてください。それに対して添削・講評を加えます。問いに対する適切な内容か、5 W 1 H（いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように）の観点を踏まえた具体的な記述になっているか、などで評価します。最終成績は、単位修得試験によって評価します。論述式の試験で、テキストの内容を理解しているかを問います。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『日本仏教史』（岡野浩二、2023年）

※【申告制】テキスト

6 学習指導、注意点等 レポートには、添削・講評を加えます。テキストだけでなく、参考文献も利用して、自身の文章でその内容をまとめてください。単位修得試験は、テキストの内容を理解したうえで受けてください。レポート・試験ともに、段落を構成し、5 W 1 Hの必要事項を盛り込んだ自分の文章であることが求められます。

試験は論述式です。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を1文字あけてください。（1）段落が構成されていない、（2）改行の代わりに1行を空白にしている、（3）段落冒頭を1文字あけていない、そのような答案は減点の対象となります。

Outline and objectives An overview of Buddhist history from ancient times to modern times in Japan. In particular, emphasize the following items. It is the Buddhism control policy about each era, the activity contents with the clergyman group, Buddhism reception by the believer.

HIS300TE（史学/History 300）
日本史特講（日本思想史）
教科担当責任者：内藤 一成
担当者：岡野 浩二 単位数：4単位

1 学習の到達目標 日本の古代から近現代に至るまでの思想について、時代・カテゴリーを意識しながら学習し、「日本」がどのように自覚されてきたのか、その歴史をアジア・世界の中の「日本」という国際性を意識しながら説明できるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 指定市販教科書と巻末の年表を活用して、古代・中世・近世・近現代の思想の大きな流れと時代ごとの特色を理解する。レポートの第1回の設題では、日本の古代国家形成に強い影響を与えた外来思想（仏教・儒教・道教など）を理解し、その受容と日本における変容、特に「日本」国号や「天皇」号、記紀神話の成立などについて考察する。第2回の設題では、神道・仏教・儒教の関係に留意して中世以降の日本思想の展開を理解し、神道思想の形成など、「日本」がどう自覚されてきたかを考察する。さらに、近代における神仏分離から国家神道の形成、西洋思想の受容などについてもまとめて、それぞれの時代に外来思想がどのように受容され、「日本」についての思想がどのように展開したかを整理して、単位修得試験に臨む。

4 成績評価基準 ・レポート評価

テキストだけでなく、参考書などをひろく読み、それぞれの課題に対する問題点を整理し、しっかりとした論点を持ってレポートを作成する。決して辞書的な項目ごとのまとめにしない。重要な文献は書名だけでなく内容を把握する。その上で内容・構成を考え、註や参考文献を明記した学術レポートとしての体裁を整えること。ワープロ使用の場合は字数を明記すること。

・単位修得試験

上記レポートと指定市販教科書のすべてを試験範囲として出題する。日本思想史の流れを理解し、古代・中世・近世・近現代という時代ごとの相違が論じられること。日本思想の形成に影響を与えた外来思想と、神道思想など「日本」を自覚したものを整理するだけでなく、両者の関係を歴史的に考察する。関連する書目・思想家が正しく認識されているか、日本思想の特色がまとめられているかも重要な評価の対象である。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『概説日本思想史』（増補版）ミネルヴァ書房、佐藤弘夫編、2020年、¥3,500+税
※初版（2005年）も使用可

知的文化財産としての日本思想に関する基礎知識を、歴史学・文学・仏教学・民俗学などの周辺領域にも細かに目配りしながら、正確にわかりやすく記述している。日本思想史の全体像をイメージしやすく設計され、I「古代の思想」、II「中世の思想」、III「近世の思想」、IV「近現代の思想」それぞれの冒頭に付けられている概説では、思想史の大きな流れが把握でき、各章では、より専門的な視点から各時代の思想を詳しく考察できる。所々に挿入されているコラムでも、簡潔ながら重要な指摘がなされている。巻末の年表と索引は総復習に、参考文献は更に深く勉強するために役立つ。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。 レポート作成には、テキストの「古代の思想」「中世の思想」「近世の思想」全体を良く読み、その中

から重要なポイントに絞って歴史の変遷を考察すること。単位修得試験には、レポートに対するコメントを参照しながら復習し、さらに「近現代の思想」についても同様の勉強をして臨むこと。巻末（293～297頁）の参考文献や『日本思想史講座』全5巻（ペリカン社）も参照すること。

試験は論述式である。段落を構成して、改行を施し、各段落の冒頭を1文字あけること。（1）段落が構成されていない、（2）改行の代わりに1行を空白にしている、（3）段落冒頭を1文字あけていない、そのような答案是減点の対象となる。

Outline and objectives I overview the history of thought in Japan from ancient times to modern times. In particular, emphasize the following items. (1) The formation of ancient nations and the influence of outpatient thought. (2) Relationship between Shintoism, Buddhism and Confucianism in the Middle Ages and Early Modern Age.

HIS300TE（史学/History 300）

東洋史特講（中国現代史）

教科担当責任者：塩沢 裕仁

担当者：竹茂 敦

単位数：4単位

1 学習の到達目標 (1)辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期の中国への理解を深めること、(2)中国近現代史に関する先行研究や史料を収集・読解・整理するために必要な能力を養うこと。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 辛亥革命から中華人民共和国成立にかけての時期を対象とする。受講者には導入としてテキストを熟読してもらった上で、「設題総覧」の課題に従ってレポートを作成し、単位修得試験を受験してもらう。レポートについては、自らテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究（書籍、論文等）や史料を収集・整理し検討を加えて執筆してもらう。単位修得試験については、テキストで扱っている内容から出題する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価するが、評価の際は先に提出されたレポートの内容も考慮する。
 [レポート] 主に以下の点を総合的に勘案して評価する：①テーマ＝2,000～3,000字という限られた紙幅に適当で、独自性のあるテーマを設定できているか、②参考文献・史料＝自ら定めたテーマに適した先行研究（書籍、論文等）や史料を探し出すことができているか、③記述内容＝歴史展開がきちんと整理できているか▽参考文献や史料に基づいた実証的な考察（根拠を示した論証）ができているか▽テキスト・参考文献からの抜き書きではなく、自らの言葉で叙述できているか、④体裁・構成＝大学生のレポートとしての体裁や構成が整っているか▽とりわけ、「はじめに」でレポートのテーマについての説明（目的、意義など）が、「おわりに」で結論がそれぞれ提示され、「参考文献一覧」「注」が付いているか。
 [単位修得試験] 歴史的な事項・人物について、時系列的な展開、時代的な背景や歴史的な意義などを理解した上で、整理した記述ができているかを評価基準とする。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『東洋史特講（中国現代史）』第1版、栃木利夫、1982年（※前・通教テキスト『中国現代史』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

[レポート] 2,000字から3,000字という字数制限を考慮して、レポートのテーマは焦点をよく絞り込むこと。図書館の蔵書目録(OPAC)や各文献の「参考文献一覧」などを活用して、テーマについてできるだけ詳しく言及している書籍・論文や関連する史料を探し出し（概説書ばかりに頼らないよう注意されたい）、それらをよく読み比べること。執筆に際しては、先行研究や史料に基づいた考察に重点をおくこと（テキスト・参考文献の文章の継ぎ接ぎや、歴史的な事件・人物に対する概説的なまとめや漠然とした指摘にならないように注意されたい）。

[単位修得試験] テキストで扱っている内容から出題する。テキストを熟読し、「設題総覧」で挙げている参考文献なども適宜参照して、基本事項の理解を深めておくこと。

Outline and objectives This course introduces the his-

tory of modern China, a period between the outbreak of the 1911 Revolution (also called Xinhai Revolution) and the establishment of the People's Republic of China.

The main aims of this course are: (1) to help students acquire knowledge about China's modern era; (2) to help students learn methods of historical research, such as evaluating major previous studies, critical analysis of historical materials, etc.

Grading will be based on reports and examination.

HIS300TE（史学 / History 300）
西洋史特講（西洋哲学史）
教科担当責任者：内田 康太
担当者：白根 裕里枝 単位数：4単位

1 学習の到達目標 古代ギリシアに始まる古代哲学、その後のキリスト教哲学を中心にした中世哲学、それに続く近・現代哲学へと至る西洋哲学史の基礎知識を、通教テキストを通して把握することで、それぞれの時代にどのような問題が問われてきたのか、その思想は後の時代にどのような影響を与えたのか、そしてまた、それらは今日の我々にとってどのような意味を持つのかといった点の理解を深め、西洋哲学への歴史的視野の形成を図ることを全体として目指す。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 哲学は古代ギリシアで誕生した。まずは、古代哲学の流れに沿って、イオニア・イタリアでの自然哲学や、アテナイにおけるソフィストとソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学、さらにはヘレニズム期・ローマ期の哲学を学ぶ。次に、中世哲学の流れに沿って教父哲学・スコラ哲学・普遍論争を学んだ上で、さらに、近世・近代哲学の流れに沿ってルネサンス哲学・大陸合理論哲学・イギリス経験論哲学・ドイツ観念論哲学を学ぶ。最後に、現代哲学の流れに沿って生命の哲学・分析哲学・現象学を、通教テキストを拠りどころにして学ぶ。以上のことに併せてその時代思潮についても考察し、その影響を理解する。哲学者たちは、それぞれの時代に、世界について、国家や人間について、いかに考えたのか。その思想は歴史の流れの中でどのようにして生まれ、引き継がれ、影響を与えあいながら、発展していったのか。哲学史の流れに沿って、それら真理追究の足跡を辿ってゆく。

4 成績評価基準 ・レポート評価基準

レポートについては、まず通教テキストをしっかりと読んで理解した上で、設問に十分適切に答えているかどうかを判定基準とする。難しいと思われた箇所も、テキストをよく読んで、理解を深めるように努めること。その上で課題の箇所を丁寧に要領良くまとめること。必要な場合のみ、参考書を用いて補うように。まずはテキストをよく読んで自分の理解を深めてから記述すること。テキストや参考書の丸写しでは十分な理解に達しているとは見做されない。また、レポート書式の形式（①段落分けの適切性 ②文頭と文末の対応が取れているか ③誤字、脱字の有無 ④注は適切か ⑤引用の仕方は適切か ⑥引用した文献の提示の有無など）にも注意すること。自分の言葉で適切に表現できるよう、まずは自分でその思想内容に興味を持って、深く理解するように努めることが重要となる。

・単位修得試験

単位修得試験では、通教テキストの全体の内容から出題する。そこでテキスト全体をよく読んで理解しておくことが大事である。特にレポートの課題箇所について、念入りに勉強しておくことが必要とされる。評価基準は、上記のレポート評価基準と同様の基準を適用し、哲学史についての習熟度に応じて成績を評価する。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（西洋哲学史）』（第1版）、鶴岡 健、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評

でフィードバックする。まず何よりも通教テキストをよく読んで理解した上で、レポートの設題の意図、試験の出題の意図をよく考えて、必要かつ十分な解答をするよう努めること。答えは、しっかり構想を練った上で、筋道を立てて論述すること。作成した答えを最後によく読み返して、時間の許す限り、必ず推敲を行うこと。テキストやネットからの丸写しは当然ながら、解答とは見做されない。必要な場合のみ、参考文献を用いて補うように。他の文献を参考にした場合には、文献名及びページ数を必ず明記すること。

★AIについては、自分で書いた文章の手直しも含めて、AIを用いた答え、AIを参考にしたと思われる答えも、一切評価しない。疑わしい場合を含めて、不合格とすることがありうるので、AIを一切利用しないように注意すること。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire a basic understanding of the history of Western philosophy.

By the end of the course students should be able to grasp the outline of Western philosophy from its development among the ancient Greeks to the present.

HIS300TE（史学 / History 300）

西洋史特講（キリスト教史）

教科担当責任者：内田 康太

担当者：山野 貴彦

単位数：4単位

※レポート（第1回・第2回）一括提出不可

1 学習の到達目標 (1)旧新約聖書の分析を通して、ユダヤ教およびキリスト教の成立史を理解する。

(2)聖書の著者および編者たちの多様な思想を各々の社会背景をふまえて理解する。

(3)聖書の主要な登場人物たちに帰される各々の思想をその社会背景をふまえて理解する。

(4)キリスト教がユダヤ教から分離・独立してゆく過程を思想面および政治面の双方から理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 旧新約聖書の分析を大きな歴史的枠組みから行うことにより、以下のような問いに対する理解を深めることが求められる：

- ・古代イスラエルの宗教からどのようにユダヤ教が形成されてゆくことになったか
 - ・イエスが生きた時代のユダヤ教にはどのような特徴があり、イエスの活動や思想はそれとどのようにかかわっていたのか
 - ・イエスの死後どのようにキリスト信仰というものが生まれたのか、また、パウロを通してそれはどのように展開されていったのか
 - ・キリスト教はなぜユダヤ教から分離することになったか
 - ・ユダヤ教およびキリスト教はなぜ「聖書」を持つに至ったか
- これらの問いは古代史の一面面として興味深い課題であると同時に、後の歴史にも大きな影響を与える二つの宗教の出発点の理解という意味でも重要である。

分析に際しては、聖書に書かれている内容そのものを知るに留まらず、それらが書かれた時代について、またそれらとの関連において著者・編者が残した記述の意図を読み取る分析的な視点が必要となる。

この課題に関して、聖書に加えて「4. テキスト名および詳細」に記した参考文献を精読し、旧約新約聖書時代の歴史の全体像をおさえるとともに、聖書の各著者・編者、主要な登場人物の思想を理解されたい。

参考文献を読むに際しては、必ずそこに言及されている聖書箇所を自ら読み、なぜそのように解釈できるのかを把握することが必須となる。

聖書にはいくつかの版があり、基本的にはどれを利用してもよいが、日本聖書協会発行の『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書 統編つき』が推奨される。レポート／試験は聖書および参考文献から出題される。

レポートについてはその他の参考文献を利用することも歓迎するが、注に必ず出典を明記すること。

レポート課題は、旧約聖書および古代ユダヤ史から2問、新約聖書および初期キリスト教史から2問の計4問が出題される（2単位の受講生は、それぞれから各1問）。試験問題も、旧約聖書（ユダヤ教）および新約聖書（キリスト教）それぞれから各1問ずつ出題される。

4 成績評価基準 成績は単位修得試験・レポートの内容に

よって評価される。

レポートについては、聖書と参考文献を照らし合わせながら精読し、理解した事柄を課題に即して、参考文献の単なる引用接続や要約にならないようにしつつ聖書テキストを根拠に示し、自分の言葉で適切に表現できているかどうかを評価する。

単位修得試験については、テキスト及び参考文献の内容を適切に理解できているかどうかを評価する。

5 テキスト名および詳細 【テキスト】指定市販本『聖書

聖書協会共同訳 旧約聖書統編つき』日本聖書協会 2018年：標準サイズ（小型）¥4,000+税（その他の訳、版でも構わないが、旧約と新約の両方が必要）

【参考文献】

- ・山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』（岩波現代文庫 学術98）岩波書店、2003年、¥1,100+税
- ・佐藤研『聖書時代史 新約篇』（岩波現代文庫 学術99）岩波書店、2003年、¥1,100+税
- ・M.ティリー／W.ツヴィッケル『古代イスラエル宗教史 先史時代からユダヤ教・キリスト教の成立まで』（山我哲雄訳）教文館、2020年、¥4,200+税
- ・浅野淳博『新約聖書の時代 アイデンティティを模索するキリスト共同体』、教文館 2023年、¥4,200+税

以下は絶版であるが、入手できるのであれば手に取らいたい（価格は刊行当時のもの）

- ・上村静『宗教の倒錯——ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店、2008年、¥2,800+税
- ・上村静『旧約聖書と新約聖書——「聖書」とはなにか』新教出版社、2011年、¥2,000+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

(1)レポート作成に当たっては、設題に関係する聖書箇所および参考文献を精読し、根拠を示しつつ論ずること。他の文献からの参照・引用もありうるが、インターネットからのコピー＆ペーストを行わないこと。著者の解釈に疑問や異論がある場合には、根拠を記して反論すること。

(2)参考文献はメモを取りながら（ページ数を付して）読み、章ごと、節ごとにまとめておくとレポートおよび試験に対応しやすい。

(3)引用文には、著者、書名、ページ数を付すこと。

(4)聖書および参考文献からの引用は必要最小限にとどめること。

(5)聖書の各文書と箇所は、略記してよい（例：マタイによる福音書20章1-16節＝マタ20:1-16、ローマの信徒への手紙7章1-20節＝ロマ7:1-20、コリントの信徒への手紙一 15章3-5節＝Iコリ15:3-5等。各文書の略記の仕方については、テキストとして指定されている聖書の目次にある略語も参照）。

Outline and objectives (1) To understand the history

of the formation of Judaism and Christianity through the analysis of the Old and New Testaments.

(2) To understand the various ideas of the biblical authors and compilers in the context of their social backgrounds.

(3) To understand the ideas attributed to the major biblical characters in the context of their social backgrounds.

(4) To understand the process of separation and independence of Christianity from Judaism from both ideological and political perspectives.

HIS300TE（史学 / History 300）
西洋史特講（ロシア史Ⅱ）
教科担当責任者：皆川 卓
担当者：濱本 真実 単位数：2単位

1 学習の到達目標 17世紀初頭から1960年代のロシア・ソ連史の流れを把握している。各時代の特徴、歴史用語や諸事象・事件の意味について理解し、説明出来る。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 教科書およびその他の参考文献の自主学習とレポートの作成により、17世紀初頭から1960年代までのロシア・ソ連史について理解するための科目です。

教科書のみならず、参考文献をよく読み、歴史用語や重要な事象・事件の意味、時代の特徴を理解することが重要です。その理解度を試す試験を実施します。

レポートの作成にあたっては、教科書だけでなく、独自に文献を調べてよく読み、設題に関係する時代の特徴、事件や制度、歴史用語などについて理解を深め、それを文章で的確に表現しようとする姿勢が大切です。

4 成績評価基準 単位修得試験は教科書の範囲から出題します（参考文献の該当箇所も学習すること）。歴史用語、重要な歴史事象・事件について、歴史的背景、原因と結果、歴史的評価などを含め、理解しているかを評価します。

レポートについては、設問に対応したレポートになっているか、関連する歴史用語・事象について正しく理解しているか、複数の文献を読んで、論理的な考察を行っているか、レポートが適切に構成され、文章が整っているかを評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『西洋史特講（ロシア史Ⅱ）』第1版、倉持俊一、1980年
（※ 前・通教テキスト『ロシア史Ⅱ（ロシア近代史）』）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

レポート作成にあたっては、『自立学習の手引き』、『通信学習シラバス・設題総覧』の「レポートの書き方」を読むこと。一つの事柄について複数の文献を読み、その内容をよく整理し、考察してから書くこと。学説にも注意し、教科書や参考文献の単なる引き写しや事実の羅列にならないようにすること。書いたら必ず読み直し、誤字脱字がないか、文章が整っているかなどを確認すること。参考文献、字数を明記のこと。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of Russian history from the early seventeenth century to 1960's. Students need to read textbook and reference books, and make out reports.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）
社会経済学A
教科担当責任者：平瀬 友樹
担当者：相沢 裕紀 単位数：2単位 ※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの社会的性格を理解すること。
2. 現代資本主義経済について、身近な問題からはじめて、理論的に把握するための基礎概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 社会経済学が対象とするのは、現代経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）とは異なり、歴史的に発展する具体的な資本主義社会の経済システムです。すなわち、経済システムについて理解するためには、社会的視点や歴史的視点が重要になってきます。このような社会経済学的な視点を身につけることによって、抽象化を重視する現代経済学とは異なった角度から、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することができます。社会経済学Aでは、音楽産業を例にとりながら、現代の文化と経済システムの関係について学びましょう。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：高増明（2023）『ポピュラー音楽の社会経済学』第二版 ナカニシヤ出版（第一版ではなく、必ず第二版をもちいること）¥3,400

6 学習指導、注意点等 レポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。特に、テキストの題材である音楽はあくまでわかりやすい例としてとりあげられているにすぎず、この講義の目的は文化と経済活動の関わりについて学ぶことにあります。したがって、設問要求を無視して、自分の好きな音楽やアイドルなど個人的経験しか述べていないようなレポートでは単位を取得できないのでご注意ください。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits.(100%)

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

社会経済学B

教科担当責任者：平瀬 友樹

担当者：相沢 裕紀

単位数：2単位

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

- 1 学習の到達目標** 1. 資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。
2. 現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 本科目は、現代経済学との対比を念頭におきながら、社会経済学の形成過程について学ぶことを目的とするものです。経済理論は、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって生み出されてきました。そのため、これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義といえるでしょう。なお、現在の社会経済学は、主に理論モデル分析など高度に抽象的な議論をする科目となっており、かつてのように必ずしも現実の問題を扱うものではないことに注意してください。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験で100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『経済学史』日本評論社、野原慎司・沖公祐・高見典和、2019年、¥ 3,000

6 学習指導、注意点等 学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心をもちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。レポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits. (100%)

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

統計学A

教科担当責任者：菅 幹雄

担当者：菅 幹雄

単位数：2単位

※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

- 1 学習の到達目標** 主要な経済統計の収集と吟味、その読み方と、収集したデータの分析方法、コンピュータ（エクセル）による処理・加工の方法を習得することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP9」に関連

3 科目の概要 経済統計編の「第1編 経済統計の作成過程」では「1 経済統計の種類と分類」、「2 統計作成の過程」、「3 統計分類論」、「4 統計の真実性」を学習する。「第2編 経済統計各論」では「1 人口」、「2 家計」、「3 食料」、「4 物価」、「5 労働」、「6 産業統計」、「7 企業」、「8 国民経済」、「9 産業連関」を学習する。数理統計編の「第1編 記述統計編」では「1 統計データとは」、「2 比率と指数」、「3 分布とその特性」、「4 相関と回帰」を学習する。

4 成績評価基準 成績はレポート、単位修得試験によって評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：御園謙吉、良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ経済統計編（第2版）』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円（本体2,600円＋税）
指定市販本：金子治平、上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ基礎編 第2版』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円（本体2,600円＋税）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみる。

Outline and objectives Course outline: In “Part 1: The Process of Compiling Economic Statistics,” students will learn “1 Types and Classification of Economic Statistics,” “2 Process of Compiling Statistics,” “3 Statistical Classification,” and “4 Truthfulness of Statistics.

In Part 2, Introduction to Economic Statistics, students will learn about 1) Population, 2) Households, 3) Food, 4) Prices, 5) Labor, 6) Industry Statistics, 7) Firms, 8) National Economy, and 9) Input-Output Relationships.

In “Part 1: Descriptive Statistics” of the Mathematical Statistics Section, students will learn “1. What is Statistical Data?”, “2. Ratio and Index”, “3.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to collect, examine, and interpret major economic statistics, how to analyze the collected data, and how to process and manipulate it on a computer (Excel).

Grading Criteria /Policies: Grades will be based on reports and credit acquisition examinations.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）
統計学B
教科担当責任者：菅 幹雄
担当者：菅 幹雄 単位数：2単位
※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 実証分析を行う上で不可欠な知識である統計学の理論的な基礎をマスターすること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP9」に関連

3 科目の概要 「第2編 数理統計編」では「5 確率の基本」、「6 確率変数と分布」、「7 簿記と標本」、「8 統計的推定」、「9 統計的検定」、「10 回帰モデル」、「11 標本調査法」を学習する。

4 成績評価基準 成績はレポート、単位修得試験によって評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：金子治平、上藤一郎 編『よくわかる統計学 I 基礎編 第2版』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円(本体2,600円+税)

6 学習指導、注意点等 数学がわからない場合は、高校の数学の教科書を復習すること。

Outline and objectives Course outline: In “Part 2: Mathematical Statistics,” students will learn “5 Basics of Probability,” “6 Stochastic Variables and Distributions,” “7 Longitudinal Cross-Section and Samples,” “8 Statistical Estimation,” “9 Statistical Tests,” “10 Regression Models,” and “11 Sample Survey Methods.”

Learning Objectives: Master the theoretical foundations of statistics, which is essential knowledge for conducting empirical analysis.

Grading Criteria /Policies: Grades will be based on reports and credit acquisition examinations.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）
経済史A
教科担当責任者：杉浦 未樹
担当者：杉浦 未樹 単位数：2単位

1 学習の到達目標 1) 中世から現代に至るまでの経済発展を、国際的な相互連関の中で歴史的に理解し、主要な転換点を説明できるようになる。

2) グローバル経済における格差構造や権力関係について、具体的な史料・事例を用いて比較分析できるようになる。

3) 歴史的事実に基づき、論理的かつ一貫した学術的文章（レポート）を構築できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 本講義は、中世から現代に至るまでの市場経済の歴史を、国際的連関の中で比較・分析する力を養うことを目的とする。生産・流通・金融・財政に加え、土地制度や企業経営の変化を取り上げ、国家・帝国・地域経済の構造転換を多角的に検討する。毎月の試験課題を通じて、7～9世紀の唐・イスラム・キリスト教世界、モンゴル帝国、産業革命への批判的検討、19世紀の大陸間経済、世界恐慌、ドル・オイルショックなどの歴史的転換点などを考察し、グローバル経済史の基礎的理解と論述力を育成する。

4 成績評価基準 レポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) レポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年、¥ 2,800+税金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』（第2版）名古屋大学出版会、2020年、¥ 2,700+税※初版（2010年）も使用可

参考図書

奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。

現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives This course explores the historical development of the market economy from the late sixth century to the present day, focusing on its evolution within global networks of exchange, production and power. Through monthly written assignments, students will engage with significant milestones in global economic history, considering how regional systems across Europe, West Asia, the Indian Ocean, East Asia and the Pacific interacted, converged or diverged over time.

The course will examine long-term structural changes in land regimes, industries, trade systems and state institutions, reflecting on how these transformations have

shaped global integration and persistent inequalities. It considers the ways in which economic shifts were embedded in broader political, social and technological contexts. By engaging with these themes, students will develop three core competencies: (1) the ability to explain the global development of economies from the medieval period onwards; (2) the capacity to analyse inequalities and power relations within the global economy using concrete historical evidence; and (3) the ability to produce empirically grounded, logically structured academic essays.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

経済史B

教科担当責任者：進藤 理香子

担当者：杉浦 未樹、渡邊 伸弘

単位数：2単位

- 1 学習の到達目標** 1) 日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2) またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3) 論理的な文章が書けるようになること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

3 科目の概要 本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

4 成績評価基準 リポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012年、¥ 2,700+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives 【Course outline】

This course covers historical development of Japanese economy. It deals with topics that are relevant in understanding the historical evolution of institution, market, and society in Japan. It aims to clarify current state and problems of Japanese economy with a historical perspective.

【Learning Objectives】

- 1) To understand how the market economy has developed in Japan.
- 2) To understand how domestic and international factors have influenced this development.
- 3) To be able to write logical sentences.

【Grading Criteria /Policies】

When grading your report, you will be highly evaluated if you meet the following points.

- 1) Do not copy word for word from textbooks or reference books, etc.; be sure to state your own thoughts.
- 2) Use the footnote function to clearly state the references you used when writing the report.
- 3) Be careful not to write wrong or omitted letters.
- 4) Write in paragraphs.
- 5) Observe the word count standards.

MAN100TF（経営学 / Management 100）
簿記Ⅰ
教科担当責任者：筒井 知彦
担当者：筒井 知彦 単位数：2単位

1 学習の到達目標 簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定3級と同じです。したがって、簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『簿記Ⅰ』第3版、永野則雄、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（1回目）、②1つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（2回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（3回目）、④レポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからレポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives Accounting is often referred to as the language of business. Bookkeeping in an entry subject of accounting.

In this course you will learn about the recording of business transactions, the ledger system and trial balance, using double entry bookkeeping.

Grading will be decided

based on term-end examination.

MAN100TF（経営学 / Management 100）
簿記Ⅱ
教科担当責任者：筒井 知彦
担当者：筒井 知彦 単位数：2単位

1 学習の到達目標 簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定3級と同じです。したがって、簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『簿記Ⅱ』第3版、永野則雄、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（1回目）、②1つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（2回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（3回目）、④レポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからレポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives Accounting is often referred to as the language of business. Bookkeeping in an entry subject of accounting.

In this course you will learn about the recording of business transactions, the ledger system and trial balance, using double entry bookkeeping.

Grading will be decided

based on term-end examination

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

財政学A

教科担当責任者：廣川 みどり

担当者：島澤 諭、廣川 みどり

単位数：2単位

1 学習の到達目標 日本財政の現状を把握し、今後どうあるべきかについて考えるための基礎的な知識と論理的思考力を身につけることが目標になります。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。

財政学Aでは特に、(1)経済活動における政府の役割の理解、(2)日本の財政制度や財政問題の把握、(3)政府支出や租税の理論の習得、の3点が中心になります。指定テキストの第1章から第5章までが習得範囲ということになります。

4 成績評価基準 単位修得試験の結果が成績になります。(1)基本用語を把握すること、(2)論理的な流れを理解すること、(3)各章末問題を解くこと、(4)参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5)自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、図書館やネットを利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

5 テキスト名および詳細 テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：

テキスト：指定市販本 林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース 財政学 第4版』新世社、2019年、2,695円（本体：2,450円＋税）（なお、制度・データ等については変化していくため、参考書やネット上の資料も参考とし、最新のデータの確認をしっかりと行うこと。）

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

参考書：

・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。

・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。

ホームページ上の情報（それぞれ以下のURLより最新版を参照のこと）：

・日本の財政関係資料：財務省「財政関係パンフレット・資料」
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/index.html

・財政投融资の概要：財務省「財政投融资の概要」

<https://www.mof.go.jp/policy/filp/summary/index.html>

テキストは10章からなります。財政学Aでは、その第1章から第5章までの内容を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。学習については以下の形で進めて下さい：

(1) ノートを用意してください。

(2) テキストを開く前に、自分がいま「政府の経済活動」についてどのような知識を持っているか、ノートの第一頁に書いて下さい。単語だけ（消費税とか年金など）でもいいし、自分なりの意見でもかまいません。

(3) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞やTVのニュースにも敏感になってください。

(4) 理論的な部分についてはミクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。

(5) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。

(6) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。

(7) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。生成AIや概説書・ネット情報からの丸写しをしないよう充分注意すること。自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives 【Course outline】 This course introduces the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. 【Learning objective】 At the end of the course, students are expected to understand Japan's fiscal system and to obtain think logically the role of government in the economy. 【Grading criteria/policies】 Final grade will be decided by the credits-examination (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
財政学B
教科担当責任者：廣川 みどり
担当者：島澤 諭、廣川 みどり
単位数：2単位

1 学習の到達目標 財政学Aの知識を前提としたうえで、税制の問題、社会保障問題、マクロ経済政策、地方財政問題等の、政府が実施している様々な政策を経済学を用いて検証していくことで、現実の経済を見る目を養います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげることの意味はあるのか、租税と公債とは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。

財政学Bでは特に、(1)日本の税制と税制改革、(2)社会保障の財政問題、(3)マクロ経済政策、(4)地方財政の4点が中心になります。指定テキストの第6章から第10章までが習得範囲ということになります。

4 成績評価基準 単位修得試験の結果が成績になります。(1)基本用語を把握すること、(2)論理的な流れを理解すること、(3)各章末問題を解くこと、(4)参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5)自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の解答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

5 テキスト名および詳細 テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：

テキスト：指定市販本 林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース 財政学 第4版』新世社、2019年、2,695円（本体：2,450円＋税）（なお、制度・データ等については変化していくため、参考書やネット上の資料も参考とし、最新のデータの確認をしっかりと行うこと。）

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

参考書：

・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。

・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。

ホームページ上の情報（それぞれ以下のURLより最新版を参照のこと）：

・日本の財政関係資料：財務省「財政関係パンフレット・資料」
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/index.html

・財政投融资の概要：財務省「財政投融资の概要」

<https://www.mof.go.jp/policy/filp/summary/index.html>

テキストは10章からなります。財政学Bでは、その第6章から

第10章までの内容を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。学習については以下の形で進めて下さい：

(1) 財政学Aの知識（テキスト第1章～第5章に相当）を前提としています。復習を行ってから取り組んで下さい。

(2) ノートを用意してください。

(3) 財政学Aで何を学んだかを考えて、それをノートの第一頁に書いて下さい。

(4) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞やTVのニュースにも敏感になってください。

(5) 理論的な部分についてはミクロ経済学やマクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。

(6) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。

(7) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。

(8) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずですが、生成AIや概説書・ネット情報からの丸写しをしないよう充分注意すること。自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives 【Course outline】Based on the knowledge of public finance A, this course provides students with understanding the effects of public policies, such as taxation, social security, macroeconomic policy, local government finance. 【Learning objective】At the end of the course, students are expected to understand various policies implemented by the government logically. 【Grading criteria/policies】Final grade will be decided by the credits-examination (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

金融論A

教科担当責任者：宮澤 信二郎

担当者：宮澤 信二郎

単位数：2単位

1 学習の到達目標 金融に仕事で直接かかわる場合はもちろん、金融と仕事上は直接かかわりを持たない場合であっても、社会生活を営む上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められる。このコースでは、金融理論が社会における問題解決にどのように役立つのか、という実務的な視点を重視する。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 このコースでは、金融取引の機能など、基礎的な金融理論について学ぶ。教科書では、第I部と第II部がその対象となる。この金融論Aで得られた知識を前提として、金融論Bでは、金融市場や金融機関、金融に係るマクロ政策等、より実務面での学習を行うため、金融論Bもあわせて受講することが望ましい。

4 成績評価基準 単位修得試験では、金融論の基礎が理解できていることを評価する。加えて、レポート課題では、教科書の内容への理解だけでなく、最近の金融に関する出来事を金融論で学んだことを通じて正しく理解できているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『金融 新版』、内田浩史、有斐閣、2024年、¥3,600+税
(下記の旧版も使用可)

『金融』第1版、内田浩史、有斐閣、2016年、¥3,400+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。教科書を読んで理解することはもちろんだが、そこで学んだ基礎的な理論や制度の学習を基に、日々の金融に関するニュースについて自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives 【Learning Objectives】If you are directly involved with finance in your work, or even if you do not have a direct relationship with finance, some knowledge of finance is always required in order to live in society. This course emphasizes a practical perspective on how financial theory can help solve problems in society. The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory, and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems.

【Course outline】This course will provide an introduction to the basics of financial theory, covering money and financial transactions, and the mechanisms of finance that deal with transaction costs.

【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

金融論B

教科担当責任者：宮澤 信二郎

担当者：宮澤 信二郎

単位数：2単位

1 学習の到達目標 金融に仕事で直接かかわる場合はもちろん、金融と仕事上は直接かかわりを持たない場合であっても、社会生活を営む上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められる。このコースでは、金融理論が社会における問題解決にどのように役立つのか、という実務的な視点を重視する。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 このコースでは、金融論Aで学んだ金融論の基礎を前提として、金融市場や金融機関の仕組みのほか、金融に関わるマクロ経済政策について学ぶ。教科書では、第III部と第IV部がその対象となる。金融論Aの知識を前提とする部分もあることから、金融論Aもあわせて受講することが望ましい。

4 成績評価基準 単位修得試験では、金融論の基礎が理解できていることを評価する。加えて、レポート課題では、教科書の内容への理解だけでなく、最近の金融に関する出来事を金融論で学んだことを通じて正しく理解できているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『金融 新版』、内田浩史、有斐閣、2024年、¥3,600+税
(下記の旧版も使用可能)
『金融』第1版、内田浩史、有斐閣、2016年、¥3,400+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。教科書を読んで理解することはもちろんだが、そこで学んだ基礎的な理論や制度の学習を基に、日々の金融に関するニュースについて自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives 【Learning Objectives】If you are directly involved with finance in your work, or even if you do not have a direct relationship with finance, some knowledge of finance is always required in order to live in society. This course emphasizes a practical perspective on how financial theory can help solve problems in society. The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory, and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems.

【Course outline】This course will provide an introduction to the basics of financial theory, covering financial institutions and financial markets, as well as the macro aspects of finance.

【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
経済政策論A
教科担当責任者：小黒 一正
担当者：小黒 一正、持元 江津子 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアン理論の理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論A」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『マクロ経済学入門』（第2版）、ミネルヴァ書房、麻生良文著、2021年、¥ 3,500+税 ※初版（2009年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色彩を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

マンキュー『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社（入門用）

マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社（中級）

福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ

スティグリッツ『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.

The final grade is mainly based on an examination (100%).

The quality of the report is taken into account when grading.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
経済政策論B
教科担当責任者：小黒 一正
担当者：小黒 一正、持元 江津子 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論B」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林 正義・小川 光・別所俊一郎、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）

スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）

麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）

井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）

井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of public economics.

The final grade is mainly based on an examination (100%).

The quality of the report is taken into account when grading.

MAN100TF（経営学 / Management 100）
経営学総論Ⅰ
教科担当責任者：佐野 哲
担当者：佐野 哲 単位数：2単位

1 学習の到達目標 経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 経営学総論Ⅰでは、①経営戦略（競争優位を築く基本戦略と業界分析手法）、②広告・マーケティング（マーケット及び製品特性の分析と広告・流通戦略）、③ビジネス思考と交渉の理論（ロジカルシンキング及び営業交渉ノウハウの理論と実際）、④IT（企業経営とIT利用領域）の4テーマを取り上げます。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グロービスMBAマネジメントブック（改訂3版）』グロービス経営大学院（ダイヤモンド社、2008年、¥2,800+税）の第1部「経営戦略」、第2部「マーケティング」、第6部「IT」、第7部「ゲーム理論・交渉術」を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives (Course outline)

This is an introductory course to the study of management in firms.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamentals of strategic management, marketing management and critical thinking.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Mid-term Report : 50%.

MAN100TF（経営学 / Management 100）
経営学総論Ⅱ
教科担当責任者：佐野 哲
担当者：佐野 哲 単位数：2単位

1 学習の到達目標 経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 経営学総論Ⅱでは、①会計・アカウンティング（財務諸表の構造と読み方及び経営分析手法）、②投資・ファイナンス（企業の資金調達と投資意思決定に関する理論）、③人材・組織マネジメント（リーダーシップやモチベーションに関する理論と組織設計のあり方）、④IT（企業経営とIT利用領域）の4テーマを取り上げます。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グロービスMBAマネジメント・ブック（改訂3版）』グロービス経営大学院（ダイヤモンド社、2008年、¥2,800+税）の第3部「アカウンティング」、第4部「ファイナンス」、第5部「人・組織」、第6部「IT」を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives (Course outline)

This is an introductory course to the study of management in firms.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamentals of accounting management, corporate finance and human resource management.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Mid-term Report : 50%.

MAN200TF（経営学 / Management 200）
簿記Ⅲ
教科担当責任者：竹口 圭輔
担当者：竹口 圭輔 単位数：2単位

1 学習の到達目標 日商簿記検定試験2級（商業簿記）の範囲（連結会計を除いて）についての内容を理解して、実際にさまざまな取引の会計処理等ができるようになることが、この科目の到達目標です。実際に日商簿記2級（商業簿記）の過去問題を解くことによって、この目標が達成されているかどうかかわかると思います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 日商簿記3級程度の知識がある方を対象に、日商簿記2級（商業簿記）レベルの内容を学習します。テキストに即して学習を進めますが、テキストは全15章から構成されています。主な内容は、財務諸表の作成、特殊商品売買、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、社債の会計、引当金の会計、純資産の会計、本支店会計、特殊仕訳帳等です。1章ずつ学習を進め、各章の学習が終了したら章末問題を解いて、理解度を確かめて下さい。すべての学習が終了したらレポートを作成することになります。レポートはテキストの幅広い範囲に渡って問題が出題されています。なお平成29年6月からの日商2級試験範囲に入る「外貨建取引」「リース取引」「課税所得の計算」「圧縮記帳」「連結会計の基礎」についてはテキストでは解説していません。この部分については下記に示した参考書等で補ってください。また為替手形取引が3級の出題範囲から除外され、簿記Ⅰ・簿記Ⅱの通教テキスト改訂時（2017年）にそれについては削除されました。不足している点については簿記Ⅲのテキストを今後改訂する際に付け加えたいと思います。

4 成績評価基準 最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

5 テキスト名および詳細 テキストは、通教テキスト 神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ』第1版、2013年です。参考書として『検定簿記講義（2級商業簿記）』中央経済社と『合格テキスト（2級商業簿記）』TAC出版、小野正芳編『ステップアップ簿記』同文館出版、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社をあげておきます。問題集としては各社から出されている過去問の問題集や『合格トレーニング（2級商業簿記）』TAC出版や『検定簿記2級（商業簿記）ワークブック』中央経済社等が入手容易だと思います。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記の学習は単にテキストを読むだけでなく、実際に記帳したり、問題を解くことが必要です。テキストを順番に読み進め、例題などを実際に解くことが必要です。

Outline and objectives In this course, we will learn bookkeeping methods for specific items with the aim of acquiring intermediate financial accounting. Topics covered in this course include preparation of financial statements, transactions of various sale types, bill transactions, securities transactions, fixed asset transactions, corporate bond transactions, reserve transactions, transactions of net assets, etc. By learning these items, you will also

get an understanding of basic and important accounting standards and you will find this study will be useful in learning financial accounting. Grading will be decided based on term-end examination.

MAN200TF（経営学 / Management 200）

簿記Ⅳ

教科担当責任者：岸 牧人

担当者：市川 佳功、岸 牧人
単位数：2単位

1 学習の到達目標 日商簿記2級程度の学習を修了された学生を対象に、日商簿記1級（商業簿記）程度の簿記会計処理を習得することがこの科目の到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 すでに日商簿記2級まで学習されている方を対象に、さらに日商簿記1級（商業簿記）レベルの内容をこの科目では学習します。ただし2単位の科目であり、テキストの紙幅の関係上、特殊商品販売については範囲から外し、また連結会計の部分については基本的な事項の説明にとどめております。

テキストは15章構成です。内容は有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、為替予約の会計処理、固定資産の会計、退職給付会計、税効果会計、組織再編の会計等について学習を進めます。2016年4月のテキスト改訂にあたって、連結会計の部分を削除しました。2単位ということと、テキストのボリュームを考えてのことです。

4 成績評価基準 最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

5 テキスト名および詳細 テキストは通教テキスト 神谷健司・市川佳功『簿記Ⅳ』第2版、2016年です。参考書として、『合格テキスト（1級商業簿記・会計学）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』TAC出版、および小野正芳編『ステップアップ簿記』同文館出版をあげておきます。具体的会計処理の裏づけとなる会計理論については、桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社、等を参考にしてください。問題集としては日商簿記1級試験の過去問題や各種1級テキストに対応している問題集を利用してください。なお連結会計については、『財務会計講義』の該当箇所でも連結会計に基本的な考えを学んで下さい。なお単位修得試験においては連結会計の部分は出題しません。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評することによってフィードバックを行います。簿記の学習はテキストに従って記帳処理の練習をしたり、総合問題を解くことが必要です。数多くの問題を解くことによって理解を深めてください。

Outline and objectives In this course, we learn accounting treatments with the goal of acquiring bookkeeping accounting at an advanced level. This course covers important matters in the study of financial accounting. Topics covered in this lecture include derivatives transactions, hedge accounting, foreign currency transactions, impairment accounting for fixed assets, retirement benefit accounting, tax effect accounting, etc. In this course, we will not deal with consolidated financial statements due to time constraints. We think that learning this courses in parallel with courses in the field of financial accounting will promote your understanding of the specifics of the field of financial accounting. Grading will be decided based on term-end examination.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論A

教科担当責任者：青野 幸平

担当者：青野 幸平
単位数：2単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 この授業では日本経済が直面する問題をマクロ経済学の基礎講座で学ぶ知見を足がかりに学習します。授業の目的は以下の通りです。

- ・日本経済の現状についての正確な知識の習得。
- ・日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につける。
- ・日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

3 科目の概要 以下の8つのトピックを取り上げます（カッコ内は教科書における対応章）：

1. 日本経済の歴史（第2章）、2. 経済成長（第3章）、3. 景気循環（第4章）、4. 金融市場（第5章）、5. 財政政策（第7章）、6. 産業構造（第9章）、7. 労働市場（第10章）、8. 失われた20年（14章）

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験によって評価します（ただし、レポート学習もしっかり行うこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 伊藤隆敏・星岳雄著／祝迫得夫・原田喜美枝訳『日本経済論』東洋経済新報社、2023年、4,500円＋税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。指定されたテキストをしっかりと読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記教科書から必要なものを探し出し、学習するように心がけてください。

Outline and objectives 科目の概要（Course outline）
This course introduces current state of the Japanese economy, economic logical thinking and economic theory to students taking this course.

学習の到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to build a more accurate picture of the overall Japanese economy.

成績評価基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
日本経済論B
教科担当責任者：青野 幸平
担当者：青野 幸平 単位数：2単位

1 学習の到達目標 戦後を中心に日本経済成長の歴史とその仕組みを理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

3 科目の概要 1 戦間期から高度経済成長期までの経済成長の歴史を学ぶことを課題とする。

2 その際、何が経済成長を促したのかを理解し、原因と結果を説明できるようにする。

3 金融システムやマクロ経済の観点から日本経済について理解できるようにする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験によって評価します（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで—』有斐閣、2016年、3,700円＋税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかりと読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記書から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives 科目の概要（Course outline）

This course introduces Japanese economic growth, causes of growth and intermittent history to students taking this course.

学習の到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to understanding the history of Japan's economic growth and how it works.

成績評価基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

MAN300TF（経営学 / Management 300）
財務会計論 I
教科担当責任者：川島 健司
担当者：川島 健司 単位数：2単位 ※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 本科目の目的は、①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつけること、および②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて企業活動の実態を推論しながら、財務会計情報の有用性について考察することである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 本科目では財務会計を財務諸表の「作り方」と「使い方」の両面から考察する。財務諸表の作り方の考察では、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を考察するには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用する経験が必要にある。そこで本授業では、財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、財務会計について総合的に理解することを目指す。

科目全体は以下の4つのパートに分割する。第1部「複式簿記」（第1回～第3回）、第2部「会計学」（第4回～第6回）、第3部「財務分析」（第7回～第9回）、第4部「価値分析」（第10回～第12回）。第1部と第2部は財務諸表の作り方であり、財務会計論Iで学習・考察する。第3部と第4部は財務諸表の使い方に関する内容であり、財務会計論IIで学習・考察する。なお、第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

具体的には以下の内容について学習する。

- ・会社経営と財政状態：会社の経営に関わる利害関係者との権利・義務の関係を財政状態として記録し、貸借対照表を作成する方法を学ぶ。貸借対照表から利益を計算する「財産法」という利益計算式を理解する。
- ・収支計算と損益計算：現金の記録と要約である収支計算を基礎に、経営の成果・努力の観点から「損益法」という利益計算式を学ぶ。その利益計算から貸借対照表を導出する過程を理解する。
- ・複式簿記の方法：財産法と損益法を結合させて複式簿記の原理を導出し、収支計算書、損益計算書、貸借対照表の3書類を効率的に作成するための体系的な記録と要約の方法を学ぶ。
- ・利益計算の会計：利益の概念について、会計に期待される役割や機能の観点から考察したうえで、利益計算の方法や、その構成要素である収益と費用の認識・測定の考え方について理解する。
- ・資産の会計：資産の基礎概念を理解したうえで、その認識・測定の考え方について考察する。時価評価（有価証券）、原価配分（固定資産）、繰延処理（税効果会計）の具体例について学習する。
- ・負債と資本の会計：負債と資本の基礎概念を理解したうえで、会計的負債としての引当金や、準備金と剰余金の概念整理、新

株予約権の処理などについて学ぶ。また、連結財務諸表の考え方も学習する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 【必須図書】指定市販本：①川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年、¥3,600+税。

【参考図書】②桜井久勝『財務会計講義』中央経済社（最新版）購入は任意。

単位修得試験、およびレポート設題は、基本的に上記①のテキストに準じる。②の購入は任意とする。財務会計論Ⅰの範囲は、①のテキストを二分したうちの前半であり、具体的には第1部「複式簿記 | 財務諸表を作成する」・第2部「会計学 | 会計処理を考察する」である。複式簿記とあるが、日商簿記検定等の受験書の内容とは異なり、考察することに主眼をおく。暗記の学習からは解放されるはずである。

【テキスト①と②の対応関係】下記、左側が①：右側が②を表す。

第1章：第2章の第2節

第2章：第2章の第2節

第3章：第2章の第2節

第4章：第2章の第2節、第12章

第5章：第2章の第3節、第4章の第1節・第2節、第6節

第6章：第4章の第3節、第5章

第7章：第10章、第11章、第13章

第8章：第7章の第3節（棚卸資産の原価配分）、第8章の第5節（リース会計）、第10章の第3節（税効果会計）

第9章：第12章

第10章：第12章

第11章：第5章の第5節、第12章

第13章：第8章の第4節（減損会計）、第10章の第5節（退職給付会計）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、自分自身の意見を述べることを。

Outline and objectives The objectives of this class are: ① to acquire bookkeeping techniques and basic vocabulary (concepts) in accounting, to use those techniques and vocabulary to consider how economic activities can be expressed in accounting terms, and to acquire the ability to prepare appropriate financial statements; and ② to consider the usefulness of financial accounting information while inferring the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and finance knowledge.

In this class, financial accounting will be considered from both the perspectives of "how to prepare" and "how to use" financial statements. In considering how to prepare financial statements, it is necessary to know the actual state of transactions, learn bookkeeping techniques, and learn basic principles and ways of thinking regarding accounting procedures. On the other hand, in considering how to use them, it is necessary to know traditional financial statement analysis techniques, and further to acquire and apply basic finance knowledge necessary for evaluating corporate value. Therefore, in this class, we will explain the most basic content of "double-entry bookkeeping," "accounting," "financial analysis," and "value

analysis," which are the elements necessary for understanding financial statements, and the interrelationships between each element, aiming to provide a comprehensive understanding of financial accounting.

Grades for this course will be assessed through a credit-earning exam.

MAN300TF（経営学 / Management 300）
財務会計論 II
教科担当責任者：川島 健司
担当者：川島 健司 単位数：2単位 ※ 2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 本科目の目的は、①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつけること、および②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて企業活動の実態を推論しながら、財務会計情報の有用性について考察することである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 本科目では財務会計を財務諸表の「作り方」と「使い方」の両面から考察する。財務諸表の作り方の考察では、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を考察するには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用する経験が必要にある。そこで本科目では、財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、財務会計について総合的に理解することを目指す。

科目全体は以下の4つのパートに分割する。第1部「複式簿記」（第1回～第3回）、第2部「会計学」（第4回～第6回）、第3部「財務分析」（第7回～第9回）、第4部「価値分析」（第10回～第12回）。第1部と第2部は財務諸表の作り方であり、財務会計論Ⅰで学習・考察する。第3部と第4部は財務諸表の使い方に関する内容であり、財務会計論Ⅱで学習・考察する。なお、第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

具体的には以下の内容を学習する。

- ・貸借対照表の分析：貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・損益計算書の分析：損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・キャッシュ・フローの分析：キャッシュ・フロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを可視化する方法を学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・会社の価値と資本コスト：会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの概念や計測方法について学習する。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

・DCFモデル：割引現在価値（DCF）モデルとよばれるキャッシュ・フローにもとづく価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である減損会計や退職給付会計についても解説する。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

・残余利益モデル：残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルを学習する。モデルの利用にあたり、インプットの会計情報の性質についても理解を深める。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 【必須図書】指定市販本：①川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年、¥3,600+税。

【参考図書】②桜井久勝『財務会計講義』中央経済社（最新版）、購入は任意。

単位修得試験、およびレポート設題は、基本的に上記①のテキストに準じる。②の購入は任意とする。財務会計論Ⅱの範囲は、テキストを二分したうちの後半であり、具体的には第3部「財務分析 | 財務諸表を読解する」・第4部「価値分析 | 会社の価値を評価する」である。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

【テキスト①と②の対応関係】下記、左側が①：右側が②を表す。

- 第1章：第2章の第2節
- 第2章：第2章の第2節
- 第3章：第2章の第2節
- 第4章：第2章の第2節、第12章
- 第5章：第2章の第3節、第4章の第1節・第2節、第6節
- 第6章：第4章の第3節、第5章
- 第7章：第10章、第11章、第13章
- 第8章：第7章の第3節（棚卸資産の原価配分）、第8章の第5節（リース会計）、第10章の第3節（税効果会計）
- 第9章：第12章
- 第10章：第12章
- 第11章：第5章の第5節、第12章
- 第13章：第8章の第4節（減損会計）、第10章の第5節（退職給付会計）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、自分自身の意見を述べることを。

Outline and objectives The objectives of this class are: ① to acquire bookkeeping techniques and basic vocabulary (concepts) in accounting, to use those techniques and vocabulary to consider how economic activities can be expressed in accounting terms, and to acquire the ability to prepare appropriate financial statements; and ② to consider the usefulness of financial accounting information while inferring the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and finance knowledge.

In this class, financial accounting will be considered from both the perspectives of "how to prepare" and "how to use" financial statements. In considering how to prepare financial statements, it is necessary to know the actual state of transactions, learn bookkeeping techniques, and learn basic principles and ways of thinking regarding

accounting procedures. On the other hand, in considering how to use them, it is necessary to know traditional financial statement analysis techniques, and further to acquire and apply basic finance knowledge necessary for evaluating corporate value. Therefore, in this class, we will explain the most basic content of "double-entry bookkeeping," "accounting," "financial analysis," and "value analysis," which are the elements necessary for understanding financial statements, and the interrelationships between each element, aiming to provide a comprehensive understanding of financial accounting.

Grades for this course will be assessed through a credit-earning exam.

MAN300TF（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅰ

教科担当責任者：福田 淳児

担当者：福田 淳児

単位数：2単位

1 学習の到達目標 原価計算論Ⅰでは、原価計算論について、これから学習していく上で必要とされる基礎的な概念および重要な専門用語を理解し、自分なりの言葉で簡潔に説明できることを目標とします。

さらに、原価計算論Ⅰでは、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の手続きを理解し、基本的な計算プロセスやその計算方法の意義を自分の言葉で説明できること、その上で、原価計算に関する基本的な問題を自分で解けることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 原価計算論Ⅰでは、原価計算論の学習を進めていく上で必要な基本的な概念および重要な専門用語の解説を、テキストおよび参考文献に基づいて行ないます。これらの概念や用語は、原価計算の学習および将来的に学習した内容を自分が所属する組織を対象として利用する際に、皆さんが頻繁に目にしたり、これからの学習内容を理解する上で必要となりますので、ぜひしっかりと理解してください。その上で、原価計算の一連の計算手続きについて、費目別原価計算、部門別原価計算および製品別原価計算（個別原価計算・総合原価計算）の順で、その計算メカニズム、およびそれぞれの手続きの背後にある理論的な根拠および意味についての解説を行ないます。特に、一つの手続きに対して、複数の処理方法を選択することが可能な場合もあります。その場合には、それぞれの選択可能な処理方法のメリットとデメリットを説明しますので、それらの点も含めて、理解するようにしてください。原価計算論Ⅰでは、主に以下の項目について学習します。

1. 原価計算の意義と目的：原価計算を行う意義および原価計算の目的を『原価計算基準』に沿って学習します。
2. 原価の本質と分類：原価とは何か、また原価を形態別、製品との関連性、および操業度との関連などで分類した場合のそれぞれの原価の特徴について学習します。今後の学習で必要となる用語が出てきますのでぜひ理解してください。
3. 原価計算の手続と種類：原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算について簡単に紹介します。また、原価計算の種類についても説明します。
4. 費目別原価計算：直接材料費、直接労務費、直接経費および製造間接費についてそれぞれの具体的な費目や分類方法を説明したのちに、その特徴や計算方法について、例題を交えながら学習します。
5. 部門別原価計算：原価の部門別計算が必要とされる状況、および部門別原価計算がもたらすメリット、およびそのコストについて説明します。さらに、一連の部門別原価計算の計算手続きについても学習します。工場における原価部門の設定方法、さらに補助部門に集計された製造間接費の製造部門への再配賦に関わる問題について学習します。この点についてはいくつかの計算方法があるので、それぞれの方法の特徴も含めて、きちんと整理し、理解してください。
6. 製品別原価計算（個別原価計算）：受注生産形態の工場また企業で利用される個別原価計算についてその特徴および計算手

続きについて学習します。特定製造指図書役割とともに、個別原価計算による製品別原価の計算方法についてきちんと理解してください。

7. 製品別原価計算（総合原価計算）：見込み生産形態の工場また企業で利用される総合原価計算についてその特徴、種類ならびに計算手続きについて学習します。総合原価計算では、仕掛品の評価方法も重要な意味を持ちますので、必ず計算方法も含め理解してください。また、工程別総合原価計算についても、理解するようにしてください。

受講者は、各項目について、テキストや参考文献の説明を単に読むだけではなく、それらの文献に示されている例題を必ず解くことで、理解を確認しながら学習を進めていってください。

4 成績評価基準 原価計算論Ⅰの学習範囲から出題された単位修得試験に基づいて評価を行ないます。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ 原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、¥2,400+税）の第1章から第11章まで。

6 学習指導、注意点等 通信学習で皆さんが作成したレポートに添削・講評をし、フィードバックを行います。テキストの指定範囲の全部、また指定された参考文献については必ず熟読し、その内容を理解してください。その学習によって自分の言葉で説明ができるようになります。さらに、テキストを読み進めるプロセスで、各章の例題を自分で必ず解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組むようにしてください。原価計算の役立ちを理解するためには、原価計算の手続きの意味・内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、レポートを作成する際には、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉でまとめてみてください。その際に、なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを自分なりに考え、レポートに明示してください。引用は必要最低限度にとどめ、引用箇所を明記してください。具体的には、引用の前後を「」でくくり、どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも、自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述を行なっている場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはレポートの末尾に必ずつけるようにして下さい。

講評に基づいて、レポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを加筆・修正するのではなく、もう一度全体の文章をきちんと見直し、全体として意味の通るレポートにしてください。

Outline and objectives [Learning objectives]

The learning objectives of this module are to let students understand the basic concepts and some important terms and they can explain these by yourself.

It also includes enhancement of your understandings on a series of procedures of cost accounting (cost-type accounting, cost center accounting, product cost accounting) and helps students to explain the basic calculation processes of cost accounting. In addition to this, it enhances the development of students' skill to solve basic numerical calculations.

[Course outline]

In this module, the basic concepts and important terminology necessary to study Cost Accounting will be explained.

We urge you to understand the terms and concepts that you will need to see and understand frequently when learning about cost accounting and using what you have learnt in the future for your own organisation.

In this module, you will mainly study the following topics.

Significance and purpose of cost accounting: the significance of cost accounting and the purpose of cost accounting are studied in accordance with the Cost Accounting Standards.

The nature and classification of costs: the students learn what costs are and the characteristics of each type of cost when costs are classified according to form, relationship to products, and relationship to capacity utilisation. You will learn terms that you will need in your future studies.

Procedures and types of costing: This section provides a brief introduction to costing by expense, departmental costing and product costing, which are a series of costing procedures. The types of costing are also explained in detail.

Cost type accounting: After explaining the specific expense items and classification methods for direct material costs, direct labour costs, direct overheads and manufacturing overheads, the characteristics and calculation methods are studied with examples.

Cost center accounting: This module explains the situations in which cost center accounting is required, and its benefits and costs. The course also covers the calculation procedures for a series of cost center accounting.

Job-order costing: This course covers the characteristics and calculation procedures of the job-order costing used in plants and companies with a make-to-order production system. Understand the role of specific manufacturing instructions and how to calculate costs by product using job-order costing.

Process costing: This module covers the characteristics, types and calculation procedures of process costing, which is used in factories and companies with prospective production systems. In process costing, the method of valuing work-in-progress is also important, so be sure to understand the calculation method as well.

Students are encouraged not only to read the explanations in the textbooks and references, but also to solve the examples given in those references by themselves to check their understanding of the subject matter.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on the results of the unit examination from the scope of Cost Accounting I.

MAN300TF（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅱ

教科担当責任者：福田 淳児

担当者：福田 淳児

単位数：2単位

1 学習の到達目標 原価計算論Ⅱでは、原価管理や短期利益計画の設定といった一連の企業の経営管理目的に対する、原価計算システムが提供する原価情報の役立ちについて理解することを目指の一つとしています。具体的には、標準原価による狭義の原価管理への役立ち、また短期利益計画に対する直接原価計算やCVP分析の役立ちについて理解することを目指とします。

さらに、原価計算論Ⅱでは、新しい製造間接費の配賦方法であるActivity-Based Costing(活動基準原価計算、ABC)についても学習します。伝統的な製造間接費の配賦方法の問題点、およびABCがそれらの問題をどのように解決しているのかを説明できることを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 原価計算論Ⅱでは、原価情報の経営管理目的への役立ちについて主に学習します。さらに、近年における原価計算の発展、およびその背後にある企業を取り巻く製造環境の変化についても理解することを目的としています。具体的には、以下の項目について学習します。

1. 標準原価計算：標準原価計算の意義およびその目的について明らかにします。特に、標準原価による狭義の原価管理目的の役立ちについて説明した後、原価標準の設定方法、そして標準原価と実際発生原価との差異の認識、および原価差異の分析方法について、詳しく学習します。特に、製造間接費の原価差異分析方法についてはいくつかの方法がありますので、それぞれを理解するようにしてください。その際に、異なる分析方法間の関係性を理解すると良いと思います。さらに、現在の製造環境のもとでの標準原価の原価管理目的へ役立ちについても検討します。

2. 直接原価計算：直接原価計算の意義を明らかにした後、全部原価計算との対比で直接原価計算の特徴を説明します。その後、両者の方式で作成した損益計算書における営業利益の間にどのような差異が見られるか、またその差異がどのような状況で、なぜ生じるのかについて詳しく検討します。さらに、それらが経営上の意思決定にどのような効果をもたらす可能性があるかについても検討します。

3. CVP分析：短期利益計画を設定する上で有用な情報を提供する技法として、原価・営業量・利益の関係を分析するCVP分析を学習します。損益分岐点での売上高、またある一定の目標営業利益や目標売上高営業利益率を達成するために必要とされる売上高の大きさを自分の力で計算できるようにします。

4. Activity-Based Costing（活動原価計算）：1980年代における企業を取り巻く製造環境の変化が製造原価の構成や製造間接費の中身にも大きな変化をもたらしたこと、それによって伝統的な製造間接費の配賦方法がもはや許容できなくなってきたことを原因として、ABCがアメリカの研究者による実務の観察を通じて紹介された経緯を明らかにします。その後、ABCの具体的な計算手続きを伝統的な製造間接費の配賦方法との比較によって明らかにします。また、近年ABCに対する批判に 대응するために提唱されたTDABCを紹介いたします。

経営管理目的に有用な原価計算について、それぞれの原価計

算手法の持つ意味、またその役立ちについてしっかりと理解してください。さらに、そのような原価手法がどのような製造環境の求めに応じて登場し普及したのかについても理解できるようにしてください。

4 成績評価基準 原価計算論Ⅱの範囲から出題された単位修得試験の結果に基づいて評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ 原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、¥2,400+税）の第12章から第15章まで。

6 学習指導、注意点等 通信学習で皆さんが作成したレポートに添削・講評をし、フィードバックを行います。テキストの指定範囲の全部、また指定された参考文献については必ず熟読し、その内容を理解してください。その学習によって自分の言葉で説明ができるようになります。さらに、テキストを読み進めるプロセスで、各章の例題を自分で必ず解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組むようにしてください。原価計算の役立ちを理解するためには、原価計算の手続きの意味・内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、レポートを作成する際には、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉でまとめてみてください。その際に、なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを自分なりに考え、レポートに明示してください。引用は必要最低限度にとどめ、引用箇所を明記してください。具体的には、引用の前後を「」でくくり、どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも、自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述を行っている場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはレポートの末尾に必ずつけるようにして下さい。

講評に基づいて、レポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを加筆・修正するのではなく、もう一度全体の文章をきちんと見直し、全体として意味の通るレポートにしてください。

Outline and objectives [Learning objectives]

The purposes of this module are to develop students' understanding on what roles cost information provided through a cost accounting system play in implementing cost control and short-term profit planning in an organization. It also explain the way activity-based costing allocated indirect cost to products and the effects of ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

[Course outline]

In this module, students learn how the cost information provided by costing systems can be useful for business management purposes. Furthermore, the course aims to provide an understanding of the development of cost accounting in recent years and the changes in the manufacturing environment surrounding companies that lie behind this development. Specifically, the course covers the following topics

Standard costing: The significance of standard costing and its objectives are clarified. In particular, after explaining the usefulness of standard costing for cost control purposes in the narrow sense of the term, the course then looks at

how cost standards are set up, the recognition of differences between standard costs and actual costs incurred, and how cost variances are analysed. Furthermore, the usefulness of standard costs for cost control purposes under the current manufacturing environment will be discussed.

Direct costing: After clarifying the significance of direct costing, the characteristics of direct costing will be explained in comparison with total costing.

CVP analysis: this module covers CVP analysis, which analyses the relationship between cost, sales volume and profit, as a technique that provides useful information for setting short-term profit plans.

Activity-Based Costing: the changes in the manufacturing environment surrounding companies in the 1980s brought about significant changes in the composition of manufacturing costs and the content of manufacturing overheads, which made the traditional method of allocating manufacturing overheads no longer acceptable. The paper clarifies how ABC was introduced through observations of practice by researchers in the USA as a result of the changes in the structure of manufacturing costs and the content of manufacturing overheads.

You will gain a solid understanding of the meaning of each costing method and its usefulness for management control purposes. Furthermore, you should also be able to understand how such costing methods have emerged and spread in response to the demands of the manufacturing environment.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on the results of the unit examination from the scope of Cost Accounting II.

MAN300TF（経営学 / Management 300）

管理会計論 I

教科担当責任者：北田 皓嗣

担当者：北田 皓嗣

単位数：2単位

※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

4 成績評価基準 管理会計論 I / II では単位修得試験によって成績を評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『管理会計論』第2版、佐藤康男、2003年

6 学習指導、注意点等 管理会計論 I と管理会計論 II は、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

レポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。レポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

Outline and objectives Management accounting is a theory and set of techniques that provide essential economic information for organizational management. Therefore, studying management accounting requires not only mastering calculation techniques but also understanding what management entails in the context of organizational practices. In this course, we will explore how accounting systems function to realize corporate strategies, examining their relationship with organizational structures.

This course aims to develop knowledge of the relationship between management issues and management accounting. Students will learn how different accounting information is utilized for specific management problems and understand the role of financial and non-financial information. Additionally, the course focuses on building practical skills in related calculation methods.

Please consolidate your knowledge through review after each lecture. The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.

The overall evaluation will consist of the "Midterm Report" (40%) and the "Media Schooling Examination" (60%).

MAN300TF（経営学 / Management 300）

管理会計論Ⅱ

教科担当責任者：北田 皓嗣

担当者：北田 皓嗣

単位数：2単位

※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

4 成績評価基準 管理会計論Ⅰ／Ⅱでは単位修得試験によって成績を評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『管理会計論』第2版、佐藤康男、2003年

6 学習指導、注意点等 管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

レポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。レポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

Outline and objectives Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅰ

教科担当責任者：羅 鵬飛

担当者：羅 鵬飛

単位数：2単位

※2026年4月より通教テキスト（指定市販本）へ変更

1 学習の到達目標 国際金融論Ⅰでは、国際金融にかかわる基本的な仕組みを理解することを目的とする。為替レート、外国為替市場、国際収支といった基礎概念を順に学び、そのうえで為替レートや国際収支を説明する主要な理論、さらに裁定取引やデリバティブといった関連概念への理解を深める。これらの基礎理論の習得を通じて、今日の金融グローバル化を支える根本的な構造を把握することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

3 科目の概要 外国為替相場や国際収支は、世界経済の動向を理解するうえで欠かせない情報であり、日常のニュースでも頻繁に取り上げられる。本科目では、こうした国際金融の基礎分野を体系的に学び、仕組みの理解を深める。具体的には、外国為替の考え方、為替レートの意味と決まり方、外国為替市場の特徴、国際収支の捉え方を確認し、さらに為替レートや国際収支に関する代表的な理論を扱う。学習範囲はテキスト第1、4、7～9に相当する。

テキストは入門的内容のため、設題への取り組みや関連文献の参照によって理解を発展させることが重要である。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『徹底解説 国際金融』[第2版] 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著、日本評論社、2024年、¥2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートには、添削と講評を付してフィードバックを行う。

国際金融論Ⅰにおける基礎的な理論の修得には金融論の理解が不可欠である。また、マクロ経済学や国際経済学に関する基本的な知識も本科目の理解を深めるうえで役立つ。そのため、国際金融だけに焦点を当てるのではなく、経済全体の動きと関連づけながら学習を進めることが望まれる。

さらに、国際金融の学習には因果関係を整理する姿勢が欠かせない。多くの経済現象は理論的な関係性に基づいて動いており、例えば金利と為替レートには一定のつながりが見られる。こうした理論的枠組みを踏まえて、筋道立てて理解することが、学習を深める際の重要なポイントとなる。日々の学習では、常に理論的な視点を意識しながら取り組むことが求められる。

Outline and objectives [Course Objectives]: This course aims to provide students with a foundational understanding of the core mechanisms of international finance. Students will study key concepts such as exchange rates, foreign exchange markets, and the balance of payments, followed by major theoretical frameworks explaining exchange rate determination and external balances. The course also introduces related concepts including arbitrage and financial derivatives. Through these topics, students will develop an understanding of the

fundamental structures underlying financial globalization. [Course Description]: Exchange rates and balance of payments statistics are essential for understanding global economic developments and frequently appear in daily economic news. This course systematically covers the basic components of international finance, focusing on the nature of foreign exchange, the meaning and determination of exchange rates, the structure of foreign exchange markets, and the interpretation of the balance of payments. Representative theories related to exchange rates and international payments are also examined. The course corresponds to Chapters 1, 4, and 7–9 of the textbook. As the textbook is introductory, students are expected to deepen their understanding through problem-solving exercises and additional readings.

[Assessment]: Final grades are determined by a comprehensive final examination. Completion of assigned report-based learning is also required.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

国際金融論 II

教科担当責任者：羅 鵬飛

担当者：羅 鵬飛

単位数：2単位

※ 2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 国際金融論 II では、国際金融論 I で得た基礎知識を踏まえ、国際金融の発展過程と現在の課題を理解することを目標とする。まず、国際通貨体制の歴史とその変化を学び、続いて資本フローと為替取引の変遷と国際金融の現場で生じてきた主要通貨の動向・通貨統合・通貨危機などの重要な出来事を取り上げる。こうした学習を通して、現代の国際金融を特徴づける構造やその意味をより広い視野で理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

3 科目の概要 国際通貨体制や通貨・金融危機の問題は、国際金融の状況を読み解くうえで重要なテーマであり、現在の国際情勢とも密接に関連している。国際金融論 II では、国際金融の歴史的展開を軸に、今日の国際金融制度がどのような過程を経て形づくられてきたかを学ぶ。国際資本フロー、第一次大戦前の金本位制、戦後のブレトンウッズ体制、EUにおける通貨統合、円の国際化、アジア通貨危機、金融危機、グローバルインバランスなどを取り上げる。学習範囲はテキスト第2、3、5、6章に相当する。

より深い理解のためには参考文献の活用が効果的であり、また国際金融に関する最新のニュースに関心を持つことも不可欠である。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『徹底解説 国際金融』[第2版] 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著、日本評論社、2024年、¥2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

国際金融論 II は国際金融論 I における基礎的な理論が修得できていることが必要となる。また、マクロ経済学や国際経済学に関する基本的な知識も本科目の理解を深めるうえで役立つ。そのため、国際金融だけに焦点を当てるのではなく、経済全体の動きと関連づけながら学習を進めることが望まれる。

さらに、国際金融の学習には因果関係を整理する姿勢が欠かせない。多くの経済現象は理論的な関係性に基づいて動いており、例えば金利と為替レートには一定のつながりが見られる。こうした理論的枠組みを踏まえて、筋道立てて理解することが、学習を深める際の重要なポイントとなる。日々の学習では、常に理論的な視点を意識しながら取り組むことが求められる。

Outline and objectives [Course Objective]

Building on the foundations of International Finance I, this course examines the historical development of the international financial system and its contemporary challenges. It focuses on the evolution of international monetary regimes, changes in capital flows and foreign exchange transactions, and major developments such

as key currency dynamics, monetary integration, and currency and financial crises. Through a historical and institutional perspective, students gain a broader understanding of modern international finance.

[Course Description]

The course covers the gold standard, the Bretton Woods system, international capital flows, European monetary integration, the internationalization of the yen, currency and financial crises, and global imbalances.

[Assessment]

Final examination (report assignments required).

LAW300TF (法学 / law 300)

憲法

教科担当責任者：國分 典子

担当者：土屋 仁美

単位数：4単位

1 学習の到達目標 近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特徴を理解する。

日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する。

日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約190カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。評価の際には、先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『憲法 第8版』、岩波書店、芦部信喜著(高橋和之補訂)、2023年、3,740円
※『現代日本の憲法 [第2版]』、法律文化社、元山 健・建石真公子編、2016年、¥ 2,800+税(初版(2009年))も使用可
【参考文献】

『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅰ 第7版』有斐閣、2019年
『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選Ⅱ 第7版』有斐閣、2019年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解することが基本である。まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution. Understand the definition of human

rights protected by the Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection. Also, understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution.

This course aims to provide an understanding of the basic 'principles' underpinning constitutional law, such as national sovereignty, democracy and the division of power, as well as the concept of human rights and their guarantees, which are influenced by history, the state of society and its relationship with the international community.

The final grade is based on an examination. The quality of the report is taken into account when grading.

LAW300TF (法学 / law 300)

民法一部（総則・物権法）

教科担当責任者：川村 洋子

担当者：大久保 慎太郎、川村 洋子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 契約、物、家族といった私達の生活の基本的なルールを定めている民法のうち、民法全体に共通するルールからなる「民法総則」部分、および、物についての規範である「物権」部分を中心に、基本的な内容を理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられている。経済活動のあり方を考える上では、法律による取引活動の規律がいかなるものであるかを学ぶ必要があるが、その際に民法を学ぶことは非常に重要である。本科目では民法のうち、民法全体に共通する規範である「民法総則」および物権に関する規範である「物権法」を学習する。具体的には、民法総則では、通則、権利の主体・客体、法律行為、時効制度などについて、物権では、所有権等の各種物権や担保物権などについての理解を深める。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『リーガルベイス民法入門』第5版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2024年、¥ 5,000+税
※第4版（2022年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。民法を勉強する上で、とりわけ民法全体に共通するルールである民法総則の知識は不可欠であるが、民法総則の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例百選』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。また、判例の原文も読むこと（最高裁判所HPや本学図書館HPに掲載されている法律情報データベースでアクセスできる）。

なお、本講義の対象である民法総則は2017年に、物権法は2021年に改正されている。古いテキストや六法を使わないようにしてほしい。

Outline and objectives [Course Outline]

This course addresses general legal rules affecting private transactions and accidents, as well as laws of property and security interests, the principles of which are mostly

provided in Parts 1 and 2 of the Japanese Civil Code. Part 1 of the Civil Code provides rules on capacity of parties, objects of legal acts, intention to create legal relations, and prescription. Property law introduces students to the basic forms of establishing entitlements, the rules on transfer of ownership in general, conveyancing and private control of land use. Security interest refers to the property rights of a creditor whose right to collect a debt is secured by property ('collateral') and this course covers the rules on several types of security interests: mortgages, charges, pledges and liens.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major legal issues which may arise in a particular factual situation.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TF（法学 / law 300）

民法二部（債権法）

教科担当責任者：川村 洋子

担当者：金井 悠一郎、川村 洋子
単位数：4単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分について、基本的な内容を理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられているが、本科目では民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分を学習する。具体的には、債権の目的、効力、譲渡、消滅、さらには多数当事者の債権・債務について定める債権総論部分についてはもちろん、債権の発生原因として重要な契約、事務管理、不当利得、不法行為について学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『リーガルベイス民法入門』第5版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2024年、¥ 5,000+税

※第4版（2022年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。しかし、民法の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（債権各論）』『民法判例集（債権総論・担保物権）』『民法判例百選（債権）』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。判例は原文にあたること。最高裁判所のHPや本学図書館HPから閲覧できる法律情報データベースからアクセスできる。

また、債権総論部分の条文には、債務不履行、自殺、債権譲渡など、直ちにはイメージがわからず、とっつきにくいものが多いので、まずは日常生活に身近であり、債権の発生原因として重要な契約、不法行為を最初に勉強することをおすすめする。

さらに、債権総論・各論部分については2020年4月より改正後の民法が施行された。改正に関する主な書籍には以下のものがある（いずれも今後改訂される可能性があることから、新学期開始時点での最新版を参考にする）。

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017年、¥ 3,200+税

山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017年、

¥ 1,200＋税

大村敦志・道垣内弘人編『解説 民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017年、¥ 3,200＋税

潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正（第2版）』弘文堂、2021年、¥ 3,300＋税

潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018年、¥ 6,500＋税

Outline and objectives [Course Outline]

This course introduces students to the basic concepts of debtor and creditor law, contract law and tort law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to those areas. The principles of debtor and creditor law are mostly provided in Chapter 1, Part.3 of the Japanese Civil Code, those of contract law in chapter 2, and those of tort law in Chapter 5. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapters 3 and 4, Part 3 of the Civil Code.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract and tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TF（法学 / law 300）

商法総則・商行為法

教科担当責任者：椽川 泰史

担当者：松谷 秀祐

単位数：4単位

1 学習の到達目標 企業組織・企業取引に関してわが国ではどのような法制度・ルールが用意されているのかについて基本的な知識を修得しており、それら法制度・ルールの概要を説明することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目は、商法（明治32年法律48号）のうち、第1編総則（第1条から第31条）、第2編商行為（第501条から第617条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成17年法律第86号）第1編総則（第1条から第24条）のうち、商法第1編と同様の規定が置かれている項目についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記3編に規定されている各条文および関連する重要判例に関する出題を行います。

4 成績評価基準 リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019年、¥1900＋税

6 学習指導、注意点等 個々の点については、通信学習のリポートに添削・講評の中でフィードバックしますが、本科目の学習に際して以下の4点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

第一に、専門用語を理解・使用することが重要です。たとえば、「知らない」ではなく「善意」、「知っている」ではなく「悪意」というようにです。リポート設題および単位修得試験では、これら専門用語そのものに点数が割り振られている場合もあるでしょう。意味が分からない用語はそのままわからないままにせずに、『法律学用語辞典』などで意味を調べるようにしてください。

第二に、専門用語と専門用語との関係を理解することが重要です。あくまでも一例ですが、「善意の第三者（には）」という用語は（多くの場合）「対抗できない」という言葉と結びつくというようにです。この専門用語と専門用語との関係は、多くの場合、条文という形で規定されています。そのため、特に実定法の学習の際には、常に六法を傍らに置き、条文の文言および条文番号を意識・確認するよう心掛けてください。リポート設題および単位修得試験においてただ条文をコピー＆ペーストすれば合格水準に達するということはありませんが、法律学（特に実定法）の学習は「条文に始まり、条文に終わる」というフレーズもあるように、条文の文言および条文番号の重要性を忘れないようにしてください。

第三に、体系・学説（理論）・立法理由を理解することが重要です。まず、体系といった場合、様々な意味がありますが、代表的なものは、「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係でしょう。ここではその詳細を論じることはできませんが、たとえば、商法のリポート設題および単位修得試験で、詐欺罪について詳しく述べている、民法の規定についてのみしか触れていないようなリポート・答案は、この「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係を理解できていないリポート・答案ということになって

します。

また、学説（理論）について、学部の学習段階で日本あるいは世界に存在している学説（理論）をすべて理解する必要はないと考えますが、必ずしも条文上で明確に定義されていない事項が学説（理論）に表れている場合もありますので、前述のとおり条文だけ覚えればよい、条文にだけ言及すればよいというわけではないことに留意してください（たとえば、類推解釈・類推適用が必要な場合など）。

さらに立法理由について、ある規定の立法理由そのものがレポート設題および単位修得試験で正面から直接問われることは多くないかもしれませんが、解釈の手がかり、解決の手がかりとなる場合もあります。

第四に、学習時間を確保する・学習方法を考えることが重要です。はじめて学習する科目で学習時間0分でレポート提出・単位修得試験を受験して満点・単位修得基準に達することは（ほとんど）ありません。まずは、どの科目を何時間、どの方法でいつまでに学習するかという学習計画をしっかりと立てるよう心掛けてください。

また、学習方法には「教科書タイプ」と「演習タイプ」の2種類があると考えています。前者は教科書を一通り読んでから実際にレポート設題等を解くタイプ、後者は、実際にレポート設題等を解きながら必要なこと・不明な点等あれば教科書等を調べるタイプのことです。目指すゴールは同じであり、どちらのタイプが優れているということはないはずですので、「教科書タイプ」と「演習タイプ」のどちらがよりご自身に向いているのか判断された上で学習を進めてください。

Outline and objectives Students in this class will learn about the rules governing the organization of a business and business transactions.

LAW300TF（法学 / law 300）

会社法

教科担当責任者：笹久保 徹

担当者：笹久保 徹、石井 宏司

単位数：4単位

1 学習の到達目標 会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。

- ① 株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。
- ② 上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005年（平成17年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899年（明治32年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法〇〇条ではなく、商法〇〇条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行わなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るところの金銭を「配当」という。わが国には、約250万社の株式会社が存在し、その中の約4000社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律ということができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

4 成績評価基準 リポート及び単位修得試験において評価する項目は、記載内容の正確さ、論理的な整合性、リポート・答案の構成、リポートにおける判例・資料・文献の引用である。

最終評価は単位修得試験で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年） ￥5,600+税

※第2版（2015年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

※【スタディガイド（学習指導書）】あり（第1版・第2版に対応）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史著『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史著『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕（日経文庫）』（日本経済新聞出版社、2021年）を見てほしい。

① 会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶに際しては、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。

② 会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。

③ 会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で979条もあり、そのうえ、各条文が長いこと、六法のページ数を比較すれば、民法典の約2.5倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。

④ 会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することによりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））以外にも以下の図書が参考となる。

1. 柴田和史著『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕（日経文庫）』（日本経済新聞出版社、2021年）、¥1,000（税抜）

2. 柴田和史著『類型別 中小企業のための会社法〔第2版〕』（三省堂、2015年）、¥2,800（税抜）

3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第4版〕』（有斐閣、2015年）、¥2,900（税抜）

4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第2版〕』（有斐閣、2015年）、¥3,800（税抜）

5. 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（別冊ジュリスト254号）（有斐閣、2021年）、¥2,500（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TF（法学 / law 300）

手形法・小切手法

教科担当責任者：榎川 泰史

担当者：金尾 悠香、清水 真人
単位数：4単位

1 学習の到達目標 手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきた道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。

手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験により評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第5版（有斐閣Sシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林靖・福瀧博之著、2018年、¥ 2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives Students in this class will learn the rules for the creation, distribution, and settlement of checks, bills of exchange, and promissory notes.

LAW300TF（法学 / law 300）

労働法

教科担当責任者：藤木 貴史

担当者：藤木 貴史、山本 圭子
単位数：4単位

1 学習の到達目標 （労働法総論・労働契約法）労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。

（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。

（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。

なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることが望ましい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年、¥2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

労働法は憲法25条の生存権保障理念の実現を労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法27条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法28条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。

労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的な労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。

そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働

市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、「特定の労働者に向けたルール」として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、レポートを作成してほしい。

Outline and objectives "General Labor Law and Labor Contracts Law"

The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.

"Labor Standards Law"

The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.

"Labor Union Act"

The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

社会経済思想史

教科担当責任者：後藤 浩子

担当者：伊藤 直樹、後藤 浩子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 古代から20世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会経済思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 社会経済思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかにある。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17世紀において、また19世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会経済思想「史」であるとは、社会経済についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

4 成績評価基準 ・レポート評価

ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。

次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。

また、学ぶ内容は、過去の思想である。したがって、けっして自分の思い込みでレポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。

・筆記試験

レポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうか、評価の基準となる。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『社会思想史』第3版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、伊藤直樹、2022年

まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評

でフィードバックする。

レポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。

上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったレポートを書くべきかが、見えてくるはずである。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、レポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたレポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわない、ただ難しいだけのものになってしまっている。これでは、学びとは言えない。

また、分量について、最低でも2000字以上ないと課題をまとめることはできないだろうと思われる。

なお、生成AIツールの使用については、次のようにします。

生成AIツールの使用は一切禁止します。

不正使用すると、本講義の学びのすべての価値が失われます。

不正使用の防止は、受講者の良心にかかっています。

よろしく願いいたします。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済地理

教科担当責任者：甲斐 智大

担当者：南 春英

単位数：4単位

1 学習の到達目標 経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

4 成績評価基準 成績評価は設題に対するレポートと単位修得試験による。

レポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年、¥3,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

成績評価基準に書いた通り。レポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのレポートは引用によって成り立つものであるため、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にしたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかりと理解した上で臨むこと。

Outline and objectives Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

MAN100TG（経営学 / Management 100）
簿記Ⅰ
教科担当責任者：筒井 知彦
担当者：筒井 知彦 単位数：2単位

1 学習の到達目標 簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定3級と同じです。したがって、簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『簿記Ⅰ』第3版、永野則雄、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（1回目）、②1つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（2回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（3回目）、④レポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからレポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives Accounting is often referred to as the language of business. Bookkeeping in an entry subject of accounting.

In this course you will learn about the recording of business transactions, the ledger system and trial balance, using double entry bookkeeping.

Grading will be decided

based on term-end examination.

MAN100TG（経営学 / Management 100）
簿記Ⅱ
教科担当責任者：筒井 知彦
担当者：筒井 知彦 単位数：2単位

1 学習の到達目標 簿記Ⅰ・Ⅱは、会計（特に財務会計）への入門として、簿記を初めて学ぶ学生を対象として簿記の基礎を学ぶことにします。簿記のレベルとしては、日本商工会議所の簿記検定3級と同じです。したがって、簿記検定3級レベルの理解ができることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 簿記は会計（特に財務会計）の一部です。会計は「ビジネスの言語」といわれています。このビジネスの言語は、企業によって使われている社会的な技術です。身近な商店から世界的な会社に至るまで、その複雑さと難しさは大きく異なりますが、会計の基本的な仕組みは同じです。

「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、会計の入門として、簿記の基本的な仕組みを学ぶことになっています。まず、「簿記Ⅰ」は、事業活動における基本的な出来事を対象として、簿記の基本的な仕組みと記帳方法を重点的に学びます。次に、「簿記Ⅱ」は、「簿記Ⅰ」の理解を前提として、さらに詳しい事業活動を対象としてその処理と詳しい記帳の仕方を学びます。「簿記Ⅰ・Ⅱ」は、商店などの個人企業の簿記を扱っています。株式会社の簿記あるいは会計については、その事業活動が複雑になるので、「簿記Ⅲ・Ⅳ」や「会計学入門Ⅰ・Ⅱ」などで学ぶことになります。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『簿記Ⅱ』第3版、永野則雄、2017年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記は頭で理解するだけでなく、手を動かすことによって体得するということが重要です。まず、①テキストを良く読んで復習問題を解く（1回目）、②1つの章が終わったらその章の復習問題を再度解く（2回目）、③全体を終えたら全体の復習問題を再度解く（3回目）、④レポートを作成して提出する。簿記Ⅰをこの手順で理解してから簿記Ⅱに取り掛かるようにしてください。テキスト以外の本で学んだ人では、テキストの復習問題を全部解いてからレポートを作成してください。

勘定科目名が多く出てきますが、誤字のないようにきちんと覚えることが大切です。各種の帳簿や表を作成する際には自分で合計線や締切線などを引くことになります。その際、テキストの例を真似て線を引くようにしてください。

Outline and objectives Accounting is often referred to as the language of business. Bookkeeping in an entry subject of accounting.

In this course you will learn about the recording of business transactions, the ledger system and trial balance, using double entry bookkeeping.

Grading will be decided

based on term-end examination

MAN100TG（経営学 / Management 100）
経営学総論Ⅰ
教科担当責任者：佐野 哲
担当者：佐野 哲 単位数：2単位

1 学習の到達目標 経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 経営学総論Ⅰでは、①経営戦略（競争優位を築く基本戦略と業界分析手法）、②広告・マーケティング（マーケット及び製品特性の分析と広告・流通戦略）、③ビジネス思考と交渉の理論（ロジカルシンキング及び営業交渉ノウハウの理論と実際）、④I T（企業経営とI T利用領域）の4テーマを取り上げます。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グロービスMBAマネジメントブック（改訂3版）』グロービス経営大学院（ダイヤモンド社、2008年、¥2,800+税）の第1部「経営戦略」、第2部「マーケティング」、第6部「I T」、第7部「ゲーム理論・交渉術」を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives (Course outline)

This is an introductory course to the study of management in firms.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamentals of strategic management, marketing management and critical thinking.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Mid-term Report : 50%.

MAN100TG（経営学 / Management 100）
経営学総論Ⅱ
教科担当責任者：佐野 哲
担当者：佐野 哲 単位数：2単位

1 学習の到達目標 経営学は、非常に奥が深くて幅の広い学問です。経営哲学のような極めて抽象的な理論から、工程管理のような日々の活動を効率的にする実践的なノウハウまで、様々なテーマを包摂しています。経営学総論では、それらの中から「実践的な経営の場面で活用されている理論・ノウハウ」をバランス良く選び、各自が自律的に学習して行けるような道筋を提示します。「企業経営者が日常使っている専門的な概念を、正確に理解できる」。これが、当科目の学習到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 経営学総論Ⅱでは、①会計・アカウンティング（財務諸表の構造と読み方及び経営分析手法）、②投資・ファイナンス（企業の資金調達と投資意思決定に関する理論）、③人材・組織マネジメント（リーダーシップやモチベーションに関する理論と組織設計のあり方）、④I T（企業経営とI T利用領域）の4テーマを取り上げます。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験の結果から、総合的に評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『グロービスMBAマネジメント・ブック（改訂3版）』グロービス経営大学院（ダイヤモンド社、2008年、¥2,800+税）の第3部「アカウンティング」、第4部「ファイナンス」、第5部「人・組織」、第6部「I T」を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。
専門的な概念を正確に理解・使用して、実践的な場面がイメージできる、解りやすいリポートを作成して下さい。

Outline and objectives (Course outline)

This is an introductory course to the study of management in firms.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamentals of accounting management, corporate finance and human resource management.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Mid-term Report : 50%.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営管理論 I
教科担当責任者：中西 善信
担当者：中西 善信 単位数：2単位

1 学習の到達目標 経営管理（マネジメント）の基本的な知識を習得して、組織で現実に行われている活動について理解を深め、現実の組織活動にも生かせるようにする。なお、経営管理論 I では特に知識の習得にポイントを置き、経営管理論 II での思考力育成の基礎を形成する。またレポート作成面では形式（節などをつけて構成を明確にする）と内容に気をつけて、構成と論理の展開のしっかりしたレポートを書けるようにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

3 科目の概要 組織と経営管理の基本的な理論について検討し、経営管理についての理解を深める。経営管理（マネジメント）には、様々な側面がある。それらの側面について、多面的に検討する。

4 成績評価基準 レポートの内容と試験の結果で総合的に評価する。したがって、単位修得試験を受験する前に必ずレポートの合格を得ておくこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『組織の解釈学』、稲垣保弘、白桃書房、2002年、¥ 3,200+税
経営管理の内容とその基本的な理論が示されている。主としてその第1章から第6章までと第11章を範囲とする。
類似書籍『経営の解釈学』と間違えないように。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストの内容をよく理解し、テーマに合った内容をレポート全体の構成と論旨の明確さ（分かりやすさ）に気を付けながらまとめること。

Outline and objectives This course deals with relatively basic theories of organizing and management. In terms of report writing, pay attention to format (clear structure with clauses, etc.) and content.

[Learning Objectives]

Students will acquire basic knowledge of business administration (management), deepen their understanding of the activities actually carried out in organizations, and be able to apply this knowledge to real-world organizational activities. In this course, the focus is on acquiring knowledge. In terms of report writing, students will pay attention to both form (e.g. adding sections to clarify the structure) and content, and be able to write reports with a solid structure and logical development.

[Course outline]

We will examine the basic theories of organization and business management, and deepen our understanding of business management. Business management (management) has various aspects. We will examine these aspects from a variety of perspectives.

[Grading Criteria /Policy]

The report and the results of the exam will be used to

evaluate the student's overall performance. Therefore, students must pass the report before taking the final exam.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ

教科担当責任者：中西 善信

担当者：中西 善信
単位数：2単位

1 学習の到達目標 マネジメントについての重要だがやや応用的な理論について、現実への適用可能性を検討しながら理解する。経営管理論Ⅰで身に付けた基本的な知識を発展させ、論理的思考力を形成する。また形式面だけでなく、論述の展開に論理的な思考の反映されたりレポートを作成する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

3 科目の概要 マネジメントについてのやや応用的な理論について検討する。経営管理論Ⅰでは特に知識の習得にポイントを置いたが、経営管理論Ⅱでは、より応用的な思考力育成をめざす。

4 成績評価基準 レポートの内容と試験の点数によって総合的に評価する。したがって、単位修得試験受験の前に必ずレポートの合格を得ておくこと。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『組織の解釈学』、稲垣保弘、白桃書房、2002年、¥ 3,200+税（第6～10、12章）

なお、マネジメントの重要なテーマについての理解には、稲垣保弘『経営の解釈学』白桃書房、2013年、が参考になる。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。
テキストの内容をよく理解し、テーマに合った内容をレポート全体の構成と論旨の明確さ（分かりやすさ）に気を付けながらまとめること。

Outline and objectives This course deals with relatively complicated theories of organizing and management. Students will produce a report that reflects logical thinking in the development of the argument as well as in its formality.

[Learning Objectives]

Students will acquire basic knowledge of business administration (management), deepen their understanding of the activities actually carried out in organizations, and be able to apply this knowledge to real-world organizational activities. In this course, the focus is on developing thinking skills. In terms of report writing, students will pay attention to both form (e.g. adding sections to clarify the structure) and content, and be able to write reports with a solid structure and logical development.

[Course outline]

We will examine somewhat applied theories of management. While Management Theory I focused on acquiring knowledge, Management Theory II aims to develop more applied thinking skills.

[Grading Criteria/Policy]

The report and the results of the exam will be used to evaluate the student's overall performance. Therefore, students must pass the report before taking the final exam.

ECN200TG（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ

教科担当責任者：宮澤 信二郎

担当者：宮澤 信二郎
単位数：2単位

1 学習の到達目標 金融に仕事で直接かかわる場合はもちろん、金融と仕事上は直接かかわりを持たない場合であっても、社会生活を営む上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められる。このコースでは、金融理論が社会における問題解決にどのように役立つのか、という実務的な視点を重視する。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 このコースでは、金融取引の機能など、基礎的な金融理論について学ぶ。教科書では、第Ⅰ部と第Ⅱ部がその対象となる。この金融論Ⅰで得られた知識を前提として、金融論Ⅱでは、金融市場や金融機関、金融に係るマクロ政策等、より実務面での学習を行うため、金融論Ⅱもあわせて受講することが望ましい。

4 成績評価基準 単位修得試験では、金融論の基礎が理解できていることを評価する。加えて、レポート課題では、教科書の内容への理解だけでなく、最近の金融に関する出来事を金融論で学んだことを通じて正しく理解できているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『金融 新版』、内田浩史、有斐閣、2024年、¥3,600+税（下記の旧版も使用可能）
『金融』第1版、内田浩史、有斐閣、2016年、¥3,400+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。教科書を読んで理解することはもちろんだが、そこで学んだ基礎的な理論や制度の学習を基に、日々の金融に関するニュースについて自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives 【Learning Objectives】If you are directly involved with finance in your work, or even if you do not have a direct relationship with finance, some knowledge of finance is always required in order to live in society. This course emphasizes a practical perspective on how financial theory can help solve problems in society. The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory, and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems.

【Course outline】This course will provide an introduction to the basics of financial theory, covering money and financial transactions, and the mechanisms of finance that deal with transaction costs.

【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

ECN200TG（経済学 / Economics 200）
金融論 II
教科担当責任者：宮澤 信二郎
担当者：宮澤 信二郎 単位数：2単位

1 学習の到達目標 金融に仕事で直接かかわる場合はもちろん、金融と仕事上は直接かかわりを持たない場合であっても、社会生活を営む上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められる。このコースでは、金融理論が社会における問題解決にどのように役立つのか、という実務的な視点を重視する。実務と理論のつながりを理解し、金融に関する課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 このコースでは、金融論Iで学んだ金融論の基礎を前提として、金融市場や金融機関の仕組みのほか、金融に関わるマクロ経済政策について学ぶ。教科書では、第III部と第IV部がその対象となる。金融論Iの知識を前提とする部分もあることから、金融論Iもあわせて受講することが望ましい。

4 成績評価基準 単位修得試験では、金融論の基礎が理解できていることを評価する。加えて、レポート課題では、教科書の内容への理解だけでなく、最近の金融に関する出来事を金融論で学んだことを通じて正しく理解できているかを評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『金融 新版』、内田浩史、有斐閣、2024年、¥3,600+税
(下記の旧版も使用可能)
『金融』第1版、内田浩史、有斐閣、2016年、¥3,400+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。教科書を読んで理解することはもちろんだが、そこで学んだ基礎的な理論や制度の学習を基に、日々の金融に関するニュースについて自ら考えることを心掛けて欲しい。

Outline and objectives 【Learning Objectives】If you are directly involved with finance in your work, or even if you do not have a direct relationship with finance, some knowledge of finance is always required in order to live in society. This course emphasizes a practical perspective on how financial theory can help solve problems in society. The goal of this course is for students to understand the connection between practice and theory, and to acquire sufficient knowledge to be able to find their own solutions to financial problems.

【Course outline】This course will provide an introduction to the basics of financial theory, covering financial institutions and financial markets, as well as the macro aspects of finance.

【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
簿記III
教科担当責任者：竹口 圭輔
担当者：竹口 圭輔 単位数：2単位

1 学習の到達目標 日商簿記検定試験2級（商業簿記）の範囲（連結会計を除いて）についての内容を理解して、実際にさまざまな取引の会計処理等ができるようになることが、この科目の到達目標です。実際に日商簿記2級（商業簿記）の過去問題を解くことによって、この目標が達成されているかどうかかわかると思います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 日商簿記3級程度の知識がある方を対象に、日商簿記2級（商業簿記）レベルの内容を学習します。テキストに即して学習を進めますが、テキストは全15章から構成されています。主な内容は、財務諸表の作成、特殊商品売買、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、社債の会計、引当金の会計、純資産の会計、支店会計、特殊仕訳帳等です。1章ずつ学習を進め、各章の学習が終了したら章末問題を解いて、理解度を確かめて下さい。すべての学習が終了したらレポートを作成することになります。レポートはテキストの幅広い範囲に渡って問題が出題されています。なお平成29年6月からの日商2級試験範囲に入る「外貨建取引」「リース取引」「課税所得の計算」「圧縮記帳」「連結会計の基礎」についてはテキストでは解説していません。この部分については下記に示した参考書等で補ってください。また為替手形取引が3級の出題範囲から除外され、簿記I・簿記IIの通教テキスト改訂時（2017年）にそれについては削除されました。不足している点については簿記IIIのテキストを今後改訂する際に付け加えたいと思います。

4 成績評価基準 最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

5 テキスト名および詳細 テキストは、通教テキスト 神谷健司・市川佳功『簿記III』第1版、2013年です。参考書として『検定簿記講義（2級商業簿記）』中央経済社と『合格テキスト（2級商業簿記）』TAC出版、小野正芳編『ステップアップ簿記』同文館出版、桜井久勝『財務会計講義』中央経済社をあげておきます。問題集としては各社から出されている過去問の問題集や『合格トレーニング（2級商業簿記）』TAC出版や『検定簿記2級（商業簿記）ワークブック』中央経済社等が入手容易だと思います。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。簿記の学習は単にテキストを読むだけでなく、実際に記帳したり、問題を解くことが必要です。テキストを順番に読み進め、例題などを実際に解くことが必要です。

Outline and objectives In this course, we will learn bookkeeping methods for specific items with the aim of acquiring intermediate financial accounting. Topics covered in this course include preparation of financial statements, transactions of various sale types, bill transactions, securities transactions, fixed asset transactions, corporate bond transactions, reserve transactions, transactions of net assets, etc. By learning these items, you will also

get an understanding of basic and important accounting standards and you will find this study will be useful in learning financial accounting. Grading will be decided based on term-end examination.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

簿記Ⅳ

教科担当責任者：岸 牧人

担当者：市川 佳功、岸 牧人

単位数：2単位

1 学習の到達目標 日商簿記2級程度の学習を修了された学生を対象に、日商簿記1級（商業簿記）程度の簿記会計処理を習得することがこの科目の到達目標です。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 すでに日商簿記2級まで学習されている方を対象に、さらに日商簿記1級（商業簿記）レベルの内容をこの科目では学習します。ただし2単位の科目であり、テキストの紙幅の関係上、特殊商品販売については範囲から外し、また連結会計の部分については基本的な事項の説明にとどめております。

テキストは15章構成です。内容は有価証券、デリバティブ取引、ヘッジ会計、為替予約の会計処理、固定資産の会計、退職給付会計、税効果会計、組織再編の会計等について学習を進めます。2016年4月のテキスト改訂にあたって、連結会計の部分を削除しました。2単位ということと、テキストのボリュームを考えてのことです。

4 成績評価基準 最終的に実施する単位修得試験によって成績評価を行います。

5 テキスト名および詳細 テキストは通教テキスト 神谷健司・市川佳功『簿記Ⅳ』第2版、2016年です。参考書として、『合格テキスト（1級商業簿記・会計学）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』TAC出版、および小野正芳編『ステップアップ簿記』同文館出版をあげておきます。具体的会計処理の裏づけとなる会計理論については、桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社、等を参考してください。問題集としては日商簿記1級試験の過去問題や各種1級テキストに対応している問題集を利用してください。なお連結会計については、『財務会計講義』の該当箇所では連結会計に基本的な考えを学んで下さい。なお単位修得試験においては連結会計の部分は出題しません。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評することによってフィードバックを行います。簿記の学習はテキストに従って記帳処理の練習をしたり、総合問題を解くことが必要です。数多くの問題を解くことによって理解を深めてください。

Outline and objectives In this course, we learn accounting treatments with the goal of acquiring bookkeeping accounting at an advanced level. This course covers important matters in the study of financial accounting. Topics covered in this lecture include derivatives transactions, hedge accounting, foreign currency transactions, impairment accounting for fixed assets, retirement benefit accounting, tax effect accounting, etc. In this course, we will not deal with consolidated financial statements due to time constraints. We think that learning this courses in parallel with courses in the field of financial accounting will promote your understanding of the specifics of the field of financial accounting. Grading will be decided based on term-end examination.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
人的資源管理論 I
教科担当責任者：佐野 嘉秀
担当者：佐野 嘉秀 単位数：2単位 ※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。

そのための到達目標として、人的資源管理論 I では、以下の①②③を設定しました。

- ①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
- ②人的資源管理にかかわる論点を知る。
- ③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 人的資源管理(Human Resource Management)は、経営学・商学のなかで、企業の利益確保や成長に資する経営資源としてのヒトのマネジメントを扱う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理の基礎を学ぶことで、企業や職場でのヒトの管理に関わる制度や慣行の内容や理由について、理解を深めることができます。

4 成績評価基準 リポート及び単位修得試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解・習得しているかだけでなく、②課題・設問の趣旨を的確に理解し、それに対応する記述となっているか、③論拠を示しつつ論理的な記述がなされているか、④事実と意見が明確に区別されているかを重要な評価基準とします。本科目は、経営学・商学の一分野として位置付けられるため、利益の確保や成長を目指す企業経営のための有効なマネジメントの視点からの記述や解答となっていることを重視して成績を評価します。労働者保護の観点や社会レベルでの政策的視点からのみの記述や解答とならないようにしてください。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎著『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房、2025年、¥2,800

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。人的資源管理の分野の学術論文としては、労働政策研究・研修機構が発行している『日本労働研究雑誌』が参考になります。同雑誌のバックナンバーは、ホームページ（<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/>）にも掲載されており便利です。

Outline and objectives 【Learning Objectives】 The learning objective is to understand the fundamentals of human resource management. The following (1), (2) and (3) were set in Human Resource Management I as objectives to be achieved to this goal.

- (1) To acquire the basic concepts of human resource management.
- (2) To understand the issues related to human resource management.

(3) To understand the current situation and changes in human resource management in Japanese companies.

【Course outline】 Human Resource Management is an academic subject in business administration, dealing with the management of people as a management resource that contributes to securing profits and growth of companies. In this course, students learn (1) the basic concept of human resource management, (2) issues and discussion points related to human resource management, and (3) the current situation and changes in human resource management in Japanese companies as the basis for such human resource management. By learning the basics of human resource management, students can deepen their understanding of the content and reasons for the systems and practices related to human resource management in companies and workplaces.

【Grading Criteria/Policy】 In the report and examination, the key evaluation criteria are (1) whether the student understands and has mastered the basic concepts of human resource management, (2) whether the student accurately understands and responds to the purpose of the issues and questions, (3) whether the student makes logical statements while presenting arguments, and (4) whether facts and opinions are clearly differentiated.

As this is a course on human resource management as a field of business administration the grade will be based on whether the statements and answers are written and answered from the perspective of effective management for business management aiming at securing profits and growth. The statements and answers should not be written or answered solely from the perspective of labour protection or from a policy perspective on a societal level.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論 II

教科担当責任者：佐野 嘉秀

担当者：佐野 嘉秀

単位数：2単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 人的資源管理の基礎を踏まえ、日本企業が利益の確保や成長を目指すうえで直面する諸課題を理解し、その解決に向けた有効な人的資源管理のあり方を考えるための理論や知識を習得することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論IIでは、以下の①②を設定しました。

①日本企業が利益の確保や成長を目指すうえで直面する人的資源管理上の諸課題について理解する。

②人的資源管理の課題に対して、企業がどのようにすべきかについて、説得的で建設的な提案ができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 人的資源管理(Human Resource Management)は、ヒトの管理についての実践的学問です。本科目では、①日本企業が利益の確保や成長を目指すうえで直面する人的資源管理上の諸課題について理解し、②そうした課題を解決するうえで、企業がどのようにすべきかを学びます。雇用や仕事に関する報道や記事の情報のほか、身近な会社や職場での人事管理について考えてみることも、科目の理解につながります。

4 成績評価基準 リポート及び単位修得試験では、①人的資源管理の考え方や論点を理解しているかだけでなく、②課題・設問の趣旨を的確に理解し、それに対応する記述となっているか、③論拠を示しつつ論理的な記述がなされているか、④事実と意見が明確に区別されているかを重要な評価基準とします。本科目は、経営学・商学の一分野として位置づけられるため、利益の確保や成長を目指す企業経営のための有効なマネジメントの視点からの記述や解答となっていることを重視して成績を評価します。労働者保護の観点や社会レベルでの政策的視点からのみの記述や解答とならないようにしてください。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎著『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房、2025年、¥2,800

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。人的資源管理の分野の学術論文としては、労働政策研究・研修機構が発行している『日本労働研究雑誌』が参考になります。同雑誌のバックナンバーは、ホームページ（<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/>）にも掲載されており便利です。

Outline and objectives 【Learning Objectives】 Based on a basic knowledge of human resource management, the learning objectives are to understand the various challenges that Japanese companies face in securing profits and growth, and to acquire the theory and knowledge to consider effective human resource management for solving these challenges. For this purpose, the following (1) and (2) have been set as achievement objectives in Human Resource Management II.

(1) To understand the various human resource management issues that Japanese companies face in their efforts to secure profits and growth.

(2) To be able to make persuasive and constructive proposals on how companies should deal with human resource management issues.

【Course outline】 Human Resource Management is a practical subject of people management.

In this subject, students will (1) understand the various human resource management challenges that Japanese companies face in securing profits and growth, and (2) learn how companies should go about solving such challenges. In addition to information from news reports and articles on employment and work, thinking about human resource management in companies and workplaces close to you will also help you to understand the subject.

【Grading Criteria/Policy】 In the report and examination, the key evaluation criteria are (1) whether the student understands and has mastered the basic concepts of human resource management, (2) whether the student accurately understands and responds to the purpose of the issues and questions, (3) whether the student makes logical statements while presenting arguments, and (4) whether facts and opinions are clearly differentiated.

As this is a course on human resource management as a field of business administration the grade will be based on whether the statements and answers are written and answered from the perspective of effective management for business management aiming at securing profits and growth. The statements and answers should not be written or answered solely from the perspective of labour protection or from a policy perspective on a societal level.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
財務会計論 I
教科担当責任者：川島 健司
担当者：川島 健司 単位数：2単位 ※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 本科目の目的は、①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつけること、および②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて企業活動の実態を推論しながら、財務会計情報の有用性について考察することである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 本科目では財務会計を財務諸表の「作り方」と「使い方」の両面から考察する。財務諸表の作り方の考察では、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を考察するには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用する経験が必要にある。そこで本授業では、財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、財務会計について総合的に理解することを目指す。

科目全体は以下の4つのパートに分割する。第1部「複式簿記」（第1回～第3回）、第2部「会計学」（第4回～第6回）、第3部「財務分析」（第7回～第9回）、第4部「価値分析」（第10回～第12回）。第1部と第2部は財務諸表の作り方であり、財務会計論Iで学習・考察する。第3部と第4部は財務諸表の使い方に関する内容であり、財務会計論IIで学習・考察する。なお、第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

具体的には以下の内容について学習する。

- ・会社経営と財政状態：会社の経営に関わる利害関係者との権利・義務の関係を財政状態として記録し、貸借対照表を作成する方法を学ぶ。貸借対照表から利益を計算する「財産法」という利益計算式を理解する。
- ・収支計算と損益計算：現金の記録と要約である収支計算を基礎に、経営の成果・努力の観点から「損益法」という利益計算式を学ぶ。その利益計算から貸借対照表を導出する過程を理解する。
- ・複式簿記の方法：財産法と損益法を結合させて複式簿記の原理を導出し、収支計算書、損益計算書、貸借対照表の3書類を効率的に作成するための体系的な記録と要約の方法を学ぶ。
- ・利益計算の会計：利益の概念について、会計に期待される役割や機能の観点から考察したうえで、利益計算の方法や、その構成要素である収益と費用の認識・測定の考え方について理解する。
- ・資産の会計：資産の基礎概念を理解したうえで、その認識・測定の考え方について考察する。時価評価（有価証券）、原価配分（固定資産）、繰延処理（税効果会計）の具体例について学習する。
- ・負債と資本の会計：負債と資本の基礎概念を理解したうえで、会計的負債としての引当金や、準備金と剰余金の概念整理、新

株予約権の処理などについて学ぶ。また、連結財務諸表の考え方も学習する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 【必須図書】指定市販本：①川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年、¥3,600+税。

【参考図書】②桜井久勝『財務会計講義』中央経済社（最新版）購入は任意。

単位修得試験、およびレポート設題は、基本的に上記①のテキストに準じる。②の購入は任意とする。財務会計論Iの範囲は、①のテキストを二分したうちの前半であり、具体的には第1部「複式簿記 | 財務諸表を作成する」・第2部「会計学 | 会計処理を考察する」である。複式簿記とあるが、日商簿記検定等の受験書の内容とは異なり、考察することに主眼をおく。暗記の学習からは解放されるはずである。

【テキスト①と②の対応関係】下記、左側が①：右側が②を表す。

第1章：第2章の第2節

第2章：第2章の第2節

第3章：第2章の第2節

第4章：第2章の第2節、第12章

第5章：第2章の第3節、第4章の第1節・第2節、第6節

第6章：第4章の第3節、第5章

第7章：第10章、第11章、第13章

第8章：第7章の第3節（棚卸資産の原価配分）、第8章の第5節（リース会計）、第10章の第3節（税効果会計）

第9章：第12章

第10章：第12章

第11章：第5章の第5節、第12章

第13章：第8章の第4節（減損会計）、第10章の第5節（退職給付会計）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、自分自身の意見を述べること。

Outline and objectives The objectives of this class are: ① to acquire bookkeeping techniques and basic vocabulary (concepts) in accounting, to use those techniques and vocabulary to consider how economic activities can be expressed in accounting terms, and to acquire the ability to prepare appropriate financial statements; and ② to consider the usefulness of financial accounting information while inferring the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and finance knowledge.

In this class, financial accounting will be considered from both the perspectives of "how to prepare" and "how to use" financial statements. In considering how to prepare financial statements, it is necessary to know the actual state of transactions, learn bookkeeping techniques, and learn basic principles and ways of thinking regarding accounting procedures. On the other hand, in considering how to use them, it is necessary to know traditional financial statement analysis techniques, and further to acquire and apply basic finance knowledge necessary for evaluating corporate value. Therefore, in this class, we will explain the most basic content of "double-entry bookkeeping," "accounting," "financial analysis," and "value

analysis," which are the elements necessary for understanding financial statements, and the interrelationships between each element, aiming to provide a comprehensive understanding of financial accounting.

Grades for this course will be assessed through a credit-earning exam.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

財務会計論Ⅱ

教科担当責任者：川島 健司

担当者：川島 健司

単位数：2単位

※2026年度よりメディアスクリーニングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 本科目の目的は、①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつけること、および②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて企業活動の実態を推論しながら、財務会計情報の有用性について考察することである。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 本科目では財務会計を財務諸表の「作り方」と「使い方」の両面から考察する。財務諸表の作り方の考察では、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を考察するには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用する経験が必要にある。そこで本科目では、財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、財務会計について総合的に理解することを目指す。

科目全体は以下の4つのパートに分割する。第1部「複式簿記」（第1回～第3回）、第2部「会計学」（第4回～第6回）、第3部「財務分析」（第7回～第9回）、第4部「価値分析」（第10回～第12回）。第1部と第2部は財務諸表の作り方であり、財務会計論Ⅰで学習・考察する。第3部と第4部は財務諸表の使い方に関する内容であり、財務会計論Ⅱで学習・考察する。なお、第4部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

具体的には以下の内容を学習する。

- ・貸借対照表の分析：貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・損益計算書の分析：損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・キャッシュ・フローの分析：キャッシュ・フロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを可視化する方法を学ぶ。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。
- ・会社の価値と資本コスト：会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの概念や計測方法について学習する。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

・DCFモデル：割引現在価値（DCF）モデルとよばれるキャッシュ・フローにもとづく価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である減損会計や退職給付会計についても解説する。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

・残余利益モデル：残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルを学習する。モデルの利用にあたり、インプットの会計情報の性質についても理解を深める。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。

5 テキスト名および詳細 【必須図書】指定市販本：①川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年、¥3,600+税。

【参考図書】②桜井久勝『財務会計講義』中央経済社（最新版），購入は任意。

単位修得試験、およびレポート設題は、基本的に上記①のテキストに準じる。②の購入は任意とする。財務会計論Ⅱの範囲は、テキストを二分したうちの後半であり、具体的には第3部「財務分析 | 財務諸表を読解する」・第4部「価値分析 | 会社の価値を評価する」である。これらの学習を通じて、有用な財務会計情報について考察する。

【テキスト①と②の対応関係】下記、左側が①：右側が②を表す。

第1章：第2章の第2節

第2章：第2章の第2節

第3章：第2章の第2節

第4章：第2章の第2節、第12章

第5章：第2章の第3節、第4章の第1節・第2節、第6節

第6章：第4章の第3節、第5章

第7章：第10章、第11章、第13章

第8章：第7章の第3節（棚卸資産の原価配分）、第8章の第5節（リース会計）、第10章の第3節（税効果会計）

第9章：第12章

第10章：第12章

第11章：第5章の第5節、第12章

第13章：第8章の第4節（減損会計）、第10章の第5節（退職給付会計）

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。レポート作成にあたっては、テキストを学習することはもとより、「設題総覧」にあげた参考文献、あるいはその他の文献を利用しながら、単なる引用にとどまることなく、設題の趣旨をくみ取って、自分自身の意見を述べること。

Outline and objectives The objectives of this class are: ① to acquire bookkeeping techniques and basic vocabulary (concepts) in accounting, to use those techniques and vocabulary to consider how economic activities can be expressed in accounting terms, and to acquire the ability to prepare appropriate financial statements; and ② to consider the usefulness of financial accounting information while inferring the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and finance knowledge.

In this class, financial accounting will be considered from both the perspectives of "how to prepare" and "how to use" financial statements. In considering how to prepare financial statements, it is necessary to know the actual state of transactions, learn bookkeeping techniques, and learn basic principles and ways of thinking regarding

accounting procedures. On the other hand, in considering how to use them, it is necessary to know traditional financial statement analysis techniques, and further to acquire and apply basic finance knowledge necessary for evaluating corporate value. Therefore, in this class, we will explain the most basic content of "double-entry bookkeeping," "accounting," "financial analysis," and "value analysis," which are the elements necessary for understanding financial statements, and the interrelationships between each element, aiming to provide a comprehensive understanding of financial accounting.

Grades for this course will be assessed through a credit-earning exam.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

原価計算論 I

教科担当責任者：福田 淳児

担当者：福田 淳児

単位数：2単位

1 学習の到達目標 原価計算論 I では、原価計算論について、これから学習していく上で必要とされる基礎的な概念および重要な専門用語を理解し、自分なりの言葉で簡潔に説明できることを目標とします。

さらに、原価計算論 I では、費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算という原価計算の一連の手続きを理解し、基本的な計算プロセスやその計算方法の意義を自分の言葉で説明できること、その上で、原価計算に関する基本的な問題を自分で解けることを目標としています。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 原価計算論 I では、原価計算論の学習を進めていく上で必要な基本的な概念および重要な専門用語の解説を、テキストおよび参考文献に基づいて行ないます。これらの概念や用語は、原価計算の学習および将来的に学習した内容を自分が所属する組織を対象として利用する際に、皆さんが頻繁に目にしたり、これからの学習内容を理解する上で必要となりますので、ぜひしっかりと理解してください。その上で、原価計算の一連の計算手続きについて、費目別原価計算、部門別原価計算および製品別原価計算（個別原価計算・総合原価計算）の順で、その計算メカニズム、およびそれぞれの手続きの背後にある理論的な根拠および意味についての解説を行ないます。特に、一つの手続きに対して、複数の処理方法を選択することが可能な場合もあります。その場合には、それぞれの選択可能な処理方法のメリットとデメリットを説明しますので、それらの点も含めて、理解するようにしてください。原価計算論 I では、主に以下の項目について学習します。

1. 原価計算の意義と目的：原価計算を行う意義および原価計算の目的を『原価計算基準』に沿って学習します。
2. 原価の本質と分類：原価とは何か、また原価を形態別、製品との関連性、および操業度との関連などで分類した場合のそれぞれの原価の特徴について学習します。今後の学習で必要となる用語が出てきますのでぜひ理解してください。
3. 原価計算の手続と種類：原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算について簡単に紹介します。また、原価計算の種類についても説明します。
4. 費目別原価計算：直接材料費、直接労務費、直接経費および製造間接費についてそれぞれの具体的な費目や分類方法を説明したのちに、その特徴や計算方法について、例題を交えながら学習します。
5. 部門別原価計算：原価の部門別計算が必要とされる状況、および部門別原価計算がもたらすメリット、およびそのコストについて説明します。さらに、一連の部門別原価計算の計算手続きについても学習します。工場における原価部門の設定方法、さらに補助部門に集計された製造間接費の製造部門への再配賦に関わる問題について学習します。この点についてはいくつかの計算方法があるので、それぞれの方法の特徴も含めて、きちんと整理し、理解してください。
6. 製品別原価計算（個別原価計算）：受注生産形態の工場また企業で利用される個別原価計算についてその特徴および計算手

続きについて学習します。特定製造指図書役割とともに、個別原価計算による製品別原価の計算方法についてきちんと理解してください。

7. 製品別原価計算（総合原価計算）：見込み生産形態の工場また企業で利用される総合原価計算についてその特徴、種類ならびに計算手続きについて学習します。総合原価計算では、仕掛品の評価方法も重要な意味を持ちますので、必ず計算方法も含め理解してください。また、工程別総合原価計算についても、理解するようにしてください。

受講者は、各項目について、テキストや参考文献の説明を単に読むだけではなく、それらの文献に示されている例題を必ず解くことで、理解を確認しながら学習を進めていってください。

4 成績評価基準 原価計算論 I の学習範囲から出題された単位修得試験に基づいて評価を行ないます。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ 原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、¥2,400+税）の第1章から第11章まで。

6 学習指導、注意点等 通信学習で皆さんが作成したりレポートに添削・講評をし、フィードバックを行います。テキストの指定範囲の全部、また指定された参考文献については必ず熟読し、その内容を理解してください。その学習によって自分の言葉で説明ができるようになります。さらに、テキストを読み進めるプロセスで、各章の例題を自分で必ず解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組むようにしてください。原価計算の役立ちを理解するためには、原価計算の手続きの意味・内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、レポートを作成する際には、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉でまとめてみてください。その際に、なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを自分なりに考え、レポートに明示してください。引用は必要最低限度にとどめ、引用箇所を明記してください。具体的には、引用の前後を「」でくくり、どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも、自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述を行なっている場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはレポートの末尾に必ずつけるようにして下さい。

講評に基づいて、レポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを加筆・修正するのではなく、もう一度全体の文章をきちんと見直し、全体として意味の通るレポートにしてください。

Outline and objectives [Learning objectives]

The learning objectives of this module are to let students understand the basic concepts and some important terms and they can explain these by yourself.

It also includes enhancement of your understandings on a series of procedures of cost accounting (cost-type accounting, cost center accounting, product cost accounting) and helps students to explain the basic calculation processes of cost accounting. In addition to this, it enhances the development of students' skill to solve basic numerical calculations.

[Course outline]

In this module, the basic concepts and important terminology necessary to study Cost Accounting will be explained.

We urge you to understand the terms and concepts that you will need to see and understand frequently when learning about cost accounting and using what you have learnt in the future for your own organisation.

In this module, you will mainly study the following topics.

Significance and purpose of cost accounting: the significance of cost accounting and the purpose of cost accounting are studied in accordance with the Cost Accounting Standards.

The nature and classification of costs: the students learn what costs are and the characteristics of each type of cost when costs are classified according to form, relationship to products, and relationship to capacity utilisation. You will learn terms that you will need in your future studies.

Procedures and types of costing: This section provides a brief introduction to costing by expense, departmental costing and product costing, which are a series of costing procedures. The types of costing are also explained in detail.

Cost type accounting: After explaining the specific expense items and classification methods for direct material costs, direct labour costs, direct overheads and manufacturing overheads, the characteristics and calculation methods are studied with examples.

Cost center accounting: This module explains the situations in which cost center accounting is required, and its benefits and costs. The course also covers the calculation procedures for a series of cost center accounting.

Job-order costing: This course covers the characteristics and calculation procedures of the job-order costing used in plants and companies with a make-to-order production system. Understand the role of specific manufacturing instructions and how to calculate costs by product using job-order costing.

Process costing: This module covers the characteristics, types and calculation procedures of process costing, which is used in factories and companies with prospective production systems. In process costing, the method of valuing work-in-progress is also important, so be sure to understand the calculation method as well.

Students are encouraged not only to read the explanations in the textbooks and references, but also to solve the examples given in those references by themselves to check their understanding of the subject matter.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on the results of the unit examination from the scope of Cost Accounting I.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

原価計算論Ⅱ

教科担当責任者：福田 淳児

担当者：福田 淳児

単位数：2単位

1 学習の到達目標 原価計算論Ⅱでは、原価管理や短期利益計画の設定といった一連の企業の経営管理目的に対する、原価計算システムが提供する原価情報の役立ちについて理解することを目標の一つとしています。具体的には、標準原価による狭義の原価管理への役立ち、また短期利益計画に対する直接原価計算やCVP分析の役立ちについて理解することを目標とします。

さらに、原価計算論Ⅱでは、新しい製造間接費の配賦方法であるActivity-Based Costing(活動基準原価計算、ABC)についても学習します。伝統的な製造間接費の配賦方法の問題点、およびABCがそれらの問題をどのように解決しているのかを説明できることを目標とします。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 原価計算論Ⅱでは、原価情報の経営管理目的への役立ちについて主に学習します。さらに、近年における原価計算の発展、およびその背後にある企業を取り巻く製造環境の変化についても理解することを目的としています。具体的には、以下の項目について学習します。

1. 標準原価計算：標準原価計算の意義およびその目的について明らかにします。特に、標準原価による狭義の原価管理目的での役立ちについて説明した後に、原価標準の設定方法、そして標準原価と実際発生原価との差異の認識、および原価差異の分析方法について、詳しく学習します。特に、製造間接費の原価差異分析方法についてはいくつかの方法がありますので、それぞれを理解するようにしてください。その際に、異なる分析方法間の関係性を理解すると良いと思います。さらに、現在の製造環境のもとでの標準原価の原価管理目的へ役立ちについても検討します。

2. 直接原価計算：直接原価計算の意義を明らかにした後に、全部原価計算との対比で直接原価計算の特徴を説明します。その後、両者の方式で作成した損益計算書における営業利益の間にどのような差異が見られるか、またその差異がどのような状況で、なぜ生じるのかについて詳しく検討します。さらに、それらが経営上の意思決定にどのような効果をもたらす可能性があるかについても検討します。

3. CVP分析：短期利益計画を設定する上で有用な情報を提供する技法として、原価・営業量・利益の関係を分析するCVP分析を学習します。損益分岐点での売上高、またある一定の目標営業利益や目標売上高営業利益率を達成するために必要とされる売上高の大きさを自分の力で計算できるようにします。

4. Activity-Based Costing（活動原価計算）：1980年代における企業を取り巻く製造環境の変化が製造原価の構成や製造間接費の中身にも大きな変化をもたらしたことで、それによって伝統的な製造間接費の配賦方法がもはや許容できなくなってきたことを原因として、ABCがアメリカの研究者による実務の観察を通じて紹介された経緯を明らかにします。その後、ABCの具体的な計算手続きを伝統的な製造間接費の配賦方法との比較によって明らかにします。また、近年ABCに対する批判に応えるために提唱されたTDABCを紹介します。

経営管理目的に有用な原価計算について、それぞれの原価計

算手法の持つ意味、またその役立ちについてしっかりと理解してください。さらに、そのような原価手法がどのような製造環境の求めに応じて登場し普及したのかについても理解できるようにしてください。

4 成績評価基準 原価計算論Ⅱの範囲から出題された単位修得試験の結果に基づいて評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ 原価計算を学ぶ』中央経済社（2016年、¥2,400+税）の第12章から第15章まで。

6 学習指導、注意点等 通信学習で皆さんが作成したレポートに添削・講評をし、フィードバックを行います。テキストの指定範囲の全部、また指定された参考文献については必ず熟読し、その内容を理解してください。その学習によって自分の言葉で説明ができるようになります。さらに、テキストを読み進めるプロセスで、各章の例題を自分で必ず解いてみてください。例題が解けないときには、テキストや参考文献の該当箇所に戻り、もう一度説明を読んでから取り組むようにしてください。原価計算の役立ちを理解するためには、原価計算の手続きの意味・内容およびその手続きを確実に理解して進んでいくことが必要となります。

また、レポートを作成する際には、テキストや参考文献の該当箇所をもう一度熟読し、必ず自分の言葉でまとめてみてください。その際に、なぜそういったことが言えるのか（主張の根拠）までを自分なりに考え、レポートに明示してください。引用は必要最低限度にとどめ、引用箇所を明記してください。具体的には、引用の前後を「」でくくり、どの文献の何ページからの引用かを明示してください。また、引用ではなくとも、自分の考えではなく、他の論者の主張に基づいて記述を行なっている場合にも、きちんとそれを明記するようにしてください。インターネットからの引用も同様です。参考文献リストはレポートの末尾に必ずつけるようにして下さい。

講評に基づいて、レポートの再提出を行う場合には、単に指摘のあった箇所だけを加筆・修正するのではなく、もう一度全体の文章をきちんと見直し、全体として意味の通るレポートにしてください。

Outline and objectives [Learning objectives]

The purposes of this module are to develop students' understanding on what roles cost information provided through a cost accounting system play in implementing cost control and short-term profit planning in an organization. It also explain the way activity-based costing allocated indirect cost to products and the effects of ABC information on management decision making with reference to traditional cost allocation mechanisms.

[Course outline]

In this module, students learn how the cost information provided by costing systems can be useful for business management purposes. Furthermore, the course aims to provide an understanding of the development of cost accounting in recent years and the changes in the manufacturing environment surrounding companies that lie behind this development. Specifically, the course covers the following topics

Standard costing: The significance of standard costing and its objectives are clarified. In particular, after explaining the usefulness of standard costing for cost control purposes in the narrow sense of the term, the course then looks at

how cost standards are set up, the recognition of differences between standard costs and actual costs incurred, and how cost variances are analysed. Furthermore, the usefulness of standard costs for cost control purposes under the current manufacturing environment will be discussed.

Direct costing: After clarifying the significance of direct costing, the characteristics of direct costing will be explained in comparison with total costing.

CVP analysis: this module covers CVP analysis, which analyses the relationship between cost, sales volume and profit, as a technique that provides useful information for setting short-term profit plans.

Activity-Based Costing: the changes in the manufacturing environment surrounding companies in the 1980s brought about significant changes in the composition of manufacturing costs and the content of manufacturing overheads, which made the traditional method of allocating manufacturing overheads no longer acceptable. The paper clarifies how ABC was introduced through observations of practice by researchers in the USA as a result of the changes in the structure of manufacturing costs and the content of manufacturing overheads.

You will gain a solid understanding of the meaning of each costing method and its usefulness for management control purposes. Furthermore, you should also be able to understand how such costing methods have emerged and spread in response to the demands of the manufacturing environment.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on the results of the unit examination from the scope of Cost Accounting II.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
管理会計論Ⅰ
教科担当責任者：北田 皓嗣
担当者：北田 皓嗣 単位数：2単位 ※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

4 成績評価基準 管理会計論Ⅰ／Ⅱでは単位修得試験によって成績を評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『管理会計論』第2版、佐藤康男、2003年

6 学習指導、注意点等 管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

レポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。レポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

Outline and objectives Management accounting is a theory and set of techniques that provide essential economic information for organizational management. Therefore, studying management accounting requires not only mastering calculation techniques but also understanding what management entails in the context of organizational practices. In this course, we will explore how accounting systems function to realize corporate strategies, examining their relationship with organizational structures.

This course aims to develop knowledge of the relationship between management issues and management accounting. Students will learn how different accounting information is utilized for specific management problems and understand the role of financial and non-financial information. Additionally, the course focuses on building practical skills in related calculation methods.

Please consolidate your knowledge through review after each lecture. The standard preparation and review time for this course is set at two hours each.

The overall evaluation will consist of the "Midterm Report" (40%) and the "Media Schooling Examination" (60%).

MAN300TF（経営学 / Management 300）
管理会計論Ⅱ
教科担当責任者：北田 皓嗣
担当者：北田 皓嗣 単位数：2単位 ※2026年度よりメディアスクーリングでの開講へ移行（一本化）

1 学習の到達目標 経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。経営管理における問題ごとに異なる管理会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 会計学の領域は財務会計と管理会計の二つに区分される。管理会計は企業の管理者がさまざまな意思決定を行なうさいに必要な会計情報を作成することを目的としている。財務諸表を作成することを目的としている財務会計とはかなり異なっているが、きわめて実践的な学問ですので会社に勤めている方には役立つであろう。

4 成績評価基準 管理会計論Ⅰ／Ⅱでは単位修得試験によって成績を評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『管理会計論』第2版、佐藤康男、2003年

6 学習指導、注意点等 管理会計論Ⅰと管理会計論Ⅱは、いずれの学習範囲も上記指定テキスト全般とします。

レポートは、特定の領域において十分な知識が習得できるように設定しています。ただ単位修得試験は、テキスト全体が試験範囲となっています。レポートで学習したことを踏まえたうえで、それぞれのトピックについても学習するようにしてください。通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

Outline and objectives Aims to acquire knowledge about the relationship between business management issues and management accounting. We aim to understand the management accounting information that is different for each business management problem and to understand the financial and non-financial information required at that time. We aim to make it possible to use related calculation methods.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

監査論 I

教科担当責任者：坂上 学

担当者：坂上 学

単位数：2単位

1 学習の到達目標 本科目では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを到達目標としている。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 株式会社の監査制度の基礎知識を、体系的に理解することを課題としている。株式会社監査の基礎概念の理解に始まり、監査の担い手である監査人（公認会計士や監査法人）の制度、監査意見形成のプロセスについて学習する。

4 成績評価基準 リポートの内容が単によくまとまっているかだけでなく、以下の点についても、条件を満たしているかどうかをチェックし、成績評価の重要な要素とするので、必ず守ること。

(1) 参考にした文献やWebページについて、引用箇所を文中に明示しているか。（引用がまったく示されていない場合は即再提出となる）

(2) 参考文献、参考URLの一覧を最後に明記しているか。（無い場合は即再提出となる）

(3) 与えられた字数を十分に用いているか（2,000字）。（多過ぎる場合も減点対象とする）

(4) リポートの構成がしっかりとしているか。（構成がわかるように、適宜見出しなどを付けるとよい）

上記の項目のうち複数が満たされていない場合は、再提出の対象となるので注意されたい。なお、最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 【指定市販本】伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏著『ベーシック監査論〔九訂版〕』同文館、2022年、税込4,180円。

指定テキストが2026年春頃改訂予定。これから学習を始める場合は、最新版での学習を推奨します。

以下の章が学習範囲である。

第1章「監査のフレームワーク」

第2章「監査制度のフレームワーク」

第3章「監査規範の意義とわが国の監査基準」

第4章「監査意見形成のプロセス」

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準にも書いたが、ただ調べたものを書き連ねるだけでなく、問題の意図を正しく理解し、構成をしっかりたて、リポートを作成して欲しい。その際、参考にした文献やWebサイトなどは、必ず引用箇所を明記するとともに、最後に参考文献・参考URLの一覧を付すこと。

リポートの書き方については、『学習支援ハンドブック』（<http://www.hoseikyoiku.jp/fd/handbook/>）を参考にすること。

近年気になるのは、参考文献・URLに挙げた文献やWebページが、本文中に引用されていないものが多いことである。教科書からの引用もしっかりと示すこと。また実際には引用していない文献が参考文献に記載されていることも散見される。引用

していないのであれば、参考文献に記載しないこと。

Outline and objectives (Course outline)

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements.

(Learning Objectives)

Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No term report or test: E

MAN300TG（経営学 / Management 300）
監査論 II
教科担当責任者：坂上 学
担当者：坂上 学 単位数：2単位

1 学習の到達目標 本科目では、保証業務を含む監査の基本的な知識を提供する。とりわけ財務諸表監査の概念的、理論的、実務的な側面について扱う。保証業務を含む監査業務に対し、どのように監査基準や監査手続を適用すべきかということが理解できるようになることを到達目標としている。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 株式会社の監査制度の基本的な知識について、体系的に理解することを課題としている。監査のうち、リスク・アプローチに基づく監査の計画と実施のプロセス、監査報告書と情報提供機能等について学習する。

4 成績評価基準 リポートの内容が単によくまとまっているかだけでなく、以下の点についても、条件を満たしているかどうかをチェックし、成績評価の重要な要素とするので、必ず守ること。

(1) 参考にした文献やWebページについて、引用箇所を文中に明示しているか。（引用がまったく示されていない場合は即再提出となる）

(2) 参考文献、参考URLの一覧を最後に明記しているか。（無い場合は即再提出となる）

(3) 与えられた字数を十分に用いているか（2,000字）。（多過ぎる場合も減点対象とする）

(4) リポートの構成がしっかりとしているか。（構成がわかるように、適宜見出しなどを付けるとよい）

上記の項目のうち複数を満たされていない場合は、再提出の対象となるので注意されたい。なお、最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 【指定市販本】伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏著『ベーシック監査論〔九訂版〕』同文館、2022年、税込4,180円。

指定テキストが2026年春頃改訂予定。これから学習を始める場合は、最新版での学習を推奨します。

以下の章が学習範囲である。

第5章「リスク・アプローチと監査戦略」

第6章「リスク評価、リスク対応および監査の完了」

第7章「監査報告書と情報提供機能」

第8章「開示情報の多様化と保障機能」

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。成績評価基準にも書いたが、ただ調べたものを書き連ねるだけでなく、問題の意図を正しく理解し、構成をしっかりとて、リポートを作成して欲しい。その際、参考にした文献やWebページなどは、必ず引用箇所を明記するとともに、最後に参考文献・参考URLの一覧を付すこと。

リポートの書き方については、『学習支援ハンドブック』（<http://www.hoseikyoiku.jp/fd/handbook/>）を参考にするとよい。

近年気になるのは、参考文献・URLに挙げた文献やWebサイトが、本文中に引用されていないものが多いことである。教科書からの引用もしっかりと示すこと。また実際には引用していない文献が参考文献に記載されていることも散見される。引用

していないのであれば、参考文献に記載しないこと。

Outline and objectives (Course outline)

This course provides a foundation in assurance, attestation, and auditing fundamentals. The emphasis of this course is on conceptual, theoretical and practical aspects of auditing financial statements.

(Learning Objectives)

Upon completion of this course, students will be able to apply professional auditing standards and appropriate audit and other procedures to auditing, assurance and attestation engagements.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No term report or test: E

MAN300TG（経営学 / Management 300）
税務会計Ⅰ
教科担当責任者：藤井 誠
担当者：藤井 誠 単位数：2単位

1 学習の到達目標 会社の中心的な税金である法人税の基本的な計算プロセスの基礎的思考方を理解することにより、会計分野の重要な領域としての税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係および違いを理解することを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 法人税法の課税所得計算の基礎、益金計算および原価配分領域を中心とした損金の計算について、次の項目を学習します。法人税の基礎(1)・(2)、課税所得計算の基礎(1)・(2)、売買損益等の計算、その他の収益の計算、売上原価の計算と棚卸資産の期末評価、有価証券の譲渡原価と期末評価、固定資産の減価償却(1)、繰延資産の償却

4 成績評価基準 単位修得試験の結果により評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト 大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』2019年第2版

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。税法の条文には可能な限り目を通して下さい。また、テキストはこれを単に読むだけでなく、例題の付いているところはその例題を自分で解いてみるのが重要です。税法条文の意味やテキストの説明の内容がより具体的に理解できるようになります。

Outline and objectives This course aims to provide students with a basic understanding of the basic calculation process of corporate income tax in Japan, which is a central tax for companies, in order to master the fundamentals of tax accounting as an important area of accounting, and to understand the relationship and differences with financial accounting.

Students will learn the following items regarding the basics of calculating taxable income under the Corporate Tax Law, the calculation of profit and loss with a focus on the cost allocation area, basics of corporate taxation, basics of taxable income, trading profit and loss, other income, cost of sales and year-end valuation of inventories, cost of sales and year-end valuation of securities, depreciation of fixed assets, amortization of deferred assets. Your overall grade will be decided on term-end examination(100%) after passing term-end report.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
税務会計Ⅱ
教科担当責任者：藤井 誠
担当者：藤井 誠 単位数：2単位

1 学習の到達目標 「税務会計Ⅰ」において法人税の課税所得計算の基礎的な内容を理解した上で、「税務会計Ⅱ」では法人税課税の応用的な個別問題領域を学習し、現代社会において、法人税課税上いかなる問題が生じているのかを深く理解することを目指します。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 次の項目を中心に学習します。事業形態の多様化と課税問題、企業の社会的責任と寄附金・交際費課税、給与の支給形態の多様化と課税問題、不良債権の償却の課税問題、固定資産の減価償却(2)、企業活動の集団化と課税問題(1)・(2)、企業活動の国際化と課税問題(1)・(2)

4 成績評価基準 単位修得試験の結果により評価します。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト 大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』2019年第2版

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。「税務会計Ⅱ」は応用的な個別問題領域を中心に学習しますので、必ず「税務会計Ⅰ」を学習した上で、履修して下さい。

Outline and objectives The objective of Tax Accounting II is to understand the problems of corporate income taxation in Japan. In Tax Accounting II, students will learn applied and specific problem areas of corporate taxation in order to gain a deeper understanding of what problems arise in corporate taxation in today's society. This course focuses on the following topics. Diversification of business forms and taxation issues, corporate social responsibility and taxation of donations and entertainment expenses, diversification of salary payments and taxation issues, taxation issues of amortization of bad debts, depreciation of fixed assets, collectivization of business activities and taxation issues, internationalization of business activities and taxation issues.

Your overall grade will be decided based on term-end examination(100%) after passing term-end report.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
経営分析論 I
教科担当責任者：福多 裕志
担当者：福多 裕志 単位数：2単位

(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the course will be decided based on your exam result.

1 学習の到達目標 経営分析論 I（ここでは「経営分析」を「財務諸表分析」と同義として使用）では、企業の財務体質を判断するための定量的財務諸表分析を学習します。定量的財務諸表分析とは、教科書内に示されている統計的手法を駆使し、各種比率やその趨勢（傾向）を具体的に算出し、解釈を加えることを意味します。併せて、経営分析関連の専門用語（概念）への理解を深めていくことが求められます。そのうえで、企業が開示する会計情報に基づいて財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定を促進する手法を理解することが当該科目の目標です。指定教科書の学習を一通り終えれば、現代経営分析に関するさまざまな先端技法を修得できるでしょう。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 経営分析は、「比較に始まり、比較に終わる」といってもよいほど、比較・検討することが要請されます。効率的な経営管理と経済合理的な意思決定を追求するために、同業他社や同一産業内最優良企業と比較し、業界（産業）平均と比較し、そして過去と比較するという手続きを通して、どのような要因から差が生じたのか、あるいは生じなかったのかを突き止めるべく検討を行います。そのためには、受講者自らがインターネット上より企業の有価証券報告書を入手し、PCや電卓を活用して企業の財務体質を示す各種比率・指標等を算出し、その差異を比較・検討し、自らの解釈を加えることが重要となります。経営分析論 I では指定教科書の、「第1部 経営分析の基礎」（第1章～第4章）および「第2部 収益性の分析」（第5章～第10章）までを学習範囲とします。単位修得試験では、それらの範囲から出題されます。

4 成績評価基準 筆記試験において60点以上を合格とします。S:100～90点、A+: 89～87点、A: 86～83点、A-: 82～80点、B+: 79～77点、B: 76～73点、B-: 72～70点、C+: 69～67点、C: 66～63点、C-: 62～60点、D: 59点以下

5 テキスト名および詳細 指定市販本: 青木茂男編著『要説 経営分析 [六訂版]』森山書店、2022年、¥5,000+税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評をもってフィードバックします。受講者には初級程度（日商簿記検定3級程度）の簿記知識が必要となりますので、会計関連科目を学習したことの無い方は、事前に「基本簿記」、「入門財務会計」等の学習を強くお勧めします。学習内容は豊富ですので、継続的、計画的に学習を進め最終試験を突破してください。

Outline and objectives (Outline) This course teaches how to calculate and interpret some financial indicators commonly used in financial statement analysis.

(Objectives) By the end of the course, students aim to accurately analyze the financial strength of companies and make rational business decisions. In Business Analysis I, basic statistical methods and profitability analysis are mainly discussed.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

経営分析論Ⅱ

教科担当責任者：福多 裕志

担当者：福多 裕志

単位数：2単位

(Grading Criteria /Policies) Your overall grade in the course will be decided based on your exam result.

1 学習の到達目標 経営分析論Ⅱ（ここでは「経営分析」を「財務諸表分析」と同義として使用）では、経営分析論Ⅰに続いて、企業の財務体質を判断するための定量的財務諸表分析を学習します。定量的財務諸表分析とは、教科書内に示されている統計的手法を駆使し、各種比率やその趨勢（傾向）を具体的に算出し、解釈を加えることを意味します。併せて、経営分析関連の専門用語（概念）への理解を深めていくことが求められます。そのうえで、企業が開示する会計情報に基づいて財務体質を的確に把握することによって、財務上の問題点とその解決策を明らかにし、経済合理的意思決定を促進する手法を理解することが当該科目の目標です。指定教科書の学習を一通り終えれば、現代経営分析に関するさまざまな先端技法を修得できるでしょう。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

3 科目の概要 経営分析は、「比較に始まり、比較に終わる」といってもよいほど、比較・検討することが要請されます。効率的な経営管理と経済合理的な意思決定を追求するために、同業他社や同一産業内最優良企業と比較し、業界（産業）平均と比較し、そして過去と比較するという手続きを通して、どのような要因から差が生じたのか、あるいは生じなかったのかを突き止めるべく検討を行います。そのためには、受講者自らがインターネット上より企業の有価証券報告書を入手し、PCや電卓を活用して企業の財務体質を示す各種比率・指標等を算出し、その差異を比較・検討し、自らの解釈を加えることが重要となります。経営分析Ⅱでは指定教科書の、「第3部 流動性の分析」（第11章～第13章）から「第4部 経営分析の展開」（第14章～第15章）までを試験範囲とします。ただし、第4部の第16章（企業価値の評価）は試験範囲に含めませんのでご注意ください。

4 成績評価基準 筆記試験において60点以上を合格とします。S:100～90点、A+: 89～87点、A: 86～83点、A-: 82～80点、B+: 79～77点、B: 76～73点、B-: 72～70点、C+: 69～67点、C: 66～63点、C-: 62～60点、D: 59点以下

5 テキスト名および詳細 指定市販本: 青木茂男編著『要説 経営分析 [六訂版]』森山書店、2022年、¥5,000+税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評をもってフィードバックします。受講者には初級程度（日商簿記検定3級程度）の簿記力が必要となりますので、「基本簿記」、「入門財務会計」等の確認を強くお勧めします。学習内容が豊富ですので、継続的、計画的に学習を進め最終試験を突破してください。

Outline and objectives (Outline) This course teaches how to calculate and interpret some financial indicators commonly used in financial statement analysis.

(Objectives) By the end of the course, students aim to accurately analyze the financial strength of companies and make rational business decisions. In Business Analysis II, liquidity analysis and advanced topics are mainly discussed.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
国際金融論 I
教科担当責任者：羅 鵬飛
担当者：羅 鵬飛 単位数：2単位 ※2026年4月より通教テキストから指定市販本へ変更

1 学習の到達目標 国際金融論 I では、国際金融にかかわる基本的な仕組みを理解することを目的とする。為替レート、外国為替市場、国際収支といった基礎概念を順に学び、そのうえで為替レートや国際収支を説明する主要な理論、さらに裁定取引やデリバティブといった関連概念への理解を深める。これらの基礎理論の習得を通じて、今日の金融グローバル化を支える根本的な構造を把握することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

3 科目の概要 外国為替相場や国際収支は、世界経済の動向を理解するうえで欠かせない情報であり、日常のニュースでも頻繁に取り上げられる。本科目では、こうした国際金融の基礎分野を体系的に学び、仕組みの理解を深める。具体的には、外国為替の考え方、為替レートの意味と決まり方、外国為替市場の特徴、国際収支の捉え方を確認し、さらに為替レートや国際収支に関する代表的な理論を扱う。学習範囲はテキスト第1、4、7－9に相当する。

テキストは入門的内容のため、設題への取り組みや関連文献の参照によって理解を発展させることが重要である。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『徹底解説 国際金融』[第2版] 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著、日本評論社、2024年、¥2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートには、添削と講評を付してフィードバックを行う。

国際金融論 I における基礎的な理論の修得には金融論の理解が不可欠である。また、マクロ経済学や国際経済学に関する基本的な知識も本科目の理解を深めるうえで役立つ。そのため、国際金融だけに焦点を当てるのではなく、経済全体の動きと関連づけながら学習を進めることが望まれる。

さらに、国際金融の学習には因果関係を整理する姿勢が欠かせない。多くの経済現象は理論的な関係性に基づいて動いており、例えば金利と為替レートには一定のつながりが見られる。こうした理論的枠組みを踏まえて、筋道立てて理解することが、学習を深める際の重要なポイントとなる。日々の学習では、常に理論的な視点を意識しながら取り組むことが求められる。

Outline and objectives [Course Objectives]: This course aims to provide students with a foundational understanding of the core mechanisms of international finance. Students will study key concepts such as exchange rates, foreign exchange markets, and the balance of payments, followed by major theoretical frameworks explaining exchange rate determination and external balances. The course also introduces related concepts including arbitrage and financial derivatives. Through these topics, students will develop an understanding of the

fundamental structures underlying financial globalization. [Course Description]: Exchange rates and balance of payments statistics are essential for understanding global economic developments and frequently appear in daily economic news. This course systematically covers the basic components of international finance, focusing on the nature of foreign exchange, the meaning and determination of exchange rates, the structure of foreign exchange markets, and the interpretation of the balance of payments. Representative theories related to exchange rates and international payments are also examined. The course corresponds to Chapters 1, 4, and 7－9 of the textbook. As the textbook is introductory, students are expected to deepen their understanding through problem-solving exercises and additional readings.

[Assessment]: Final grades are determined by a comprehensive final examination. Completion of assigned report-based learning is also required.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際金融論 II

教科担当責任者：羅 鵬飛

担当者：羅 鵬飛

単位数：2単位

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 国際金融論 II では、国際金融論 I で得た基礎知識を踏まえ、国際金融の発展過程と現在の課題を理解することを目標とする。まず、国際通貨体制の歴史とその変化を学び、続いて資本フローと為替取引の変遷と国際金融の現場で生じてきた主要通貨の動向・通貨統合・通貨危機などの重要な出来事を取り上げる。こうした学習を通して、現代の国際金融を特徴づける構造やその意味をより広い視野で理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

3 科目の概要 国際通貨体制や通貨・金融危機の問題は、国際金融の状況を読み解くうえで重要なテーマであり、現在の国際情勢とも密接に関連している。国際金融論 II では、国際金融の歴史的展開を軸に、今日の国際金融制度がどのような過程を経て形づくられてきたかを学ぶ。国際資本フロー、第一次大戦前の金本位制、戦後のブレトンウッズ体制、EUにおける通貨統合、円の国際化、アジア通貨危機、金融危機、グローバルインバランスなどを取り上げる。学習範囲はテキスト第2、3、5、6章に相当する。

より深い理解のためには参考文献の活用が効果的であり、また国際金融に関する最新のニュースに関心を持つことも不可欠である。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『徹底解説 国際金融』[第2版] 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著、日本評論社、2024年、¥2,800+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

国際金融論 II は国際金融論 I における基礎的な理論が修得できていることが必要となる。また、マクロ経済学や国際経済学に関する基本的な知識も本科目の理解を深めるうえで役立つ。そのため、国際金融だけに焦点を当てるのではなく、経済全体の動きと関連づけながら学習を進めることが望まれる。

さらに、国際金融の学習には因果関係を整理する姿勢が欠かせない。多くの経済現象は理論的な関係性に基づいて動いており、例えば金利と為替レートには一定のつながりが見られる。こうした理論的枠組みを踏まえて、筋道立てて理解することが、学習を深める際の重要なポイントとなる。日々の学習では、常に理論的な視点を意識しながら取り組むことが求められる。

Outline and objectives [Course Objective]

Building on the foundations of International Finance I, this course examines the historical development of the international financial system and its contemporary challenges. It focuses on the evolution of international monetary regimes, changes in capital flows and foreign exchange transactions, and major developments such

as key currency dynamics, monetary integration, and currency and financial crises. Through a historical and institutional perspective, students gain a broader understanding of modern international finance.

[Course Description]

The course covers the gold standard, the Bretton Woods system, international capital flows, European monetary integration, the internationalization of the yen, currency and financial crises, and global imbalances.

[Assessment]

Final examination (report assignments required).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
社会経済学Ⅰ
教科担当責任者：平瀬 友樹
担当者：相沢 裕紀 単位数：2単位 ※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの社会的性格を理解すること。
2. 現代資本主義経済について、身近な問題からはじめて、理論的に把握するための基礎概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 社会経済学が対象とするのは、現代経済学（ミクロ経済学やマクロ経済学など）とは異なり、歴史的に発展する具体的な資本主義社会の経済システムです。すなわち、経済システムについて理解するためには、社会的視点や歴史的視点が重要になってきます。このような社会経済学的な視点を身につけることによって、抽象化を重視する現代経済学とは異なった角度から、われわれが生活する資本主義社会およびそれを理論化する体系を動態的にとらえ、展開することができます。社会経済学Aでは、音楽産業を例にとりながら、現代の文化と経済システムの関係について学びましょう。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：高増明（2023）『ポピュラー音楽の社会経済学』第二版 ナカニシヤ出版（第一版ではなく、必ず第二版をもちいること）¥3,400

6 学習指導、注意点等 リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。特に、テキストの題材である音楽はあくまでわかりやすい例としてとりあげられているにすぎず、この講義の目的は文化と経済活動の関わりについて学ぶことにあります。したがって、設問要求を無視して、自分の好きな音楽やアイドルなど個人的経験しか述べていないようなリポートでは単位を取得できないのでご注意ください。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits.(100%)

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
社会経済学Ⅱ
教科担当責任者：平瀬 友樹
担当者：相沢 裕紀 単位数：2単位 ※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 1. 資本主義経済システムの歴史的な性格を理解すること。
2. 現代資本主義において生起する諸問題を基礎理論にまでさかのぼって理解するための概念を習得すること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 本科目は、現代経済学との対比を念頭におきながら、社会経済学の形成過程について学ぶことを目的とするものです。経済理論は、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって生み出されてきました。そのため、これらについて学ぶことは、単なる専門知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義といえるでしょう。なお、現在の社会経済学は、主に理論モデル分析など高度に抽象的な議論をする科目となっており、かつてのように必ずしも現実の問題を扱うものではないことに注意してください。

4 成績評価基準 成績は規定にもとづいて、単位修得試験で100%で評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『経済学史』日本評論社、野原慎司・沖公祐・高見典和、2019年、¥ 3,000

6 学習指導、注意点等 学習は本来、受動的なものではなく、主体的に行われるものです。通信教育課程はそのような本来の学問姿勢がまさに問われる場です。日頃から現実に対する問題関心を持ちながら勉学に励むことによって、充実した学生生活を送ることができるでしょう。リポート作成にさいしては、テキストをよく読んで与えられた課題に正確に答えることがまず前提になります。

Outline and objectives 【Course Outline】

This subject particularly focuses on the historical point of view, which means that it is important to know the relationship between the general theory of the political economy and the dynamics of the historical changing capitalism.

【Learning Objectives】

The purpose of this subject is to study the general theory of the political economy.

【Learning Activities】

Students will be expected to have completed the required assignments after reading the given textbook carefully. They must submit two assignment reports, each requiring at least 30 hours to complete.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the result of the examination for credits. (100%)

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

経済史 I

教科担当責任者：杉浦 未樹

担当者：杉浦 未樹

単位数：2単位

1 学習の到達目標 1) 中世から現代に至るまでの経済発展を、国際的な相互連関の中で歴史的に理解し、主要な転換点を説明できるようになる。

2) グローバル経済における格差構造や権力関係について、具体的な史料・事例を用いて比較分析できるようになる。

3) 歴史的事実に基づき、論理的かつ一貫した学術的文章（レポート）を構築できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 本講義は、中世から現代に至るまでの市場経済の歴史を、国際的連関の中で比較・分析する力を養うことを目的とする。生産・流通・金融・財政に加え、土地制度や企業経営の変化を取り上げ、国家・帝国・地域経済の構造転換を多角的に検討する。毎月の試験課題を通じて、7～9世紀の唐・イスラム・キリスト教世界、モンゴル帝国、産業革命への批判的検討、19世紀の大陸間経済、世界恐慌、ドル・オイルショックなどの歴史的転換点などを考察し、グローバル経済史の基礎的理解と論述力を育成する。

4 成績評価基準 レポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) レポート作成に使用した参考文献は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年、¥ 2,800+税金井雄一、中西聡、福澤直樹『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』（第2版）名古屋大学出版会、2020年、¥ 2,700+税金※初版（2010年）も使用可

参考図書

奥西孝、ばん澤歩、堀田隆、山本千映編『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives This course explores the historical development of the market economy from the late sixth century to the present day, focusing on its evolution within global networks of exchange, production and power. Through monthly written assignments, students will engage with significant milestones in global economic history, considering how regional systems across Europe, West Asia, the Indian Ocean, East Asia and the Pacific interacted, converged or diverged over time.

The course will examine long-term structural changes in land regimes, industries, trade systems and state institutions, reflecting on how these transformations have

shaped global integration and persistent inequalities. It considers the ways in which economic shifts were embedded in broader political, social and technological contexts.

By engaging with these themes, students will develop three core competencies: (1) the ability to explain the global development of economies from the medieval period onwards; (2) the capacity to analyse inequalities and power relations within the global economy using concrete historical evidence; and (3) the ability to produce empirically grounded, logically structured academic essays.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
経済史Ⅱ
教科担当責任者：進藤 理香子
担当者：杉浦 未樹、渡邊 伸弘 単位数：2単位

- 1 学習の到達目標** 1) 日本における市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2) またそれに対し、国内的、国際的要因がどのように作用したか理解する。
3) 論理的な文章が書けるようになること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 本科目の目的は、近世（徳川時代初期）から現在に至る時期までの日本の経済の発展の過程を概観することによって、日本の経済・社会の発展の仕組みを理解し、また現在の日本経済の到達点やそれが抱えている問題を歴史的経路から理解することにある。

4 成績評価基準 リポート評価に当たっては、下記を重視する。

- 1) 教科書、参考書等の丸写しは不可。必ず自分の考えを盛り込む。
- 2) リポート作成に使用した参考文献（含該当頁）は脚注で明記する。
- 3) 誤字、脱字に注意すること。
- 4) 字数の標準を遵守すること。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『日本経済史』改訂新版、放送大学教育振興会、宮本又郎編著、2012年、¥ 2,700+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。テキストだけでなく、その中で引用されている関連文献なども積極的に学習すること。
現代的視点から歴史を理解する態度を身につけてほしい。

Outline and objectives 【Course outline】

This course covers historical development of Japanese economy. It deals with topics that are relevant in understanding the historical evolution of institution, market, and society in Japan. It aims to clarify current state and problems of Japanese economy with a historical perspective.

【Learning Objectives】

- 1) To understand how the market economy has developed in Japan.
- 2) To understand how domestic and international factors have influenced this development.
- 3) To be able to write logical sentences.

【Grading Criteria /Policies】

When grading your report, you will be highly evaluated if you meet the following points.

- 1) Do not copy word for word from textbooks or reference books, etc.; be sure to state your own thoughts.
- 2) Use the footnote function to clearly state the references you used when writing the report.
- 3) Be careful not to write wrong or omitted letters.
- 4) Write in paragraphs.
- 5) Observe the word count standards.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
統計学Ⅰ
教科担当責任者：菅 幹雄
担当者：菅 幹雄 単位数：2単位 ※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 主要な経済統計の収集と吟味、その読み方と、収集したデータの分析方法、コンピュータ（エクセル）による処理・加工の方法を習得することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」に関連

3 科目の概要 経済統計編の「第1編 経済統計の作成過程」では「1 経済統計の種類と分類」、「2 統計作成の過程」、「3 統計分類論」、「4 統計の真実性」を学習する。
「第2編 経済統計各論」では「1 人口」、「2 家計」、「3 食料」、「4 物価」、「5 労働」、「6 産業統計」、「7 企業」、「8 国民経済」、「9 産業連関」を学習する。

数理統計編の「第1編 記述統計編」では「1 統計データとは」、「2 比率と指数」、「3 分布とその特性」、「4 相関と回帰」を学習する。

4 成績評価基準 成績はリポート、単位修得試験によって評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：御園謙吉、良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ経済統計編（第2版）』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円（本体2,600円＋税）
金子治平、上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ基礎編 第2版』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円（本体2,600円＋税）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみる。

Outline and objectives Course outline: In “Part 1: The Process of Compiling Economic Statistics,” students will learn “1 Types and Classification of Economic Statistics,” “2 Process of Compiling Statistics,” “3 Statistical Classification,” and “4 Truthfulness of Statistics.

In Part 2, Introduction to Economic Statistics, students will learn about 1) Population, 2) Households, 3) Food, 4) Prices, 5) Labor, 6) Industry Statistics, 7) Firms, 8) National Economy, and 9) Input-Output Relationships.

In “Part 1: Descriptive Statistics” of the Mathematical Statistics Section, students will learn “1. What is Statistical Data?”, “2. Ratio and Index”, “3.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn how to collect, examine, and interpret major economic statistics, how to analyze the collected data, and how to process and manipulate it on a computer (Excel).

Grading Criteria /Policies: Grades will be based on reports and credit acquisition examinations.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

統計学Ⅱ

教科担当責任者：菅 幹雄

担当者：菅 幹雄
単位数：2単位

※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 実証分析を行う上で不可欠な知識である統計学の理論的な基礎をマスターすること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」に関連

3 科目の概要 「第2編 数理統計編」の「5 確率の基本」、「6 確率変数と分布」、「7 簿縦断と標本」、「8 統計的推定」、「9 統計的検定」、「10 回帰モデル」、「11 標本調査法」を学習する。

4 成績評価基準 成績はレポート、単位修得試験によって評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：金子治平、上藤一郎 編『よくわかる統計学 I 基礎編 第2版』ミネルヴァ書房、2011年、定価2,860円(本体2,600円＋税)

6 学習指導、注意点等 数学がわからない場合は、高校の数学の教科書を復習すること。

Outline and objectives Course outline: In “Part 2: Mathematical Statistics,” students will learn “5 Basics of Probability,” “6 Stochastic Variables and Distributions,” “7 Longitudinal Cross-Section and Samples,” “8 Statistical Estimation,” “9 Statistical Tests,” “10 Regression Models,” and “11 Sample Survey Methods.”

Learning Objectives: Master the theoretical foundations of statistics, which is essential knowledge for conducting empirical analysis.

Grading Criteria /Policies: Grades will be based on reports and credit acquisition examinations.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅰ

教科担当責任者：廣川 みどり

担当者：島澤 諭、廣川 みどり
単位数：2単位

1 学習の到達目標 日本財政の現状を把握し、今後どうあるべきかについて考えるための基礎的な知識と論理的思考力を身につけることが目標になります。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげるの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。

財政学Ⅰでは特に、(1)経済活動における政府の役割の理解、(2)日本の財政制度や財政問題の把握、(3)政府支出や租税の理論の習得、の3点が中心になります。指定テキストの第1章から第5章までが習得範囲ということになります。

4 成績評価基準 単位修得試験の結果が成績になります。(1)基本用語を把握すること、(2)論理的な流れを理解すること、(3)各章末問題を解くこと、(4)参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5)自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の回答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

5 テキスト名および詳細 テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：

テキスト：指定市販本 林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース財政学 第4版』新世社、2019年、2,695円(本体：2,450円＋税)（なお、制度・データ等については変化していくため、参考書やネット上の資料も参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

参考書：

・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。

・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。

ホームページ上の情報（それぞれ以下のURLより最新版を参照のこと）

・日本の財政関係資料：財務省「財政関係パンフレット・資料」
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/index.html

・財政投融资の概要：財務省「財政投融资の概要」

<https://www.mof.go.jp/policy/filp/summary/index.html>

テキストは10章からなります。財政学Ⅰでは、その第1章から第5章までの内容を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。学習については以下の形で進めて下さい：

- (1) ノートを用意してください。
- (2) テキストを開く前に、自分がいま「政府の経済活動」についてどのような知識を持っているか、ノートの第一頁に書いて下さい。単語だけ（消費税とか年金など）でもいいし、自分なりの意見でもかまいません。
- (3) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞やTVのニュースにも敏感になってください。
- (4) 理論的な部分についてはミクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
- (5) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
- (6) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
- (7) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。生成AIや概説書・ネット情報からの丸写しをしないよう充分注意すること。自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives 【Course outline】 This course introduces the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. 【Learning objective】 At the end of the course, students are expected to understand Japan's fiscal system and to obtain think logically the role of government in the economy. 【Grading criteria/policies】 Final grade will be decided by the credits-examination (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅱ

教科担当責任者：廣川 みどり

担当者：島澤 諭、廣川 みどり

単位数：2単位

1 学習の到達目標 財政学Ⅰの知識を前提としたうえで、税制の問題、社会保障問題、マクロ経済政策、地方財政問題等の、政府が実施している様々な政策を経済学を用いて検証していくことで、現実の経済を見る目を養います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 財政学とは政府の経済活動について考える学問領域です。市場経済を基本とする政府の経済活動にはどのようなものがあるか、どれだけの規模か、そもそも政府が市場経済に介入することの意味とはなにか、消費税率をあげるの意味はあるのか、租税と公債とでは効果が異なるのかどうか、赤字国債の発行の長所や短所は何なのかなどについて考えていくことになります。財政学の学習には制度・現状の把握のほかに理論を学ぶことも必要になります。財政学を学ぶことで経済理論の応用の仕方をも修得し、現実の経済を論理的に把握できるようになっていただければ幸いです。

財政学Ⅱでは特に、(1)日本の税制と税制改革、(2)社会保障の財政問題、(3)マクロ経済政策、(4)地方財政の4点が中心になります。指定テキストの第6章から第10章までが習得範囲ということになります。

4 成績評価基準 単位修得試験の結果が成績になります。(1)基本用語を把握すること、(2)論理的な流れを理解すること、(3)各章末問題を解くこと、(4)参考書（またはネットの情報）をもとにデータについての最新の値を把握しておくこと、そのうえで、(5)自分なりの財政についての考え方を持てば、単位が賦与されることになります。試験問題の解答にあたっては、テキストの内容を反映させるのはもちろんのこと、ネットや図書館を利用して調べた情報をもとに、テーマにどう答えたらよいかよく考えて書いて下さい。

5 テキスト名および詳細 テキストとインターネット上のデータ（またはネットにアクセスできない人は参考書のデータ）を用いて学習して下さい：

テキスト：指定市販本 林 宜嗣、林 亮輔、林 勇貴『基礎コース 財政学 第4版』新世社、2019年、2,695円（本体：2,450円＋税）（なお、制度・データ等については変化していくため、参考書やネット上の資料も参考とし、最新のデータの確認をしっかり行うこと。）

※【スタディガイド（学習指導書）】あり

参考書：

・矢野恒太記念会『日本国勢図会』国勢社、最新年度版。

・『図説日本の財政』東洋経済新報社、最新年度版。

ホームページ上の情報（それぞれ以下のURLより最新版を参照のこと）：

・日本の財政関係資料：財務省「財政関係パンフレット・資料」
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/index.html

・財政投融资の概要：財務省「財政投融资の概要」

<https://www.mof.go.jp/policy/filp/summary/index.html>

テキストは10章からなります。財政学Ⅱでは、その第6章から

第10章までの内容を範囲とします。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。学習については以下の形で進めて下さい：

- (1) 財政学Ⅰの知識（テキスト第1章～第5章）を前提としています。復習を行ってから取り組んで下さい。
- (2) ノートを用意してください。
- (3) 財政学Ⅰで何を学んだかを考えて、それをノートの第一頁に書いて下さい。
- (4) テキストをもとに自分でノートを作成してください。そのさい、データについてはホームページまたは参考書から、新しいものを確認しておくこと。また、新聞やTVのニュースにも敏感になってください。
- (5) 理論的な部分についてはミクロ経済学やマクロ経済学（あるいは経済学入門）の教科書を参考にしてください。
- (6) 各章末の問題を解き、内容を理解しているか確認して下さい。
- (7) 最初の頁に、自分が理解したことを書き込み、何を得たかをチェックしましょう。
- (8) その後、設題に取り組んで下さい。以上の作業ができていれば、できるはずです。生成AIや概説書・ネット情報からの丸写しをしないよう充分注意すること。自分のことばでまとめてください。

Outline and objectives 【Course outline】Based on the knowledge of public finance I, this course provides students with understanding the effects of public policies, such as taxation, social security, macroeconomic policy, local government finance. 【Learning objective】At the end of the course, students are expected to understand various policies implemented by the government logically. 【Grading criteria/policies】Final grade will be decided by the credits-examination (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

経済政策論Ⅰ

教科担当責任者：小黒 一正

担当者：小黒 一正、持元 江津子

単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①古典派の理論を学び、経済成長の諸要因を理解する。②ケインジアン理論を学び、景気変動の諸要因を理解する。③財政金融政策がマクロ経済に及ぼす短期的・長期的影響を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち前者の「マクロ経済学」には二つの対立する考え方が存在する。一つは市場の円滑な機能を前提に組み立てられた「古典派」の理論であり、もう一つは（少なくとも短期的には市場が円滑に機能しないことを前提に）財に対する総需要の大きさが財の総供給や経済全体の所得を決定すると仮定する「ケインジアン」の理論である。このどちらの理論が妥当かという判断によって、財政政策・金融政策をはじめ、マクロ経済政策の処方箋が異なってくる。そこで、「経済政策論Ⅰ」では、財政政策・金融政策との関係を含め、現代的な「マクロ経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『マクロ経済学入門』（第2版）、ミネルヴァ書房、麻生良文著、2021年、¥ 3,500+税 ※初版（2009年）も使用可

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

現在のマクロ経済学は応用ミクロ経済学の色彩を強めており、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『マクロ経済学入門』麻生良文、ミネルヴァ書房、2009年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、「古典派」「ケインジアン」の理論が対立する形式で記載されている良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

マンキュー 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』東洋経済新報社（入門用）

マンキュー 『マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』東洋経済新報社（中級）

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ
スティグリッツ 『スティグリッツ マクロ経済学』東洋経済新報社

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of macroeconomics.

The final grade is mainly based on an examination (100%).

The quality of the report is taken into account when grading.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
経済政策論 II
教科担当責任者：小黒 一正
担当者：小黒 一正、持元 江津子 単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①「政府の役割」や「価格メカニズムの役割」を理解する。②公共財の供給決定メカニズムや外部性の解決方法を理解する。③課税や公債の負担、財政政策の効果について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 経済政策は非常に範囲が広いが、その理解や考察には「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠である。このうち後者の「公共経済学」では「政府の役割」「価格メカニズムの役割」を考察しつつ、政府はどの分野に関与すべきで、どの分野は市場に任せておけば良いのかという議論を扱う。また、「政府の失敗」「市場の失敗」が起こる原因や解決方法、課税や公債の負担、財政政策の効果についての理解も重要である。そこで、「経済政策論II」では、公共財の供給決定メカニズムを含め、現代的な「公共経済学」の基礎的な内容を学んで欲しい。

4 成績評価基準 成績評価は100%「単位修得試験」による。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『公共経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、林 正義・小川 光・別所俊一郎、2010年、¥ 2,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。理論経済学と財政学の学際分野である「公共経済学」は応用ミクロ経済学の一分野として位置づけられ、本来はミクロ経済学の基礎知識が履修の前提となるが、本科目のテキスト（『公共経済学』（林正義・小川光・別所俊一郎、有斐閣、2010年）は、そのような知識がない初学者でも学習できるように構成されている。なお、本テキストには一定の数式が登場するが、所得税や消費税といった税制の根本問題や公債の負担に関する議論を丁寧に考察している良書であるため、意欲的に取り組んで欲しい。

なお、以下の書籍も有益である。

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済（入門用）

スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済（入門用）

麻生良文『公共経済学』有斐閣（中級）

井堀利宏『基礎コース公共経済学』新世社（中級）

井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣（上級）

Outline and objectives The aim of this course is to acquire the effects of economic policy.

The primary goal of this course is to help students develop a consistent way of thinking about the issues of economic policy, by using the approaches of public economics.

The final grade is mainly based on an examination (100%).

The quality of the report is taken into account when grading.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
日本経済論 I
教科担当責任者：青野 幸平
担当者：青野 幸平 単位数：2単位 ※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 この授業では日本経済が直面する問題をマクロ経済学の基礎講座で学ぶ知見を足がかりに学習します。授業の目的は日本経済の全体像についてのより正確なイメージを築くことにあります。具体的には以下の通りです。

- ・日本経済の現状についての正確な知識の習得。
- ・日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につける。
- ・日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 以下の8つのトピックを取り上げます（カッコ内は教科書における対応章）：

1. 日本経済 TODAY（序章）、2. 成長と循環を読み解く（第2章）、3. 望ましい物価とは何か？（第3章）、4. 金融政策はどう変わったのか（第5章）、5. 日本の貿易に何が起きたのか？（第6章）、6. 円の実力を問う（第7章）、7. 代わる産業構造と雇用（第8章）、8. 日本の選択～未来世代に豊かな成熟社会を（終章）

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験によって評価します（ただし、レポート学習もしっかり行うこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本
伊藤隆敏・星岳雄著／祝迫得夫・原田喜美枝訳
『日本経済論』東洋経済新報社、2023年、4,500円＋税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。指定されたテキストをしっかりと読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記教科書から必要なものを探し出し、学習するように心がけてください。

Outline and objectives 科目の概要（Course outline）

This course introduces current state of the Japanese economy, economic logical thinking and economic theory to students taking this course.

学習の到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to build a more accurate picture of the overall Japanese economy.

成績評価基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

日本経済論Ⅱ

教科担当責任者：青野 幸平

担当者：青野 幸平

単位数：2単位

1 学習の到達目標 戦後を中心に日本経済成長の歴史とその仕組みを理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

3 科目の概要 1 戦間期から高度経済成長期までの経済成長の歴史を学ぶことを課題とする。

2 その際、何が経済成長を促したのかを理解し、原因と結果を説明できるようにする。

3 金融システムやマクロ経済の観点から日本経済について理解できるようにする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験によって評価します（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと）。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで—』有斐閣、2016年、3,700円＋税。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。指定されたテキストをしっかり読み、ノートを作るだけでなく、指定しなかった文献も上記書から必要なものを探し出し、学習すること。

Outline and objectives 科目の概要（Course outline）

This course introduces Japanese economic growth, causes of growth and intermittent history to students taking this course.

学習の到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to understanding the history of Japan's economic growth and how it works.

成績評価基準（Grading Criteria /Policies）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

LAW300TG（法学 / law 300）

憲法

教科担当責任者：國分 典子

担当者：土屋 仁美

単位数：4単位

1 学習の到達目標 近代憲法の原理を学ぶとともに、日本の憲法の特徴を理解する。

日本国憲法の保護している人権の内容、その保障の現状および課題について理解する。

日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 この科目では、憲法という法を支えている「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、そうした憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会の約190カ国において、ほぼどの国も「憲法」を制定している。しかし、具体的な内容や実際の運用においては、各国の歴史や社会、宗教、国際関係などの影響により多様である。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法とともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。

この科目では、このように歴史や社会のあり方、国際社会などとの関係によって影響を受ける憲法について、憲法という法を支えている基本的な「原理」である国民主権や民主主義、権力分立、また人権の概念やその保障について理解することを目的とする。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。評価の際には、先に提出されたレポートの内容を考慮する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『憲法 第8版』、岩波書店、芦部信喜著（高橋和之補訂）、2023年、3,740円 ※『現代日本の憲法 [第2版]』、法律文化社、元山 健・建石真公子編、2016年、¥ 2,800+税（初版（2009年））も使用可【参考文献】

『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅰ 第7版』有斐閣、2019年

『（別冊ジュリスト）憲法判例百選Ⅱ 第7版』有斐閣、2019年

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。憲法の学習としては、まず、教科書を読み理解し、次に、教科書で参照されている判例について判例集を読んで具体的な事件との関係で理解することが基本である。まずは、近代憲法の原理、人権の基本原則を把握したうえで、人権を保障し民主主義を維持する、という目的に照らして、裁判所や国会、行政などの仕組みを学ぶと理解しやすい。より深く学習するには、教科書に紹介されている論文や専門書を読み、また法学セミナー、法律時報、法学教室、ジュリストなどの法律雑誌に掲載されている関連する論文等を読むと興味が深まるだろう。憲法は政治や歴史、国際関係と密接な関連を持っているため、日ごろから新聞などに目を通し、国内政治や国際政治等に関心を持ってほしい。

Outline and objectives Learn the principles of modern constitution theory and understand the characteristics of Japanese Constitution. Understand the definition of human

rights protected by the Constitution of Japan, the current situation and issues for the protection. Also, understand the governing organization, separation of powers, judicial review system, and local autonomy in the Japanese Constitution.

This course aims to provide an understanding of the basic 'principles' underpinning constitutional law, such as national sovereignty, democracy and the division of power, as well as the concept of human rights and their guarantees, which are influenced by history, the state of society and its relationship with the international community.

The final grade is based on an examination. The quality of the report is taken into account when grading.

LAW300TG（法学 / law 300）

民法一部（総則・物権法）

教科担当責任者：川村 洋子

担当者：大久保 慎太郎、川村 洋子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 契約、物、家族といった私達の生活の基本的なルールを定めている民法のうち、民法全体に共通するルールからなる「民法総則」部分、および、物についての規範である「物権」部分を中心に、基本的な内容を理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられている。経済活動のあり方を考える上では、法律による取引活動の規律がいかなるものであるかを学ぶ必要があるが、その際に民法を学ぶことは非常に重要である。本科目では民法のうち、民法全体に共通する規範である「民法総則」および物権に関する規範である「物権法」を学習する。具体的には、民法総則では、通則、権利の主体・客体、法律行為、時効制度などについて、物権では、所有権等の各種物権や担保物権などについての理解を深める。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『リーガルベイス民法入門』第5版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2024年、¥ 5,000+税
※第4版（2022年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。民法を勉強する上で、とりわけ民法全体に共通するルールである民法総則の知識は不可欠であるが、民法総則の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例百選』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。また、判例の原文も読むこと（最高裁判所HPや本学図書館HPに掲載されている法律情報データベースでアクセスできる）。

なお、本講義の対象である民法総則は2017年に、物権法は2021年に改正されている。古いテキストや六法を使わないようにしてほしい。

Outline and objectives [Course Outline]

This course addresses general legal rules affecting private transactions and accidents, as well as laws of property and security interests, the principles of which are mostly

provided in Parts 1 and 2 of the Japanese Civil Code. Part 1 of the Civil Code provides rules on capacity of parties, objects of legal acts, intention to create legal relations, and prescription. Property law introduces students to the basic forms of establishing entitlements, the rules on transfer of ownership in general, conveyancing and private control of land use. Security interest refers to the property rights of a creditor whose right to collect a debt is secured by property ('collateral') and this course covers the rules on several types of security interests: mortgages, charges, pledges and liens.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major legal issues which may arise in a particular factual situation.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TG（法学 / law 300）

民法二部（債権法）

教科担当責任者：川村 洋子

担当者：金井 悠一郎、川村 洋子
単位数：4単位

※ 2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分について、基本的な内容を理解することを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

3 科目の概要 民法には、契約（売買、賃貸借など）、物（所有権、担保）といった取引社会の基本要素に関するルールが設けられているが、本科目では民法のうち、取引に直接関係する債権総論、債権各論部分を学習する。具体的には、債権の目的、効力、譲渡、消滅、さらには多数当事者の債権・債務について定める債権総論部分についてはもちろん、債権の発生原因として重要な契約、事務管理、不当利得、不法行為について学ぶ。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本 『リーガルベイス民法入門』第5版、道垣内弘人著、日本経済新聞出版社、2024年、¥ 5,000+税

※第4版（2022年）も使用可。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。しかし、民法の条文には抽象的なものが多いので、条文を見ただけでは具体的な要件・効果が判然としないことがほとんどである。そこで、テキストを熟読し、各条文の要件・効果を判例や学説をふまえて具体的に理解することが必要となる。その際、判例や学説は必ずしも単一ではないことから、指定されたテキストはもちろん、推薦されている参考書や『民法判例集（債権各論）』『民法判例集（債権総論・担保物権）』『民法判例百選（債権）』（いずれも有斐閣より発売）等で判例や学説の理解を深めることが大切である。また、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。判例は原文にあたること。最高裁判所のHPや本学図書館HPから閲覧できる法律情報データベースからアクセスできる。

また、債権総論部分の条文には、債務不履行、自殺、債権譲渡など、直ちにはイメージがわからず、とっつきにくいものが多いので、まずは日常生活に身近であり、債権の発生原因として重要な契約、不法行為を最初に勉強することをおすすめする。

さらに、債権総論・各論部分については2020年4月より改正後の民法が施行された。改正に関する主な書籍には以下のものがある（いずれも今後改訂される可能性があることから、新学期開始時点での最新版を参考にすること）。

潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』きんざい、2017年、¥ 3,200+税

山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』岩波書店、2017年、

¥ 1,200＋税

大村敦志・道垣内弘人編『解説 民法（債権法）改正のポイント』有斐閣、2017年、¥ 3,200＋税

潮見佳男ほか編著『Before/After 民法改正（第2版）』弘文堂、2021年、¥ 3,300＋税

潮見佳男ほか編『詳解改正民法』商事法務、2018年、¥ 6,500＋税

Outline and objectives [Course Outline]

This course introduces students to the basic concepts of debtor and creditor law, contract law and tort law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to those areas. The principles of debtor and creditor law are mostly provided in Chapter 1, Part.3 of the Japanese Civil Code, those of contract law in chapter 2, and those of tort law in Chapter 5. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapters 3 and 4, Part 3 of the Civil Code.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract and tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided on course examination.

LAW300TG（法学 / law 300）

商法総則・商行為法

教科担当責任者：椽川 泰史

担当者：松谷 秀祐

単位数：4単位

1 学習の到達目標 企業組織・企業取引に関してわが国ではどのような法制度・ルールが用意されているのかについて基本的な知識を修得しており、それら法制度・ルールの概要を説明することができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

3 科目の概要 本科目は、商法（明治32年法律48号）のうち、第1編総則（第1条から第31条）、第2編商行為（第501条から第617条）を主たる学修対象とする科目です。また、会社法（平成17年法律第86号）第1編総則（第1条から第24条）のうち、商法第1編と同様の規定が置かれている項目についても本科目の学修対象となります。

具体的には、上記3編に規定されている各条文および関連する重要判例に関する出題を行います。

4 成績評価基準 リポートの完成度および単位修得試験の成績で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『コア・テキスト商法総則・商行為法』新世社、川村正幸ほか著、2019年、¥1900＋税

6 学習指導、注意点等 個々の点については、通信学習のリポートに添削・講評の中でフィードバックしますが、本科目の学習に際して以下の4点について注意しながら学習を進めるよう心がけてください。

第一に、専門用語を理解・使用することが重要です。たとえば、「知らない」ではなく「善意」、「知っている」ではなく「悪意」というようにです。リポート設題および単位修得試験では、これら専門用語そのものに点数が割り振られている場合もあるでしょう。意味が分からない用語はそのままわからないままにせず、『法律学用語辞典』などで意味を調べるようにしてください。

第二に、専門用語と専門用語との関係を理解することが重要です。あくまでも一例ですが、「善意の第三者（には）」という用語は（多くの場合）「対抗できない」という言葉と結びつくというようにです。この専門用語と専門用語との関係は、多くの場合、条文という形で規定されています。そのため、特に実定法の学習の際には、常に六法を傍らに置き、条文の文言および条文番号を意識・確認するよう心掛けてください。リポート設題および単位修得試験においてただ条文をコピー＆ペーストすれば合格水準に達するということはありませんが、法律学（特に実定法）の学習は「条文に始まり、条文に終わる」というフレーズもあるように、条文の文言および条文番号の重要性を忘れないようにしてください。

第三に、体系・学説（理論）・立法理由を理解することが重要です。まず、体系といった場合、様々な意味がありますが、代表的なものは、「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係でしょう。ここではその詳細を論じることはできませんが、たとえば、商法のリポート設題および単位修得試験で、詐欺罪について詳しく述べている、民法の規定についてのみしか触れていないようなリポート・答案は、この「公法と私法」、「一般法と特別法」の関係を理解できていないリポート・答案ということになって

します。

また、学説（理論）について、学部の学習段階で日本あるいは世界に存在している学説（理論）をすべて理解する必要はないと考えますが、必ずしも条文上で明確に定義されていない事項が学説（理論）に表れている場合もありますので、前述のとおり条文だけ覚えればよい、条文にだけ言及すればよいというわけではないことに留意してください（たとえば、類推解釈・類推適用が必要な場合など）。

さらに立法理由について、ある規定の立法理由そのものがレポート設題および単位修得試験で正面から直接問われることは多くないかもしれませんが、解釈の手がかり、解決の手がかりとなる場合もあります。

第四に、学習時間を確保する・学習方法を考えることが重要です。はじめて学習する科目で学習時間0分でレポート提出・単位修得試験を受験して満点・単位修得基準に達することは（ほとんど）ありません。まずは、どの科目を何時間、どの方法でいつまでに学習するかという学習計画をしっかりと立てるよう心掛けてください。

また、学習方法には「教科書タイプ」と「演習タイプ」の2種類があると考えています。前者は教科書を一通り読んでから実際にレポート設題等を解くタイプ、後者は、実際にレポート設題等を解きながら必要なこと・不明な点等あれば教科書等を調べるタイプのことです。目指すゴールは同じであり、どちらのタイプが優れているということはないはずですので、「教科書タイプ」と「演習タイプ」のどちらがよりご自身に向いているのか判断された上で学習を進めてください。

Outline and objectives Students in this class will learn about the rules governing the organization of a business and business transactions.

LAW300TG（法学 / law 300）

会社法

教科担当責任者：笹久保 徹

担当者：笹久保 徹、石井 宏司

単位数：4単位

1 学習の到達目標 会社法の重要かつ基礎的な知識を習得すること。

- ① 株式会社および持分会社に関する会社法上の制度の基本を正確に理解すること。
- ② 上記の知識を活用して、具体的な問題を解決する能力を身につけること。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 株式会社に関する会社法上の基礎知識を学習する。

「会社法」は、2005年（平成17年）に単独法典として成立したものであり、株式会社および持分会社について規定する。それ以前においては、1899年（明治32年）以来、現行商法典の中に株式会社および持分会社に関する多くの規定が存在していた。したがって、会社法が成立する以前に株式会社や持分会社を勉強した人は、株式会社・持分会社に関する規定は、会社法〇〇条ではなく、商法〇〇条として記憶している。

会社法において重要かつ基本的なことを述べておこう。

株主になろうとする者が、通常、一定の金額の金銭を出資すると、株式会社に対する請求権の束としての「株式」が生じる。株式を表章する有価証券が株券である。株券を持つ者は、正当に株式を有するということが推定される。正当に株式を有する者を「株主」という。株主は、出資した金銭の集積されたものをうまく運用してその金額を増加させるために「取締役」を選任する。取締役は、①法令・定款・株主総会決議を遵守し、②善管注意義務を尽くし、③忠実義務を遵守しながら、株式会社の経営を行わなければならない。取締役は会社の経営をうまく行い、剰余金を産出しなければならない。取締役が会社を経営した結果として剰余金を産出した場合、株主は、その剰余金をさらなる出資に当てることもできるし、また、自分たちが受け取り、個人的に消費することもできる。この産出された剰余金のうち、株主が受け取るところの金銭を「配当」という。わが国には、約250万社の株式会社が存在し、その中の約4000社の株式会社の株式のみが金融商品取引所に上場され、常に売買されている。このような株式を上場株式という。上場株式は、多くの場合、その需要供給のバランスから株価が定まる。上場株式を有する株主にとっては、配当が増加すること、および、上場株式の株価が上昇することが、利益となる。

会社法は、比較的、まとまった法体系を規定しており、その意味では、学習しやすい法律ということができる。なお、条文のほかに、判例によって形成された部分も少なからず存在するので、判例法についても十分に注意を払わなければならない。

4 成績評価基準 リポート及び単位修得試験において評価する項目は、記載内容の正確さ、論理的な整合性、リポート・答案の構成、リポートにおける判例・資料・文献の引用である。

最終評価は単位修得試験で評価する。

5 テキスト名および詳細 指定市販本：柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年） ¥5,600+税

※第2版（2015年）も使用可能だが、大幅に法改正されているので注意。

※【スタディガイド（学習指導書）】あり（第1版・第2版に対応）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。六法等を開いて会社法の条文を参照しつつ、指定したテキスト（柴田和史著『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））をていねいに読み込むこと。また、電車の中など時間のあるときに、参考図書の柴田和史著『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕（日経文庫）』（日本経済新聞出版社、2021年）を見てほしい。

① 会社法に限らず、およそ商法・民法・会社法・手形法などを学ぶに際しては、必ず条文を参照する習慣をつけること。六法を愛用し、ともかく、六法の必要なページを開く習慣を身につけて欲しい。このようにして物事の根拠となる条文を使いこなす能力を習得していることが、法学部生の最大の長所である。

② 会社法で用いられている基本的な概念を正確に理解すること。たとえば、「株式」とは何か、「忠実義務」とはいかなる義務か、「株式」と「株券」の違いを正確に説明できるか、「吸収合併」と「株式交換」はどこが異なるか、などの基本的理解に関わる問いに答えることができるためには、テキストに述べてある各概念の定義や説明を丁寧に注意深く読むことが必要である。

③ 会社法は、比較的、ほかの法律の知識を必要としないで理解することのできる法律といえる。もちろん、民法における契約や債権債務関係の知識、不法行為に関する知識などは当然の前提として要求される。しかし、もっとも大きな問題は、全文で979条もあり、そのうえ、各条文が長いこと、六法のページ数を比較すれば、民法典の約2.5倍の分量があるということである。したがって、会社法に関しては、各条文がどのような内容を規定しているかを理解することが最初の大きな仕事となる。

④ 会社法においては、「株主」、「取締役」、「監査役」、「会社債権者」などが、基本的な登場人物である。取締役が具体的に会社法上のなんらかの行為をするとき、場合によっては、株主の利益を増加させ、同時に、会社債権者の不利益を増加させることがある。また、場合によっては、その逆のことがある。さらに、場合によっては、株主の不利益を増加させ、取締役の利益を増加させることがある。このように、会社法で規定されているさまざまな事象は、誰かと誰かの利害関係を緊張させる場合が多く、会社法は、その問題をさまざまな法的テクニックを駆使することによりバランスの取れた結論が導かれるように条文を設定している。学生は、条文の定めた内容をただ丸暗記するのではなく、ぜひそのあたりを理解した上で、会社法を内容豊かなものとして学んで欲しい。

学習に際して、指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021年））以外にも以下の図書が参考となる。

1. 柴田和史著『ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕（日経文庫）』（日本経済新聞出版社、2021年）、¥1,000（税抜）

2. 柴田和史著『類型別 中小企業のための会社法〔第2版〕』（三省堂、2015年）、¥2,800（税抜）

3. 北村雅史＝柴田和史＝山田純子著『現代会社法入門〔第4版〕』（有斐閣、2015年）、¥2,900（税抜）

4. 近藤光男＝柴田和史＝野田博著『ポイントレクチャー会社法〔第2版〕』（有斐閣、2015年）、¥3,800（税抜）

5. 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（別冊ジュリスト254号）（有斐閣、2021年）、¥2,500（税抜）

以上の参考図書を利用する場合に改訂版が出版されているときは、改訂版を参考にすること。

Outline and objectives The purpose of this course is to help students understand important and fundamental knowledge of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society, (4) able to use the knowledge to solve specific problems.

LAW300TG（法学 / law 300）
手形法・小切手法
教科担当責任者：楳川 泰史
担当者：金尾 悠香、清水 真人 単位数：4単位

1 学習の到達目標 手形も小切手もそれ自体は徐々に使われなくなってきた道具ですが、そこで用いられている解釈技術は、民法（特に債権法）の理解を深め、現代的な決済システムにも応用できる有用な知識ですので、これを身につけるように努めていただきたいと思います。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

3 科目の概要 手形には約束手形及び為替手形があります。わが国では、約束手形が主に利用されています。

手形（以下、小切手も含む）の総論（たとえば、手形行為など）を学び、さらに手形の振出、譲渡及び支払などを勉強します。

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験により評価します。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『商法Ⅲ手形・小切手』第5版（有斐閣Sシリーズ）、有斐閣、大塚龍児・林靖・福瀧博之著、2018年、¥ 2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

民法総則・債権法を履修していることが望ましい。

Outline and objectives Students in this class will learn the rules for the creation, distribution, and settlement of checks, bills of exchange, and promissory notes.

LAW300TG（法学 / law 300）
労働法
教科担当責任者：藤木 貴史
担当者：藤木 貴史、山本 圭子 単位数：4単位

1 学習の到達目標 （労働法総論・労働契約法）労働法の意義、目的を正確に把握し、労働契約法の仕組みを理解することが望まれる。

（労働基準法）労働基準法、最低賃金法など労働法規における労働条件基準を正確に理解することが目標である。

（労働組合法）労働組合の機能、団体交渉、争議行為等団体行動の法的保障と限界を正確に理解することが目標である。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

3 科目の概要 労働者と使用者との労働関係を規律する労働法を個別的労働関係法と集団的労働関係法の二つに分けて学習する。近年、前者の個別労働関係法領域において、労働契約法や労働審判法などの新しい法律が制定されたり、労働基準法の大きな法改正がなされたりするなど、動きが激しい。他方、後者の集団的労働関係法領域についても、最近、労働組合法の改正がなされている。こうした絶えず法制度の改編が進む労働法のダイナミックな動きを具体的テーマに即してテキストをよく読んで、理解を深めてほしい。

なお、労働法と社会保障法の交錯領域（労災、社会保険）についても学習をすることが望ましい。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験により評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年、¥2,300+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

労働法は憲法25条の生存権保障理念の実現に労働者に保障することを目的とする一連の法体系である。こうした目的の実現を図るために、憲法では、労働者に対して、27条で、労働権保障・労働条件基準の法定化要求などを定めるとともに、28条で、団結権、団体交渉権、その他団体行動権を保障している。こうした労働者の権利の実現を具体的に定める法が労働法である。こうした労働法は、大別すれば、憲法27条に基づく個別的労働関係法（労働基準法、最低賃金法、労働契約法など）の法体系と、憲法28条に基づく集団的労働関係法（労働組合法、労働関係調整法など）の法体系によって構成されているが、今日の労働者の置かれた状況をみると、雇用保障法領域や社会保障法領域なども、労働者の生存権保障にとっては重要な意義を有する労働法のもう一つの法体系となっている。

労働法の学習は、まず、労働法の意義をあきらかにし、労働者に保障されている具体的な労働法の内容を理解するところから始めなければならない。大学での限られた時間のなかで学ぶ労働法の対象は、そのすべてに及ぶわけではないが、少なくとも個別的労働関係法の中心となっている労働基準法、労働契約法、さらに、集団的労働関係法の中心となっている労働組合法は必ず学ばなければならない。

そのうえで、余力があれば、社会保障法や雇用保障法（労働

市場法）にまで手を伸ばして勉強できればさらに充実した労働法の学習になると思われる。使用テキストは、「特定の労働者に向けたルール」として、大学の講義では触れられることが少ない領域にまで意を尽くして記述しているので、テキストを丁寧に読んで学ぶことを心掛けてほしい。学問に王道はないといわれるが、労働法の世界でもまったくそのとおりであるので、テキストを熟読したうえで、レポートを作成してほしい。

Outline and objectives "General Labor Law and Labor Contracts Law"

The goal is to understand the significance and purpose of the labor law accurately and to understand the mechanism of the labor contract law.

"Labor Standards Law"

The goal is to accurately understand labor standards in labor regulations such as Labor Standards Law and Minimum Wage Law.

"Labor Union Act"

The goal is to accurately understand the legal security and limitations of group actions such as labor union functions, collective bargaining and dispute acts.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

社会思想史

教科担当責任者：伊海 孝充

担当者：伊藤 直樹

単位数：4単位

1 学習の到達目標 古代から20世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語ることができるようにすることにある。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

3 科目の概要 社会思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかにある。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17世紀において、また19世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることが、本科目の課題である。ただし、その社会のあり方は、現在私たちがもっているイメージと、共通している点もあれば、そうでない点もある。「歴史」という目を持ってみれば、おのずとそうなる。社会思想「史」であるとは、社会についての思想を歴史的に見ることであり、現在の私たちの状況と、過去のそれとを見較べながら学ぶこともまた必要である。

4 成績評価基準 ・レポート評価

ごく基本的なこととして、誤字脱字、文章の主部と述部とが乱れていないか、また段落のつけ方が適切であるかといった点には注意されたい。ときおり、口語調の文体で、そうした点に無頓着な文章を見かける。これらのことは、内容の理解と密接に関係していると思われるからである。

次に、課題についてよく考えることである。その課題がなにを要求しているかを、自分なりに見極めること。よく調べ、丁寧に論述されていても、課題に相応しくなければダメである。

また、学ぶ内容は、過去の思想である。したがって、けっして自分の思い込みでレポートを書くことはできないはずである。まずは、自分の思い込みを脇に置いて、通教テキストに沿って理解してゆくことが大切である。だから、「自分なりの理解」は重要であるが、それは、レポートをまとめるさいの、その「まとめ方」や、ときとして必要になるはずの自分の言葉での「要約」に現われてくる。評価のさいには、そこに注目する。自分なりの「意見」を加えてもよいが、それは、そうした「自分なりの理解」を踏まえてのものであるだろう。

全体の記述量は、一課題につき2000字以上が必須である。

・筆記試験

レポートでの課題と関連した内容を問う。思想内容を客観的に理解できているかどうか、評価の基準となる。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『社会思想史』第3版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、伊藤直樹、2022年

まずは、通教テキストを、精読してもらいたい。そのうえで、章末に掲載されている参考文献、あるいは入手可能な関連文献などにあたってもらいたい。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評

でフィードバックする。

レポートを書く際には、『自立学習の手引き』などを参照してもらいたい。

上述したが、まずは、通教テキストを精読して欲しい。テキストの精読を踏まえて課題を考え抜くことで、どのような内容と構成をもったレポートを書くべきかが、見えてくるはずである。その内容を決めてはじめて、参考文献にあたって欲しい。このような手順を踏んだかどうかは、レポートに如実に現われる。あえて言うと、この手順を逆にして作成されたレポート、つまり、課題をちらっと見て、関係ありそうな参考文献から抜き書きしただけのもの、そういうものは、書き手の理解がともなわない、ただ難しいだけのものになってしまっている。これでは、学びとは言えない。

また、分量について、最低でも2000字以上ないと課題をまとめることはできないだろうと思われる。

なお、生成AIツールの使用については、次のようにします。

生成AIツールの使用は一切禁止します。

不正使用すると、本講義の学びのすべての価値が失われます。

不正使用の防止は、受講者の良心にかかっています。

よろしく願いいたします。

Outline and objectives The aim of this course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

経済地理

教科担当責任者：甲斐 智大

担当者：南 春英

単位数：4単位

1 学習の到達目標 経済地理学の基本的な考え方、方法を学ぶことによって、社会・経済現象に対して経済地理学からどのように捉えることができるかについて理解することを目的とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

3 科目の概要 経済地理学は人文地理学の中で、特に経済現象を地理学的視点からとらえていくことを目的とする。テキストとして伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房を使用する。本テキストは経済地理学の基本的な考え方、方法論を最も適切かつ簡潔に記している。

4 成績評価基準 成績評価は設題に対するレポートと単位修得試験による。

レポートについては、特に引用文献、参考文献を本文中に適切に提示することに注意すること。

単位修得試験の場合、必ずテキストをすべて理解した上で臨むこと。

生成AIの不適切な利用が疑われるレポートについては大幅な減点、あるいは不正行為として取り扱うことがある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年、¥3,500+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

成績評価基準に書いた通り。レポートは適切な引用と、自らのオリジナルな調査結果によって記述されるものである。その際、多くのレポートは引用によって成り立つものであるため、必ず、どの文献のどの部分を引用したかがわかるように本文中に記述すること。引用の仕方がわからない場合は、専門論文などを参考にしたい。

単位修得試験は解答者の意見を聞く場ではなく、解答者の適切な理解度を問う場である。テキストをしっかりと理解した上で臨むこと。

Outline and objectives Students learn a basic way of thinking of the economic geography and a method. Thereby they understand how economic geography captures society, an economic phenomenon.

教職入門
教科担当責任者：寺崎 里水
担当者：遠藤 野ゆり 単位数：2単位

1 学習の到達目標 教職を将来の選択肢の一つとしてつとて考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び身につけておかねばならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 本科目では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかねばならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト（指定市販本）
・『新版 教職概論 先生になるということとその学び』高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・寺崎里水・伊藤亜希子・藤田由美子、協同出版、2023年、¥ 1,900+税
参考書・参考資料等
・『中学校学習指導要領』最新版、『高等学校学習指導要領』最新版、『生徒指導提要』最新版
※いずれもPDFでダウンロード可能

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：教職の意義：教職のスタートライン（序章）
第2回：教師像の構築：大学・教職課程で学ぶということ（第1章）
第3回：職業としての教師①：教員免許・養成制度、教員採用（第2章第1～2節）
第4回：職業としての教師②：研修・免許更新、服務義務（第2章第3～4節）
第5回：教育指導の本質と意義：教職の面白さと難しさ（第3章）
第6回：教職の歴史的特質（第4章）
第7回：教職に関する実務①：教師の1日、1年、学校という組織の運営、教師のキャリア（第5章）
第8回：教育の方法①：自らの授業経験をふりかえる、授業づくりの基礎、学習指導要領の位置づけと変遷（第6章第1～3節）

第9回：教育の方法②：「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法とICT活用、授業のユニバーサルデザイン（第6章第4～5節）

第10回：教師の職務実態①：学級経営、生徒指導（第7章第1～2節）

第11回：教師の職務実態②：進路指導、その他さまざまな活動（第7章第3～4節）

第12回：教職の課題①：現職教師はどんなことで悩んでいるのか、社会の変化と教師の悩み子供の貧困（第8章第1～2節）

第13回：教職の課題②：格差社会の進展と子供の貧困、教職の課題（第8章第3～4節）

第14回：教育実習の実際：教育実習に向けた準備、教育実習生の実態、教育実習の大変さ、そして楽しさ（第9章）

第15回：教職の方向性：教育改革の概観、変わる子供の学び・学び続ける教師、協働と連携（終章）

単位修得試験

Outline and objectives (Course outline) : In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

(Learning Objectives) : By the end students will consider teaching as one of their future options, gain basic knowledge and ideas about the significance of teaching, the role, qualifications, abilities, and job content of teachers, and assess their own suitability for a teaching career, including what it means to become a teacher and what they need to learn and acquire in order to do so, thereby increasing their motivation to pursue a teaching career.

(Grading Criteria) : report and examination

教育原理

教科担当責任者：遠藤 野ゆり

担当者：遠藤 野ゆり

単位数：2単位

1 学習の到達目標 公教育の本質、公教育の成立過程とその背景にある歴史的な社会階層の変化、思想について学ぶ。世界的な公教育の成立、日本における公教育の成立を学び、現代社会における教育の根本的な課題を明らかにする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 まず導入として、教育原理や教職課程における学びのスタイルについて考える。その後、子ども、学校や公教育の歴史を、欧米と日本を素材に概説する。特に、今日の教育や学校の起点となる、近代学校が進化するプロセスに注目する。次に、近代化以前の日本の社会と教育状況、近代教育の導入のプロセス等を検討する。最後に、現代社会における公教育の課題を明らかにする。

4 成績評価基準 リポート課題及び単位修得試験。
リポートは、次の二つの基準から評価する。まず、設問にたいして、どれだけ試行錯誤もしながら、的確に事実や論理を駆使して回答しているか。次に、歴史的な流れから教育の原理として何を学んだか。テキストを正確に理解していることが単位認定の最低条件。参考文献などの積極的な利用は評価する。なお、文章表現が十分でないもの、引用の仕方や記号の使い方が適切でない場合は、内容がよくても、単位を認めない場合がある。

5 テキスト名および詳細 指定市販本『まなぶことの歩みと成り立ち 公教育の原理的探究』遠藤野ゆり・筒井美紀、法政大学出版局、2023年、2,300円+税

6 学習指導、注意点等 テキストを通読するだけでなく、設題に掲げられた参考書を1冊でもよいから読んでほしい。アマゾンなどの書籍販売サイトで検索すれば、さらに最新の書誌情報も得られる。また、インターネットからは、最新の生の情報やデータが入手できるし、子どもや学校などを紹介し論評した新聞記事も手に入るの、これらも積極的に活用してほしい。
なお、ウィキペディアなどの辞典的な記事も入手できるが、これはあくまでも参考に過ぎず、必ず自らの手と頭を使って、テーマ（主題）を咀嚼し、思索を深める学習をしてほしい。文章として形だけ整った論述よりも、どれだけ思索において試行錯誤や省察をしたのか、このことが教師や社会人の資質として問われている。

生成系AIの利用は認めない。本科目では、断りなく生成系AIを利用し、解答の大部分をそこで得られた内容からコピー等したと判断される場合には、不正行為として扱う。

Outline and objectives (Course outline) : In this lecture, students are required to learn about the essence of public education, the process of establishment of public education, the historical changes in social strata behind it, and philosophies. They also need learn about the establishment of public education worldwide and the establishment of public education in Japan, and clarify the fundamental issues of education in modern society.
(Learning Objectives) : Students will learn about the nature of public education, the process by which public education was established, and the historical changes in

social stratification and ideology that underlie it. They will also learn about the establishment of public education globally and in Japan, and clarify the fundamental issues facing education in modern society.
(Grading Criteria) : report and examination

教育の制度・経営
教科担当責任者：仲田 康一
担当者：澤里 翼 単位数：2単位 ※2025年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 本講座では日本の学校教育に関する制度及び経営の現状と課題を理解したうえで、各自がテーマを設定して能動的な学習の成果をレポートにまとめる。講義の主題は「法律運用や教育活動の展開（経営）の実態を知り、制度を通して達成が目指されている社会的な意義とは何か、その実現のためにどうすればよいのか」を考えることである。これには不登校等の現在の教育課題、学校と地域との連携、学校安全・危機管理の現状と課題を考えることも含まれる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 授業は、二つの部分から構成される。その一つは、公教育の原理・理念を理解したうえで、学校づくりを枠付け、規制し支援する組織環境である学校制度体系、教育行財政の法制度を学ぶことである。もう一つが、今日的焦点となっている制度と経営の課題を学ぶことである。講座の前半では、法や行政組織、政治、初等中等教育や高等教育、就学前教育や生涯学習など領域別に基礎的な事項を押さえ、後半では教育費や不登校等の教育問題、学校安全や地域との連携という課題にも焦点を当てることになる。受講に際しては、指定テキストの各章を読んで基礎知識を得た上で、各章の巻末にある読書案内を適宜参考にして講師の提起する問いに回答していただく。その上で、受講者が興味や関心がある具体的なテーマを1つ取り上げてレポートして提出することになる。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト 指定市販本
・『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』阿内春生編、昭和堂、2024年、¥ 2,500+税
参考書・参考資料等
・『学習指導要領』現行学習指導要領及び新学習指導要領（平成29年3月公示、文部科学省ホームページ掲載）
・文部科学省及び各都道府県・市町村教育委員会のホームページ掲載の各種資料

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

授業計画

第1回：教育制度の基本原理と法（第1章）
第2回：教育行政を担うしくみ（第2、3、4章）
第3回：公教育と政治（第2、5章）
第5回：教育内容を決めるのは誰か（第5、6章）
第6回：「よい」教員の確保、育成、支援（第7章）
第7回：教育費の税負担はどこまで必要か（第8章）
第8回：学校のお金の使い方と学校経営（第8章）
第9回：学校に行かない／行けない子どもたちをどう支えるか（第10章）
第10回：私立学校と公立学校何が違う？（第9章）
第11回：分離か統合かーインクルーシブ教育をめぐる（第13章）
第12回：生涯にわたる公教育のあり方ー就学前～社会教育まで（第13、14章）

第13回：地域と学校のよりよい関係とは（第11章）

第14回：学校の安全をいかに守るか（第12章）

第15回：まとめとレポート提出

単位修得試験

Outline and objectives 【学習の到達目標（Learning Objectives）】

The objective for students is to acquire a fundamental understanding of the legal framework of Japanese public education and the organisation and management of schools, which is essential for teaching professionals.

【科目の概要（Course outline）】

This course will address institutional and managerial topics pertinent to the Japanese school system, including community collaboration, safety, and crisis management.

【成績評価基準（Grading Criteria /Policy）】

Students will be graded through reports and examinations.

教育心理学

教科担当責任者：田澤 実

担当者：田澤 実

単位数：2単位

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 ・幼児・児童・生徒の心身の発達の過程および特徴を理解する。

・幼児・児童・生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達段階を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 本科目では、以下の5つのトピックを扱う。

- 1.【発達】：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程についての知識（第1回～第5回）
- 2.【多様な発達】：特別な教育的ニーズをもつ子どもへの援助（第6回）
- 3.【学習】：幼児、児童及び生徒の学習の過程や指導方法についての理解（第7回～第12回）
- 4.【精神的健康】：幼児、児童及び生徒の心身の健康についての知識（第13回）
- 5.【カウンセリングマインド】：幼児、児童及び生徒への心理的課題への援助（第14回）
- 6.【学級集団】：幼児、児童及び生徒の主体的な学習的課題への援助（第15回）

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト 指定市販本

- ・『改訂版 たのしく学べる最新教育心理学：教職に関わるすべての人に』櫻井茂男編、図書文化社、2017年、¥2,000円＋税 参考書・参考資料等
- ・『発達心理学用語集』中島常安・請川滋大・畠山寛・畠山美穂・川田学・河原紀子（編）、同文書院、2006年

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

- 第1回：こころの理解の発達と子どもをとりまく人間関係（テキスト第1章第1～2節）
- 第2回：道徳性の発達：ハヴィガーストの理論を軸にして乳幼児期から青年期における認知を理解する。（テキスト第1章第3節）
- 第3回：言葉の発達（テキスト第1章第4節）
- 第4回：認知の発達：ピアジェの理論を軸にして乳幼児期から青年期における認知を理解する。（テキスト第1章第5節）
- 第5回：記憶の発達：（テキスト第1章第6節）
- 第6回：障害とは何か：特別な支援が必要な子どもの特徴と対応、個性として捉えることの意味（テキスト第2章第1～3節）
- 第7回：さまざまな学習理論（テキスト第3章第1節）
- 第8回：記憶：（テキスト第3章第2節）
- 第9回：知能（テキスト第3章第3節）
- 第10回：動機づけ：主体的学習を支える動機づけを紹介する。記憶の構造：記憶を軸にした青年期の認知を理解する。（テキスト第3章第4節）
- 第11回：帰属過程：（テキスト第3章第5節）
- 第12回：学習目標と評価：学習目標、教授法及び学習評価の在り方を理解する。（テキスト第4章第1～3節）
- 第13回：精神的健康と不適応行動。（テキスト第5章第1～8節）

第14回：カウンセリングマインド：（テキスト第6章第1～7節）

第15回：集団としての学級：（テキスト第7章第1～4節）

単位修得試験

Outline and objectives (Learning Objectives) By the end of this course, students will be able to: Describe major developmental changes in children and adolescents (physical, cognitive, and socio-emotional). Explain core concepts and theories in educational psychology related to learning (e.g., learning theories, memory, intelligence, motivation, attribution). Apply basic psychological perspectives to educational support, including understanding diverse learning/developmental needs and student well-being. Reflect on classroom practices and support strategies from the viewpoint of counseling mindset and classroom group dynamics. (Course Outline) This course provides an introduction to educational psychology for understanding how children and adolescents develop and learn in educational settings. Topics include developmental processes (language, cognition, memory, moral development), individual differences and special educational needs, learning and instruction (learning theories, motivation, intelligence, attribution), and assessment and evaluation. The course also covers student mental health and maladaptive behaviors, as well as practical approaches to educational support such as a counseling mindset and the classroom as a learning group. Written feedback will be provided on submitted assignments. (Grading Criteria /Policy) Grades will be determined based on: Written assignments/reports (understanding of key concepts, clarity of explanation, and appropriate use of course ideas). A final examination or credit-earning test (comprehension of foundational theories and ability to apply them to educational cases).

特別な教育的ニーズの理解と支援
教科担当責任者：遠藤 野ゆり
担当者：遠藤 野ゆり 単位数：2単位

1 学習の到達目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該の子供の心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動がカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法とを理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解する。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語以外での学習や貧困の問題等に関して本件に該当する子供たちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 現在、各学校種に設置されている「特別支援教室」や「通級」は、特別支援学校教諭の免許状を持たない、教科担当の教員が、指導を担当することが珍しくない。そのため、教員としての専門性を発揮するためには、学習困難にある子供を正しく理解し、支援することが求められている。新法の適用により、この専門性を獲得するために、以下の内容を学ぶ。通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったハンディキャップ、これらにより特別の支援を必要としている幼児、児童、生徒が授業において学習活動に参加している実感を持ちながら生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 指定市販本：戸田竜也（2015）『学級担任・特別支援教育コーディネーターのための「特別な教育的ニーズ」をもつ子どもの支援ガイド』明治図書出版、¥1,700+税

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。特別な教育的ニーズをもつ子どもの多くが通常の学校に通ってくるのであり、教師はその子どもたちを指導、支援する専門性が要求されている。その視点にたち、基本的な理念や教育における人権などの概念的な問題と、具体的な支援方法との両方とを学ぶことが期待される。本科目のリポート作成において、生成AIの利用は原則として認めない。生成AIの作成した文書をコピー等したと判断された場合は、単位を認めないことがある。

Outline and objectives (Course outline) : Students are required to understand the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs. In particular, they need to acquire basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities, understand the mental and physical development, psychological characteristics,

and learning process of the child, and special support education including inclusive education. Understand the philosophy and mechanism of the system.

Students are also have to understand the curriculum and methods of support for infants and children with special needs. In particular, to understand specific examples of support methods, understand the position of class guidance and independence activities in the curriculum, understand the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans, coordinators and related organizations, Understand the significance of building a support system in collaboration with the home.

Students are still required to understand support of infants and children who are not disabled but have special educational needs. In particular, to understand the learning and living difficulties of children who fall under this case and how to deal with them, and understand the need for systematic measures regarding learning in languages other than their native language and problems of poverty.

(Learning Objectives) : Students will understand the characteristics of disabilities and the physical and mental development of infants, children, and students who require special support. In particular, they will acquire basic knowledge about the learning and life difficulties of various disabilities, understand the physical and mental development, psychological characteristics, and learning process of the children in question, and understand the principles and mechanisms of the special needs education system, including inclusive education.

Students will understand the educational curriculum and support methods for infants, children, and students who require special support. In particular, they will understand specific examples of support methods, understand the position of resource room instruction and independent activities in the curriculum, understand the significance and methods of creating individual instruction plans and educational support plans, and understand the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related institutions, and families.

Students will understand how to identify and support infants, children, and students who do not have disabilities but who have special educational needs. In particular, they will understand the learning and life difficulties that these children face, such as learning in a language other than their native language and issues of poverty, and how to address them, and understand the need for systematic responses.

(Grading Criteria) : report and examination

教育課程論
教科担当責任者：松尾 知明
担当者：飯窪 真也 単位数：2単位

1 学習の到達目標 資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト 指定市販本
・『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる授業デザイン』学文社、松尾知明、2018年、¥ 2,000+税
参考書・参考資料等
・『学習指導要領』文部科学省 最新版
(※文部科学省のホームページからPDF形式でダウンロードが可能です)

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：コンテンツからコンピテンシーへ（第1章）

第2回：カリキュラムとは：学びの経験のデザイン（第2章）

第3回：カリキュラムの類型と教育内容の選択：教育の目的（第3章）

第4回：授業デザイン：学習理論のパラダイム変換、これからの授業デザイン（第4章）

第5回：教育課程の意義と位置づけ：教育の目的と目標、教育課程の編成、学習指導要領、学校レベルの教育課程の開発（第5章）

第6回：学習指導要領の変遷と資質・能力目標の展開：歴史的変遷、資質・能力に関わる教育課程の展開（第6章）

第7回：学習指導要領改訂のポイント：新学習指導要領の方向性と枠組み（第7章）

第8回：カリキュラム・マネジメントとは：新学習指導要領とカリキュラム・マネジメント（第8章）

第9回：カリキュラム・マネジメントの進め方：資質・能力目標の設定、PDCAのプロセス（第9章）

第10回：単元の学習活動の構想：指導計画のデザイン、単元指導計画の作成要領（第10章）

第11回：教育課程と指導計画（1）：学年・学期・単元をまたぐ視点（第9章）

第12回：教育課程と指導計画（2）：教科・領域の横断（第3章、第9章）

第13回：学力形成と評価の4観点：学力論争、学力形成と評価の4観点（第12章）

第14回：教育評価：測定評価観から問題解決評価観へ（第15章）

第15回：カリキュラム評価：PDCAサイクルとカリキュラムの改善（第15章）

単位修得試験

Outline and objectives This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their

development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

Your overall grade in the class will be decided based on report and examination.

国語科教育法 I
教科担当責任者：遠藤 野ゆり
担当者：都築 則幸 単位数：4単位

1 学習の到達目標 中等教育における国語科教育の目標、すなわち、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるという目標を的確に理解し、生徒たちの資質・能力の育成をめざす。国語科教育における様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 テキストに沿って、国語科教師として必要な教材の研究と授業づくりの方法について習得する。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト

- ①指定市販本：町田守弘編著『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』（学文社）第四版、2024年、¥2,200+税
- ②通教テキスト：遠藤野ゆり『教職課程におけるICT機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第1版、2019年参考書・参考資料等 文部科学省「学習指導要領」（中学・高等学校 国語科 最新版）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

- 第1回：「国語科教育法」で何を学ぶか（テキスト①序章）
- 第2回：国語科の制度—学習指導要領と教科書（テキスト①第1章）
- 第3回：発問・指示、板書・ノート指導・ワークシート（テキスト①第2・3章）
- 第4回：「話すこと・聞くこと」の授業（テキスト①第4章）
- 第5回：「書くこと」の授業（テキスト①第5章）
- 第6回：「読むこと」の授業（テキスト①第6章）
- 第7回：詩・短歌・俳句の授業（テキスト①第7章）
- 第8回：古典の授業（テキスト①第8章）
- 第9回：国語科の評価（テキスト①第9章）
- 第10回：指導計画・学習指導案の作成（テキスト①第10章）
- 第11回：模擬授業の意義とその構築（テキスト①第11章・テキスト②第3章）
- 第12回：効果的な学習指導の進め方—主体的・対話的で深い学びとICT活用（テキスト①第12章・テキスト②第1章）
- 第13回：知識及び技能をいかに活用するか（テキスト①第13章）
- 第14回：新しい時代に求められる国語科教育—メディア・リテラシー、マルチモーダル・リテラシー（テキスト①第14章）
- 第15回：国語科教育の課題と展望、効果的な教育実習のために（テキスト①第15章・終章）

単位修得試験

Outline and objectives 【Learning Objectives】

You will understand the curriculum structure and points to note, learn basic theories of instruction for Japanese Language, and finally you will master how to plan, do and check the class work.

【Course outline】

The main objective of Teaching Method I is to understand the educational purpose of teaching Japanese Language that is how to speak and listen correctly. In this course of study, you will skill up your communicating ability, brush up your sense of using Japanese, and understand Japanese Language itself. This course is aimed to develop such capability for students.

【Grading Criteria /Policy】
report and examination

国語科教育法Ⅱ

教科担当責任者：遠藤 野ゆり

担当者：都築 則幸

単位数：4単位

1 学習の到達目標 中等教育における国語科教育の目標、すなわち、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるという目標を的確に理解し、生徒たちの資質・能力の育成をめざす。国語科教育における様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 テキストに沿って、国語科教師として必要な教材の研究と授業づくりの方法について習得する。国語科教育に関する実践的な知を蓄える。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト

①指定市販本：柴田義松・阿部昇・鶴田清司編著『あたらしい国語科指導法』（学文社）七訂版、2023年、¥ 2,200+税 ※六訂版（2021年）も使用可。

②通教テキスト：遠藤野ゆり『教職課程におけるICT機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第1版、2019年参考書・参考資料等 文部科学省「学習指導要領」（中学・高等学校 国語科 最新版）

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：国語科教育の目的（ことばを学ぶこと・教えること、国語科教育の目的）（テキスト①第1章第1・2節）

第2回：国語科教育の目的（戦後日本における学習指導要領の変遷と国語科教育の動向、国語学力の基礎・基本、「言葉による見方・考え方」のとらえ方）（テキスト①第1章第3～5節）

第3回：国語科教育の内容と方法（音声言語、文学作品、説明的文章）（テキスト①第2章第1～3節）

第4回：国語科教育の内容と方法（作文、言葉の特徴や使い方・情報の扱い方）（テキスト①第2章第4・5節）

第5回：国語科教育の内容と方法（古典、読書指導・読み聞かせ）（テキスト①第2章第6・7節）

第6回：国語科の教材づくりと教材研究（教科内容と教材、教材づくりの発想）（テキスト①第3章第1・2節）

第7回：国語科の教材づくりと教材研究（教材研究の方法）（テキスト①第3章第3節、テキスト②第2章）

第8回：国語科の学習指導論（授業の構造と設計、授業の方法と技術）（テキスト①第4章第1・2節）

第9回：国語科の学習指導論（学習集団の指導、国語科教育の評価）（テキスト①第4章第3・4節）

第10回：国語科の学習指導論（「言語活動」の充実と国語科、「主体的・対話的で深い学び」と国語科）（テキスト①第4章第5・6節）

第11回：新しい国語科の授業実践（読書へのアニメーション、メディアリテラシー育てる授業、NIEを生かした授業）（テキスト①第5章第1～3節）

第12回：新しい国語科の授業実践（ディベートの授業、スピーチの授業）（テキスト①第5章第4・5節）

第13回：新しい国語科の授業実践（パブリックコミュニケーションゲーム、ICTを生かした国語の授業、PISA「読解力」）（テキスト①第5章第6～8節）

第14回：国語科教育の研究手法（国語科教師の力量形成、国語科教育の研究手法入門、国語科教育の基本文献）（テキスト①第6章）

第15回：ICT機器の利用（テキスト②第1章）

単位修得試験

Outline and objectives 【Learning Objectives】

Through this course, you will skill up to cultivate the learner's abilities of thinking, judging and expressing, and more to analyze the content of teaching and learning materials for Japanese Language. Finally you will master how to plan, do and check the class work through practicing them for yourselves.

【Course outline】

The objective of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, is to learn both the theories on modern language and literature for students to learn.

【Grading Criteria /Policy】

report and examination

社会・地歴科教育法
教科担当責任者：遠藤 野ゆり
担当者：扶川 聡 単位数：4単位 ※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 資質・能力の育成をめざし、社会・地歴科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。中学、高校の社会科の各領域について、指導上の留意点、子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計等の学習指導方法を理解するだけでなく、その背景となる専門的な学問を理解し、それをいかに教材研究・教材作りに生かすか、方法を習得する。さらには、発展的な学習内容を探求し、学習指導に位置づけられるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 社会・地歴科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例の研究、学習指導案の作成などを行う。各自で模擬授業を実施する。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト①指定市販本：宇内一文編著『教職のための中等社会科教育の理論と指導法』三恵社、2023年、¥2100+税

テキスト②指定市販本：社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社、2024年、¥2100+税

テキスト③通教テキスト：遠藤野ゆり『教職課程におけるICT機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第1版、2019年

テキスト④指定市販本：文部科学省「学習指導要領・学習指導要領解説」中学社会・高校地歴科（最新版）

6 学習指導、注意点等 1回：中学校社会科・高校地歴科教育の意義と課題（テキスト②第1章）

2回：中学校社会科・高校地歴科の教師（テキスト②第3章）

3回：中学校社会科の目標と内容；（テキスト①第1章・テキスト④）

4回：中学校における「社会的な見方・考え方」（テキスト①第2章・テキスト④）

5回：社会科の学習指導と評価（テキスト①第3章）

6回：社会科の成り立ちとその歩み（テキスト①第4章・テキスト②第4章）

7回：中学社会科・高校地歴科の教育課程（テキスト①第5章・テキスト②第2章・第5章・テキスト④）

8回：教科書検定制度と社会科教科書（テキスト①第6章）

9回：教材研究とICT機器の活用（テキスト③第1章・第2章）

10回：学習指導案の作成（テキスト①第7章）

11回：授業分析と模擬授業（テキスト②第6章・テキスト③第3章）

12回：中学校社会科地理的分野の学習指導・評価（テキスト①第8章第1節・テキスト②第7章・テキスト④）

13回：中学校社会科歴史的分野の学習指導・評価（テキスト①第8章第2節・テキスト②第8章・テキスト④）

④）

14回：高等学校地歴科「総合」の学習指導・評価（テキスト②第10章・テキスト④）

15回：高等学校地歴科「探究」の学習指導・評価（テキスト②第11章・テキスト④）

通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

Outline and objectives (Course outline)

The purpose of this course is to support students in understanding the educational objectives and content of social studies, creating lesson plans based on teaching methodology, and conducting classes based on those plans. (Learning Objectives)

Upon completion of this course, students are expected to understand the objectives and content specified in the curriculum guidelines, acquire foundational knowledge and teaching methods related to social studies, and be able to create lesson plans and conduct classes based on them.

(Grading Criteria /Policies)

Grades will be evaluated based on reports and exams.

社会・公民科教育法

教科担当責任者：松尾 知明

担当者：梶谷 陽子

単位数：4単位

※リポート（第1回・第2回）一括提出不可

※2026年4月よりテキスト（指定市販本）変更

1 学習の到達目標 資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標と内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成し、授業を行うことができる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標と内容、教材研究や学習指導の方法などについての基本的な知識・技能に基づいて、実践事例、学習指導案、模擬授業などの検討を行う。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト

テキスト①指定市販本：『中等社会科100テーマ＜地理総合・歴史総合・公共＞授業づくりの手引き』三恵社・和井田清司他、2019年、¥2,000

テキスト②指定市販本：文部科学省最新版「中学校・学習指導要領（社会科）」「高等学校・学習指導要領（地理歴史科・公民科）」
テキスト③通教テキスト：遠藤野ゆり『教職課程におけるICT機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第1版、2019年

参考書・参考資料等

『高校社会「公共」の授業を創る』明治図書、橋本康弘編著、2018

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：中等社会科のあゆみと課題（1）－中等社会科の誕生と学習指導要領の変遷①（テキスト①p8～11）

第2回：中等社会科のあゆみと課題（2）－学習指導要領の変遷②と社会科実践の遺産（テキスト①p11～15）

第3回：授業づくりの理論と実践（1）－学習指導案づくりと教材研究、評価（テキスト①p18～23, p46～47）

第4回：授業づくりの理論と実践（2）－教科書を使って協同的な学びを（テキスト①p24～29）

第5回：授業づくりの理論と実践（3）－課題・探究学習、調査発表学習（テキスト①p30～35, p42～43）

第6回：授業づくりの理論と実践（4）－ディベート、討論学習（テキスト①p40～41）

第7回：授業づくりの理論と実践（5）－実物教材、新聞等の活用（テキスト①p36～39）

第8回：授業づくりの理論と実践（6）－ICT活用の可能性と課題（テキスト①p44～45、テキスト③）

第9回：公民科の授業づくりと教材研究（1）－「公共」とは何か（テキスト①p178～183、テキスト②）

第10回：公民科の授業づくりと教材研究（2）－人権と民主主義（テキスト①p184～189）

第11回：公民科の授業づくりと教材研究（3）－日本国憲法の理念と現実（テキスト①p194～195, p198～201, p206～207）

第12回：公民科の授業づくりと教材研究（4）－若者の政治参加、主権者教育（テキスト①p196～197, p202～205）

第13回：公民科の授業づくりと教材研究（5）－経済分野の学習①（テキスト①p192～193, p208～213）

第14回：公民科の授業づくりと教材研究（6）－経済分野の学習②（テキスト①P214～219）

第15回：公民科の授業づくりと教材研究（7）－社会問題の解決を探る（テキスト①p190～191, p220～229）

単位修得試験

Outline and objectives This course aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods.

This course deals within addition, studies we created a training instruction plan and implemented simulated lessons (educational practice research).

Final grade will be calculated according to the following report and examination.

商業科教育法
教科担当責任者：遠藤 野ゆり
担当者：木村 良成 単位数：4単位

1 学習の到達目標 商業教育、特に高等学校における商業科教育についての正しい認識と理解を得るとともに、当該教科の教育及び特徴についての学習指導能力の基礎を培う。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 まず最初に、商業教育とは、特に高等学校段階での商業教育とは一体どのような性格の教育なのか。そしてそれにはどのような効用なり、役割が現代社会に期待されているのかを考えてみる。

当該教科の学習指導の前段階として、まず、一般的な商業の学習指導の概念や学習指導計画、学習形態と学習指導法などについて学習する。その後、高等学校の商業教科の組織上の分野、すなわちマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報および分野共通の科目の性格・目標、内容などとの関連において、これらに適した学習指導法について考える。そのうえで、そのような商業教育は、わが国の場合、いつ頃、どのような社会的経済的背景の体制下に起こり、どのような変遷を経て今日に至ったのか、特に戦後の教育制度の下での変遷に力点をおいてみる。

その後、平成30（2018）年に告示された高等学校学習指導要領を用いて令和4（2022）年度入学生から施行される高等学校商業科教育の目標について検討する。これは教科の目標と学科の目標について検討することになる。これらの目標は具体的には高等学校の教科・科目の履修を通して実現されるものであるため、ここで令和4（2022）年度以降の高等学校の商業に関する教科の種類（科目）および教育課程の編成について触れる。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト

①指定市販本：木村良成『商業科教育法』（法政大学 通信教育部）第1版、2003年

②指定市販本：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』最新版

③通教テキスト：遠藤野ゆり『教職課程におけるICT機器の活用・教材研究・模擬授業』（法政大学通信教育部）第1版、2019年参考書・参考資料等

・文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』最新版

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：商業教育の意義概念と商業教育・商業の意義概念をめぐる諸問題（テキスト①第1章第1・2節）

第2回：商業教育の意義と目標（テキスト①第1章第3・4節）

第3回：商学と商業学の概念と認識（テキスト①第1章第5節）

第4回：日本の商業教育の歴史①近代商業制度の成立～昭和初期（テキスト①第2章第1～3節）

第5回：日本の商業教育の歴史②第二次世界大戦前／後の商業教育と学習指導要領（テキスト①第2章第4・5節）

第6回：学習指導要領とその改定及び教育改革（テキスト①第2章第6節・テキスト②）

第7回：商業教育と高等教育（発展的学習を含めて）（テキスト①第2章第7節）

第8回：商業教育の必要性（テキスト①第3章）

第9回：高等学校段階における生徒の理解力と教育方法（テキスト①第4章第1節）

第10回：学習指導の内容と形態（テキスト①第4章第2節）

第11回：学習指導の進め方・学習指導法・情報機器の取り扱い（テキスト①第4章第3・4節・テキスト③第1章）

第12回：通常の指導計画の概要（テキスト①第4章第5節）

第13回：学習指導計画と指導案・教育評価（テキスト①第5章第1・2節）

第14回：教材研究・模擬授業と反省（テキスト③第2・3章）

第15回：外国における商業教育・商業教育の実状と問題点及び課題と解決（テキスト①第6章・テキスト②）・ICT機器の活用（テキスト③第2章）

単位修得試験

Outline and objectives 【Course Outline】

This class aims to understand what is commercial education and also to gain basic knowledge and skills for teaching it. Focusing on commercial education, the curriculum and instruction, different types of learning, and educational methods are initially explored. And then, the goals and characteristics of commercial education in the National Courses of Study are examined.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Commercial Studies.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend over one hours everyday to understand the course of Education and Social Science etc.(By News Paper)

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination or report, class contribution and all attend.

道徳教育指導論

教科担当責任者：児美川 孝一郎

担当者：田口 賢太郎

単位数：2単位

1 学習の到達目標 ①道徳教育の現状と課題について把握する。

②道徳の本質を説明できる。

③道徳教育の歴史について理解する。

④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。

⑥授業改善の視点を身につけている。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 本科目は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育の動向をめぐっては、教科外で実施されていた「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教育課程上新たな枠組で位置づけられ、検定教科書の使用や指導要録上への評価の記述が求められるようになるなど大きな変革があった。その全面実施から7年が経過し、主体的・対話的で深い学びが伴う「考え、議論する道徳」の実現を目指した多様な指導法が教育現場から提言され、その定着が図られるようになってきた。しかし、その一方で、道徳科の実施を巡り、今なお、問題点や課題、存在意義について様々な議論がくすぶり続けているところである。こうした転換期にあって、「そもそも道徳教育は可能なのか?」「道徳科の授業は本当に有効なのか?」「教科書の使用や評価は必要なのか?」「予測困難な時代の中で道徳教育は何が果たせるのか」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが質の高い道徳科の授業を構成していくための知識と技能の修得を目指す。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 ①指定市販本：『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』小寺正一他編、世界思想社、2016年、¥1,900+税

②指定市販本：『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別の教科 道徳編』平成29年7月 文部科学省 ¥156+税

下記の 5 学習指導、注意点等においては、テキスト②は「文科省解説道徳編」と略記して示す。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編』文部科学省 ¥251+税 第6節 道徳教育推進上の配慮事項
文部科学省ホームページ「道徳教育アーカイブ」

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：道徳と教育：1 道徳の本質／2 道徳教育／3 現代社会と道徳教育／4 学校における道徳教育（第1章）

第2回：道徳教育の歴史（1）1 戦前の道徳教育／2 戦後の道徳教育の変遷（第2章）

第3回：道徳教育の歴史（2）3 「改正教育基本法」のもとでの道徳教育／4 道徳科（「特別の教科 道徳」）の設置（第2章）/文

科省解説道徳編 第1章「総説」

第4回：道徳性の発達（1）1 道徳性の意味／2 「発達」の意味／3 フロイトの道徳性発達理論（第3章）

第5回：道徳性の発達（2）4 ピアジェの道徳性発達理論／5 コールバーグの理論／6 プルの道徳性発達理論（第3章）

第6回：道徳教育の授業理論（1）1 アメリカの道徳教育（第4章）

第7回：道徳教育の授業理論（2）2 日本の道徳教育（第4章）/文科省解説道徳編 第2章「道徳教育の目標」

第8回 道徳科の内容 文科省解説道徳編第3章「道徳科の内容」第1節「内容の基本的性格」 第2節「内容項目の指導の観点」

第9回：学校における道徳教育の全体構想 1 構想と計画／2 全体構想／3 全体計画（第5章）【参考資料】中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編』文部科学省 第6節 道徳教育推進上の配慮事項

第10回：道徳科の指導（1）1 道徳科の意義と特質／2 年間指導計画／3 学習指導案（第6章）/文科省解説道徳編第4章第1節「指導計画作成上の配慮事項」第2節「道徳科の指導」

第11回：道徳科の指導（2）4 教科書／5 学習指導の方法（第6章）/文科省解説道徳編第4章第3節「指導の配慮事項」

第12回：道徳科の指導（3）6 道徳科の教材／7 道徳科の評価（第6章）/文科省解説道徳編第4章第4節「道徳科の教材に求められる内容の観点」、第5章「道徳科の評価」

第13回：道徳科学習指導案の作成（演習） 文科省ホームページ「道徳教育アーカイブ」から「文部科学省作成教材 中学校 私たちの道徳」掲載教材「一冊のノート」で学習指導案（略案）をICT活用を含めて作成する。指導案の形式、構想は同アーカイブの「指導事例（指導案）」を参考とする。 ※他の教材でも可とする

第14回 道徳科の授業研究と実践的考察 文科省ホームページ「道徳教育アーカイブ」から授業映像（動画）「一冊のノート」を視聴し、第13回で立案した指導案を見直し、授業改善の視点について吟味、検証する。また、同アーカイブの「特別の教科 道徳の指導におけるICTの活用について」の動画を視聴し、作成した指導案に基づき、効果的な活用法についての構想を深める。 ※授業検証については第13回の教材に準じ、他の動画でも可とする

第15回 道徳実践の指導 1 道徳的行為の条件（第7章）2 道徳実践の構造（第7章）3 体罰について（第7章）4 奉仕（ボランティア）の精神について（第7章）

単位修得試験

Outline and objectives Learning Objectives:

1. Understand the current state and issues of moral education.
2. Be able to explain the essence of morality.
3. Understand the history of moral education.
4. Understand the goals and main content of the moral education subject as outlined in the curriculum guidelines.
5. Be able to design moral education lessons.
6. Acquire a perspective for lesson improvement.

Course outline:

This course aims to examine the essence of morality and provide a perspective on moral education. Regarding trends in moral education, there have been major changes, such as the repositioning of moral education within the curriculum and the teaching methods aimed at realizing "morality that involves thinking and discussion". This course will return to the fundamental questions and

outline the history, current state, and challenges of moral education in order to consider the future direction of moral education. It will then introduce excellent examples of moral education practice, with the aim of equipping students with the knowledge and skills they need to create high-quality moral education classes.

Grading Criteria:

Report and examination.

総合的な学習の時間の指導法

教科担当責任者：遠藤 野ゆり

担当者：窪 和広

単位数：2単位

1 学習の到達目標 探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 総合的な学習（探究）の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内容を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。総合的な学習の時間は教科横断型としてすべての教員が指導する可能性があり、教職の専門性として不可欠なスキルを学ぶ。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 指定市販本：

原 清治（監修）、春日井敏之（監修）、篠原正典（監修、編集）、森田真樹（監修、編集）2018『総合的な学習の時間（新しい教職教育講座教職教育編）』ミネルヴァ書房、¥2,000+税

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』

【参考文献】

文部科学省（2022）『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』

文部科学省（2023）『今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）』

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。「総合的な学習（探究）の時間」について、取得する免許種に応じて学んでほしい。特に高等学校に関しては、第一指定テキストでは事例がないため、インターネットや他の図書などで当該の授業情報を積極的に探す等してほしい。

Outline and objectives （Course outline）：This course introduces the significance of this subject, flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students' grades to students taking this course.

（Learning Objectives）：The goals of this course are to the qualities and abilities to better solve problems and think about their own way of life through exploratory perspectives and ways of thinking and cross-sectional and comprehensive learning .

By the end of the course, students should be able to do

the followings: the creation of a teaching plan for "time".
specific teaching methods. evaluation of learning activities.
(Grading Criteria /Policies) : report and examination.

教育相談

教科担当責任者：田澤 実

担当者：池田 華子
単位数：2単位

1 学習の到達目標 教育相談を進めるにあたり、幼児・児童・生徒の発達段階の特徴を踏まえながら、個々の心理的特性や教育的課題を適切に理解し、支援するために必要な基礎知識を身につける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 心理学の観点から見た教育の基礎理論を学んだうえで、教育相談に関し以下の3つの内容を中心に学ぶ。

①教育相談の意義及び理論

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

②教育相談の方法

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎知識

③教育相談の展開

・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

4 成績評価基準 提出のリポートと、単位修得試験によって評価する。

5 テキスト名および詳細 【テキスト】指定市販本
渡辺弥生・西山久子『必携:生徒指導と教育相談(生徒理解、キャリア教育、そして学校危機予防まで)』北樹出版、2018年、¥2,100+税
【参考書、参考資料等】

内田照彦・増田公男（編）『要説 発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年、¥2,500+税

竹尾和子・井藤元（編）『ワークで学ぶ学校カウンセリング』ナカニシヤ出版、2019年、¥2,600+税

6 学習指導、注意点等 第1回：学校における教育相談の意義と課題(1)：教育相談の意義、教師のカウンセリングマインド（テキスト：第1章第1～3節）

第2回：学校における教育相談の意義と課題(2)：学校心理学の視点（テキスト：第1章第5節）

第3回：教育相談に関わる心理学の基礎理論(1)：自意識の発達と考える力の発達（テキスト：第2章第1～2節）

第4回：教育相談に関わる心理学の基礎理論(2)：身体運動の発達と対人関係の発達（テキスト：第2章第3～4節）

第5回：教育相談に関わる心理学の基礎理論(3)：感情の発達と道徳性の発達（テキスト：第2章第5～6節）

第6回：子どもの問題と対応(1)：不登校、いじめ（テキスト：第3章第1～2節）

第7回：子どもの問題と対応(2)：非行、無気力（テキスト：第3章第3～4節）

第8回：子どもの問題と対応(3)：自殺、発達障害（テキスト：第3章第5～6節）

第9回：教育相談で求められる姿勢・技法(1)：アセスメントとその方法（テキスト：第4章第1節～2節）

第10回：教育相談で求められる姿勢・技法(2)：ピア・サポート、ストレスマネジメント（テキスト：第4章第3節～4節）

第11回：教育相談で求められる姿勢・技法(3)：ソーシャル・スキル・トレーニング、マインドフルネス（テキスト：第4章第

5節～6節)

第12回：適応障害発現の要因とその対応：適応障害発現の要因、予防的対応、指導・治療的対応（テキスト：第14章第3節）

第13回：組織的な取組みの必要性(1)：チーム学校（テキスト：第1章第6節）

第14回：組織的な取組みの必要性(2)：学校危機を想定した組織づくり（テキスト：第5章）

第15回：教育相談に関わるカリキュラム・マネジメントと他教科との連携（テキスト：第6章）

単位修得試験

Outline and objectives (Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to understand and support educational counseling in schools by:

recognizing key developmental characteristics of infants, children, and adolescents,

appropriately understanding individual psychological characteristics and educational needs, and

acquiring the foundational knowledge required to provide effective educational support and guidance in educational counseling contexts.

(Course outline)

This course provides an introduction to educational counseling grounded in foundational theories of psychology and education. Students will first learn the significance, roles, and challenges of educational counseling in schools, including key psychological concepts that support understanding learners' development and school adjustment. Building on this foundation, the course examines practical methods of educational counseling, emphasizing the importance of a counseling mindset for teachers and the basic knowledge required to provide appropriate support in educational settings. Finally, the course explores how educational counseling is implemented in practice, focusing on the meaning of children's and adolescents' maladjustment and problem behaviors, effective procedures and key points for counseling, and the necessity of organizational and collaborative approaches (e.g., teamwork among school staff and coordination with external resources). Topics include: the purpose and issues of educational counseling in schools; perspectives from school psychology; developmental foundations (self-awareness, thinking, motor development, interpersonal relationships, emotions, and moral development); major student problems (school refusal, bullying, delinquency, apathy, suicide, and developmental disabilities); assessment and basic counseling techniques; peer support and stress management; social skills training and mindfulness; factors and responses related to adjustment disorders (preventive and remedial approaches); and school-wide systems such as crisis preparedness, and curriculum management linked with other subjects.

(Grading Criteria /Policy)

Grades are determined based on submitted reports/ assignments and a course examination (credit-acquisition exam).

生徒・進路指導論

教科担当責任者：児美川 孝一郎

担当者：岩本 俊一

単位数：2単位

1 学習の到達目標 生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的事項を含む）の理論と方法を理解する。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 生徒指導の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対する指導、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方、方針や方法を理解できるようにする。また、進路指導（キャリア教育の基礎的事項を含む）の意義と原理を理解し、生徒集団全体に対するガイダンス、個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方、方針や方法を理解できるようにする。

4 成績評価基準 リポートおよび単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト 指定市販本
・横山明子『生徒指導・進路指導・キャリア教育論』2019年、図書文化社、¥ 2,000+税

参考書・参考資料等

・文部科学省2022『生徒指導提要』

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：生徒指導・進路指導の歴史と発展①：ガイダンス・カウンセリングの意義と必要性（テキスト：第1章Ⅰ）

第2回：生徒指導・進路指導の歴史と発展②：生徒指導・進路の歴史と発展（テキスト：第1章Ⅱ）

第3回：生徒指導・進路指導の歴史と発展③：最近の学校における生徒指導と進路指導・キャリア教育（テキスト：第1章Ⅲ）

第4回：ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論①：人格・発達理論・環境論及びグループガイダンス理論（テキスト：第2章Ⅰ・Ⅱ）

第5回：ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論②：カウンセリング理論（テキスト：第2章Ⅲ）

第6回：生徒指導・進路指導の理念と性格：生きる力と生徒指導・進路指導の役割（テキスト：第3章Ⅰ・Ⅱ）

第7回：児童生徒理解の方法・技術①：児童生徒理解の意義と個人資料の収集・活用（テキスト：第4章Ⅰ・Ⅱ）

第8回：児童生徒理解の方法・技術②：児童生徒理解における心理検査の活用（テキスト：第4章Ⅲ）

第9回：生徒指導・進路指導の組織と運営：生徒指導・進路指導の校内組織と教師の役割（テキスト第5章Ⅰ・Ⅱ）

第10回：教育相談・進路相談の方法・技術：教育相談の意義と必要性、学校教育相談・学校進路相談の特徴（テキスト第6章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

第11回：学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践①：中学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践（テキスト：第7章Ⅱ）

第12回：学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践②：高等学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践（テキスト：第7章Ⅲ）

第13回：学校における生徒指導、キャリア教育の計画と実践③：発達障害のある児童・生徒の特徴と支援（テキスト：第7章Ⅳ）

第14回：児童生徒の問題行動：問題行動の理解、少年非行の時代的推移と最近の特徴、不登校・高校中退（テキスト第8章Ⅰ・Ⅱ）

第15回：生徒指導・進路指導のアセスメント：生徒指導/進路指導の組織・計画・運営のアセスメント（テキスト第9章Ⅰ・Ⅱ）
単位修得試験

Outline and objectives Learning Objectives:

Understand the theories and methods of student guidance and career guidance (including fundamental aspects of career education).

Course outline:

Class participants will understand the significance and principles of student guidance, the nature, policies, and methods of guidance for the student group as a whole and for at-risk students.

Also, class participants will understand the significance and principles of career guidance (including fundamental aspects of career education), the nature, policies, and methods of guidance for the student group as a whole and career counseling for individual students.

Grading Criteria:

Reports and examinations.

特別活動論

教科担当責任者：児美川 孝一郎

担当者：吉田 昌弘

単位数：2単位

1 学習の到達目標 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容、教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、ホームルーム活動の特質、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。また、教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解し、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

4 成績評価基準 リポートと単位修得試験

5 テキスト名および詳細 テキスト 指定市販本
・『未来の教師と考える特別活動論』伊東毅、武蔵野美術大学出版局、2022年、¥2,300+税
・『中学校高等学校学習指導要領』文部科学省 最新版
参考書・参考資料等
なし

6 学習指導、注意点等 通信学習のリポートに添削・講評でフィードバックする。

第1回：特別活動とは何か（テキスト第1章、学習指導要領「特別活動」）

第2回：現行の学習指導要領と特別活動（テキスト第2章）

第3回：戦前の教科外活動の変遷（テキスト第3章）

第4回：戦後の特別活動の変遷（テキスト第4章）

第5回：学級活動とは何か（テキスト第5章）

第6回：朝の学活（テキスト第6章）

第7回：学級の問題を話し合う（テキスト第7章）

第8回：学級活動とアクティブラーニング（テキスト第8章）

第9回：特別活動とキャリア教育（テキスト第9章）

第10回：生徒会活動とは何か（テキスト第10章）

第11回：学校行事とは何か（テキスト：第11章）

第12回：国旗・国歌をめぐって（テキスト第12章）

第13回：クラブ活動と部活動（テキスト第13章）

第14回：諸外国の教科外活動（テキスト第14章）

第15回：特別活動の現状と課題（テキスト第15章）

単位修得試験

Outline and objectives Learning Objectives:

Extra-curricular activities are a collection of various activities carried out in schools with the aim of identifying and resolving problems in school life. Students will

understand the significance of extra-curricular activities within school education as a whole, and will understand the three perspectives of "building relationships" "social participation" and "self-actualization". They will also acquire the knowledge and skills necessary to teach extra-curricular activities.

Course Outline:

Students will understand the significance, goals, and content of extra-curricular activities, which includes the characteristics of homeroom activities, student council activities, club activities, and school events. In addition, students will be able to understand how to instruct extra-curricular activities, the importance of evaluating and improving efforts in extra-curricular activities, and how to collaborate with families, local residents, and related organizations.

Grading Policies:

Reports and examinations.

倫理学

教科担当責任者：松本 剣志郎

担当者：相原 博

単位数：4単位

1 学習の到達目標 ①倫理学の基本的な問題および歴史を理解する。②倫理学の立場から人間の行為を反省できるようになる。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 倫理学とは、私たちが何をなすべきか、どのように行為すべきかを明らかにする学問です。私たち人間は、事実の世界だけでなく、規範や価値に基づく世界にも存在しています。というのは、人間の行為や社会について、私たちは「あるべき」や「あるべきでない」といった判断をしているからです。この判断の事実、私たちがすでに多少なりとも「倫理的」であることを意味しています。そこで倫理学は、私たちの倫理的な判断を、その根拠にまで遡って明らかにするのです。また倫理学は、私たちにとって身近な学問です。というのは、「なぜ嘘をついてはいけないのか」や「善い行為とはどのようなものか」など、私たちの誰もが直面する問いにかかわるからです。もっとも、こうした問いに「真面目に」答えるためには、倫理学の基本的な知識が必要です。したがってこの科目では、私たちの倫理的な判断にかかわる重要な考え方を学んでいきます。また倫理学には長い歴史があるため、過去の哲学者や倫理学者の思想を学ぶことにもなります。

4 成績評価基準 最終成績は単位修得試験によって評価します。ただし、レポート学習もしっかり行う必要があります。

レポートは次の基準で評価します。①通教テキストの内容を正しく理解できているかどうか。②レポートの設題について自分で考えることができているかどうか。③学術レポートの条件を満たし、簡潔にわかりやすく書かれているかどうか。なお通教テキストや参考文献から引用する際は、必ず出典を明記しなければなりません。またレポートの「内容」について、chatGPTなど、生成系AI（人工知能）を利用して作成することは禁止します。

単位修得試験は次の基準で評価します。①通教テキストの内容を正しく理解できているかどうか。通教テキストにもとづいて試験を実施するので、十分な準備をして臨む必要があります。出題範囲は公表されています。試験前に確認してください。なお通教テキストの内容をまったく考慮せず、個人の信念や信条を解答されても評価対象になりません。

5 テキスト名および詳細 通教テキスト『倫理学』第3版、村上恭一・鶴岡健・白根裕里枝、2018年

通教テキストは、第一編「倫理学の基本問題」と第二編「西洋の倫理思想の歴史」、さらに第三編「生命倫理思想の歴史」から構成されています。まずは全体を精読してください。

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックします。レポートを書く際は、『自立学習の手引き』などを参照してください。

まず通教テキストを精読してください。精読とは細かい箇所までよく注意して読むことです。それによって、倫理学の基本的な考え方が理解できるようになるはずです。そして基本的な考え方が理解できれば、どのような内容と構成のレポートを書くべきか、おのずと明らかになるでしょう。なお通教テキストを精読せず、個別の参考文献をもとにレポートを書かれる方が

います。しかし、基本的な考え方が身についていなければ、たんに言葉をつなぎ合わせただけのレポートになることは必然です。

Outline and objectives This course introduces western ethics to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand basic ideas of western ethics and its history and will be able to reflect on our actions ethically.

Your overall grade in the class will be decided based on reports and examination.

職業指導

教科担当責任者：小川 憲彦

担当者：森本 紀子

単位数：4単位

1 学習の到達目標 職業指導（進路指導）の主要な理論を学びつつ、中学校・高等学校の進路指導の現状をふまえつつ、教師として進路指導を実践していく上で必要不可欠な事項について学び、理解を深めることをねらいとする。また、自己理解、職業観の育成を図ることを目標とする。

2 この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）

3 科目の概要 職業指導とは、児童・生徒が社会の一員として、自己の存在を理解し、社会での職業や勤労、学校での学習や諸活動に積極的に関わる意欲・態度を持つように、指導・援助することである。本科目では、「職業指導」が求められる背景や成立基盤を理解し、学校や行政機関の職業指導の役割や指導内容を学習する。具体的には、職業指導を支える主要な理論（職業選択理論、職業発達理論など）や自己理解、職業理解の促進方法、また、進路相談の具体的な方法を学ぶことにより、生徒の職業・進路指導にどのように活用できるかを学習する。

4 成績評価基準 最終成績は、単位修得試験によって評価する。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）

5 テキスト名および詳細 指定市販本：吉田辰雄（2009年）『最新 生徒指導・進路指導論－ガイダンスとキャリア教育の理論と実践』（教育課程シリーズ）、図書文化社、¥2,000＋税
上記テキストが入手できない場合は、以下の本を代替テキストとする。

横山明子編著（2019年）『生徒指導・進路指導・キャリア教育論』図書文化社、¥2,000＋税

6 学習指導、注意点等 通信学習のレポートに添削・講評でフィードバックする。

設題への解答にあたっては、テキストや参考文献、インターネットからそのまま写すことはせず、必ず、自分が理解したことを自分の言葉で論じてください。

Outline and objectives (Outline)

This course introduces the development of vocational and career education and prospects of education in Japanese junior & senior high schools to students taking this course.

This course introduces western ethics to students taking this course.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to

- be able to understand teaching skills, attitudes and values of junior and senior high school education.
- be able to understand the roll of well trained teachers.
- be able to understand the importance of guidance and counseling for junior & senior high school students.

At the end of the course, students are expected to understand basic ideas of western ethics and its history and will be able to reflect on our action ethically.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on reports and examination.

